



Cisco Prime Collaboration Provisioning ガイド - Standard および Advanced 10.0

初版：2013年12月03日

最終更新：2014年01月20日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2013 - 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに xi

対象読者 xii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xii

Prime Collaboration Provisioning の概要 1

Prime Collaboration Provisioning 10.0 の新機能 2

Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced 6

Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロン ユーザー インターフェイス 9

Prime Collaboration Provisioning の使用シナリオ 15

Prime Collaboration Provisioning の IPv6 のサポート 18

サーバーの設定 21

ライセンスの管理 21

ライセンスの入手方法 22

Prime Collaboration Provisioning へのライセンス ファイルの追加 23

Prime Collaboration での標準モードと拡張モードの切り替え 23

Prime Collaboration Provisioning からの相互起動 25

Prime Collaboration サーバの統合 26

Prime Collaboration Provisioning の接続 26

Prime Collaboration のシングル サインオン 28

Prime Collaboration Provisioning の SSL の有効化 31

Apache サーバの設定 33

SSL ポートの変更 34

LDAP および ACS サーバを使用するための Provisioning の設定 35

LDAP サーバの SSL サポートの有効化 35

Prime Collaboration Provisioning サーバのタイム ゾーンの設定 36

デバイスの管理 39

デバイスの追加 39

Cisco TMS の追加	46
デバイスの削除	47
Cisco Jabber サービスの有効化	48
ドメイン、サービス エリア、ユーザ権限、サービス テンプレートの管理	49
ドメインの追加	50
ドメインの削除	51
サービス エリア	51
サービス エリアの追加	52
サービス エリアの削除	55
電話番号ブロック	56
電話番号ブロックの追加	58
ユーザ権限の追加	59
ユーザ権限とサービスの関連付け	60
サービス テンプレートの作成	61
システム デフォルト値の使用方法	62
電話のプロビジョニング属性の制限	64
プロビジョニング属性のトランスフォーメーション テンプレートの設定	64
プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期	67
インフラストラクチャ同期とユーザ同期	70
同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクト	72
コール プロセッサ同期中のエラー メッセージ	75
ドメインの同期の概要	76
ドメインの同期	78
ドメイン同期に関するビジネス ルール	78
ドメイン同期に関するビジネス ルールの設定	80
ドメイン同期のログ メッセージ	80
スケジュールの同期化	81
コマンドライン スクリプト ユーティリティのオプション	82
ディレクトリ検索の同期の同期元の設定	83
LDAP サーバと Provisioning の同期	84
LDAP サーバの同期の設定	84
LDAP 同期レポート	88

特別な電話番号の同期	89
Provisioning のテンプレートの設定	91
設定テンプレートの概要	91
デバイス用のインフラストラクチャ設定製品	92
設定テンプレートの作成	103
設定テンプレートへの項目の追加	104
設定テンプレートに新しい項目を追加するためのデバイスおよび項目タイプ	106
キーワードリストの新規作成とキーワードの追加	108
テンプレートを使用した設定の生成	109
設定テンプレートのインポートとエクスポート	110
設定テンプレートのインポート	111
設定テンプレートのエクスポート	111
顧客ドメインテンプレート	112
Provisioning で事前に作成された機能	112
インフラストラクチャ設定の概要	113
[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)]からのデバイスの相互起動	113
インフラストラクチャ設定インスタンスの追加	114
インフラストラクチャ設定タスクのスケジュール	116
インフラストラクチャプロビジョニングの状態	117
電話ボタンテンプレートの設定	118
ビジネス ルールの概要	119
ビジネス ルールの説明	119
ビジネス ルールの設定	132
ビジネス ルールの設定の使用シナリオ	134
バッチ プロビジョニング	137
バッチ操作ファイルの作成	137
バッチ操作ファイルのフィールド	138
バッチ操作ファイルの作成に関するガイドライン	149
バッチ操作ファイルでのキーワードの使用	151
バッチプロジェクトの管理	152

インベントリの管理	159
エンドポイント インベントリの管理	159
電話番号の管理	163
インベントリの検索	167
基本検索の実行	167
詳細検索の実行	168
制約	169
プロパティの制約の定義	169
[関連付け (Associated With)] 演算子を使用する制約の定義	171
[範囲で関連付け (Associated with range)] 演算子を使用する制約の定義	171
ネームスペースの制約の定義	172
検索結果に表示する関連プロパティ	173
検索レポートの作成	174
検索レポートの実行	174
Provisioning のダッシュボードとレポート	177
Provisioning のレポート	180
エンドポイント インベントリ レポートの生成	182
監査トライアル レポート	183
ユーザの管理	185
ユーザの追加	185
ユーザ パスワードの管理	188
ユーザの同期	191
承認権限	192
ユーザ権限の編集	194
インフラストラクチャ設定の権限の管理	196
インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの作成	196
インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの更新	196
インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの削除	197
ユーザのユーザ レコードへのアクセス	197
アクティブセッションの表示またはログアウト	197
グローバル検索ツールの使用方法	198
Prime Collaboration Self-Care の使用方法	199

Self-Care アカウントの作成	200
バッチプロビジョニングを使用した Self-Care の有効化と無効化	200
Prime Collaboration Self-Care の開始	201
[個人設定 (Personal Settings)]からの Prime Collaboration Self-care の開始	201
個人設定のカスタマイズ	202
[電話の設定 (Phone Settings)]/[エクステンションモビリティの設定 (Extension Mobility Settings)]の設定	203
回線の設定	205
ユーザ設定	205
共通 Self-Care タスク	206
シングルナンバー リーチの設定	207
Self-Care ユーザ移行スクリプト	208
オーダーの管理	211
サポートされる Cisco Unity サービス	212
ユーザのサービスのオーダー	214
コールプロセッサに対する回線とエンドユーザの関連付け	235
共有エンドポイントと共有回線のオーダー	237
共通共有回線の設定	238
プライマリ共有回線の設定	239
エンドポイントのない回線のオーダー	241
ボイスメールサービスのオーダー	241
ボイスメールのパスワード/暗証番号の変更	259
プレゼンスサービスのオーダー	260
ユーザへのユーザ プロファイルの関連付け	264
ユーザが関連付けられていないエンドポイントの管理	265
ユーザが関連付けられていないエンドポイントのエクスポート	265
既存のエンドポイントの交換	266
エンドポイントのオーナーの変更	267
回線情報の変更	268
ボイスメールアカウントのロック解除	269
オーダーの検索	270
オーダーの処理	271

オーダーの承認	271
エンドポイントの出荷	272
サービスのキャンセル	273
ワーク オーダーの状態	275
電子メール通知	276
ドメイン通知テンプレートの設定	277
ドメイン通知の設定	278
システム通知の設定	280
通知設定のテスト	281
サーバの保守	283
ログ ファイルの管理	283
ログ レベルの変更	284
ログ ファイルの最大サイズの変更	285
ログの消去レベルの変更	286
Provisioning のデータ消去の有効化	287
メンテナンス モード	289
バックアップと復元の実行	290
単一マシンの Provisioning データベースのバックアップ	291
単一マシンの Provisioning データベースの復元	292
分散データベース用の Provisioning のバックアップ	293
分散データベース用の Provisioning の復元	294
	296
Provisioning ユーザ インターフェイスを使用したバックアップのスケジュール	297
バックアップ ジョブの管理	298
プロビジョニング属性	299
プロビジョニング属性の説明	299
コール プロセッサのサポートされるプロビジョニング属性	350
ユニファイド メッセージ プロセッサのサポートされるプロビジョニング属性	420
プレゼンス サーバのサポートされるプロビジョニング属性	422
インフラストラクチャ設定製品のフィールド	423
CTI ルート ポイント設定製品フィールド	424
コール パーク インフラストラクチャ設定製品のフィールド	426

コール ピックアップ グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド	426
コール サーチ スペース インフラストラクチャ設定製品のフィールド	428
共通デバイス設定製品のフィールド	428
Unity 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド	429
共通電話プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド	430
Unity Connection 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド	455
デバイス プール インフラストラクチャ設定製品のフィールド	456
H323 ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド	457
ハント リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド	460
ハントパイロット インフラストラクチャ設定製品のフィールド	461
回線グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド	464
ロケーション インフラストラクチャ設定製品のフィールド	465
メディア リソース グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド	466
メディア リソース グループ リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド	467
ミーティング番号/パターン設定製品のフィールド	467
ルート グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド	468
ルート リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド	469
ルートパーティション インフラストラクチャ設定製品のフィールド	470
ルートパターン インフラストラクチャ設定製品のフィールド	470
サービス プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド	473
SIP トランク インフラストラクチャ設定製品のフィールド	477
SIP プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド	500
SRST 参照先設定製品のフィールド	511
トランスレーションパターン インフラストラクチャ設定製品のフィールド	512
Unified Call Manager Group インフラストラクチャ設定製品のフィールド	513
UC サービス インフラストラクチャ設定製品のフィールド	514
ボイス リージョン インフラストラクチャ設定製品のフィールド	525
ボイスメールパイロット インフラストラクチャ設定製品のフィールド	526
ボイスメールプロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド	526
VG202、VG204、および VG 224 インフラストラクチャ設定製品のフィールド	527
Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値	529

事前に作成された IOS テンプレート 533

事前に作成された Cisco IOS テンプレートの Provisioning へのコピー 534



はじめに

Prime Collaboration サーバの初期セットアップを実行した後で、すべてのユニファイド コール アプリケーションとメッセージング アプリケーションに対し、このガイドを参照して次のプロビジョニング タスクを実行します。

- テンプレートを作成して、コール アプリケーションとメッセージング アプリケーションを展開します。これらのテンプレートは、今後の展開で新しいサイトまたはロケーションに対して再利用できます。
- ユーザ サービス（承認、アセット割り当て、出荷、受領）をアクティブにします。
- ユーザ向けのビジネスレベル サービスを定義します。
- ユーザ アセットを追跡して報告します。

このガイドは、Cisco Prime Collaboration 向けに複数存在する簡易ガイドの 1 つです。ユーザ管理、デバイス管理、音声プロビジョニング、ネットワーク モニタリング、障害管理など、その他の Prime Collaboration タスクを実行するには、『[Cisco Prime Collaboration Documentation Overview, 10.0](#)』に記載されている利用可能なすべてのマニュアルのリストを参照してください。

マニュアルで使用される共通用語をいくつか紹介します。

- デバイス：Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、Cisco Instant Messaging and Presence (IM&P)、および Cisco Unity Connection などのすべてのアプリケーションが含まれます。また、ISR ゲートウェイ デバイス、Cisco IOS ルータなどのインフラストラクチャ デバイスも含まれます。
- プロセッサ：デバイスの各インスタンスのプロキシです。
 - コール プロセッサは、Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications Manager Express の各インスタンスのプロキシです。
 - ユニファイドメッセージ プロセッサは、Cisco Unity、Cisco Unity Express、および Cisco Unity Connection の各インスタンスのプロキシです。
 - ユニファイドプレゼンス プロセッサは、IM and Presence の各インスタンスのプロキシです。

- エンドポイント：音声、ビデオ、およびコラボレーション デバイスのユーザが操作する、すべてのアクティブなソフトウェアとハードウェアです。たとえば、電話（99xx、79xx など）、タブレット、Telepresence デバイス、Cisco Jabber クライアント、個人の Telepresence ユニット（EX シリーズ）、Cisco Jabber を実行するモバイル デバイスなどです。
- ユーザ：アクティブな IP テレフォニー サービスが有効になっている人物です。Provisioning では、Cisco Prime Collaboration Provisioning にアクセスしてさまざまなアクティビティを実行できるエンティティもユーザと呼びます。
- [対象読者, xii ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, xii ページ](#)

対象読者

このガイドは、ビデオ（TelePresence）やテレフォニー（VoIP）などのインフラストラクチャベースのリアルタイム コラボレーション サービス（エンドポイント、管理サーバ、サービス固有のネットワーク デバイスを含む）の設定、プロビジョニング、インベントリ、およびメンテナンスを担当する音声エンジニアとビデオ エンジニアを対象としています。

Prime Collaboration は仮想サーバ上に展開されます。ユーザは、仮想サーバの設定と CLI での UNIX コマンドの使用方法について精通している必要があります。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool（BST）の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』に登録します。ここには、すべての新規および改訂済みの Cisco テクニカル マニュアルが RSS フィードとして掲載されており、コンテンツはリーダーアプリケーションを使用してデスクトップに直接配信されます。RSS フィードは無料のサービスです。



第 1 章

Prime Collaboration Provisioning の概要

Cisco Prime Collaboration Provisioning は、企業の次世代通信サービスを管理するスケーラブルな Web ベース ソリューションを提供します。Provisioning は、IP テレフォニー、ビデオ、ボイス メール、およびユニファイド メッセージングの統合環境で IP 通信サービスを管理します。このような統合環境として、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、Cisco Unity、Cisco Unity Express、Cisco Unity Connection などのシステムがあります。



(注)

- このマニュアルでは、別途記載のない限り、Cisco Unified Communications Manager に関する記述は Cisco Unified CallManager も対象とするものとします。
- ビデオ プロビジョニングは Cisco Unified Communications Manager に登録されたエンドポイント用にサポートされています。

Cisco Prime Collaboration Provisioning は次の機能を提供します。

- 初期展開と実装向けにプロビジョニングを実行し、その後も展開された状態で操作のプロビジョニングおよびアクティベーション サービスを継続的に個々のユーザへ提供します。
- 組織全体のユーザを把握できる、1 つに統合されたビューを提供します。ビジネスレベルで管理を抽象化し、自動化を通じてそれをポリシー主導で運用します。これにより、Cisco Unified Communications のアプリケーション全体にわたり、ユーザ サービスを管理します。
- テンプレート機能を提供します。この機能を使用すると、新しいサイトやロケーションの展開で再利用できる標準設定を定義できます。バッチ プロビジョニングでは、膨大なユーザを同時にロールアウトできます。
- 管理者は、さまざまなレベルでポリシーを設定して、委任した管理を誰が実行できるか、その委任を誰に適用するか、ビジネスレベルのサービスをどのようにシスコのコラボレーション システムに適用するか、どの種類のエンドユーザがどの標準サービスをオーダーできるのか、などを決定できます。

このようなポリシーおよび標準的な設定アプローチの使用により、ユーザ サービスのプロビジョニングとアクティブ化が大幅に単純化されます。同時に、基盤となる Cisco Unified

Communications アプリケーションを使用するサービスを管理および提供するための総合的な機能を保持しています。

Provisioning では、エンドポイント、回線、ボイスメールなどの標準サービスを、ユーザ（個々のエンドポイント、回線、またはボイスメールのオーナー）向けにオーダーできます。また、Cisco Jabber for Tablet/Desktop/Android/BlackBerry/iPhone に対する Cisco Jabber サービスもオーダーできます。Provisioning は、基盤となる Cisco Unified Communications アプリケーションに対するすべての変更を、サービス リクエスト、つまりオーダーとして処理します。

オーダーを作成して、ユーザ レベルの変更（エンドポイントや回線などに対する変更）や IP 通信レベルのインフラストラクチャ変更（新しいコーリングサーチスペースやルートパターンのプロビジョニングなど）を実行できます。システムで発生したすべての変更は追跡され、オーダー全体またはユーザ名別や ID 別に確認可能です。オーダーのレコードを調べると、そのオーダーを開始したユーザ、さまざまな処理手順の時間、オーダーの内容などがわかります。

Provisioning では、オーダー管理機能を委任できるので、サービスの追加、変更、または削除のリクエストを、これらのサービスを配信している音声アプリケーションの基礎知識がなくても、実行できます。Cisco Unified Communications サービスを配信しているテクノロジーに関係なく、Provisioning では同じサービス管理環境を提供します。

- [Prime Collaboration Provisioning 10.0 の新機能, 2 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced, 6 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロン ユーザ インターフェイス, 9 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning の使用シナリオ, 15 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning の IPv6 のサポート, 18 ページ](#)

Prime Collaboration Provisioning 10.0 の新機能

Cisco Prime Collaboration Provisioning 10.0 は、次の新機能をサポートします。

Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced

Prime Collaboration Provisioning の機能は、Standard と Advanced という 2 つのタイプで使用できます。

用語の変更

このリリースでは、次の用語が変更されました。

以前の用語	新しい用語
加入者	ユーザ
電話	エンドポイント

製品	サービス
オーダー（動詞）	プロビジョニング
プロセッサ	デバイス

プロビジョニングからの相互起動

- Prime Collaboration 10.0 では、Prime Collaboration Provisioning の相互起動機能を使用して Cisco Unified Communications 機能にアクセスできます。管理者権限を持つユーザは、Prime Collaboration Provisioning から相互起動して Cisco Unified Communications 製品を使用できます。

管理ユーザとして、Prime Collaboration Provisioning から次の目的のため相互起動を使用することができます。

- [\[インフラストラクチャ設定 \(Infrastructure Configuration\)\]](#) からのデバイスの相互起動
- [\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) からの Serviceability の相互起動。「[デバイスの追加](#)」を参照してください。
- [\[ユーザプロビジョニング \(User Provisioning\)\]](#) からの CUCM および Unity Connection の相互起動に関するリンク。「[ユーザの追加](#)」を参照してください。

デバイス管理

- デバイスを追加および管理するための簡素化された [\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) ページ。
- ドメイン、サービス エリア、ユーザ権限、サービス テンプレートを集中的に追加および管理できるセットアップ画面。
- Prime License Manager および Deployment Manager は、[\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) ページから追加できます。これらのデバイスを追加すると、Prime License Manager と Deployment Manager のリンクが [\[管理 \(Administration\)\]](#) メニューに表示されます。
- 統合モードでは、[\[選択したデバイスのインポート \(Import Selected Devices\)\]](#) オプションを使用して、Assurance からデバイスをインポートできます。
- [\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) からの Serviceability の相互起動をサポートします。

すべてのサポートされるデバイスについては、『[Supported Devices for Prime Collaboration Provisioning - Standard and Advanced, 10.0](#)』を参照してください。

ビデオ エンドポイントのサポートのスケジュール

Cisco Unified Communications Manager と同期する Cisco TMS デバイスをディスカバリ デバイスに追加すると、ビデオエンドポイントのスケジュールを有効にできます。このスケジュールは Cisco TMS でのみ実行され、スケジュールの UI は、Prime Collaboration Provisioning から起動することができます。

インフラストラクチャ設定

- [SRST参照先(SRST Reference)] 設定テンプレートをサポートします。
- [コールパーク (Call Park)] テンプレートを使用して、異なるパーティション内の同じ範囲の番号を追加することができます。
- [ハントパイロット (Hunt Pilot)] テンプレートで、+または+を入力して国際エスケープ文字を示すことができます。
- [ロケーション (Location)] テンプレートに新しい属性が追加されました。
- [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] からデバイスの相互起動。相互起動は、新しいインフラストラクチャ製品に限り使用できます。古いインフラストラクチャ製品では引き続きネイティブ起動を使用できます。

ユーザ管理

- [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] からの CUCM の関連リンクの相互起動。
Prime Collaboration Provisioning では、管理者は選択したユーザに対して、マネージャの設定とアシスタントの設定の相互起動を許可することができます。管理者は、Prime Collaboration Provisioning からユーザ、電話、および回線に関するリンク ページを相互起動できます。
- [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] からの CUCM の関連リンクの相互起動をサポートします。

オーダー管理

- ユーザプロビジョニングの拡張されたワークフローを使用して、ユーザの作成、ユーザの編集、ユーザの検索、およびそれらのユーザに対するサービスのオーダーを簡単に実行できます。
- Cisco Unity Connection 10.x 以上の新しいボイスメール属性をサポートします。
- エンドポイントを持たないユーザ用の回線サービスのオーダーをサポートします。
- ユーザサービスにはすべての設定済みユーザプロファイルが表示されます。サービスをオーダーする際に、ユーザに対する目的のプロファイルを選択することができます。ユーザプロファイル属性は、ユーザ サービスのサービス テンプレートにも表示されます。
- エンドポイントのオーダー作成中、選択したプロトコルおよびモデルに基づいて、セキュリティ プロファイル属性のデフォルト値が設定されます。

- [オーダーの追加 (Add Order)] ウィザード、[変更オーダー (Change Order)] ウィザード、[テンプレートの設定 (Template Settings)] ページで、必須ではない属性のドロップダウンリストに [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] が表示されます。必須の属性では、デフォルト値がすでに設定されている場合、指定されたデフォルト値が表示されます。デフォルト値が設定されていない場合は、ドロップダウンリストから値を選択する前に、ドロップダウンリストの最初のオプションが表示されます。ドロップダウンリストが空白で、その属性のデフォルト値が設定されていない場合は、[選択する (Make a Selection)] が表示されます。
- ユーザが関連付けられていないエンドポイントをエクスポートして、実際のユーザ名または疑似ユーザ名でバッチ インポートすることができます。

セルフプロビジョニング

- /opt/cupm/sep/ipt.properties ファイルを更新して、Self-Care ポータルの [電話の設定 (Phone Settings)]、[回線の設定 (Line Settings)]、および [ユーザ設定 (User Settings)] に表示される機能の表示と非表示を切り替えることができます。

管理

- ディレクトリ ソースを LDAP サーバまたはコール プロセッサとして設定できます。ユーザ データ サービス (UDS) を有効にするには、コール プロセッサをディレクトリ ソースとして設定する必要があります。LDAP サーバをディレクトリ ソースとして指定すると、Provisioning で UDS が無効になります。デフォルトでは、LDAP サーバがディレクトリ ソースとして設定されます。
- Lightweight Directory Services をサポートします。

プロビジョニング属性

- 回線、エンドポイント、拡張モビリティ、およびユーザサービス用の新しい属性をサポートします。
- サービス テンプレートを使用してプロビジョニング属性が追加されました。サービス テンプレートは、[ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] ページで作成します。

Provisioning のレポート

- [レポート (Reports)] メニューの [Communications Manager のレポート (Communication Manager Reporting)] リンクを使用して、[Communications Manager のレポート (Communication Manager Reporting)] ページを表示することができます。
- 次のエンドポイント/回線不一致レポートを使用して、エンドポイントに関連付けられていない回線を特定できます。
 - [回線未割り当てのユーザ (Users without Lines)]

- [回線割り当て済み/エンドポイント未割り当てのユーザ (Users with Lines but No Endpoints)]
- [未割り当ての回線 (Unassigned Lines)]

インフラストラクチャ、ユーザ、ドメインの同期

- Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上のバージョンでは、変更通知機能は自動的に有効化されます。Cisco Unified Communications Manager のインフラストラクチャまたはユーザ設定に対する更新は、5 分おきに Provisioning と自動的に同期されます。

Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced

次のタイプの Prime Collaboration Provisioning を使用できます。

- Prime Collaboration Provisioning Standard : Cisco Unified Communications 10.0 (Unified CM 10.0 および Unity Connection 10.0) で使用できます。
- Prime Collaboration Provisioning Advanced : Unified Communications スイート 8.0 以上のバージョンすべてで使用できます。

Prime Collaboration Provisioning Standard は、Cisco Prime Collaboration Provisioning の簡素化されたバージョンです。すべてのコラボレーションサービスで、簡素化されたプロビジョニングを提供します。IP Phone、ソフトクライアント、ビデオエンドポイント、アナログ電話、Jabber クライアント、プレゼンス、モビリティ、ボイスメールなどのデバイスとサービスをプロビジョニングします。Provisioning のサポートは、制限された承認権限を持つ 1 台の Unified Communications クラスタで利用できます。

Provisioning の Standard および Advanced のインストールについては、『[Cisco Prime Collaboration Quick Start Guide, 10.0](#)』を参照してください。

Provisioning Advanced は、個別ドメインへの委任、インフラストラクチャ インスタンスの設定用テンプレートのサポート、詳細バッチ プロビジョニングなどのより高度な機能を提供します。

次の表に、Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced で使用可能な機能を示します。

表 1 : Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced の機能

機能	標準	拡張	参考資料
クラスタのサポート	Cisco Unified Communications Manager の 1 台のクラスタおよび Cisco Unity Connection の 1 台クラスタのみを管理します。	クラスタの変更とクラスタの関連付けの組み合わせが含まれる複数のクラスタを管理します。	詳細については、 デバイスの追加, (39 ページ) を参照してください。

機能	標準	拡張	参考資料
権限または Role Based Access Control (RBAC) の委任	システム レベル、詳細 オーダー レベル、基本 オーダー レベルという 3 つの RBAC レベルを使用できます。ただし、ドメイン グループごとのアクセスは使用できません。	詳細な権限ベースのアクセス コントロールと委任を使用できます。オーダー権限を持つ管理者を異なるユーザ ドメイン グループに割り当てることができます。	詳細については、 ユーザの追加 、(185ページ) を参照してください。
オーダー ワークフロー権限	オーダーの承認、MAC アドレスの割り当て、出荷 エンドポイント、エンドユーザのエンドポイントの受領などのオーダー ワークフロー アクティビティは使用できません。	オーダー ワークフロー (オーダーの作成と実際のオーダーのプロビジョニングの間に存在するオプション段階: 承認者、MAC 割り当て担当者、出荷担当者、受領者) を提供します。 アクティビティ権限を有効または無効にしたり、異なるユーザに割り当てたりして、オーダー ワークフローの効率を向上させることができます。	詳細については、 承認権限 、(192ページ) を参照してください。
バッチ プロビジョニング	これらを 1 つのバッチに組み合わせることで、多数のサービスを展開できます。バッチプロビジョニングは 1 台のクラスタでのみ使用できます。	1 つのプロビジョニング バッチで、多数の CUCM クラスタにわたるインフラストラクチャとユーザのプロビジョニングを実行し、Prime Collaboration バッチの範囲をグローバルにすることができます。	詳細については、 バッチプロジェクトの管理 、(152ページ) を参照してください。

機能	標準	拡張	参考資料
インフラストラクチャテンプレート	インフラストラクチャ設定テンプレートは使用できません。	Cisco Unified CM および IOS 用の Prime Collaboration Provisioning インフラストラクチャテンプレートを作成できます。これらは、サイトのロールアウトなど、繰り返すタスク用にキーワードのサポートを提供します（バッチファイルにはありません）。テンプレートは、後で実行するようにスケジュールすることも、後から監査またはトラブルシューティングを行うためにオーダー ト ラッキング システムで追跡することもできます。キーワードサポートを使用して、事前に作成された IOS テンプレートを活用できます。	詳細については、 設定テンプレートの概要 、(91 ページ) を参照してください。
アプリケーションプログラミング インターフェイス	North Bound Interface (NBI) のサポートは使用できません。	Northbound API は、サードパーティの管理アプリケーション、HR システム、または他のプロビジョニング インターフェイスと統合した場合にサポートされます。	詳細については、 ライセンスの管理 、(21 ページ) を参照してください。

Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロンユーザーインターフェイス

統合アプリケーションとしての Prime Collaboration は、Assurance と Provisioning の機能を兼ね備えています。Prime Collaboration は、統合アプリケーションまたはスタンドアロンアプリケーションとして実行できます。

- 統合アプリケーションを実行する場合は、シングルサインオンを使用してログインし、Assurance と Provisioning の両方の機能にアクセスできます。ホームページの [設計 (Design)] および [展開 (Deploy)] メニューから、すべての Provisioning 機能にアクセスすることが可能です。
- Prime Collaboration をスタンドアロンアプリケーションとして実行する場合は、Assurance と Provisioning で別々のログインを使用できます。
- Prime Collaboration Provisioning を使用すると、管理者はシングルサインオンを使用して、Cisco Unified Communications Manager、Unity Connection、IM and Presence サービスなどの設定済みのデバイスを相互起動できます。統合アプリケーションを実行している場合は、[管理 (Administration)] > [シングルサインオン (Single Sign-On)] に移動して、Unified Communications アプリケーションを相互起動します。詳細については、[Prime Collaboration のシングルサインオン](#)、(28 ページ) を参照してください。

Provisioning サーバと Assurance サーバを統合するには、Assurance サーバで、[管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [Assurance のセットアップ (Assurance Setup)] > [Cisco Prime 360の統合 (Cisco Prime 360 Integration)] に移動します。[Provisioningサーバのセットアップ (Provisioning Server Setup)] で、接続する Provisioning サーバの IP アドレスを指定します。[切断 (Detach)] オプションを使用すると、Provisioning サーバを切断することができます。詳細については、[Prime Collaboration Provisioning の接続](#)、(26 ページ) を参照してください。



(注) 統合モードでは、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを再起動またはシャットダウンする前に Prime Collaboration Assurance から切断したことを確認し、再起動後に統合してください。

プロビジョニングアーキテクチャ、インターフェイス、キー機能、およびダッシュボードは、統合アプリケーションとスタンドアロンアプリケーションで同じです。

Provisioning には、Provisioning アプリケーションをインストールしたシステムからアクセスできる他、クライアントのシステムからリモートでアクセスすることもできます。ブラウザで、http://IP Address という URL を入力します。ここで、IP Address は Prime Collaboration サーバのアドレスです。

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを使用し、後でサーバを Assurance と統合する場合は、次の表の UI ナビゲーションを使用して、Prime Collaboration の各メニューに移動します。

表 2: Prime Collaboration 統合アプリケーションおよびスタンドアロンアプリケーションのユーザインターフェイスナビゲーション

メニュー	統合アプリケーションの UI ナビゲーション	スタンドアロンアプリケーションの UI ナビゲーション
[ホーム (Home)]	該当なし	該当なし
[設計 (Design)]	[設計 (Design)]>[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)]	[設計 (Design)]>[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)]
	[設計 (Design)]>[ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)]	[設計 (Design)]>[ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)]
	[設計 (Design)]>[インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)]	[設計 (Design)]>[インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)]

メニュー	統合アプリケーションの UI ナビゲーション	スタンドアロンアプリケーションの UI ナビゲーション
[展開 (Deploy)]	[展開 (Deploy)]>[ユーザプロビジョニング (User Provisioning)]	[展開 (Deploy)]>[ユーザプロビジョニング (User Provisioning)]
	[展開 (Deploy)]>[履歴の検索 (Search History)]	[展開 (Deploy)]>[履歴の検索 (Search History)]
	[展開 (Deploy)]>[アクティビティ (Activities)] <ul style="list-style-type: none"> • [マイアクティビティ (My Activities)] • [すべてのアクティビティ (All Activities)] • [グループのアクティビティ (Activities for Group)] • [ユーザのアクティビティ (Activities for User)] 	[展開 (Deploy)]>[アクティビティ (Activities)] <ul style="list-style-type: none"> • [マイアクティビティ (My Activities)] • [すべてのアクティビティ (All Activities)] • [グループのアクティビティ (Activities for Group)] • [ユーザのアクティビティ (Activities for User)]
	[展開 (Deploy)]>[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)]	[展開 (Deploy)]>[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)]
	[展開 (Deploy)]>[バッチプロビジョニング (Batch Provisioning)]	[展開 (Deploy)]>[バッチプロビジョニング (Batch Provisioning)]
	[展開 (Deploy)]>[ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)]	[展開 (Deploy)]>[ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)]
	[展開 (Deploy)]>[プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] <ul style="list-style-type: none"> • [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] • [電話番号の管理 (Manage Directory Numbers)] • [インベントリブラウザ (Inventory Browser)] • [インベントリ検索 (Inventory Search)] 	[展開 (Deploy)]>[プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] <ul style="list-style-type: none"> • [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] • [電話番号の管理 (Manage Directory Numbers)] • [インベントリブラウザ (Inventory Browser)] • [インベントリ検索 (Inventory Search)]

メニュー	統合アプリケーションの UI ナビゲーション	スタンドアロンアプリケーションの UI ナビゲーション
[レポート (Report)]	[レポート (Report)]>[レポート (Reports)]>[Communications Manager のレポート (Communication Manager Reporting)] [レポート (Report)]>[レポート (Reports)]>[インタラクティブレポート (Interactive Reports)]>[Provisioning のレポート (Provisioning Reports)]> <ul style="list-style-type: none"> • [サービスエリア (Service Area)] • [リソース設定 (Resource Configuration)] • [サービス設定 (Service Configuration)] • [エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)] • [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] • [電話番号ブロック (Directory Number Block)] • [監査証跡 (Audit Trail)] • [エンドポイント/回線不一致 (Endpoint/Line Mismatch)] 	[レポート (Reports)]>[Communications Manager のレポート (Communication Manager Reporting)] [レポート (Reports)]>[インタラクティブレポート (Interactive Reports)] <ul style="list-style-type: none"> • [サービスエリア (Service Area)] • [リソース設定 (Resource Configuration)] • [サービス設定 (Service Configuration)] • [エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)] • [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] • [電話番号ブロック (Directory Number Block)] • [監査証跡 (Audit Trail)] • [エンドポイント/回線不一致 (Endpoint/Line Mismatch)]

メニュー	統合アプリケーションの UI ナビゲーション	スタンドアロン アプリケーションの UI ナビゲーション
[管理 (Administration)]	[管理 (Administration)]>[システムのセットアップ (System Setup)] <ul style="list-style-type: none"> • [Provisioningのセットアップ (Provisioning Setup)]>[電話ボタンテンプレート (Phone Button Templates)] • [Provisioningのセットアップ (Provisioning Setup)]>[ルール (Rules)] • [シングルサインオン (Single Sign-on)] 	[管理 (Administration)]>[システムの設定 (System Configuration)] <ul style="list-style-type: none"> • [ルール (Rules)] • [電話ボタンテンプレート (Phone Button Templates)] • [シングルサインオン (Single Sign-on)]
	[管理 (Administration)]>[ライセンス管理 (License Management)]	[管理 (Administration)]>[システムの設定 (System Configuration)]>[ライセンス管理 (License Management)]
	[管理 (Administration)]>[システムのセットアップ (System Setup)]>[Provisioningのセットアップ (Provisioning Setup)]>[データメンテナンス (Data Maintenance)]	[管理 (System Administration)]>[システムメンテナンス (System Maintenance)]>[データメンテナンス (Data Maintenance)]
	[管理 (Administration)]>[システムのセットアップ (System Setup)]>[Provisioningのセットアップ (Provisioning Setup)]>[メンテナンスモード (Maintenance Mode)]	[管理 (Administration)]>[システムメンテナンス (System Maintenance)]>[メンテナンスモード (Maintenance Mode)]
	[管理 (Administration)]>[システムのセットアップ (System Setup)]>[Provisioningのセットアップ (Provisioning Setup)]>[バックアップ管理 (Backup Management)]	[管理 (Administration)]>[システムメンテナンス (System Maintenance)]>[Provisioningのセットアップ (Provisioning Setup)]>[バックアップ管理 (Backup Management)]
	[管理 (Administration)]>[ユーザ管理 (User Management)]	[ユーザ管理 (User Management)]オプションは、[展開 (Deploy)]>[ユーザプロビジョニング (User Provisioning)]で使用できます。
	[管理 (Administration)]>[権限プロファイル (Permission Profiles)]	

メニュー	統合アプリケーションの UI ナビゲーション	スタンドアロンアプリケーションの UI ナビゲーション
		[管理 (Administration)]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)]>[インフラストラクチャ設定権限 (Infrastructure Configuration Permissions)]
	該当なし。このオプションは、[ホーム (Home)]> Provisioning のダッシュボードで使用できます。	[管理 (Administration)]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)]>[ロックされたユーザ (Locked Users)]
	[レポート (Report)]>[レポート (Reports)]>[管理レポート (Administrative Reports)]>[ログオンしたユーザ (Who Is Logged On)]	[管理 (Administration)]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)]>[ログインしたユーザ (Logged In Users)]
	[管理 (Administration)]>[アラームとイベントの設定 (Alarm & Event Configuration)]>[通知 (Notification)]>[Provisioningシステムの設定 (Provisioning System Settings)]	[管理 (Administration)]>[プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)]>[システム設定 (System Settings)]
	[管理 (Administration)]>[アラームとイベントの設定 (Alarm & Event Configuration)]>[通知 (Notification)]>[Provisioningのドメイン設定 (Provisioning Domain Settings)]	[管理 (Administration)]>[プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)]>[ドメイン設定 (Domain Settings)]



(注) [設計 (Design)]および[展開 (Deploy)]メニューのUIナビゲーションは、Prime Collaboration Provisioning のスタンドアロンおよび統合アプリケーションで同じです。このガイドに示されているその他すべての手順では、特に指定しない限り、統合アプリケーションの Provisioning のナビゲーションを記載しています。スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの適切なメニューのナビゲーションについては、[Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロンユーザインターフェイス](#)、(9 ページ) を参照してください。

Prime Collaboration Provisioning の使用シナリオ

Provisioning の機能は、Cisco Prime Collaboration アプリケーションの [設計 (Design)]、[展開 (Deploy)]、および [管理 (Administration)]メニューから使用できます。

Provisioning を使用する一般的なシナリオは次のとおりです。

- 既存の音声サービスの管理
- 新しい音声インフラストラクチャの展開
- ユーザの管理
- 既存の音声インフラストラクチャにおける新規サイトの展開

また、場合によっては、Cisco Prime Collaboration 構成のニーズを満たすためにいくつかの高度なアクティビティを実行する必要があります。これらのアクティビティの一部は次のとおりです。

- ニーズに合わせた Provisioning の機能のカスタマイズ
- 大量の Provisioning アクティビティの実行
- Provisioning のリソースの操作
- サーバの設定

表 3 : 使用シナリオ, (16 ページ) に、Provisioning の使用シナリオの一部を示します。

表 3: 使用シナリオ

使用シナリオ	
既存の音声サービスの管理	<p>次の Cisco Unified Communications の各デバイスは、通常、それぞれのインターフェイスを使用して管理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager • Cisco Unified Communications Manager Express • Cisco Unity • Cisco Unity Connection • Cisco Unity Express <p>これらの音声サービスのサブセットの管理を他のユーザに委任する場合は、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスの追加, (39 ページ) • インフラストラクチャ同期とユーザ同期, (70 ページ) • ドメインの追加, (50 ページ) • サービスエリアの追加, (52 ページ) • ドメインの同期, (78 ページ)
新しい音声インフラストラクチャの展開	<p>Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Communications Manager Express と、それに関連するボイスメールシステムを新規に追加する場合に、すべての展開に適用できる標準化されたアプローチを使用するには、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サービスエリアの追加, (52 ページ) • ドメインの同期, (78 ページ) • ユーザのサービスのオーダー, (214 ページ) : エンドポイントおよびサービスのオーダーを作成できます。個々のサービスのオーダーを作成するか、バンドルされたサービスをオーダーできます。 • バッチプロジェクトの管理, (152 ページ)

使用シナリオ	
ユーザのサービスの管理	<p>オフィス内のユーザ向けのサービスを管理する場合は、次のシナリオを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザとは、アクティブな IP テレフォニー サービスを利用しているユーザを意味します。Provisioning では、ユーザの追加、ユーザ情報の同期、サービスの移動、ユーザ情報の更新、およびドメイン固有のユーザ権限の管理を行うことができます。承認権限、(192 ページ) を参照してください。 • 1 人のユーザのオーダーは、そのユーザのユーザ レコードに表示されて開始されます。ユーザ レコードには、そのユーザの既存の製品がすべて表示されます。ユーザのユーザ レコードへのアクセス、(197 ページ) を参照してください。 • エンドポイントおよびサービスのオーダーを作成できます。オーダーの管理、(211 ページ) を参照してください。 • オーダーの処理、(271 ページ) • サービスのキャンセル、(273 ページ)
既存の音声インフラストラクチャにおける新規サイトの展開	<p>既存の Cisco Unified Communications Manager に新しい場所またはサイトを追加するには、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドメインの追加、(50 ページ) • ドメインの同期、(78 ページ) • オーダーの管理、(211 ページ) • バッチ プロジェクトの管理、(152 ページ)
ニーズに合わせた Provisioning の機能のカスタマイズ	<p>Provisioning でさまざまなポリシーを適用する方法のデフォルト設定を変更するには、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネス ルールの概要、(119 ページ) • サービス テンプレートの作成、(61 ページ) • 電話ボタン テンプレートの設定、(118 ページ) • ユーザ権限の追加、(59 ページ)
大量の Provisioning アクティビティの実行	<p>大量のサービスを展開する場合は、これらのアクティビティを 1 つのバッチにまとめることができます。バッチ プロジェクトの管理、(152 ページ) を参照してください。</p>

使用シナリオ	
Provisioning のリソースの操作	<p>Provisioning のリソースの管理については、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • エンドポイント インベントリの管理, (159 ページ) • 電話番号の管理, (163 ページ) • インベントリの検索, (167 ページ) • Provisioning のレポート, (180 ページ)
サーバの設定	<p>サーバの設定については、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバの設定, (21 ページ) • Provisioning のユーザとは、システムにログインし、Provisioning にアクセスしてさまざまなアクティビティを実行できる人物を意味します。ユーザは、Provisioning のさまざまな権限を実行できるように設定可能です。これらの権限は、システム全体に適用したり（たとえば管理者）、1つのドメインにだけ関連させてユーザが実行可能な変更の範囲を限定したりすることができます。ユーザの追加, (185 ページ) を参照してください。 • ログ レベルの変更, (284 ページ) • Provisioning のデータ消去の有効化, (287 ページ)
サーバの保守	<p>サーバの保守については、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ログ レベルの変更, (284 ページ) • Provisioning のデータ消去の有効化, (287 ページ)

Prime Collaboration Provisioning の IPv6 のサポート

Prime Collaboration Provisioning は IPv6 に対応しています。IPv6 対応とは、IPv6 機能情報を含むが、伝送には IPv4 を使用するものとして定義されます。

IPv6 対応アプリケーションとして、Prime Collaboration Provisioning は引き続き IPv4 リンクを経由して、Cisco Unified Communications Manager デバイスと通信します。

Provisioning Manager の IPv6 対応には、次のことも適用されます。

- [[コールプロセッサの設定 \(Call Processor Configuration\)](#)] ページでは、IPv4 IP アドレスだけを入力できます。IPv6 アドレスを入力するとエラーメッセージが表示されます。

- Prime Collaboration Provisioning は IPv4 プロトコルを使用して Cisco Unified Communications Manager と通信しますが、IPv4 または IPv6 プロトコルを使用する電話をプロビジョニングできます。



第 2 章

サーバの設定

AAA サーバを使用するように Provisioning を設定できます。また、ユーザ インターフェイスに表示されるタイムゾーン設定とロケーションを変更することができます。ライセンスの詳細は、[管理 (Administration)] > [ライセンス管理 (License Management)] に移動すると表示できます。

- [ライセンスの管理, 21 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning からの相互起動, 25 ページ](#)
- [Prime Collaboration サーバの統合, 26 ページ](#)
- [Prime Collaboration のシングルサインオン, 28 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning の SSL の有効化, 31 ページ](#)
- [LDAP および ACS サーバを使用するための Provisioning の設定, 35 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning サーバのタイムゾーンの設定, 36 ページ](#)

ライセンスの管理

Provisioning を使用するには、Provisioning イメージライセンスと 1 つ以上のスケールライセンスが必要です。イメージライセンスがない場合は、製品が評価モードのままになります。また、スケールライセンスによって、プロビジョニングできる電話機の数が増加されます。

[ライセンスステータス情報 (License Status Information)] ページには、機能名、使用可能なライセンス数、使用されているライセンス数、および有効期限が表示されます (このページを表示するには、[管理 (Administration)] > [システムの設定 (System Configuration)] > [ライセンス管理 (License management)] に進み、右側の [プロビジョニングライセンスステータス (Provisioning License Status)] アイコンをクリックします)。

Prime Collaboration Provisioning Standard では、使用可能な機能の下に、委任、ワークフロー、テンプレート、および NBI 機能がリストされます。Prime Collaboration Provisioning Advanced のライセンスを購入した場合、これらの機能が有効な機能のリストに表示されます。



(注) 分散インストールの場合、2 台のサーバ間のネットワーク接続が失われた後に再確立されるか、Provisioning データベース (PostgreSQL データベース) サーバだけが再起動されると、Provisioning サーバにログインできず、[ライセンスステータス情報 (Licensing Status Information)] ページにライセンス エラーが表示されることがあります。エラー メッセージには、すべての機能を利用できないことが記されています。この場合は、Provisioning サービスを再起動してください。

- Provisioning イメージライセンスと、管理対象の電話の MAC アドレス数に合わせた 1 つ以上のスケールライセンスを購入できます。スケール ライセンスは追加可能なライセンスで、1 つの Provisioning インスタンスあたり最大 150,000 です。イメージライセンスが存在する必要があります。これがないと、製品は評価モードのままになります。
- オプションの Provisioning NBI には、個別のライセンス (Provisioning API ライセンス) 購入が必要です。Provisioning は、Provisioning NBI を有効にする前にライセンスの購入を確認します。
- Provisioning のアプリケーションプログラミング インターフェイス (API) は、Cisco Prime Collaboration Provisioning Northbound Interface (Provisioning NBI) と呼ばれています。これは、Provisioning のプロビジョニング機能の大半をカバーする SOAP ベースの Web サービス リクエストのセットです。Provisioning NBI の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration Provisioning Northbound Interface Guide, 10.0](#)』を参照してください。



(注) Provisioning NBI を使用するには、追加機能ライセンスを購入する必要があります。基本の (電話機限定) Provisioning ライセンスを購入しても、Provisioning NBI は使用できません。

ライセンスの入手方法

次の手順は、新規インストール (およびアップグレード) のスケール ライセンス、および Provisioning API ライセンスに適用されます。

- 1 Product Authorization Key (PAK) の入手 : PAK は、Cisco.com で Provisioning を登録するために使用され、リソース制限が含まれます。
購入した差分ライセンスごとに PAK が提供されるので、その PAK を使用してライセンス ファイルを入手する必要があります。
- 2 ライセンス ファイルの入手 : Cisco.com で PAK を登録すると、ライセンス ファイルを取得できます。
- 3 Provisioning をインストールするサーバに、ライセンス ファイルをコピーします。Provisioning をすでにインストールしていて、ライセンス ファイルをアップグレードする場合は、Provisioning にライセンス ファイルを登録する必要があります。

Prime Collaboration Provisioning へのライセンス ファイルの追加

Prime Collaboration Provisioning のスタンドアロンまたは統合アプリケーションにライセンス ファイルを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [ライセンス管理 (License Management)] ページに進みます。
- 統合モードでは、[管理 (Administration)] > [ライセンス管理 (License Management)] を選択します。
 - スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションで、[管理 (Administration)] > [システムの設定 (System Configuration)] > [ライセンス管理 (License management)] を選択します。
- ステップ 2** [ライセンス管理 (License management)] ページで [追加 (Add)] をクリックします。
- (注) Cisco Prime Collaboration Provisioning Standard モードから Cisco Prime Collaboration Provisioning Advanced ライセンスモードに更新している場合は、新しいライセンス ファイルを追加してから、[削除 (Delete)] オプションを使用して [ライセンス管理 (License management)] ページにリストされている古いライセンス ファイル ([アップロード時間 (Upload Time)] カラムを参照) をすべて削除する必要があります。
- ステップ 3** [ライセンス ファイルの追加 (Add License File)] ウィンドウで、ライセンス ファイルをアップロードして [OK] をクリックします。
- 新しく追加されたライセンス ファイル情報は、[ライセンス ステータス (License Status)] ペインに表示されます。複数のライセンスを購入した場合は、**ステップ 2** および **ステップ 3** を繰り返して、追加ライセンスのインストールを完了します。
- ライセンス ファイルを削除するには、[ライセンス管理 (License management)] ページで、ライセンス ファイルを選択して [削除 (Delete)] をクリックします。

Prime Collaboration での標準モードと拡張モードの切り替え

Prime Collaboration では、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の両方に標準モードから拡張モードへ切り替える機能があります。

次の表に、さまざまな切り替えのシナリオを示します。

インストールモード	標準から拡張評価	標準から拡張 (購入ライセンス)	拡張評価から拡張 (購入ライセンス)	拡張評価から標準
-----------	----------	------------------	--------------------	----------

<p>Prime Collaboration Assurance</p>	<p>あり (ユーザーインターフェイス右上の[アップグレード (Upgrade)]アイコンをクリックし、[評価の開始 (Start Evaluation)]をクリックします)。</p>	<p>あり (ユーザーインターフェイス右上の[アップグレード (Upgrade)]アイコンをクリックし、[ライセンスの追加 (Add Licenses)]をクリックします。[ライセンス管理 (License Management)]ページで、[追加 (Add)]をクリックして拡張モードのライセンス ファイルをアップロードします)。</p>	<p>あり (ユーザーインターフェイス右上の[アップグレード (Upgrade)]アイコンをクリックし、[ライセンスの追加 (Add Licenses)]をクリックします。[ライセンス管理 (License Management)]ページで、[追加 (Add)]をクリックして拡張モードのライセンス ファイルをアップロードします)。</p>	<p>あり。評価期間が終了すると、標準モードにダウングレードするか、拡張モードのライセンス ファイルを購入するように要求するメッセージが表示されます。ダウングレードを選択した場合、[標準モードのクラスタ (Cluster for Standard Mode)]ダイアログ ボックスが表示されます。[Unified Communications Manager] ドロップダウンからクラスタを選択し、[Cisco Unity Connection] ドロップダウンからデバイス タイプを選択して、[選択 (Select)]をクリックします。</p>
--------------------------------------	--	--	--	---

Prime Collaboration Provisioning	該当なし	あり (ユーザーインターフェイス右上の [アップグレード (Upgrade)] アイコンをクリックし、[ライセンスの追加 (Add Licenses)] をクリックします。 [ライセンス管理 (License Management)] ページで、[追加 (Add)] をクリックして拡張モードのライセンス ファイルをアップロードします)。	あり (ユーザーインターフェイス右上の [アップグレード (Upgrade)] アイコンをクリックし、[ライセンスの追加 (Add Licenses)] をクリックします。 [ライセンス管理 (License Management)] ページで、[追加 (Add)] をクリックして拡張モードのライセンス ファイルをアップロードします)。	該当なし
----------------------------------	------	---	---	------

統合モードの場合は、標準モードから拡張モードに切り替えるプロビジョニングがあります。次のいずれかのアップグレードを実行できます。

- 1つのアプリケーションのみ：Prime Collaboration Assurance でのみ標準モードから拡張モードに切り替えることができ、Prime Collaboration Provisioning には同じ (インストール済みの) モードでアクセスできます。
- 両方のアプリケーション：Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の両方で、標準モードから拡張モード、または評価モードから拡張モード (購入ライセンス) に切り替えることができます。

Prime Collaboration Provisioning からの相互起動

Prime Collaboration 10.0 では、Prime Collaboration Provisioning の相互起動機能を使用して Cisco Unified Communications 機能にアクセスできます。管理者権限を持つユーザは、Prime Collaboration Provisioning から相互起動して Cisco Unified Communications 製品を使用できます。相互起動を提供する主な目的は、Prime Collaboration Provisioning の管理者が CUCM、Unity Connection、または IM and Presence サービス などの設定済みデバイスの製品 UI で、ユーザ設定を変更/更新する際に円滑な継続的ワークフローを可能にすることです。

管理ユーザとして、Prime Collaboration Provisioning から次の目的のため相互起動を使用することができます。

- [\[インフラストラクチャ設定 \(Infrastructure Configuration\) \]](#)からのデバイスの相互起動

- [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] からの Serviceability の相互起動。「[デバイスの追加](#)」を参照してください。
- [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] からの CUCM の関連リンクの相互起動。「[ユーザプロビジョニング \(User Provisioning\) \]からの CUCM および Unity Connection の相互起動に関するリンク](#)」を参照してください。



(注)

- 相互起動は、管理者権限を持つユーザのみが利用可能で、CUCM、Unity Connection および Presence Service のバージョン 10.0 以降でサポートされています。これらのデバイスの旧バージョン (10.0 よりも前) を Prime Collaboration Provisioning に追加すると、管理者としてネイティブ起動リンクのみが表示されます。

ただし、バージョン 10.0 よりも前の Presence Service は、[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ビューにネイティブリンクとして表示されません。これは、ネイティブリンクが Prime Collaboration の旧バージョンではサポートされていないためです。

- 相互起動に対するシングルサインオン (SSO) の有効化は必須ではありません。相互起動で SSO を有効にしていない場合は、プロセッサ (CUCM、Unity Connection、または Presence Service) を初めて相互起動する際にログインクレデンシャルを指定する必要があります。この指定は、信頼できるセキュリティ証明書リストに Web サイトを追加するように要求されたときに、操作を続行して行います。ただし、後続の試行では、セッションが進行中で起動している限りプロセッサを相互起動するためにログインする必要はありません。SSO を有効にするには、「[Prime Collaboration のシングルサインオン](#)」を参照してください。
- ブラウザ設定によっては、相互起動時にブラウザの新しいタブまたはウィンドウが開く場合があります。特定のアプリケーションの製品マニュアルでブラウザの互換性を参照してください (たとえば、[CUCM](#)、[Unity Connection](#) など)。

Prime Collaboration サーバの統合

音声エンドポイントとビデオエンドポイントのモニタし、Unified Communications システムをプロビジョニングするために、Prime Collaboration Assurance アプリケーションと Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを統合することで、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の両方のシステムの機能を強化できます。

Prime Collaboration Provisioning の接続

サーバを統合するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

Prime Collaboration サーバを統合する前に、次の手順を実行します。

デフォルトでは、Prime Collaboration Assurance サーバがセキュリティ保護されたモード (HTTPS) で動作し、一方、Prime Collaboration Provisioning サーバはセキュリティ保護されていないモード (HTTP) で動作します。コンテンツが混合する問題を避けるため、Prime Collaboration Provisioning サーバを HTTPS モードに設定する必要があります。SSL を有効にする方法の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 10.0 Provisioning User Guide](#)』の「**Setting up the server**」の項を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [システムの設定 (System Configuration)] > [Assurance のセットアップ (Assurance Setup)] > [Cisco Prime 360の統合 (Cisco Prime 360 Integration)] をクリックします。
 - ステップ 2 [Prime Collaboration Provisioning サーバのセットアップ (Prime Collaboration Provisioning Server Setup)] で、接続先にする Prime Collaboration Provisioning アプリケーションサーバの IP アドレスを指定します。
 - ステップ 3 プロトコルを選択し、ポートの詳細を入力します。
HTTPS の使用を推奨します。
HTTP を使用する Prime Collaboration Assurance サーバおよび Provisioning サーバのポートは 80 です。HTTPS を使用する Prime Collaboration Assurance のポートは 443 で、Prime Collaboration Provisioning のポートは 46443 です。
データ転送に使用するポートの詳細については、『[Required Ports for Prime Collaboration](#)』を参照してください。
 - ステップ 4 Prime Collaboration Provisioning サーバの接続をテストします。
 - ステップ 5 [接続 (Attach)] をクリックします。
Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを Prime Collaboration Assurance に接続した後で、UI に [設計 (Design)] タブや [展開 (Deploy)] タブを表示するには、UI を更新する必要があります。
 - ステップ 6 HTTPS プロトコルを選択している場合は、[はじめに (Getting Started)] ページで [Provisioning 証明書のテスト (Test Provisioning Certificate)] をクリックし、Prime Collaboration Provisioning サーバの SSL 証明書をテストします。
-

HTTP プロトコルを選択している場合は、ブラウザに混合コンテンツが表示されます。

Windows Internet Explorer の場合は、次の手順を実行します。

統合型のアプリケーションを起動すると、メッセージ「安全に表示される Web ページコンテンツのみを表示しますか (Do you want to view only the web page content that was delivered securely)」が表示されます。

ポップアップしたダイアログボックスで [いいえ (No)] を選択すると、すべての Prime Collaboration Provisioning ページに適切なデータが表示されます。

ポップアップしたダイアログボックスで [はい (Yes)] を選択した場合、Prime Collaboration Provisioning の一部のページは表示されません。ただし、Microsoft IE 9.0 および 10.0 では、セキュリティ警告が表示されず、Prime Collaboration Provisioning のすべてのページが適切に表示されます。

Mozilla Firefox の場合は、次の手順を実行します。

サーバに表示される混合コンテンツに対して、アドレスバーの盾アイコンをクリックし、[ブロックを維持 (Keep Blocking)] ドロップダウンで [このページの保護を無効にする (Disable Protection on This Page)] を選択します。

統合後は次のようになります。

- Prime Collaboration Provisioning の UI が Prime Collaboration Assurance と統合され、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションにログインした場合でも、Provisioning の IP アドレスは Prime Collaboration Assurance アプリケーションにリダイレクトされます。
- Prime Collaboration Assurance から Prime Collaboration Provisioning を切断すると、Prime Collaboration Provisioning と Prime Collaboration Assurance に統合モードで適用されたユーザ権限は、スタンドアロンアプリケーションにも適用されます。
- Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを再起動またはシャットダウンする場合は、Prime Collaboration Assurance から切断済みであることを確認してください。その後、プロセスを再開してから統合します。

Prime Collaboration のシングルサインオン

Prime Collaboration は、Security Assertion Markup Language (SAML) を使用して、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning のシングルサインオン (SSO) を有効にする管理者権限をユーザに与えます。

SSO を Prime Collaboration Provisioning で有効にすると、次の UC アプリケーションを相互起動できます。

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Presence



(注) ログインクレデンシャルを必要としない UC アプリケーションを相互起動するには、これらのアプリケーションの SSO が Prime Collaboration と同じ IdP サーバで設定されていることを確認します。

SSO を有効にする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- Prime Collaboration Provisioning が Secure Socket Layer (SSL) を使用するよう設定されていること。Provisioning に対して SSO を有効にする前に SSL を有効にする必要があります。Prime Collaboration Provisioning で SSL を有効化する手順については、『[Cisco Prime Collaboration](#)』

『10.0 Provisioning Guide』の「[Enabling SSL for Prime Collaboration Provisioning](#)」を参照してください。



(注) デフォルトで、SSL は Prime Collaboration Assurance アプリケーションで有効化されています。

- 少なくとも1名のLDAP管理ユーザがシステムに存在すること。これには、Prime Collaboration Provisioning のLDAP同期を行って、Prime Collaboration Assurance でLDAP管理ユーザを手動で作成します。

Prime Collaboration Provisioning でユーザに管理者権限を与える方法については、『[Cisco Prime Collaboration 10.0 プロビジョニングガイド](#)』の「[ユーザの管理](#)」を参照してください。

- 1つのホステッドアプリケーションとサービスプロバイダから、SSOを使用して他の多数のアプリケーションにアクセスできるようにする Identity Provider (IdP) サーバ。サービスプロバイダは、アプリケーションをホストする Web サイトです。次のサードパーティ製 IdP サーバに対応しています。

- Open Access Manager (OpenAM)
- Ping Identity
- Active Directory Federation Services (ADFS)
- Oracle Identity Manager

IdP サーバの設定手順については、『[SAML SSO Deployment Guide for Cisco Unified Communications Applications, Release 10.0\(1\)](#)』を参照してください。

- Identity Provider メタデータ ファイルを IdP サーバからダウンロードし、ローカルシステムに保存すること。

シングルサインオンを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [管理 (Administration)]->[シングルサインオン (Single Sign-on)]を選択します。
- ステップ 2** [SSOを有効にする (Enable SSO)]をクリックします。
SSO を有効にすると、次回のログインから認証のため IdP サーバにリダイレクトされるという警告メッセージが表示されます。アプリケーションにアクセスするには、正常に認証される必要があります。
(注) 上記の要件が満たされていない場合、[SSOを有効にする (Enable SSO)]は無効になります。
- ステップ 3** [続行 (Continue)]をクリックします。
- ステップ 4** SSO ウィザードに示される手順に従って、シングルサインオンを有効にします。
 - a) ローカルシステムから IdP メタデータ ファイルを検出し、[IdPメタデータのインポート (Import IdP Metadata)]をクリックします。

- b) [信頼メタデータファイルのダウンロード (Download Trust Metadata file)]をクリックします。
- c) IdP サーバを起動し、ダウンロードした信頼メタデータ ファイルをインポートします。
 (注) これは、手動で SSO を有効にする手順です。SSO テストの前に、IdP サーバでトラストサークル (CoT) を作成してログアウトする必要があります。
- d) SSO テストの設定を実行するには、[有効な管理ユーザ名 (Valid Administrative Usernames)] ドロップダウンからユーザ名を選択します。
 (注) 他のユーザ名を使用して IdP サーバにログインすると管理者アカウントがロックされます。
- e) [SSO テストを実行 (Run SSO Test)] をクリックして、IdP サーバ、Prime Collaboration アプリケーション、およびシングルサインオン間の接続をテストします。
 シングルサインオンまたはフェデレーションを実行できないというエラーメッセージが表示された場合は、次の手順を実行します。
- エンドユーザのクレデンシャルを使用して IdP サーバに手動でログインし、認証が成功しているか確認します。
 - 信頼メタデータ ファイルが正常に IdP サーバにアップロードされたか確認します。
 - Prime Collaboration サーバと IdP サーバが同じトラストサークルの一部であるか確認します。
- f) [終了 (Finish)] をクリックします。
- 統合モードの場合、Prime Collaboration は Provisioning セットアップを使用して、Cisco Unified CM、Cisco Unity Connection および Cisco Unified Presence アプリケーションを相互起動します。

SSO のトラブルシューティングとログ

- SSO の有効化中に Prime Collaboration サーバからログアウトする場合は、ブラウザを閉じて Prime Collaboration アプリケーションを再起動することをお勧めします。これは、Prime Collaboration サーバでセッションがタイムアウトしても、IdP サーバのセッションはアクティブなままである可能性があるためです。
- Prime Collaboration Provisioning のログファイル (ssosp*.log) は **/opt/cupm/sep/logs** ディレクトリにあり、Prime Collaboration Assurance のログファイルは **/opt/emms/tomcat/webapps/emsam/log/sso** ディレクトリにあります。
- SSO の有効化中に、Prime Collaboration のホスト名が設定され、DNS の一部であることを確認します。

IdP サーバがダウンした場合は、次の手順を実行できます。

- リカバリ URL ([https://<DNSの一部である PCserver IP アドレスまたはホスト名>/ssosp/local/login](https://<DNSの一部であるPCserverIPアドレスまたはホスト名>/ssosp/local/login)) を使用します。
- CMD ユーティリティからシングルサインオンを無効化します。

Prime Collaboration アプリケーションで CMD ユーティリティから SSO を無効化するには、次の手順を実行します。

- Prime Collaboration Provisioning サーバで、SSH を使用してポート 22 にログインします。Prime Collaboration Assurance ではポート 26 です。
- Prime Collaboration Provisioning の場合は `/opt/cupm/sep/build/bin` ディレクトリに、Prime Collaboration Assurance の場合は `/opt/emms/emsam/bin` ディレクトリに移動します。
`cpcmconfigsso.sh` ファイルに、次の表に基づいて <Operation> と <Value> エントリを追加します。

<Operation> の値	<Value> の値
1 : シングル サインオンのステータスの取得	該当なし (Not applicable)
2 : リカバリ URL のステータスの取得	該当なし (Not applicable)
3 : シングル サインオンのステータスの設定	いいえ (False) (注) SSO は CLI から有効化できません。 UI プロシージャを使用して SSO を有効にします。
4 : リカバリ URL のステータスの設定	はい (True) またはいいえ (False)

- SSO を無効にするには、次のコマンドを実行します。

```
cpcmconfigsso.sh 3 false
```



(注) デフォルトでは、リカバリ URL が有効化されています。セキュリティの理由から無効化するには、False (いいえ) に設定します。

Prime Collaboration Provisioning の SSL の有効化

OpenSSL を有効にする前に、Prime Collaboration Assurance から Prime Collaboration Provisioning を切断済みであることを確認してください。



- (注)
- SSL は Prime Collaboration Assurance ではデフォルトで有効になりますが、SSL を Prime Collaboration Provisioning で有効にすることは必須ではありません。
 - Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning を統合した場合は、SSL を Prime Collaboration Provisioning で有効にしてから、Prime Collaboration Provisioning と Prime Collaboration Assurance を SSL の設定中に指定したポート番号に再接続します。デフォルトでは OpenSSL はポート番号 443 で有効になっていますが、この設定は変更できます。

手順

- ステップ 1** OpenSSL1.0.1e-PC-Linux.zip を Cisco.com からダウンロードして、この zip ファイルをローカル マシンの任意のフォルダに抽出します。
- ステップ 2** bin、lib、および modules フォルダのバックアップを作成します。ssl フォルダがある場合はバックアップする必要があります。
- ステップ 3** Provisioning サーバにルートユーザとしてログインし、次の（抽出済み）フォルダを /opt/cupm/httpd フォルダにコピーします。

- bin/
- lib/
- modules/
- ssl/

（注） ファイルのコピー中、既存のファイルを上書きするプロンプトが表示されたら、[すべてはい（Yes to All）] を選択します。SSH ファイル転送でファイルをコピーする場合は、[自動選択（Autoselect）] を選択していることを確認します。

- ステップ 4** 新しい lib ファイルからの（オペレーティング システム ライブラリ ファイルへの）リンクを、次のように作成します：`ln -s /opt/cupm/httpd/lib/libssl.so.1.0.0 /lib64 ln -s /opt/cupm/httpd/lib/libcrypto.so.1.0.0 /lib64`。
- ステップ 5** /opt/cupm/httpd/bin ディレクトリに移動して、アクセス権限用に次のコマンドを実行します：`chmod 777 openssl`。
- ステップ 6** 次のコマンドを実行してキーを作成します：`./openssl genrsa -out /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key 1024`。
- ステップ 7** 次のコマンドを実行して SSL 証明書を作成します：`./openssl req -new -key /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key -x509 -out /opt/cupm/httpd/mycorpcom.crt -days 365`。
mycorpcom.crt は証明書名で、mycorp.com.key はキー名です。

キーと証明書が opt/cupm/httpd フォルダに作成されます。

サンプル出力：

- Country Name (2 letter code) [AU]:US
- State or Province Name (full name) [Some-State]:CA
- Locality Name (eg, city) []:CA
- Organization Name (eg, company) [Internet Widgits Pty Ltd]:mycorp, LLC
- Organizational Unit Name (eg, section) []:Sales
- Common Name (eg, YOUR name) []:
- Email Address []:you@mycorp.com

- ステップ 8** /opt/cupm/httpd/conf/ssl.conf ファイルの次の行を更新して、証明書をキー ファイルにマッピングします。

- SSLCertificateFile conf/server.crt を SSLCertificateFile /opt/cupm/httpd/mycorpcom.crt に書き換えます
- SSLCertificateKeyFile conf/server.key を SSLCertificateKeyFile /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key に書き換えます

ステップ 9 Apache サーバを設定します（「Apache サーバの設定」を参照）。

Apache サーバの設定

手順

- ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムにルートユーザとしてログインし、/opt/cupm/httpd/confにある httpd.conf ファイルのバックアップを作成します。
- ステップ 2** httpd.conf ファイルで、vi エディタを使用して次の行を更新します。
#Include conf/extra/httpd-ssl.conf
これを次のように更新します。
Include conf/ssl.conf
- ステップ 3** 次のコマンドを実行し、Apache サーバを再起動します。
/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k stop
/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k start -DSSL
-



(注)

- Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの開始時に https をデフォルトで有効にするには、ルートユーザとしてログインし、`/opt/cupm/cupm-full-service.sh` および `opt/cupm/cupm-app-service.sh` ファイルの次の行を変更します。次に、Prime Collaboration Provisioning サービスを再起動します。

```
$PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k start & を $PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k start -DSSL & へ  
$PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k stop & を $PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k stop -DSSL & へ
```

- SSH コンソールから次のコマンドを使用して、ポート 80 または 443 が有効（リスニングポート）であることを確認します。

```
#lsnf -i :443
```

```
#lsnf -i :80
```

- `ssl.conf` ファイルにポート 443 を設定することをお勧めします。Listen 443 を必要なポートに変更します。
- HTTPS を排他的に実行する場合は、`/opt/cupm/httpd/conf/httpd.conf` ファイルの行「Listen 80」をコメントアウトして HTTP を無効にし、Apache サーバを再起動する必要があります。

SSL ポートの変更

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションが共存システムの 1 つにインストールされている場合は、いずれかのアプリケーションによって SSL 用に使用されるポートを変更する必要があります。

Prime Collaboration Provisioning によって SSL 用に使用されるポートを変更するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムで、`(/opt/cupm/httpd/conf` にある) `ssl.conf` ファイルを開きます。
- ステップ 2** 次の行のポート番号を変更します。
Listen 443
VirtualHost _default_:443
- (注) ポート番号の変更後、Prime Collaboration へアクセスするときに新しいポート番号を入力します。
- ステップ 3** 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
- ステップ 4** Apache サーバを再起動します。
-

LDAP および ACS サーバを使用するための Provisioning の設定

認証に ACS または LDAP サーバを使用するように、Prime Collaboration Provisioning を設定することができます。ACS サーバは認証のみに使用されますが、LDAP サーバを使用して読み取り、書き込み、同期を実行できます。



(注)

- ACS サーバを追加する場合は、Provisioning サーバを ACS クライアントとして追加する必要があります (TACACS とともに)。
- LDAP サーバに対して SSL を有効にするには、[LDAP サーバの SSL サポートの有効化 \(35 ページ\)](#) を参照してください。
- ACS または LDAP サーバを削除する前に、それらがドメインに割り当てられていないことを確認します。ACS または LDAP サーバは、ドメインごとに有効化されます。ACS または LDAP サーバを追加したら、ドメインに割り当てる必要があります。そのドメイン内のすべてのユーザは、対象の ACS または LDAP サーバに対して認証されます。ACS または LDAP サーバがドメインに関連付けられていない場合は、そのドメインの全ユーザがローカルで認証されます。globaladmin は常にローカルで認証されます。

Cisco Secure Access Control Server を使用するように Provisioning を設定する場合は、次の点に注意してください。

- [テスト接続 (Test Connection)] ボタンをクリックすると、IP アドレスの接続だけがチェックされます。
- 共有秘密キーは、認証にのみ使用されます。
- 誤った共有秘密キーを入力した場合、Provisioning にログインしようとする、不正な秘密キーであることを示すエラーが表示されます。ACS の設定中に生成された SSK を使用してください。
- Provisioning では、Access Control Server (ACS) 4.2 だけがサポートされます。

LDAP サーバの SSL サポートの有効化



(注)

SSL がサポートされるのは LDAP サーバだけです。

SSL を有効にするには、LDAP サーバの SSL 証明書を Provisioning にインポートする必要があります。Provisioning には、SSL 証明書をインポートするコマンドラインスクリプトが用意されています。

手順

-
- ステップ 1** SSH を使用してサーバにログインします。
- ステップ 2** /opt/cupm/sep/build/bin ディレクトリに移動します。
 (注) インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストールディレクトリは /opt/cupm になります。
- ステップ 3** コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。
`./ImportSSLCertificate.sh <operation> <alias> [path]`
- フィールドの説明は次のとおりです。
- **operation** : コマンドが実行する処理。 *import* または *delete* のいずれかを入力できます。
 - **alias** : 認証が Provisioning のキーストアに保存される際の文字列。
 - **path** : 認証の保存先となるパス (たとえば、/opt/cupm/servercert.cer) 。これが必要になるのは、認証をインポートする場合だけです。
- ステップ 4** Provisioning を再起動します。
- ステップ 5** [LDAPサーバの設定 (LDAP Server Configuration)] ページに移動し、[SSLを使用 (Use SSL)] チェックボックスをオンにします。
 (注) Provisioning の SSL 認証を削除するには、同ジスクリプトを実行して、該当する操作の *delete* を入力します。
-

Prime Collaboration Provisioning サーバのタイムゾーンの設定

統合サーバのタイムゾーン設定を変更するには、Provisioning を Assurance から切断し、タイムゾーン設定を変更します。

グリニッジ標準時 (GMT) と呼ばれる、うるう秒で更新される協定世界時 (UTC) を指定できます。

Provisioning サーバでタイムゾーンを変更するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** インストール中に作成したアカウントを使用して、Prime Collaboration Provisioning サーバにログインします。デフォルトでは、管理アカウントです。
- ステップ 2** 次のコマンドを入力して、サポートされているタイムゾーンのリストを表示します。
`cm/admin# show timezones`

- ステップ 3** Prime Collaboration Provisioning サーバのタイムゾーンを設定するには、次のコマンドを入力します。
- ```
cm/admin(config)# config t
cm/admin(config)# clock timezone US/Pacific
cm/admin(config)# exit
```
- ステップ 4** 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーするには、次のコマンドを入力します。
- ```
cm/admin# write memory
```
- ステップ 5** ルートアカウントを使用して、Prime Collaboration Provisioning にログインします。
- ステップ 6** `cd /opt/cupm/sep` を実行します。
- ステップ 7** `dfc.properties` を更新して、オフセットを更新します。
- ステップ 8** サービスを再起動します。
- ```
/etc/init.d/pmsservers stop
/etc/init.d/pmsservers start
```
- (注) Provisioning サーバを Assurance に接続すると、Assurance のタイムゾーン設定が統合サーバに表示されます。ただし、Provisioning のダッシュボードには Provisioning のタイムゾーンだけが表示されます。

---

Provisioning のスタンドアロンサーバで、Provisioning のホームページの右上隅から [タイムゾーン (Time Zone) ] アイコンを選択し、タイムゾーンを変更することもできます。[タイムゾーンの設定(UTCオフセット) (Time Zone Settings (UTC Offset)) ] ページで、新しいUTCオフセットと場所の詳細を入力し、[適用 (Apply) ] をクリックします。



- 
- (注) UI で変更したタイムゾーンは、アプリケーションをログアウトするまで持続します。再度ログインすると、ユーザインターフェイスにはサーバのタイムゾーンだけが表示されます。
-





## 第 3 章

# デバイスの管理

Provisioning を使用するには、初めに、IP テレフォニー環境の一部である IP 通信インフラストラクチャ デバイスを追加する必要があります。

デバイスを追加した後で、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unity システム、および Cisco Unified Presence のデータを Provisioning と同期します。これにより、既存のアクティブ ユーザおよびサービスが Provisioning に入力され、すべてのインフラストラクチャとユーザの情報を把握できる統合されたビューが提供されます。

Provisioning では、Cisco IOS ルータもサポートされます。Cisco IOS ルータ デバイスが Provisioning に追加されると、このデバイスは Provisioning に一般的な IOS ルータとして表示されます。

Provisioning では、この一般的な IOS ルータ機能を通して、ルータ上に追加の音声機能を設定できます。

コールプロセッサは、Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Communications Manager Express のデバイスの各インスタンスのプロキシです。ユニファイドメッセージプロセッサは、Cisco Unity、Cisco Unity Express、または Cisco Unity Connection のデバイスの各インスタンスのプロキシです。ユニファイドプレゼンスプロセッサは、Cisco Unified Presence の各インスタンスのプロキシです。これらの用語は該当デバイスを指す場合に使用されています。

- [デバイスの追加, 39 ページ](#)
- [デバイスの削除, 47 ページ](#)
- [Cisco Jabber サービスの有効化, 48 ページ](#)

## デバイスの追加

サービスをユーザ向けにプロビジョニングするには、デバイスを Provisioning に追加する必要があります。Provisioning に追加できるデバイスのリストについては、『[Supported Devices for Prime Collaboration Provisioning - Standard and Advanced, 10.0](#)』を参照してください。

デバイスを Provisioning に追加する場合は、次のポイントにご注意ください。

- デバイスを Provisioning に追加する前に、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、Cisco Unity、Cisco Unity Connection、Cisco Unity Express デバイスが正しく設定されていることを確認します。これらのデバイスの設定の詳細については、『[Setting Up Devices for Prime Collaboration Provisioning](#)』を参照してください。
- Provisioning で一般的な IOS ルータを設定する方法は、Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity デバイスの場合と大幅に異なります。最大の違いは、一般的な IOS ルータは同期化されず、特定のドメインやサービス エリアには関連付けられないことです。
- Provisioning で Cisco Unified Communications Manager Express に基づいてコール プロセッサを作成する前に、次のことを行う必要があります。
  - 電話番号の自動割り当てを無効にします。これは、Cisco IOS インターフェイスから実行します。
  - Cisco Unified Communications Manager Express の電話自動登録を無効にします。

デバイスを Provisioning に追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページで、[追加 (Add)] をクリックしてデバイスを Provisioning に追加します。
- ステップ 3** [デバイスの追加 (Add Device)] ウィンドウで、ドロップダウンリストから必要なアプリケーションを選択し、名前や IP アドレスなどの必須情報を入力します。フィールドの説明については、次の表を参照してください。
- (注) デバイス名に使用できる文字は、スペース、英数文字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア (\_)、ハイフン (-)、ピリオド (.)、およびアットマーク (@) です。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- デバイスが Provisioning に追加されます。ページの下部に 2 つのステータス メッセージが表示されます。1 つはデバイスの追加が成功したかどうかを示し、もう 1 つは [テスト接続 (Test Connection)] 上にあり、接続テストが成功したかどうかを示します。複数のアプリケーションを持つデバイスは、テーブル上で個別のデバイスとして追加されます。
- (注) Cisco Unity Connection 10.0 を追加するときに、Unity Connection 管理者とオペレーティング システム (OS) 管理者のクレデンシャルを追加する必要があります。
- 

デバイスの詳細を表示するには、[クイックビュー (Quick View)] をポイントします。クイックビューでは、同期の開始、同期ログの表示、デバイスの接続テスト、Cisco Unified CM Serviceability と Cisco Unity Connection Serviceability の相互起動を実行できます。デバイスの詳細を更新または変更するには、[編集 (Edit)] をクリックします。

Prime Collaboration Assurance からデバイスをインポートするには、[インポート (Import)] をクリックします。[デバイスのセットアップ (Device Setup)] ページに、Assurance 上のデバイスが

リストされます（リストには管理対象状態のデバイスのみが表示されます）。インポートするデバイスを選択し、[選択したデバイスのインポート（Import Selected Devices）]をクリックします。



(注)

- Assurance からのデバイスのインポートは、統合モードに限り実行できます。
- Provisioning にすでにあるデバイスはインポートできません。
- Cisco Unified Communications Manager Express および Cisco Unity はインポートできません。

一部のデバイス（IP アドレスが同じデバイス）にはアプリケーションが複数あります。アプリケーションが複数あるデバイスを追加する場合は、最初のデバイスを追加して保存します。最初のデバイスを Provisioning に追加したら、2 番目のアプリケーションを選択して、もう一度デバイスを追加します。デバイスを保存します。[デバイスのセットアップ（Device Setup）] テーブルに両方のデバイスが表示されます。

Prime License Manager および Deployment Manager は、[インフラストラクチャのセットアップ（Infrastructure Setup）] ページから追加できます。これらのデバイスを追加すると、Prime License Manager と Deployment Manager のリンクが [管理（Administration）] メニューに表示されます。Prime License Manager または Deployment Manager のログイン ページを相互起動するには、Prime License Manager または Deployment Manager のリンクをクリックします。



(注)

Provisioning には、Prime License Manager および Deployment Manager デバイスを 1 つだけ追加できます。別の Prime License Manager または Deployment Manager デバイスを追加しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

表 4: コール プロセッサのフィールド

| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [LDAP統合 (LDAP Integration) ]                             | <p>オプションは、[なし (None) ]、[同期 (Synchronization) ]、および [同期および認証 (Synchronization and Authentication) ] です。 選択する値は、Cisco Unified Communications Manager で設定された値と正確に一致する必要があります。 Cisco Unified Communications Manager が外部 Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) と統合されている場合、ユーザは Provisioning によって作成されず、Cisco Unified Communications Manager を通じて同期されます。</p> <p>サービスをプロビジョニングするときに Cisco Unified Communications Manager でユーザが使用可能な状態にない場合、ワークフロー サブシステムは事前に定義された時間 (デフォルトでは 24 時間) 、そのユーザが Cisco Unified Communications Manager で使用可能になるのを待ってから、サービスのプロビジョニングを継続します。</p> <p>この 24 時間の待機時間は、Provisioning の ipt.properties ファイルで設定できます。 次の設定を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• dfc.oem.extdir.retries : 24</li> <li>• dfc.oem.extdir.retry_interval : 3600</li> </ul> <p>(注) LDAP 統合を使用できるのは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 5.0 以降の場合だけです。</p> |
| [エクステンションモビリティの詳細 (Extension Mobility Details) ] (オプション) |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [サービス名 (Service Name) ]                                  | <p>コールプロセッサに設定されたエクステンションモビリティサービスの名前。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [サービス URL (Service URL) ]                                | <p>コールプロセッサに設定されたエクステンションモビリティサービスの URL。</p> <p>http://&lt;ip-address&gt;/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#</p> <p>ip-address は、エクステンションモビリティがインストールされているサーバの名前または IP アドレスです。</p> <p>(注) Provisioning で入力するサービス名およびサービス URL は、Cisco Unified Communications Manager のサービス名およびサービス URL と一致する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

表 5: ユニファイドメッセージプロセッサのフィールド

| フィールド                                                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[LDAP統合 (LDAP Integration) ]</p> <p>(注) このオプションは、Cisco Unity Connection だけで使用できます。</p>            | <p>Cisco Unity Connection が外部 LDAP と統合されるかどうかを指定します。</p> <p>ボイスメールアカウントをプロビジョニングしているときに [はい (Yes) ] を選択した場合は、Provisioning によって、Cisco Unity Connection で LDAP ユーザリストが検索されます。ユーザ名がリストで見つかり、ユーザの詳細がインポートされ、ボイスメールアカウントがプロビジョニングされます。</p> <p>[いいえ (No) ] を選択した場合、Provisioning は LDAP ユーザリストを検索せず、ボイスメールアカウントをプロビジョニングする通常のプロセスに従います。</p> |
| <p>[ユーザ名 (Username) ]</p>                                                                            | <p>このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。このフィールドに指定するユーザ名は、次のものと一致する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unity : データベース パスワード</li> <li>• Cisco Unity Connection : Cisco Unity Connection 管理者権限を持っている任意のユーザ</li> <li>• Cisco Unity Express : Cisco Unity Express がインストールされているルータのユーザ名</li> </ul>                             |
| <p>[パスワード (Password) ]</p>                                                                           | <p>このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。このフィールドに指定するパスワードは、次のものと一致する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unity : データベース パスワード</li> <li>• Cisco Unity Connection : 管理者パスワード</li> <li>• Cisco Unity Express : Cisco Unity Express がインストールされているルータのパスワード</li> </ul>                                                           |
| <p>[OS管理者名 (OS Administrator Name) ]</p> <p>(注) このオプションは、Cisco Unity Connection 10.0 だけで使用できません。</p> | <p>OS 管理者名は、Cisco Unity Connection のインストール中に作成されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                              |

| フィールド                                                                                             | 説明                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [OS管理者パスワード (OS Administrator Password) ]<br>(注) このオプションは、Cisco Unity Connection 10.0 だけで使用できません。 | OS 管理者パスワードは、Cisco Unity Connection のインストール中に作成されます。                                                                                                                       |
| [イネーブルパスワード (Enable Password) ]                                                                   | Cisco Unity Express がインストールされているルータのイネーブルパスワード。                                                                                                                            |
| [インポートによる作成 (Create by Import) ]                                                                  | Cisco Unity に新しいボイスメール アカウントが作成されたとき、Exchange サーバに新しいアカウントを作成するかどうかを示します。<br><br>このフィールドを選択した場合、Exchange サーバにユーザアカウントは作成されません。ユーザアカウントは、Exchange サーバにすでに存在する場合に限り関連付けられます。 |
| (オプション) [回線ユーザ名 (Line User Name) ]                                                                | Cisco Unity Express モジュールのユーザ名。                                                                                                                                            |
| [回線ユーザパスワード (Line User Password) ]                                                                | Cisco Unity Express モジュールのパスワード。                                                                                                                                           |
| [サービスエンジンインターフェイス番号 (Service Engine Interface Number) ]                                           | ルータ上の Cisco Unity Express サービス エンジンのインターフェイス番号。                                                                                                                            |

表 6: LDAP および ACS サーバ設定のフィールド

| フィールド                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [LDAPサーバタイプ (LDAP Server Type) ] | LDAP サーバのタイプ。<br>次のオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Microsoft ADサーバまたはMicrosoft ADAM(Active Directoryアプリケーションモード) (Microsoft AD server or Microsoft ADAM (Active Directory Application Mode)) ]</li> <li>• [Lightweight Directory Services]</li> </ul> Provisioning でサポートされる Microsoft AD のバージョンについては、 <a href="http://docwiki.cisco.com/wiki/Supported_Devices_for_Cisco_Prime_Collaboration_Provisioning_10.0">http://docwiki.cisco.com/wiki/Supported_Devices_for_Cisco_Prime_Collaboration_Provisioning_10.0</a> を参照してください。 |



| フィールド                                       | 説明                                                                                                  |
|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [バックアップサーバポート (Backup Server Port) ]        | バックアップ AAA サーバのポート番号。                                                                               |
| [管理識別名 (Admin Distinguished Name) ]         | LDAP ディレクトリへのアクセス権を所有する LDAP マネージャの管理ユーザ ID。                                                        |
| [管理パスワード (Admin Password) ]                 | 管理ユーザのパスワード (LDAP マネージャ) 。                                                                          |
| [LDAPユーザ検索ベース (LDAP User Search Base) ]     | ユーザの検索ベース。 Provisioning は、この情報 (CN=Users、DC=Cisco、DC=com) をベースとしてユーザを検索します。                         |
| [SSLを使用 (Use SSL) ]                         | Provisioning で、Provisioning と AAA サーバ間の転送チャネルとして Secure Socket Layer (SSL) 暗号を使用する場合にオンにするチェックボックス。 |
| [ACS認証プロトコル (ACS Authentication Protocol) ] | ACS サーバによって認証に使用されるプロトコル。                                                                           |
| [データ暗号化を有効にする (Enable Data Encryption) ]    | Provisioning と ACS サーバ間のデータの暗号化を有効にします。                                                             |

### Cisco Unity Connection デバイスの操作

Cisco Unity Connection のクラスタリングとフェールオーバーをサポートするため、次の点に注意してください。

- Cisco Unity Connection クラスタ サーバペアを含む Cisco Unity Connection を追加する場合は、そのペアのパブリッシャ サーバだけを追加します。
- プライマリ Cisco Unity Connection がセカンダリ Cisco Unity Connection にフェールオーバーする場合、IP アドレスをセカンダリ デバイスに変更できます。その場合、Provisioning は、フェールバックが発生する前にセカンダリ デバイスと通信します。

ネットワークに複数のロケーションがある場合は、Provisioning に対して、Cisco Unity Connection サーバまたは Cisco Unity Connection クラスタのいずれかに、すべてのロケーションを個々に追加します。

この設定で Cisco Unity を使用する場合、Cisco Unified Communications Manager ボイスメール ポートを設定します。

これらのデバイスの詳細については、『[Setting Up Devices for Prime Collaboration Provisioning](#)』を参照してください。

### [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] からの Serviceability の相互起動

Prime Collaboration Provisioning では、管理者は、設定済みの Cisco Unity Connection および Cisco Unified Communications Manager から、それぞれ Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability を相互起動できます。



(注) Serviceability の相互起動は、Cisco Unified Communications Manager デバイスと Cisco Unity Connection デバイスに対してのみサポートされています。

Serviceability の相互起動を利用すると、Serviceability の UI にアクセスして、デバイスのサーバを直接操作できます。CUCM における Serviceability については、『[Cisco Unified Serviceability Administration Guide, Release 10.0](#)』を参照してください。同様に、Cisco Unity Connection における Serviceability については、『[Administration Guide for Cisco Unity Connection Serviceability Release 10.0](#)』を参照してください。

Serviceability の相互起動機能を使用すると、Prime Collaboration Provisioning では、すべての管理対象ノードでサービスのアクティブ化、非アクティブ化、開始、および停止を（直接）行うことができます。デバイステーブルで Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection をポイントし、[クイックビュー (Quick View)] アイコンをクリックして、[操作 (Actions)] ペインの [Serviceability] 相互起動リンクをクリックします。

## Cisco TMS の追加

Cisco Unified Communications Manager と同期する Cisco TMS デバイスをディスカバリ デバイスに追加すると、ビデオエンドポイントのスケジュールを有効にできます。このスケジュールは Cisco TMS でのみ実行され、スケジュールの UI は、Prime Collaboration Provisioning から起動することができます。

### 手順

- ステップ 1 Cisco TMS を追加します（「デバイスの追加」の手順を参照）。
- ステップ 2 アプリケーション ユーザを Cisco TMS に関連付けます。プロビジョニングする Cisco Unified Communications Manager ごとに、Cisco TMS に関連付けるアプリケーションを選択できます。[展開 (Deploy)] > [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] を選択します。[TMSサービス (TMS Service)] で Cisco Unified Communications Manager のアプリケーション ユーザを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。アプリケーション ユーザは、[標準CCM管理ユーザ (Standard CCM Admin Users)] や [標準CTI有効 (Standard CTI Enabled)] グループに属している必要があります。また、次のいずれか 1 つの権限を持っている必要があります。

[標準AXL APIアクセス (Standard AXL API Access) ]、[標準CCM管理ユーザ (Standard CCM Admin Users) ]、[標準CTI有効 (Standard CTI Enabled) ]、[標準CUレポート (Standard CUReporting) ]、[標準リアルタイム追跡収集 (Standard RealtimeAndTraceCollection) ]、[標準サービスアビリティ (Standard SERVICEABILITY) ]

**ステップ3** エンドポイントをプロビジョニングします。「**ユーザのサービスのオーダー**」を参照してください。スケジュールを有効にするには、[サービス固有の設定 (Service Specific Configuration Layout) ]で、[スケジュールの有効化 (Enable Scheduling) ]をクリックします。

特定のサービス エリアに関連付けられているアプリケーションユーザ用に、Cisco Unified Communications Manager でエンドポイントが追加されてプロビジョニングされます。

(注) エンドポイントの新しい順序を作成する場合は、異なる Cisco Unified Communications Managers をポイントする多数のサービスを設定できます。このとき、それぞれの Cisco Unified Communications Manager に使用できるサービス エリアを選択する必要があります ([ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services) ]で)。

## デバイスの削除

特定のデバイスを Provisioning から完全に削除するには、そのデバイスを [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup) ] ページで削除する必要があります。デバイスを削除する場合は、次のポイントに注意してください。

- アクティブなリリース済みオーダーがない (回復不能または回復可能なエラーを含む)
- アクティブなバッチ プロジェクトがない
- 同期の実行中でない

これらの条件が満たされていない場合にデバイスを削除しようとする、ページにメッセージが表示されます。削除が完了するまで、アクティビティは実行しないでください。

- AAA サーバを削除する前に、ドメインに割り当てられていないことを確認します。
- デバイス上に保留中のオーダーがないようにしてください。デバイス機能の削除は、メンテナンスモードでなくても実行できます。ただし、別の機能がルータ上で設定済みの場合は、その別の機能を削除するため、メンテナンス モードにする必要があります。
- デバイスを削除する前に、次の項目を確認します。

デバイスを削除するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1 Provisioning をメンテナンス モードにします ([メンテナンス モード](#), [\(289 ページ\)](#) を参照)。
  - ステップ 2 [設計 (Design)] > [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] を選択します。
  - ステップ 3 [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページで、削除するデバイスを選択して [削除 (Delete)] をクリックします。
  - ステップ 4 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックして削除を実行します。
- 

# Cisco Jabber サービスの有効化

Prime Collaboration Provisioning で、デバイスの Cisco Jabber サービスを有効にすることができます。Cisco Jabber サービスを使用すると、インスタント メッセージングやプレゼンスと連携させることができます。



- 
- (注) Cisco Jabber サービスは、Cisco Unified Communications Manager 9.1.1 以上のバージョンと、Cisco Unified Presence でのみ利用できます。
- 

コール プロセッサの Cisco Jabber サービスを有効にするには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] を選択します。
  - ステップ 2 [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] ページで、[有効 (Enable)] をクリックします。
  - ステップ 3 [SIPプロファイル (SIP Profile)]、[Service Profile (サービスプロファイル)]、および[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドとサービス パラメータ情報を入力して、[適用 (Apply)] をクリックします。これらのフィールドの詳細については、[インフラストラクチャ設定製品のフィールド](#), [\(423 ページ\)](#) を参照してください。[オーダーの表示 (View Order)] をクリックすると、[ユーザレコード (User Record)] ページでオーダーの詳細を確認できます。Jabber サービスを有効にした日付が表示されます。
- (注) コールプロセッサの Cisco Jabber サービスを有効にした後は、編集も無効化もできなくなります。
-



## 第 4 章

# ドメイン、サービスエリア、ユーザ権限、サービス テンプレートの管理

デバイスを追加したら、まずドメインを作成し、次にサービスエリア、ユーザ権限、およびサービス テンプレートを追加する必要があります。

Prime Collaboration Provisioning 10.0 では、[ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] ページ ([設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)]) を選択) が簡略化されて、すべてのユーザプロビジョニング タスクを設定できるようになりました。一元化されたビューにより、ドメイン、サービスエリア、ユーザ権限、およびサービス テンプレートを 1 つのユーザ インターフェイスで管理できます。

ユーザプロビジョニングをセットアップするには、次の手順を実行します。

- ドメインの追加と設定：これには、ユーザのグループに対する操作機能を定義する、ドメインの追加と設定が含まれます。
- サービスエリアの作成と設定：これには、ルートパーティションおよびデバイスプールを選択、サービスエリアにアクセスできるユーザタイプの指定、電話番号ブロックの設定を含むサービスエリアの設定が含まれます。
- ユーザ権限の追加と設定：これには、ユーザ権限の追加と、特定のユーザ権限タイプでプロビジョニングできるサービスの割り当てが含まれます。
- サービス テンプレートの追加と設定：これには、サービスをアクティブ化する際にサービスに適用される、Provisioning 属性の設定が含まれます。

[ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] ウィンドウでは、ドメイン、サービス エリア、ユーザ権限、サービス テンプレートが左ペインに表示されます。該当するテーブルは右ペインに表示されます。[ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] ページに入力する際、ドメイン テーブルはデフォルトで表示されています。[すべてのドメイン (All Domains)] をクリックして全ドメインのリストを表示します。矢印アイコンをクリックして展開します。ドメインを展開すると、そのドメインのサービスエリア、ユーザ権限、およびサービス テンプレートが表示されます。さらに、サービス エリアとユーザ権限を展開すると、複数のサービス エリアと、そのドメインに関連付けられたユーザ権限のリストが表示されます。

- [ドメインの追加, 50 ページ](#)
- [サービスエリア, 51 ページ](#)
- [サービスエリアの追加, 52 ページ](#)
- [ユーザ権限の追加, 59 ページ](#)
- [サービステンプレートの作成, 61 ページ](#)

## ドメインの追加

ドメインとは、ユーザのグループです。グループごとにシステムユーザを1名以上任命し、そのユーザにドメイン内のユーザに対するサービスの管理を任せることができます。また、ドメインにはルールまたはポリシーを設定できます。これらのルールとポリシーは、そのドメイン内のユーザのサービスに適用されます。ドメイン内の運用に共通のポリシーを適用することも可能です。

1人のユーザが複数のドメインを管理できます（そのユーザに適切な承認権限が割り当てられている場合）。ユーザのすべてのサービスは、そのユーザを追加するときに指定したサービスドメインでプロビジョニングされます（ユーザを追加するには、[\[展開 \(Deploy\)\] > \[ユーザプロビジョニング \(User Provisioning\)\]](#) を選択します）。

ドメインを作成した後、新しいドメインにアクセスできるサービスエリアとユーザ権限を追加できます。サービステンプレートを作成し、サービスエリアとユーザ権限に割り当てることもできます。また、1つのサービステンプレートを、サービスエリアとユーザ権限の複数の組み合わせに関連付けることも可能です。[サービスエリアの追加, \(52 ページ\)](#) および [ユーザ権限の追加, \(59 ページ\)](#) を参照してください。

ドメインを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [\[設計 \(Design\)\] > \[ユーザプロビジョニングのセットアップ \(User Provisioning Setup\)\]](#) を選択します。
- ステップ 2** [\[追加 \(Add\)\]](#) をクリックし、[\[ドメイン \(Domains\)\]](#) ページで新しいドメインを追加します。
- ステップ 3** [\[コールプロセッサ \(Call Processors\)\]](#)、[\[メッセージプロセッサ \(Message Processors\)\]](#)、[\[同期ルール \(Synchronization Rules\)\]](#)、[\[LDAP設定 \(LDAP Settings\)\]](#) などの必要なフィールドに入力し、[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックします。[\[名前 \(Name\)\]](#) フィールドにドメイン名を入力する必要があります。使用できる文字は、スペース、英数字 (A ~ Z, a ~ z, 0 ~ 9)、および特殊文字 `_ - . / : ; = ? @ ^ ' { } [ ] | ~` です。
- [\[同期ルール \(Synchronization Rules\)\]](#) ペインで、ドメイン同期ルールを設定できます。Cisco Unified Communications Manager および Unity Connection の [\[同期ルール \(Synchronization Rules\)\]](#) を選択します。特定の同期ルールの詳細については、[\[?\] アイコン](#) をポイントします。ビジネスルールの詳細な説明については、[ドメイン同期に関するビジネスルール, \(78 ページ\)](#) を参照してください。
-

- ドメインの設定後、ドメインの同期を実行します。詳細については、[ドメインの同期の概要](#)、(76 ページ) を参照してください。
- LDAP 設定フィールドの更新については、[LDAP サーバと Provisioning の同期](#)、(84 ページ) を参照してください。

既存のドメインを編集するには、左ペインでドメインのリストを展開し、編集するドメインをクリックします。また、[すべてのドメイン (All Domains)] をクリックし、テーブルからドメインを選択して [編集 (Edit)] をクリックする方法もあります。

## ドメインの削除

ドメインを削除すると、サービスエリア、ユーザ権限、サービステンプレート、ルール、電話番号ブロックが削除されます。また、エンドポイント、電話番号、ライセンス機能、および Unified Presence ユーザ設定のインスタンスが、グローバル リソース ネームスペースに移動します。

ドメインの削除の実行中は、ドメインの削除が完了するまで、ドメイン内でアクティビティを実行しないでください。

ドメインを削除する前に、システムをメンテナンスモードにする必要があります。また、ドメインを削除する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- アクティブなリリース済みオーダーがない (回復不能または回復可能なエラーを含む)
- アクティブなバッチプロジェクトがない
- ドメインの同期の実行中でない
- コールプロセッサまたはユニファイドメッセージプロセッサの同期の実行中でない

### 手順

- 
- ステップ 1** Provisioning をメンテナンス モードにします ([メンテナンス モード](#)、(289 ページ) を参照)。
  - ステップ 2** [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
  - ステップ 3** 削除するドメインを選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。
  - ステップ 4** [OK] をクリックします。  
[ドメイン (Domain)] リスト ページを更新し、ステータスを確認します。
- 

## サービス エリア

サービス エリアとは、地理的、組織的、または技術的な境界を超えて IP テレフォニー サービスとメッセージングサービスを構成および管理するために使用する、ドメイン内のグループのこと

です。サービスエリアは、一般的にはサービスを提供するロケーションとして機能し、オーダー処理の際に使用するプロビジョニング属性値を決定するテンプレートのメカニズムを提供します。

サービスエリアは、ビジネスの視点から見たサービスを、そのサービスを提供する技術にマッピングします。

また、サービスエリアは、そのサービス エリアにプロビジョニングされるユーザについて、ロケーション、デバイスプール、およびルートパーティションの各割り当てでどれを使用するのかを指定することにより、Cisco Unified Communications Manager のパーティションとサービス クラスを処理します。

たとえば、Cisco Unified Communications Manager に関連付けられたサービス エリアでは、Cisco Unified Communications Manager 内で各製品が使用するデバイス グループ、ルートパーティション、ロケーション、および外線電話番号マスクが定義されます。

この場合、サービスエリアを設定するときに、サービスエリアに対して選択したコールプロセッサに基づいて、サービス エリアに割り当て可能なルートパーティションのリストが提示されます。サービスエリアに関連付けられたルートパーティションがない場合、電話番号と回線はCisco Unified Communications Manager のデフォルトルートパーティションに作成されます。また、主要なボイスメール設定とコール転送動作もサービス エリアによって決定されます。

Cisco Unity および Cisco Unity Connection ユニファイドメッセージプロセッサでは、ユニファイドメッセージプロセッサをサービスエリアに割り当てる場合、加入者テンプレートと加入者サービス クラス (CoS) を設定できます (加入者テンプレートと加入者 CoS にはそれぞれ、Text-To-Speech (TTS) 機能が有効なものと同効なものがあります)。これらのテンプレートは、サービス エリアでのユーザのボイスメールプロビジョニングに使用できます。



(注) コールプロセッサとして Cisco Unified Communications Manager Express を設定したサービス エリアでは、デバイス プールだけを選択に使用できます。ルートパーティションは使用できません。

## サービス エリアの追加

サービス エリアを設定するときは、次の操作を実行できます。

- コールプロセッサと関連するオブジェクト (Cisco Unified Communications Manager ではルートパーティション、デバイス プールなど) を指定することにより、サービス エリアを対応するコールプロセッサ オブジェクトにマッピングします。同様に、サービス エリアをユニファイドメッセージプロセッサとユニファイドプレゼンス プロセッサにマッピングします。
- サービス エリアのユーザ タイプを指定します (サービス エリアから製品をオーダーできるのは、サービス エリア内のユーザだけです)。
 

ドメインルールの DefaultUserType に基づくデフォルトのユーザ権限は [従業員 (Employee)] です。
- サービス エリア ユーザの電話番号ブロックを作成します。



- 選択したコールプロセッサにプレゼンスプロセッサが関連付けられている場合に、ユニファイドプレゼンスプロセッサの設定にプレゼンスプロセッサを表示します。



(注) サービスエリアをドメインに割り当てた後で、別のドメインに移動することはできません。また、コールプロセッサ、ユニファイドメッセージプロセッサ、またはユニファイドプレゼンスプロセッサをサービスエリアに割り当てた後で、それらを変更することもできません。

サービスエリアを追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** [設計 (Design) ] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup) ] を選択します。
- ステップ 2** サービスエリアを作成するドメインを選択します。
- ステップ 3** ドメインを展開して [サービスエリア (Service Area) ] を選択します。
- ステップ 4** [追加 (Add) ] をクリックします。
- ステップ 5** [サービスエリアの設定 (Service Area Configuration) ] ページで、必要なフィールドに入力して [保存 (Save) ] をクリックします。次の表に必須フィールドを示します。

既存のサービスエリアを編集するには、左ペインでサービスエリアのリストを展開し、編集するサービスエリアをクリックします。また、テーブルからサービスエリアを選択し、[編集 (Edit) ] をクリックする方法もあります。

表 7: サービスエリア設定のフィールド

| フィールド                              | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [共通デバイス設定 (Common Device Config) ] | <p>サービスエリアの共通のデバイス設定。[共通デバイス設定 (Common Device Config) ] では、次の設定を制御できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ソフトキーテンプレート (Softkey Template) ]</li> <li>• [ユーザ保留MOH音源 (User Hold MOH Audio Source) ]</li> <li>• [ネットワーク保留MOH音源 (Network Hold MOH Audio Source) ]</li> <li>• [ユーザロケール (User Locale) ]</li> <li>• [MLPP通知 (MLPP Indication) ]</li> <li>• [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption) ]</li> <li>• [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]</li> </ul> <p>(注) このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Communications Manager 6.0 を選択した場合だけです。</p> |

| フィールド                                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ロケーション (Location) ]                                            | デバイスに割り当てられるロケーション。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [パーティション (Partition) ]                                          | サービスエリアのルートパーティション。これは、Cisco Unified Communications Manager のパーティションと同じです。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [デバイスプール (Device Pool) ]                                        | サービスエリアのデバイスプール。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [音声ゲートウェイ参照 (Voice Gateway References) ]                        | サービスエリアの音声ゲートウェイ参照。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [電子メールプロセッサ (Email Processors) ]                                | <p>Cisco Unity Connection に対してのみ使用可能で、Internet Message Access Protocol (IMAP) クライアントのサポート用に外部 Exchange Server と統合されます。</p> <p>Cisco Unity Connection で IMAP 用の Exchange Server を設定するには、Cisco Unity Connection システムで [システム設定 (System Settings) ] &gt; [外部サービス (External Services) ] &gt; [新規追加 (Add New) ] を選択し、必要なフィールドに入力します。</p> |
| [TTSが有効でない加入者テンプレート (Subscriber Template without TTS Enabled) ] | ユニファイドメッセージプロセッサのユーザに対してユニファイドメッセージングを無効にするために使用される、加入者テンプレート。                                                                                                                                                                                                                                                                     |

| フィールド                                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [TTSが有効な加入者CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled) ]      | <p>ユニファイドメッセージプロセッサのユーザに対してユニファイドメッセージングを有効にするために使用される、サービス クラス テンプレート。これは、加入者テンプレートとともに使用されます。</p> <p>CoS の TTS を有効にするには、Cisco Unity Connection で次の設定を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unity Connection 8.x の場合は、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [IMAPクライアントを使用したボイスメールへのアクセスを許可する (Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client) ]フィールド ([ライセンス機能 (Licensed Features) ]の下) を選択します。</li> <li>◦ [高度な機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features) ]フィールドおよび [テキスト/スピーチ (TTS) を使用したExchange電子メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Exchange Email by Using Text to Speech (TTS)) ]フィールド ([ライセンス機能 (Licensed Features) ]の下) を選択します。</li> </ul> </li> </ul> |
| [TTSが有効でない加入者CoS (Subscriber CoS without TTS Enabled) ] | ユニファイドメッセージプロセッサの加入者に対してユニファイドメッセージングを有効にするために使用される、サービス クラス テンプレート。これは、加入者テンプレートとともに使用されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [電話番号ブロック (Directory Number Blocks) ]                   | サービス エリアに割り当てられている電話番号ブロック。 <a href="#">電話番号ブロックの追加, (58 ページ)</a> を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

- [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]、[ロケーション (Location) ]および[パーティション (Partition) ]フィールドは、Cisco Unified Communications Manager にのみ適用されます。
- [TTSが有効な加入者CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled) ]、および[TTSが有効でない加入者CoS (Subscriber CoS without TTS Enabled) ]フィールドは、Unity および Unity Connection にのみ適用されます。

## サービス エリアの削除

サービス エリアを削除するには、次の条件が満たされている必要があります。

- システムがメンテナンス モードである

- アクティブなリリース済みオーダーがない（回復不能または回復可能なエラーを含む）
- アクティブなバッチプロジェクトがない
- ドメインの同期の実行中でない
- プロセッサの同期の実行中でない

これらの条件が満たされていない場合、サービスエリアを削除しようとする、削除操作は開始されないというメッセージがページに表示されます。

サービスエリアの削除の実行中は、そのサービスエリアの削除が完了するまでアクティビティは実行されません。

### 手順

- 
- ステップ 1** Provisioning をメンテナンス モードにします（[メンテナンス モード](#)、[\(289 ページ\)](#) を参照）。
- ステップ 2** [設計 (Design) ] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup) ] を選択します。
- ステップ 3** ドメインを展開して [サービスエリア (Service Area) ] をクリックします。
- ステップ 4** 目的のサービスエリアを選択して [Delete (削除) ] をクリックします。
- ステップ 5** 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックしてサービス エリアを削除します。
- 

## 電話番号ブロック

電話番号ブロック内の番号は、それらが作成される Cisco Unified Communications Manager に対して相対的です。Provisioning では、Cisco Unified Communications Manager と同様に電話番号が処理されます。

サービスのオーダーを作成する際に電話番号ブロックがないサービスエリアを選択する場合は、選択された回線番号だけを使用できます。

電話番号インベントリを使用して個々の電話番号を設定することも可能です。詳細については、[電話番号の管理](#)、[\(163 ページ\)](#) を参照してください。

次の表に、電話番号のブロックを作成するためのフィールドを示します。

表 8: [電話番号ブロック (Directory Number Blocks) ] フィールドの説明

| フィールド                   | 説明                |
|-------------------------|-------------------|
| [プレフィックス (Prefix) ]     | 電話番号ブロックのプレフィックス。 |
| [最初の番号 (First Number) ] | 電話番号ブロックの最初の番号。   |

| フィールド                   | 説明                                                    |
|-------------------------|-------------------------------------------------------|
| [最後の番号 (Last Number) ]  | ブロックの最後の電話番号。                                         |
| [最小長 (Minimum Length) ] | プレフィックスを除く電話番号の最小桁数。番号にゼロを埋めるためにシステムによって使用されます。       |
| [ブロックサイズ (Block Size) ] | このフィールドは、[サービス エリア (Service Area) ] ページを保存した後に入力されます。 |

### E.164 のサポート

Cisco Unified Communications Manager バージョン 7.x 以降を使用している場合は、Provisioning で国際エスケープ文字+を設定できます。これにより、電話ユーザが、着信側に関連付けられる国際直接ダイヤルプレフィックス/国際エスケープコードを記憶し、入力する必要なしに、コールを発信できるようになります。デュアルモード電話などの電話モデルによっては、電話ユーザは電話のキーパッドで+をダイヤルできます。その他の場合、電話ユーザは、+を含むコールログディレクトリ エントリにアクセスすることによって、コールに返信できます。

国際エスケープ文字+は、完全な E.164 番号形式の国際アクセスコードを示します。たとえば、NANP 番号には、形式+1 214 555 1234 で、E.164 国際形式が含まれます。+は、各国のサービスプロバイダーが国際アクセスコードに置換し、グローバルダイヤルプランを形成するための先行文字です。

+または+を入力して、国際エスケープ文字を示すことができます。

E.164 形式の電話番号を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 電話番号では、番号の先頭 (プレフィックス) だけで、国際エスケープ文字を設定できます (+5678、+0034 など)。
- サポートされているパターンに対して国際エスケープ文字を設定するために、パターンまたは電話番号フィールドに+または+を入力できます。
- [選択した回線 (Chosen Line) ] オプションを使用し、オーダーした回線に対して E.164 形式の電話番号を割り当て可能です。
- E.164 は、Cisco Unified Communications Manager Express ではサポートされていません。
- Cisco Unity Connection 7.x および 8.x バージョンで E.164 形式の電話番号回線に対してボイスメールをプロビジョニングする際に、Provisioning は電話番号から+記号を削除して、内線番号を自動的に設定します。オーダーの完了後に、電話番号は (+記号付きで) [代行内線番号 (Alternate Extension) ] フィールドに自動的に入力されます。Unity Connection 9.0 以上のバージョンでは、E.164 形式の電話番号がサポートされるので、元の電話番号 (+記号付き) が内線番号フィールドに表示されます。
- 拡張電話サービス、ユニファイドメッセージングサービス、メッセージングサービスなどのバンドル製品をオーダーする際に、[自動割り当て回線 (Auto-assigned Line) ] タイプのオ

プションを選択した場合は、オーダーの作成中にボイスメール製品の[代行内線番号 (Alternate Extension) ]フィールドは自動的に入力されません。代行内線番号は、使用可能な位置の末尾に追加され、オーダーの完了時に表示されます。

[選択した回線 (Chosen Line) ]タイプのオプションを選択した場合、代行内線は[ボイスメールの詳細オーダー設定 (Voicemail Advanced Order Configuration) ]ページで、使用可能なインデックス (1、2、3 など) が自動的に入力されます。

- ミートミーパターン、コールパークパターン (およびダイレクトコールパークなどの関連するすべてのコールパーク機能)、およびコールピックアップパターンは、国際的なエスケープ文字 (+) をサポートしていません。そのため、[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration) ]ページでこれらの機能に対して設定したパターンフィールドに、+ を入力することはできません。

Provisioning は、次に対する [電話番号 (Directory Number) ]フィールドで、「+」文字をサポートします。

- 電話番号 (DN) ブロック (サービスエリアの下)
- EM アクセス回線および RDP 回線製品
- プロビジョニング属性
  - スピードダイヤル
  - ビジーランプフィールド
  - コール転送
- インフラストラクチャ製品
  - 同報リスト
  - 基本コールキューイング

## 電話番号ブロックの追加

新しい電話番号ブロックを追加するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1 [設計 (Design) ] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup) ] を選択します。
- ステップ 2 左のセレクトタペインでドメインおよびサービスエリアを展開し、目的のサービスエリアを選択します。
- ステップ 3 [電話番号ブロック (Directory Number Block(s) ) フィールドで、[行の追加 (Add Row) ] をクリックします。
- ステップ 4 目的のフィールドに入力して、[保存 (Save) ] をクリックします。



- (注) [最小長 (Minimum Length) ] フィールドは、プレフィックスを除く電話番号の最小桁数です。番号にゼロを埋めるためにシステムによって使用されます。たとえば、プレフィックス=408、最初の番号=0、最後の番号=100、最小長=4 の場合、電話番号ブロックの範囲は 4080000 ~ 4080100 になります。

編集するには、電話番号ブロックを選択して[編集 (Edit) ] をクリックします。必要な変更を行って、[保存 (Save) ] をクリックします。変更をキャンセルするには、[キャンセル (Cancel) ] をクリックします。

電話番号ブロックを削除するには、[削除 (Delete) ] をクリックします。

## ユーザ権限の追加

ユーザ権限は、ユーザがオーダーできる製品とサービスを制御します。

デフォルトのユーザ権限は次のとおりです。

- [従業員 (Employee) ] : 新しいユーザに割り当てられるデフォルトの権限です。  
[従業員 (Employee) ] ユーザ権限は、組織内での従業員の標準的な設定に合わせておく必要があります。[従業員 (Employee) ] ユーザ権限をニーズに合わせて設定しておかないと、従業員ユーザレコードに、必要なオプションが記録されなくなります。
- [役員 (Executive) ]
- [疑似 (Pseudo) ] : 関連するユーザのない電話のオーダーに使用されます。疑似ユーザの名前は変更または削除できません。

最初にユーザを追加してから (「[ユーザの追加](#)」を参照) 、そのユーザを [疑似 (Pseudo) ] ユーザ権限に割り当てます。

疑似ユーザは、電話の管理および電話番号のインベントリを実行できます。

これらのユーザ権限は、Provisioning のドメインごとに存在します。これらの事前定義されたユーザ権限を追加、削除、または変更して、各ドメインにおけるユーザ権限のセットをカスタマイズできます。

ユーザ権限を追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1 [設計 (Design) ] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup) ] を選択します。
  - ステップ 2 [すべてのドメイン (All Domains) ] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限 (User Roles) ] をクリックします。
  - ステップ 3 特定のドメイン ページの [ユーザ権限 (User Roles) ] で、[追加 (Add) ] をクリックします。
  - ステップ 4 [ユーザ権限の設定 (User Role Configuration) ] ページで、ユーザ権限名、ドメイン、回線、サービス、サービスバンドルに関する必要な詳細を入力し、[保存 (Save) ] をクリックします。
- 

- ユーザ権限を設定するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で[編集 (Edit) ] をクリックします。
- ユーザ権限を削除するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で[削除 (Delete) ] をクリックして [OK] をクリックします。

## ユーザ権限とサービスの関連付け

特定のエンドポイントに権限が関連付けられているユーザだけが、そのサービスをオーダーできます。エンドポイントとサービス、個々のサービスのオーダーを作成するか、またはバンドルされたサービスをオーダーできます。 [ユーザのサービスのオーダー](#)、(214 ページ) を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1 [設計 (Design) ] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup) ] を選択します。
  - ステップ 2 [すべてのドメイン (All Domains) ] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限 (User Roles) ] をクリックします。
  - ステップ 3 選択したドメイン ペインの [ユーザ権限 (User Roles) ] で [追加 (Add) ] をクリックします。
  - ステップ 4 ユーザ権限の名前を指定し、目的のエンドポイント、回線、サービス、およびサービスバンドルと関連付けます。[エンドポイント (Endpoints) ]、[サービス (Services) ]、および[サービスバンドル (Service Bundles) ] は必要な数だけ選択できます。
    - (注) ユーザ権限の設定を変更するには、[ユーザ権限 (User Roles) ] を選択します。特定のドメインの [ユーザ権限 (User Roles) ] で、目的のユーザ権限を選択して [編集 (Edit) ] をクリックします。



ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

## サービステンプレートの作成

サービステンプレートには、サービスのプロビジョニング属性が含まれます。サービステンプレートでは、プロビジョニング属性を使用して複数の属性を設定できます。プロビジョニング属性は、サービスのアクティベーション時に適用される設定です。

オーダーの際、Provisioning では設定済みのプロビジョニング属性がサービスエリア設定とともに考慮され、プロビジョニングする最終的な製品構成が決定されます。



(注) サービスエリアとサービステンプレートを作成する前に、インフラストラクチャの同期を完了する必要があります。



(注) テンプレートを [オーダーの追加 (Add Order)] または [オーダーの変更 (Change Order)] ウィザードに表示するには、サービステンプレートをサービスエリアとユーザ権限の組み合わせに割り当てる必要があります。

プロビジョニング属性の内容を設定するには、管理者権限を持っている必要があります ([承認権限, \(192 ページ\)](#) を参照)。

[プロビジョニング属性, \(299 ページ\)](#) に、設定可能なすべてのプロビジョニング属性を示します。すべてのエンドポイントタイプまたはすべての Cisco Unified Communications Manager バージョンに、すべての属性を適用できるとは限りません。Provisioning の設定によっては、一部の属性を使用できない場合があります。

サービステンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで、ドメインを選択します。
- ステップ 3** [サービステンプレート (Service Templates)] をクリックし、テンプレート名、プロセッサなどの必要な情報を入力します。
- ステップ 4** サービスを選択し、サービスの必須のプロビジョニング属性を入力します。詳細については、[プロビジョニング属性, \(299 ページ\)](#) を参照してください。デフォルトのプロビジョニング属性はすべて、デフォルトで入力されます。
- ステップ 5** サービスエリアとユーザ権限をサービステンプレートに追加するには、[行の追加 (Add Row)] をクリックします。サービスエリアとユーザ権限を選択して、[保存 (Save)] をクリックします。編集するには、[編集 (Edit)] をクリックして割り当てを変更します。
- 

作成済みのテンプレートを編集または削除できます。サービステンプレートを別のドメインに新しい名前で作成するには、[コピー先 (Copy To)] をクリックします。



- (注) [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] のサービステンプレートの設定中に、デバイスで使用できないユーザ ロケールを選択すると、そのオーダーは失敗します。

新しいオーダーを作成する際に、[サービステンプレート (Service Template)] ドロップダウンリストから作成済みのサービステンプレートを選択できます。新しいオーダーの作成については、[ユーザのサービスのオーダー, \(214 ページ\)](#) を参照してください。

## システム デフォルト値の使用法

[オーダーの追加 (Add Order)] ウィザード、[変更オーダー (Change Order)] ウィザード、[テンプレートの設定 (Template Settings)] ページで、必須ではない属性のドロップダウンリストに [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] が表示されます。デバイスで [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] が有効な値になっている場合は、ドロップダウンリストからオプションを選択しないと、これらの属性のシステムデフォルト値がプロビジョニングされます。必須ではない属性のデフォルト値がすでに設定されている場合は、その属性の指定値が表示され、ドロップダウンリストのオプションの1つとして [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] が表示されます。

ドロップダウンリストで使用可能なオプションに「デフォルト」という言葉が含まれている場合 ([デフォルトの言語を使用 (Use Default Language)]、[電話のデフォルトを使用 (Use Phone Default)]、[デフォルトのシステムポリシーを使用 (Use Default System Policy)]、[デフォルト (Default)] など)、[システムデフォルトを使用 (Use System Default)] はドロップダウンリストに表示されません。



(注) [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] は、[プロトコル (Protocol)] フィールドには表示されません。

必須の属性では、デフォルト値がすでに設定されている場合、指定されたデフォルト値が表示されます。デフォルト値が設定されていない場合は、ドロップダウンリストから値を選択する前に、ドロップダウンリストの最初のオプションが表示されます。ドロップダウンリストが空白で、その属性のデフォルト値が設定されていない場合は、[選択する (Make a Selection)] が表示されます。[選択する (Make a Selection)] は、次の Provisioning フィールドに表示されます。

- [選択されているエンドポイント (Selected Endpoint)]
- [選択されている回線 (Selected Line)]
- [回線タイプ (Line Type)]
- [エンドポイントタイプ (Endpoint Type)]
- [EM電話のタイプ (EM Phone Type)]

[システムデフォルトを使用 (Use System Default)] または [選択する (Make a Selection)] は、ボイスメールおよびユニファイドメッセージング製品では表示されません。

[サービステンプレート (Service Template)] フィールドでドロップダウンリストから値を選択していない場合は、[未選択 (Not Selected)] が表示されます。

Cisco Unified Communications Manager 9.0 以下の場合、Cisco IP Phone 8961、9951、および 9971 のエクステンションモビリティアクセスサービステンプレートの作成時に、[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] 属性で [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] を選択する必要があります。

また、[iPhone用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones)] をオーダーする際、次の属性にデフォルト値を使用すると、オーダーが失敗する場合があります。

- [DND オプション (DND Option)]
- [DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] (設定専用属性)
- [MLPP通知 (MLPP Indication)]

[iPhone用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones)] をオーダーする際は、これらの属性に次の値を使用してサービステンプレートを作成し、オーダーの作成中にテンプレートを適用することをお勧めします。

- [DNDオプション (DND Option)] - [コール拒否 (Call Reject)]
- [DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] - [無効 (Disable)]
- [MLPP通知 (MLPP Indication)] - [オフ (Off)]

## 電話のプロビジョニング属性の制限

CUPM\_BLANK キーワード（[バッチ操作ファイルでのキーワードの使用](#)、[\(151 ページ\)](#) を参照）を使用するバッチを介した変更オーダーは、Cisco Unified Communications Manager ユーザインターフェイスで共通の設定のチェックボックスを上書きする、電話プロビジョニング属性に影響しません。この現象は、電話のプロビジョニング時に Cisco Unified Communications Manager が Provisioning にこれらの属性のデフォルト値を返さないために発生します。これに該当するのは、次のプロビジョニング属性です。

- [参加および直接転送ポリシー (Join And Direct Transfer Policy) ]
- [電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ]
- [電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ]
- [電話オフのアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout) ]
- [オーディオアラートを有効にする (Enable Audible Alert) ]
- [EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain) ]
- [EnergyWise エンドポイントのセキュリティシークレット (EnergyWise Endpoint Security Secret) ]
- [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides) ]
- [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization) ]
- [ディスプレイ放置時自動消灯 (Display Idle Timeout) ]
- [着信コール時に点灯 (Display On When Incoming Call) ]

## プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定

[回線テキストラベル (Line Text Label) ] および [ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label) ] 属性では、プロビジョニング属性フィールドにトランスフォーメーションテンプレートを入力し、電話に表示される電話番号の桁を操作することができます。電話番号のマスクの桁変換を行うと、何を表示するかを選択できます。

テンプレートでは、プロビジョニング属性のテキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。

1 つのトランスフォーメーションテンプレートには、1 つまたは複数のトランスフォーメーションマスクが含まれます。

トランスフォーメーションマスクでは次の文字を使用できます。

- W または w : 電話番号の桁を、同じ位置に左から表示します。
- X または x : 電話番号の桁を、同じ位置に右から表示します。

- . (ピリオド) : 電話番号の同じ位置にある桁を無視します。
- 数字 : 出力にそのまま表示されます。
- % (パーセント記号) : デリミタです。
- \ (バックスラッシュ) : デリミタ (エスケープ文字) です。

マスクでこれ以外の文字を使用した場合、マスクはマスクとして認識されず、文字は通常のテキストとして扱われます。

テンプレートの設定時には、次のことに注意してください。

- トランスフォーメーションマスクに W と X が両方含まれている場合は、有効なマスクとして認識されず、通常のテキストとして扱われます。ただし、テンプレートに複数のマスクが含まれる場合は、同じテンプレート内の別のマスクで W と X を使用することができます。
- エスケープ文字 (\) のプレフィックスを含まないデリミタ文字は、トランスフォーメーションマスクの一部の有効なデリミタとして認識されない場合、通常の文字として扱われます。エスケープ文字は、通常のコンテキストとトランスフォーメーションマスクを区切る必要がある位置でだけ使用できます。
- テンプレートの最大文字数は 60 文字です。

表 9 : トランスフォーメーションテンプレートのサンプル, (65 ページ) に、トランスフォーメーションテンプレートのサンプルのリストを示します。このサンプルで使用する電話番号は 1234567891 です。

表 9 : トランスフォーメーションテンプレートのサンプル

| テンプレート       | 結果         |
|--------------|------------|
| %XXX%        | 891        |
| %WWW%        | 123        |
| %XXX.....%   | 123        |
| %XXXX%       | 7891       |
| %.....WWW%   | 7891       |
| %...WWW%     | 456        |
| %XXX...%     | 456        |
| %9XXX0000%   | 94560000   |
| %..9WWW0000% | 94560000   |
| %55585XX000% | 5558567000 |

| テンプレート                  | 結果                 |
|-------------------------|--------------------|
| %55585WW000%            | 5558567000         |
| %WWXX%                  | %WWXX%             |
| (%WWW%) %...WWW%-%XXXX% | (123) 456-7891     |
| John Smith x%XXXXX%     | John Smith x67891  |
| %John Smith\%x%XXXXX%   | %John Smith%x67891 |
| %WWW% Engineering       | 123 Engineering    |



## 第 5 章

# プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期

Provisioning には 3 種類の同期があります。

- インフラストラクチャの同期：Provisioning が使用し、個々のユーザに特有ではないデバイス内のすべてのオブジェクトを検出します。インフラストラクチャデータとは、Provisioning でユーザ サービスを設定するためにデバイスに存在している必要がある設定のことです。
- ユーザの同期：各ユーザに関連するすべてのオブジェクトを検出します。
- ドメインの同期：ユーザの同期で検出された既存ユーザをドメインに配置します。

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity システムのデータを同期し、次にドメインと同期すると、既存のアクティブなユーザとサービスが Provisioning に入力され、すべてのインフラストラクチャとユーザの情報が統合されたビューが提供されます。

同期を実行する前に、次の点に注意してください。

- インフラストラクチャの同期とユーザの同期では、情報がデバイスから取得されます。これらは、単方向の同期です。これらの同期の実行時に、Provisioning でデバイスが更新されることはありません。すべてのデバイスについて、インフラストラクチャの同期とユーザの同期が完了してから、ドメインの同期を開始する必要があります。
- 同期は任意の順序で別々に実行できます。ただし、データの整合性を維持するため、次の順序で連続して同期を実行することをお勧めします。

### 1 インフラストラクチャの同期

### 2 ユーザの同期

- 新しく Provisioning をインストールしたら、まずインフラストラクチャの同期を実行する必要があります。同期は一度に 1 種類だけ実行します。
- デバイスの接続を必ずチェックしてください。同期を実行する前に、デバイスの詳細のクイックビューから ([操作 (Actions) ] ペインの) [テスト接続 (Test Connection) ] をクリックします。テスト結果が、デバイスの詳細のクイックビューに表示されます。

- テスト接続の結果が成功してから、ユニファイドメッセージプロセッサを同期します。ユニファイドメッセージプロセッサの同期を開始する際に、テスト接続のステータスが [処理中 (In Progress) ] または [失敗 (Failed) ] であると、その同期は失敗します。
- コールプロセッサまたはユニファイドメッセージプロセッサが同期された後でデバイスのタイプを変更しないでください。たとえば、Cisco Unified Communications Manager を追加した場合は、コールプロセッサのタイプを Cisco Unified Communications Manager Express に変更しないようにします。
- ドメインを同期した後は、Provisioning を使用して個々のユーザアカウントを直接管理できます。基盤となる Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity システムを使用する必要はありません。
- アウトオブバンドで設定を行う（プロセッサに対して直接設定を行うけれども Provisioning との同期を行わない）場合は、オーダーが失敗することがあります。Provisioning は、プロビジョニングを行うプロセッサと常に同期させる必要があります。

Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上のバージョンでは、変更通知機能は自動的に有効化されます。この機能は、Cisco Unified Communications Manager 10.0 未満のバージョンではサポートされません。

Cisco Unified Communications Manager のインフラストラクチャまたはユーザ設定に対する更新は、5分おきに Provisioning と自動的に同期されます。これにより、Cisco Unified Communications Manager と毎日または頻繁に同期する必要がなくなります。

変更通知の一環として、ユーザレコードも更新され、新しく追加サービスが含まれます。Cisco Unified Communications Manager の変更通知の同期の開始時刻と終了時刻を表示するには、クイックビューを起動して [操作 (Actions) ] ペインの [詳細ログの表示 (View Detailed Log) ] をクリックします。

変更通知機能を通じて、次のサービスとインフラストラクチャのオブジェクトが Cisco Unified Communications Manager から自動的に同期されます。

- CtiRoutePoint (CTI ルート ポイント)
- CmcInfo (クライアント識別コード情報)
- [エンドポイント (Endpoint) ]
- [回線 (Line) ]
- [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]
- [デバイスプロファイル(Device Profile)]
- [コールパーク (Call Park) ]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group) ]
- Css
- DateTimeGroup (日時グループ)
- DeviceMobility (デバイス モビリティ)



- FacInfo (強制承認コード情報)
- [回線グループ (Line Group) ]
- [ロケーション (Location) ]
- PhysicalLocation (物理ロケーション)
- [ハントリスト (Hunt List) ]
- [ハントパイロット (Hunt Pilot) ]
- [ルートリスト (Route List) ]
- [ルートパターン (Route Pattern) ]
- RoutePartition (ルートパーティション)
- [ルートグループ (Route Group) ]
- SipProfile (SIP プロファイル)
- SipTrunk (SIP トランク)
- TransPattern (トランスレーション パターン)
- GeoLocation (位置情報)
- CommonPhoneConfig (共通電話設定)
- CommonDeviceConfig (共通デバイス設定)
- H323Gateway (H323 ゲートウェイ)
- [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]
- [ボイスメールパイロット (Voicemail Pilot) ]
- VG224
- MediaResourceList (メディア リソース リスト)
- MediaResourceGroup (メディア リソース グループ)
- MeetMe (ミーティング)
- CallManagerGroup (CallManager グループ)
- UcService (UC サービス)
- [ユーザ (User) ]
- [インフラストラクチャ同期とユーザ同期, 70 ページ](#)
- [ドメインの同期の概要, 76 ページ](#)
- [ドメインの同期, 78 ページ](#)
- [スケジュールの同期化, 81 ページ](#)

- [ディレクトリ検索の同期の同期元の設定, 83 ページ](#)
- [LDAP サーバと Provisioning の同期, 84 ページ](#)

## インフラストラクチャ同期とユーザ同期

インフラストラクチャ同期を実行すると、デバイスのインフラストラクチャ データが同期します。インフラストラクチャ同期では、複数のユーザによって使用されるデバイス情報が取得されます。

インフラストラクチャ設定製品とユーザを同期するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] を選択します。
- ステップ 2** 同期を実行するデバイスの [クイックビュー (Quick View)] をポイントします。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
- インフラストラクチャ同期を実行するには、[インフラストラクチャ同期の開始 (Start Infrastructure Synchronization)] をクリックします。
  - ユーザ同期を実行するには、[ユーザ同期の開始 (Start User Synchronization)] をクリックします。

同期の進行状況が、[同期ステータス (Synchronization Status)] の下の [クイックビュー (Quick View)] に表示されます。

- ステップ 4** [詳細ログの表示 (View Detailed Logs)] をクリックします。
- 同期ログが作成され、割り当てられなかったオブジェクトが表示されます。また、デバイスから不明な要素が取得された場合は、警告メッセージも示されます。このログは同期を実行するたびに上書きされます。
- (注) 警告メッセージの「予期しない要素がスキップされました (Skipped unexpected element)」は無視してかまいません。このメッセージは、デバイスから送信された項目が Provisioning でサポートされていないことを示します。
- 

インフラストラクチャ同期またはユーザ同期の状態が長時間変わらない場合は、Nice サービスが実行されていることを確認してください。サービスが実行中であるかどうかをチェックするには、次のコマンドを実行します。

```
ps -aef | grep nice
```

Nice サービスが停止している場合は、サービスを再起動してから、インフラストラクチャ同期またはユーザ同期をやり直します。

アナログ電話を管理する場合は、ipt.properties ファイルを更新する必要があります。このファイルで、dfc.ipt.cisco.callmanager.analog\_phone\_support を Y に更新してから、ユーザ同期を実行します。ユーザ同期が完了してから、Provisioning を再起動する必要があります。

Provisioning が同期する Cisco Unified Communications Manager オブジェクトのリストについては、[同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクト](#)、(72 ページ) を参照してください。

インフラストラクチャ同期を実行すると、Provisioning のユニファイドメッセージング インフラストラクチャ データがユニファイドメッセージ プロセッサと同期します。

- **SubscriberTemplate** : Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および電子メール メッセージ プロセッサの加入者テンプレート。
- **UnifiedMessagingFeatureSpecification** : Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および電子メール メッセージ プロセッサのサービス クラス。

ユーザ同期を実行すると、Provisioning のユニファイドメッセージング ユーザ データがユニファイドメッセージ プロセッサと同期します。

- **UMInfo** : ユーザのボイスメールおよび電子メール情報に関連する、Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および Cisco Unity Express のユーザ。
- **VoiceMailInfo** : UMInfo および EmailInfo に関連する、Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および Cisco Unity Express のユーザ。
- **EmailInfo** : VoiceMailInfo および UMInfo に関連する、Cisco Unity および Cisco Unity Connection のユーザ。



(注) Cisco Unity Express の同期中にデバイス接続エラーが発生した場合は、Cisco Unity Express システム上の Telnet セッションをすべて閉じてから、同期化をやり直します。Cisco Unity Express で同時に許可される Telnet セッションは 1 つだけです。Provisioning では、Cisco Unity Express デバイスで別の Telnet セッションが開いていると、その Cisco Unity Express との同期を実行できません。



(注) IM and Presence 9.0 以上のバージョンは、Cisco Unified Communications Manager と統合されています。そのため、IM and Presence 9.0 以上のバージョンではユーザ同期が無効になっています。ユーザ情報は Cisco Unified Communications Manager から直接同期されます。

IM and Presence の場合、インフラストラクチャ同期を使用して、ユーザ設定インフラストラクチャ データを Provisioning と同期します。



(注) Cisco Unified Communications Manager をアップグレードしてからユーザ同期を手動で実行し、変更通知設定を同期する必要があります。

## 同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクト

次の表に、Provisioning でインフラストラクチャおよびユーザの同期中に同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクトを示します。

表 10: インフラストラクチャの同期によって同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクト

|  |  |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--|--|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [SIP トランク (SIP Trunk) ]</li> <li>• [SIP プロファイル (SIP Profile) ]</li> <li>• [ソフトキーテンプレート (Softkey Template) ]</li> <li>• [SRST]</li> <li>• [トランスレーションパターン (Translation Pattern) ]</li> <li>• [UC サービスプロファイル (UC Service Profile) ]</li> <li>• [VG202]</li> <li>• [VG204]</li> <li>• [VG224]</li> <li>• [VG350]</li> <li>• [VG ボイスメールパイロット (VG Voicemail Pilot) ]</li> <li>• [ボイスメールパイロット (Voicemail Port) ]</li> <li>• [ボイスメールプロフィール (VoiceMail Profile) ]</li> </ul> |
|--|--|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [AARグループ (AAR Group) ]</li> <li>• [コールパーク (Call Park) ]</li> <li>• [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]</li> <li>• [クライアント識別コード (Client Matter Codes) ]</li> <li>• [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group) ]</li> <li>• [コールピックアップグループ (Call Pickup Group) ]</li> <li>• [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]</li> <li>• [会議ブリッジ (Conference Bridge) ]</li> <li>• [日時設定 (Date Time Setting) ]</li> <li>• [日時グループ (Date/Time Group) ]</li> <li>• [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info) ]</li> <li>• [デバイスプール (Device Pool) ]</li> <li>• [デバイスプロフィール (Device Profile) ]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ゲートキーパー (Gatekeeper) ]</li> <li>• [位置情報 (Geo Location) ]</li> <li>• [位置情報の設定 (Geo Location Configuration) ]</li> <li>• [位置情報フィルタ (Geo Location Filter) ]</li> <li>• [ハントグループ (Hunt Group) ]</li> <li>• [ハントリスト (Hunt List) ]</li> <li>• [ハントパイロット (Hunt Pilot) ]</li> <li>• [H323ゲートウェイ (H323 Gateway) ]</li> <li>• [H323トランク (H323 Trunk) ]</li> <li>• [回線グループ (Line Group) ]</li> <li>• [ロケーション (Location) ]</li> <li>• [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]</li> <li>• [メディアリソースグループ (Media Resource Group) ]</li> <li>• [メディアリソースリスト (Media Resource List) ]</li> <li>• [ミーティング番号/パターン</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [パーティション (Partition) ]</li> <li>• [電話プロファイル (Phone Profile) ]</li> <li>• [電話テンプレート (Phone Template) ]</li> <li>• [プレゼンスグループ (Presence Group) ]</li> <li>• [物理ロケーション (Physical Location) ]</li> <li>• [リージョン (Region) ]</li> <li>• [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]</li> <li>• [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List) ]</li> <li>• [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain) ]</li> <li>• [ルートフィルタ (Route Filter) ]</li> <li>• [ルートグループ (Route Group) ]</li> <li>• [ルートリスト (Route List) ]</li> <li>•</li> </ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                             |                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ダイヤルプラン (Dial Plan) ]</li> <li>• [ダイヤルプランタグ (Dial Plan Tag) ]</li> <li>• [番号削除指示 (Digit Discard Instruction) ]</li> <li>• [パスワードルータの有効化 (Enable Password Router) ]</li> <li>• [強制承認コード (Forced Authorization Codes) ]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(Meet-Me Number/Pattern) ]</li> <li>• [メッセージ待機 (Message Waiting) ]</li> <li>• [MOH音源 (MOH Audio Source) ]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>[ルートパーティション (Route Partition) ]</li> <li>• [ルートパターン (Route Pattern) ]</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

表 11 : ユーザの同期によって同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクト

|                                                                                                                                                                      |                                                                                                             |                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]</li> <li>• [デバイスプール (Device Pool) ]</li> <li>• [電話番号 (Directory Number) ]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [IP Phone]</li> <li>• [ライセンス機能 (License Capabilities) ]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [回線 (Line) ]</li> <li>• [ロケーション (Location) ]</li> <li>• [電話 (Phone) ]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [リモート接続先プロフィール (Remote Destination Profile) ]</li> <li>• [リモート接続先プロフィール回線 (Remote Destination Profile Line) ]</li> <li>• [ユーザ (User) ]</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## コール プロセッサ同期中のエラー メッセージ

コール プロセッサの同期中に発生する一部のエラー メッセージを示します。

[詳細ログ (Detailed Log) ] ページに、Cisco Unified Communications Manager デバイスと同期できなかった項目が示されます。たとえば、このページに次のメッセージが表示される場合があります。

Completed. But the following objects could not be

```
synchronized: [SecurityProfile, DialPlanTag, SIPTrunk, PhoneTemplate, DigitDiscardInstruction]
```

不完全な同期化が起こる原因としては、次のことが考えられます。

- ネットワークの問題により、項目が適切に同期できなかった。これが原因かどうかを確認するには、`nice.log` ファイルを分析します。このファイルに次の情報が表示されている場合は、ネットワークの問題が原因である可能性があります。

```
java.security.PrivilegedActionException:com.sun.xml.messaging.saaj.SOAPEXceptionImpl:Message
send failed.
```

- 項目の設定に問題がある。この場合は、`nice.log` ファイルをコピーして、Cisco Technical Assistance Center (TAC) に連絡してください。

## ドメインの同期の概要

ドメインの同期では、同期からデータを集約します。ドメイン同期の実行中にデバイスがアクセスされることはありません。

ドメインの同期中、Provisioning は次の処理を実行します。

- Cisco Unity、Unity Connection、または Unity Express のボイスメール、電子メール、およびユニファイドメッセージングデータを Provisioning のユーザ情報と関連付けます。
- Cisco Unity、Unity Connection、または Unity Express の割り当て済みのボイスメール電話番号と Cisco Unified Communications Manager 内の電話番号を同期します。
- ユーザおよびユーザのサービスとプロビジョニングインベントリを同期し、新しいユーザを作成して、レコードを更新します。
- ユーザアカウントを同期し、ユーザがログインできるように Provisioning を更新します。ログインが作成されるのは Self-Care ルールが有効な場合だけです ([ビジネスルールの説明](#), (119 ページ) を参照)。
- サービスをサービスエリアに関連付けます。

ドメインの同期に使用される基準は、ビジネスルールによって決定します ([ドメイン同期に関するビジネスルールの設定](#), (80 ページ) を参照)。

ドメインを完全に同期するには、ドメイン内の各デバイスのインフラストラクチャとユーザの同期を実行してから、ドメインの同期を実行する必要があります。



(注) ドメイン内のデバイスがすでに同期されている場合は、ドメインの同期も実行することをお勧めします。

ドメインの同期を実行するときは、次のことに注意してください。

- Cisco Unified Communications Manager Express とのユーザの同期によって Provisioning にユーザを追加する場合、姓、名、電話番号、および部署名データは Provisioning に取得されませ



ん。[ユーザの管理 (Manage Users) ] ページのこれらのフィールドには、[不明 (Unknown) ] と表示されます。

ユーザ情報は Provisioning を介してアップデートできますが、この情報は Cisco Unified Communications Manager Express システムに適用され、ephone 記述フィールドのユーザに関する既存の情報をすべて書き換える点にご注意ください。

- 同期は一度に 1 種類だけ実行します。すべての同期を連続して実行してください。
- ドメインおよびサービス エリアに存在するデバイスが Cisco Unified Communications Manager Express だけであり、その Cisco Unified Communications Manager Express で ephone username コマンドが設定されていない場合は、ドメインの同期中に Provisioning でユーザが作成されません。Cisco Unified Communications Manager Express で、すべてのユーザについて ephone username コマンドが設定されていることを確認してください。
- デバイス プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager で [エクステンションモビリティ (Extension Mobility) ] サービスに登録されている場合に限り、ユーザのレコードにエクステンションモビリティ アクセス製品として追加されます。
- サービス エリアに追加した Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence を 9.0 バージョンにアップグレードする場合、次のサービスはユーザ レコードから削除されます。

- [プレゼンスを有効にする (Enable Presence) ]
- [プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client) ]
- [クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ]

ユーザ レコードが、ユーザ サービス製品の詳細で更新されます。

サービス エリアに Cisco Unified Communications Manager 8.x と Cisco Unified Presence 8.x がある場合、[プレゼンスを有効にする (Enable Presence) ]、[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client) ]、および [クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ] 製品の詳細は、ユーザ レコードに保持されます。

- Provisioning によって、エンタープライズ レベルでサービスを有効または無効にして、デバイス プロファイルをプロビジョニングできます。

デバイス プロファイルにサービスが関連付けられている場合、そのデバイス プロファイルは、一致するサービス URL が見つかった場合にだけ、ユーザに関連付けられます。



---

(注) デバイス プロファイルにサービスが関連付けられていない場合、またはサービスがエンタープライズレベルで有効になっている場合でも、エクステンションモビリティ サービスは、ユーザに関連付けることができます。

---

- Provisioning によって、エンタープライズ レベルでサービスを有効または無効にして、デバイス プロファイルをプロビジョニングできます。

デバイス プロファイルにサービスが関連付けられている場合、そのデバイス プロファイルは、一致するサービス URL が見つかった場合にだけ、ユーザに関連付けられます。

- ドメインの同期後、ユーザレコード内のユーザに関連付けられているすべてのサービスが更新されます。サービスエリアを設定せずに、ユーザに関連付けられているサービスを変更、キャンセル、または編集することができます。

## ドメインの同期

ドメインを同期するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [ドメイン (Domains)] テーブルから、同期するドメインの [クイックビュー (Quick View)] をポイントし、[ドメイン同期の開始 (Start Domain Synchronization)] をクリックします。ドメインの同期が正常に開始されたことを示すポップアップが表示されます。クイックビューの [前回の同期 (Last Synchronization)] フィールドに、同期のステータスが開始時刻および完了時刻とともに表示されます。
- 

同期ルールが設定されていないと、ドメインの同期を開始できません。同期ルールの詳細については、[ドメイン同期に関するビジネス ルールの設定](#)、(80 ページ) を参照してください。

## ドメイン同期に関するビジネス ルール

ビジネス ルールは、ドメインにユーザを追加するための基準を決定します。

ドメインの同期が適切に機能するには、次のルールの中の 1 つ以上が設定されている必要があります。

- [すべてのユーザを同期 (Sync All Users)] (Unified CM) : これを有効にした場合は、ドメイン内すべてのコール プロセッサの全ユーザ アカウントが、同期されているドメインに割り当てられます。このルールは、[部署名が一致 (Match Department)] ルールよりも優先されます。
- [既存のユーザのみを同期 (Sync Only Existing Users)] : これを有効にした場合は、ドメインの同期によって新しいユーザが作成されません。ドメイン内の既存のユーザのサービスだけが同期されます。
- [属性で同期 (Sync by Attribute)] : 次のオプションがあります。

- [部署名が一致 (Match Department) ] : これを有効にした場合は、コールプロセッサユーザアカウントの部署名コードがルール設定で指定されたリスト内の部署名コードと一致する場合に限り、そのユーザアカウントがドメインの同期時に関連付けられます。
- [ロケーションが一致 (Match Location) ] : これを有効にした場合は、コールプロセッサユーザアカウントの電話のロケーションがルール設定で指定されたリスト内の電話と一致する場合に限り、そのユーザアカウントがドメインの同期時に関連付けられます。
- [デバイスプールが一致 (Match Device Pool) ] : これを有効にした場合は、コールプロセッサユーザアカウントの電話またはリモート接続先プロファイルに設定されたデバイスプール値が、ルール設定で指定されたリスト内のデバイスプール値と一致する場合に限り、そのユーザアカウントがドメインの同期時に関連付けられます。

残りのドメイン同期ルールは、上記のルールと共存します (優先順位はありません)。共存型のドメイン同期ルールは次のとおりです。

- [すべてのユーザを同期 (Sync All Users) ] (Unity Connection) : このルールを有効にした場合は、特定のメッセージプロセッサの全ユーザアカウントが、Provisioning のドメインに割り当てられます。そうでない場合は、特定のメッセージプロセッサのユーザアカウントのうち、コールプロセッサに一致するユーザアカウントがあるものだけが割り当てられます。
- [Unity Connectionからプライマリユーザを同期 (Sync Primary User From Unity Connection) ] : これを有効にした場合、ユーザ情報は関連付けられたメッセージプロセッサのアカウントから更新されます。そうでない場合、これらの情報はコールプロセッサから更新されます。



(注) 必須のルールを1つも有効にせずにドメインの同期を実行しようとする、[ドメインの同期 (Synchronize Domain) ] ページに、いずれかのルールを有効にする必要があることを伝えるメッセージが表示されます。このページの [同期ルールの設定 (Configure Synchronization Rules) ] リンクをクリックすると [ドメイン同期ルールの設定 (Configure Domain Sync Rules) ] ページが開き、そこで必要なドメイン同期ルールを設定できます。詳細については、「[ドメインの同期の概要](#)」を参照してください。

必須のルールが2つ以上有効になっている場合は、その中の1つだけが適用されます。

ルールの優先順位は次のとおりです。

- 1 [すべてのユーザを同期 (Sync All Users) ] (Unity Connection)
- 2 [既存のユーザのみを同期 (Sync Only Existing Users) ]
- 3 [部署名が一致 (Match Department) ]
- 4 [ロケーションが一致 (Match Location) ]
- 5 [デバイスプールが一致 (Match Device Pool) ]

[すべてのユーザを同期 (Sync All Users) ] (Unity Connection) ルールが有効になっている場合、他のすべてのルール設定は無視されます。[既存のユーザのみを同期 (Sync Only Existing Users) ] ルールが有効になっている場合は、最後の3つのルール設定が無視されます。最後の3つのルールは加法的です。つまり、このうち2つのルールが有効な場合は、その両方の制約を満たすユーザだけが同期されます。

## ドメイン同期に関するビジネス ルールの設定

ドメインの同期が適切に機能するには、ドメイン同期のビジネス ルールを設定する必要があります。



### ヒント

各ビジネス ルールの説明は、ルールの横の情報アイコン上にカーソルを配置すると表示されます。

### 手順

- ステップ 1 [設計 (Design) ] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup) ] を選択します。
- ステップ 2 [ドメイン (Domains) ] リスト ページで、ドメインを選択して[編集 (Edit) ] をクリックします。
- ステップ 3 [ドメインの設定 (Domain Configuration) ] ページで、[同期ルール (Synchronization Rules) ] エリアまでスクロール ダウンします。
- ステップ 4 必要なルールを選択します。  
ドメインの同期が適切に機能するには、コールプロセッサの同期ルールを少なくとも1つ選択する必要があります。[属性で同期 (Sync by Attribute) ] ルールを選択した場合は、[属性で同期 (Sync by Attribute) ] ルールで、オプションを少なくとも1つ選択する必要があります。  
ドメイン同期ルールの設定の詳細については、[ドメイン同期に関するビジネス ルール](#)、(78 ページ) を参照してください。
- ステップ 5 [保存 (Save) ] をクリックします。

## ドメイン同期のログ メッセージ

ここでは、ドメイン同期ログ レポートに表示される可能性のある一部のメッセージについて説明します。

**The Phone SEP123123123123 could not be added to the customer record because a service area with the following properties could not be found:** (次のプロパティを持つサービス エリアが見つからなかったため、電話 SEP123123123123 を顧客レコードに追加できませんでした。)

表示されている設定のサービス エリアに、電話を割り当てることができませんでした。

この問題を解決するには、同じ設定でサービスエリアを作成するか、Cisco Unified Communications Manager で電話の設定を変更します。

**Duplicate username encountered. So skipping the creation of this user: TestUser from the Call Processor: TestCCM** (ユーザ名の重複が発生しました。このユーザの作成はスキップされます。コール プロセッサからのテストユーザ : TestCCM)

同じ ID のユーザが Provisioning に存在しますが、ID の大文字と小文字の区別が異なることを示します。このユーザに属するサービスは同期されません。

この問題を解決するには、Cisco Unified Communications Manager から一方のユーザを削除します。

**No matching voicemail info found for directory number 123400000** (電話番号 123400000 に一致するボイスメール情報が見つかりませんでした。)

同期で、電話番号に対するボイスメールを検出できませんでした。この問題は、ユニファイドメッセージプロセッサで同期が実行されなかった (そのためボイスメールが Provisioning に存在しない) か、または電話番号に対応するボイスメール情報が見つからなかった場合に発生する可能性があります。

この問題を解決するには、ユニファイドメッセージプロセッサでユーザの同期を実行するか、適切な設定でサービスエリアを作成します。

**The device profile line Line 1 - 123400000 could not be added to the customer record because a service area with the following properties could not be determined in the domain Cisco: Call Processor: TestCCM** (次のプロパティを持つサービスエリアをドメイン Cisco で特定できなかったため、デバイス プロファイル回線 1 - 123400000 を顧客レコードに追加できませんでした。コール プロセッサ : TestCCM)

表示されている設定のサービスエリアに、デバイスプロファイルの回線を割り当てることができませんでした。

この問題を解決するには、同じ設定でサービスエリアを作成するか、Cisco Unified Communications Manager で回線の設定を変更します。

## スケジュールの同期化

Provisioning には、プロセッサとドメインの定期的な同期のスケジュールリングに使用できる、コマンドラインスクリプトユーティリティが用意されています。同期スクリプトを使用することにより、複数の時間帯に異なる間隔で同期操作のサブセットを定期的にスケジュールすることができます。sync.sh ファイルは、/opt/cupm/sep/build/bin/ フォルダにあります。

同期をスケジュールするには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1** SSH を使用して root で Provisioning サーバにログインします。
- ステップ 2** **crontab -e** と入力し、vi エディタで crontab ファイルのコピーを編集します。
- ステップ 3** i キーを押して、挿入モードに切り替えます。
- ステップ 4** 定期的に同期を実行するには、次のコマンドを入力します。

```
minute hour day-of-the-month month day-of-week command-to-be-executed
```

値は次のとおりです。

- Minute : 有効な範囲は 0 ~ 59 です。
- Hour : 有効な範囲は 0 ~ 23 です。
- Day of the month : 有効な範囲は 1 ~ 31 です。
- Month : 有効な範囲は 1 ~ 12 です。
- Day of the week : 有効な範囲は 0 ~ 6 です (日曜日が 0)。

たとえば、コールプロセッサの同期を毎日午後 3:24 に実行するには、次のように入力します。

```
24 15 * * * /opt/cupm/sep/build/bin/sync.sh callprocessor
```

メッセージプロセッサの同期を毎日午後 8:24 に実行するには、次のコマンドを入力します。

```
24 20 * * * /opt/cupm/sep/build/bin/sync.sh messageprocessor
```

コマンドラインスクリプトユーティリティのオプションの詳細については、[コマンドラインスクリプトユーティリティのオプション](#)、(82 ページ) を参照してください。

(注) 他の cron コマンドの情報を表示するには、**man 5 crontab** を実行します。

- ステップ 5** ESC キーを押して挿入モードを終了し、: を押してコマンドラインに切り替えます。
- ステップ 6** wq と入力し、結果を書き込んでエディタを終了します。
- ステップ 7** **crontab -l** と入力して、ファイルが保存されたことを確認します。

## コマンドラインスクリプトユーティリティのオプション

コマンドラインスクリプトユーティリティには以下のオプションがあります。

**一括同期の使用** : `./sync.sh [callprocessor | messageprocessor | presenceprocessor | activedirectory | domain | all] [<option>]`

一括同期は、指定したクラスのすべてのオブジェクトに対する同期操作を呼び出します。各プロセッサのインフラストラクチャと加入者の両方の同期が実行されます。同期の順序は、コールプロセッサ、ユニファイドメッセージプロセッサ、プレゼンスプロセッサ、ドメインの順になります。

詳細同期の使用 : `./sync.sh [-g <filename>] [<option>]`

詳細同期は、書式設定されたファイルで指定された同期操作を呼び出します。値は次のとおりです。

- `<filename>` は、`<object class>.<object name>: <sync type>` の適切な書式の行が含まれるテキストファイルです。次のようになります。
  - `cp.Test-UCM: infra`
  - `mp.all: sub`
  - `pp.all: both` — [`presenceprocessor`] 一括同期と同じです
  - `ad.all: — ActiveDirectory` 一括同期
  - `domain.Test-Dom:`
- `<option>` : (オプション フィールド) 次のオプションを使用できます。
  - `test` : 同期を実行することなくスクリプトを実行できますが、同期されるプロセッサおよびドメインが表示されます。
  - `abortonfail` : 同期エラーの発生後に、スクリプトを中止するように指示します。パラメータが指定されていない場合、エラーが発生してもしなくても同期スクリプトが動作を継続します。
  - `forcedomainsync` : ドメイン内の1つのデバイスで同期が失敗してもドメインの同期を実行できます。このパラメータが指定されていない場合、デバイスの同期エラーが発生すると、ドメインの同期が続行されません。
  - `parallel` : デバイスの同期を並列で実行します。
  - `help` : 使用方法に関する情報を表示します。

たとえば、詳細同期を、毎週土曜日の午後 1:15 に実行する場合、次のコマンドを入力します。

```
granularsyncfilename.15 13 * * 6 /opt/cupm/sep/build/bin/sync.sh -g
```

## ディレクトリ検索の同期の同期元の設定

ユーザデータ サービス (UDS) を設定するには、ディレクトリ ソースを設定する必要があります。ディレクトリ ソースには、LDAP サーバまたはコール プロセッサを指定できます。LDAP サーバをディレクトリ ソースとして指定すると、Provisioning で UDS が無効になります。デフォルトでは、LDAP サーバがディレクトリ ソースとして設定されます。UDS を有効にするには、コール プロセッサをディレクトリ ソースとして設定する必要があります。

LDAP と統合されているコール プロセッサがある場合は、UDS を有効にすることはできません。UDS を有効にした後で LDAP に統合されたコール プロセッサを Provisioning に追加すると、そのディレクトリ ソースが LDAP サーバとして設定され、UDS は自動的に無効になります。

ユーザの最初のサービスをオーダーしたプロセッサは、そのユーザのホーム クラスタになります。

UDS が有効な状況にユーザをホーム クラスタから削除すると、Provisioning によって他のコールプロセッサ クラスタから対応するユーザが削除されます。

ディレクトリ検索の同期は、新しいコールプロセッサを追加する際に有効にできます。また、後から有効にすることもできます。

ディレクトリ検索の同期の同期元を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ]>[ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services) ] を選択します。
- ステップ 2** [ディレクトリ データ用に Communication Manager を使用する (Use Communication Manager for Directory Data) ] をクリックします。
- ステップ 3** [適用 (Apply) ] をクリックします。  
ディレクトリ検索の同期により、ユーザの詳細が 9.x 以上のすべてのコールプロセッサに追加されます。ユーザの数によっては、この操作に数時間かかったり、システムのパフォーマンスに影響を与えたりする場合があります。
- [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services) ] ページが更新され、影響を受ける各クラスタの同期ステータスが表示されます。同期に失敗した場合は、エラーメッセージとログファイルへのリンクが表示されます。
- 

## LDAP サーバと Provisioning の同期

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバの情報を Provisioning と同期することができます。Provisioning はこの情報を利用して、新規ユーザの作成、既存ユーザ情報の更新、ユーザの削除を行います。LDAP サーバの同期を設定して、どのアクションを実行するのかを決定します。

LDAP サーバを使用するように Provisioning を設定する方法については、[LDAP および ACS サーバを使用するための Provisioning の設定](#)、(35 ページ) を参照してください。

## LDAP サーバの同期の設定

LDAP サーバの同期を設定するには、次の手順を実行します。



## 手順

- 
- ステップ 1** [設計 (Design) ] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup) ] を選択します。
- ステップ 2** [ドメイン (Domains) ] テーブルからドメインを選択し、[編集 (Edit) ] をクリックします。
- ステップ 3** [ドメインの設定 (Domain Configuration) ] ページで LDAP サーバを選択します。
- ステップ 4** [LDAP設定 (LDAP Settings) ] ペインで、Provisioning が LDAP サーバから収集する情報を設定します (このページのフィールドの説明については、を参照してください) 。
- ステップ 5** LDAP サーバでのすべての変更を Provisioning に同期するには、次の情報を選択します。
- [モード (Mode) ] : [認証および同期 (Authentication and Synchronization) ] 。
  - [既存ユーザの詳細の更新 (Update existing user details) ] : [すべてのフィールド (All fields) ] 。
  - [LDAPユーザ削除時のアクション (Action when LDAP users deleted) ] : [ユーザのみ削除 (Delete user only) ] 。
  - [ユーザ検索ベース (User Search base) ] : ユーザ検索ベースを入力します。
  - [同期のクエリーのフィルタ処理 (Filter query for sync) ] : [全ユーザの同期 (Synchronize all users) ] 。
- ステップ 6** [保存 (Save) ] をクリックします。
- 

スケジュールを同期するには、[LDAP設定 (LDAP Settings) ] ペインで、[同期間隔 (Synchronization Interval) ] および [同期開始日 (Synchronization Start Date) ] を設定します。

[ドメインの設定 (Domain Configuration) ] ページの内容を保存したら、ドメインを選択して、[クイックビュー (Quick View) ] をポイントします。次に、[LDAP同期の開始 (Start LDAP Synchronization) ] を選択します。

LDAPの同期が終わると、レポートが作成されます。このレポートには、同期中に実行できなかった操作がリストされます。LDAP サーバに入力されたデータの誤りやユーザ設定の誤りなどが原因で、操作が失敗する場合があります。



- 
- (注) ドメインに関連付けられている LDAP サーバは削除できません。LDAP サーバを削除するには、ドメインから削除する必要があります。
-

表 12: [LDAP設定 (LDAP Settings) ]フィールド

| フィールド                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [モード (Mode) ]                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [認証のみ (Authentication Only) ] : LDAP サーバは、ユーザ認証にのみ使用されます。</li> <li>• [認証および同期 (Authentication and Synchronization) ] : LDAP サーバは、ユーザ認証とユーザ情報取得の両方に使用されます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                       |
| [既存ユーザの詳細の更新 (Update Existing User Details) ]        | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [すべてのフィールド (All fields) ] : LDAP サーバでユーザ情報が変更されると、Provisioning でも同じ情報が更新されます。</li> <li>• [更新しない (Do not update) ] : LDAP サーバでユーザ情報が変更された場合に、Provisioning でユーザ情報が更新されません。</li> </ul>                                                                                                                                                                        |
| [LDAPユーザ削除時のアクション (Action when LDAP users deleted) ] | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [削除しない (Do not delete) ] : LDAP サーバでユーザが削除された場合に、Provisioning で対応するユーザが削除されません。</li> <li>• [ユーザのみ削除 (Delete user only) ] : LDAP サーバでユーザが削除された場合に、Provisioning で対応するユーザだけが削除されます。</li> <li>• [ユーザとサービスを削除 (Delete user with services) ] : LDAP サーバでユーザが削除された場合に、デバイスと Provisioning で対応するユーザ サービスが削除されます。ユーザはデバイスでは削除されませんが、Provisioning で削除されます。</li> </ul> |
| [ユーザ検索ベース (User Search Base) ]                       | <p>ユーザの検索ベース。Provisioning は、ベース下でユーザを検索します。これらは、CN-Users、DC-Cisco、DC-com です。</p> <p>これらの検索ベースは LDAP の同期に限り使用され、認証には使用されません。</p> <p>Microsoft Active Directory サーバで、dsquery user コマンドを使用して完全なユーザ検索ベースをリストできます。</p>                                                                                                                                                                                   |

| フィールド                                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[フィールドマッピング (Field Mapping) ]</p>                        | <p>特定の LDAP ユーザ フィールドに対応する、Cisco Unified Communications Manager 内のユーザ フィールドをリストします。Provisioning で設定できるフィールドは、次のフィールドだけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [連絡先電話番号 (Contact phone number) ] : 電話番号または ipPhone を選択します。</li> <li>• [連絡先電子メール (Contact email) ] : メールまたは sAMAccountName を選択します。</li> <li>• [ユーザID (User ID) ] : [ユーザID (User ID) ] では、LDAP サーバの次のフィールドをマッピングできます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ employeeNumber</li> <li>◦ mail</li> <li>◦ sAMAccountName</li> <li>◦ telephoneNumber</li> <li>◦ userPrincipalName</li> </ul> </li> </ul> <p>Provisioning と LDAP サーバの全フィールドのマッピング リストについては、<a href="#">表 13 : LDAP フィールドのマッピング, (88 ページ)</a> を参照してください。</p> |
| <p>[同期のクエリーのフィルタ処理 (Filter Query for Synchronization) ]</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [全ユーザの同期 (Synchronize all users) ] : すべてのユーザが同期されます。</li> <li>• [簡易クエリー (Simple query) ] : 次のフィールドの組み合わせを使用して、クエリーを設定できます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [ユーザID (User ID) ]</li> <li>◦ [部署名 (Department) ]</li> <li>◦ [連絡先電話番号 (Contact phone number) ]</li> <li>◦ [連絡先電子メール (Contact email) ]</li> </ul> <p>文字列を部分的に検索するには、アスタリスク (*) を使用します。</p> </li> <li>• [詳細クエリ (Advanced query) ] : LDAP クエリーは、次の例のように入力できます。<br/>             (&amp;(sAMAccountName=johndoe)(department=Cisco*)(mail=john@cisco.com))           </li> </ul>                                                                                                        |

次の表に、Provisioning と LDAP サーバのフィールドのマッピング リストを示します。指定した Provisioning フィールドのデータは、対応する LDAP フィールドのユーザデータに同期されます。

表 13: LDAP フィールドのマッピング

| Provisioning フィールド     | LDAP フィールド                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電話番号 (Phone number) ] | telephoneNumber または ipPhone number。                                                                                                                                                                                   |
| [電子メール (Email) ]       | mail または sAMAccountName。                                                                                                                                                                                              |
| [ユーザID (User ID) ]     | [ユーザID (User ID) ]では、LDAP サーバの次のフィールドをマッピングできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• employeeNumber</li> <li>• mail</li> <li>• sAMAccountName</li> <li>• telephoneNumber</li> <li>• userPrincipalName</li> </ul> |
| [名 (First Name) ]      | givenName。                                                                                                                                                                                                            |
| [姓 (Last Name) ]       | sn。                                                                                                                                                                                                                   |

## LDAP 同期レポート

ここでは、[LDAP同期 (LDAP Synchronization) ]レポートに表示される可能性のある一部のメッセージについて説明します。

**The following users were not created because they are already present in another Domain: user1, user2** (次のユーザは別のドメインにすでに存在しているため、作成されませんでした: user1、user2)

表示されているユーザはLDAPサーバに存在しますが、すでに別のドメインに存在しているため、現在のドメイン内の Provisioning に作成できませんでした。

この問題を解決するには、他方のドメインからユーザを削除して、LDAPの同期を再実行します。

**Deletion of User and associated services failed for the following users: UserId, OrderId, Status** (次のユーザに対するユーザと関連付けられたサービスの削除に失敗しました: UserId、OrderId、ステータス)

このメッセージは、[ユーザとサービスを削除 (Delete user with Services) ]が有効になっているときに、デバイスおよび Provisioning からのユーザとサービスの削除に失敗した場合に表示されます。デバイスのサービスを削除するため、ユーザごとに1つのオーダーが作成され、オーダーのステータスがオーダー ID 別に上のレポートに表示されます。これらのユーザと対応するサービ

を手動で削除する必要があります。上のレポートに表示されるユーザ ID のリンクをクリックして、これらのユーザアカウントにアクセスすることができます。

**The following user and associated services were deleted successfully: UserId, OrderId, Status** (次のユーザと関連付けられたサービスの削除に成功しました: **UserId, OrderId, ステータス**)

このメッセージは、[ユーザとサービスを削除 (Delete user with Services)] が有効になっているときに、デバイスおよび Provisioning からユーザとサービスの削除に成功した場合に表示されます。

**The following users were not deleted because the delete option was not set: user1 user2** (次のユーザは削除オプションが設定されていないため、削除されませんでした: **user1, user2**)

これらのユーザは LDAP サーバでは削除されていますが、[削除しない (Do not delete)] が有効であるため、LDAP の同期中に削除されませんでした。

この問題を解決するには、[ユーザのみ削除 (Delete User Only)] または [ユーザとサービスを削除 (Delete user with Services)] オプションを有効にし、LDAP 同期をもう一度実行します。

## 特別な電話番号の同期

9.5 リリースよりも前の Provisioning では、管理対象のエンドポイントを使用する電話番号 (DN) のみを同期し、Cisco Unified Communications Manager によって設定される DN を完全には認識されませんでした。Cisco Unified Communications Manager で設定されるいくつかの特別な DN のインスタンスが存在する場合があります。

次のような特別な電話番号があります。

- Cisco Unified Communications Manager に存在し、Provisioning によって管理されない DN 機能。インターコム DN などです。
- Provisioning によって管理されていないエンドポイントに接続されている DN。



(注) Provisioning によるエンドポイントのサポートが制限され、Cisco Unified Communications Manager で使用可能な一部のエンドポイントがサポートされません。

Provisioning 10.0 では、ユーザ同期の一部としてすべての特別な DN を同期できるようになりました。この機能はデフォルトで無効になっています。この機能を有効にするには、次のプロパティを /opt/cupm/sep/ipt.properties ファイルに追加する必要があります。

```
dfc.ipt.cisco.ccm.sync.orphanDN=true
```



(注) ipt.properties ファイルを更新した後で、変更を有効にするために cupm サービスを再起動する必要があります。

この機能が有効になっている場合、プロビジョニング オーダーは Provisioning によって検証されるようになり、Cisco Unified Communications Manager に送信されてエラーが発生することはありません。

Provisioning と特別な DN の条件は次のとおりです。

Provisioning から実行され、そのような特別な DM の再利用を試行するすべてのプロビジョニング アクティビティの結果はプロビジョニング エラーになります。

- プロビジョニング回線が自動割り当てされるときに、DN がすでに使用されている場合は、Provisioning がスキップします。
- プロビジョニング回線が手動で選択される場合、Provisioning はプロビジョニング中にエラーをスローします。



## 第 6 章

# Provisioning のテンプレートの設定

設定テンプレートを使用すると、Unified Communications Manager、Unified Communications Manager Express、Unity Express、Unity、Unity Connection、および一般的な IOS ルータを設定できます。[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ページを使用して、デバイスの設定を追加、編集、または削除することができます。

- [設定テンプレートの概要, 91 ページ](#)
- [顧客ドメインテンプレート, 112 ページ](#)
- [Provisioning で事前に作成された機能, 112 ページ](#)
- [インフラストラクチャ設定の概要, 113 ページ](#)
- [電話ボタンテンプレートの設定, 118 ページ](#)
- [ビジネス ルールの概要, 119 ページ](#)
- [バッチプロビジョニング, 137 ページ](#)

## 設定テンプレートの概要

設定テンプレートを使用すると、一貫性を維持して Cisco Unified Communications の音声インフラストラクチャを自動設定できます。Provisioning では、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、および Cisco Unity Express の初期設定や再設定に使用するテンプレートを作成できます。

テンプレートそのものには、無制限の数のオブジェクトを設定できます。実際のオブジェクトの数は、テンプレートの実行（デバイスへのプッシュ）に要する時間のみに制限されます。

一般的な事前に作成された Cisco IOS テンプレートを作成すると、Cisco IOS の一般的なルータ機能が設定されている Provisioning でサポートされる任意のデバイスに、特定の機能を自動設定することができます。

テンプレートにはサブテンプレートも設定可能です。これにより、共通で使用する種類の設定情報を、上位レベルのテンプレート全体にわたって繰り返し使用できます。Cisco Unified

Communications Manager Express および Cisco Unity Express のテンプレートは、Cisco IOS ソフトウェアのテキストまたは Cisco CLI のテキストをキーワード付きで備えています。

Provisioning のテンプレートには、20 種類以上のオブジェクトを設定できます。このオブジェクトの種類には、デバイス プール、ルート パーティション、コーリング サーチ スペース、ルート リスト、ルート グループ、ルート パターンなどがあります。テンプレートに置いたオブジェクトでは、その属性にキーワードを埋め込むことができます。

デバイスにテンプレートをプッシュするとき、プロビジョニング操作の際に（既存の値の代わりに）使用するキーワード値を定義するオプションのキーワードを指定できます。

設定テンプレートを使用すると、オフィス、場所、リモート サイト、組織オーバーレイの新規ロールアウトなど、さまざまな状況で使用できる設定の標準セットを定義できます。

設定テンプレートを使用すると、次のことを実行できます。

- 新しい Unified Communications Manager、Unified Communications Manager Express、Unity、Unity Connection、Unity Express、および一般的な IOS ルータの設定
- 既存の Unified Communications Manager、Unified Communications Manager Express、Unity Express、または一般的な IOS ルータの展開の拡大（たとえば、新しいサイトまたはロケーションの展開）

設定テンプレートを作成するには、インフラストラクチャ設定製品を設定テンプレートに追加する必要があります。インフラストラクチャ設定製品のフィールド、(423 ページ) には、Provisioning で利用可能なインフラストラクチャ設定製品が示されています。

インフラストラクチャ設定テンプレートのすべてのフィールドが、すべてのバージョンの Cisco Unified Communications Manager に適用できるわけではありません。

最大 5 レベルのネストされたテンプレートを作成できます。ネストされたテンプレートをループさせることはできません。

## デバイス用のインフラストラクチャ設定製品

次の表に、Provisioning で使用可能なインフラストラクチャ設定製品を示します。

### Unified Communications Manager リリース用のインフラストラクチャ設定製品

表 14: インフラストラクチャ設定製品 (Unified Communications Manager リリース)

| インフラストラクチャ設定製品                                     | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                                    | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |



| インフラストラクチャ設定製品                                                                           | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                                                                          | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [Ciscoファクスリレー (Cisco Fax Relay) ]                                                        | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [Cisco Unified Communications Managerグループ (Cisco Unified Communications Manager Group) ] | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [CTIルートポイント (CTI Route Point) ]                                                          | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [コールパーク (Call Park) ]                                                                    | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [コールピックアップグループ (Call Pickup Group) ]                                                     | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [コールキューイング (Call Queuing) ]                                                              | N                                    | N     | N     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [コールサーチスペース (Call Search Space) ]                                                        | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]                                                       | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

| インフラストラクチャ設定製品                          | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|-----------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                         | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [共通の電話プロフィール (Common Phone Profile) ]   | N                                    | N     | N     | N   | Y     | Y     | Y    |
| [クライアント識別コード (Client Matter Code) ]     | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [日時グループ (Date/Time Group) ]             | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [説明 (Description) ]                     | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [デバイスプール (Device Pool) ]                | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info) ]   | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [Telnetを有効にする (Enable Telnet) ]         | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [強制承認コード (Forced Authorization Codes) ] | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [位置情報フィルタ (Geo Location Filter) ]       | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

| インフラストラクチャ設定製品                                         | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                                        | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [位置情報の設定 (Geo Location Configuration) ]                | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [H323ゲートウェイ (H323 Gateway) ]                           | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ハントリスト (Hunt List) ]                                  | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ハントパイロット (Hunt Pilot) ]                               | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [回線グループ (Line Group) ]                                 | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ロケーション (Location) ]                                   | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [MACアドレス(最後の10文字) (MAC Address (Last 10 Characters)) ] | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [メディアリソースグループ (Media Resource Group) ]                 | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]         | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

| インフラストラクチャ設定製品                           | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|------------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                          | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [ミートミー会議 (Meet-Me Conference) ]          | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ミートミー番号/パターン (Meet-Me Number/Pattern) ] | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [モデムパススルー (Modem Passthrough) ]          | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]                | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [スロット0のモジュール (Module in Slot 0) ]        | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [MTパッケージ機能 (MT Package Capability) ]     | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [パーティション (Partition) ]                   | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [物理ロケーション (Physical Location) ]          | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

| インフラストラクチャ設定製品                                                                      | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                                                                     | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [リソースプライオリティ<br>ネームスペースリスト<br>(Resource Priority Namespace List) ]                  | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [リソースプライオリティ<br>ネームスペースネットワークドメイン<br>(Resource Priority Namespace Network Domain) ] | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]                                       | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [リモート接続先プロファイル回線<br>(Remote Destination Profile Line) ]                             | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [RESパッケージ機能 (RES Package Capability) ]                                              | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [RTPパッケージ機能 (RTP Package Capability) ]                                              | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

| インフラストラクチャ設定製品                                              | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                                             | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [RTCPレポート間隔(秒)<br>(RTP Report Interval (secs)) ]            | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [RTP到達不能のオンとオフ<br>(RTP Unreachable OnOff) ]                 | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [RTP到達不能タイムアウト<br>(ミリ秒)<br>(RTP Unreachable timeout (ms)) ] | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ルートグループ (Route Group) ]                                    | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ルートリスト (Route List) ]                                      | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ルートパーティション<br>(Route Partition) ]                          | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ルートパターン (Route Pattern) ]                                  | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [サービスプロファイル<br>(Service Profile) ]                          | N                                    | N     | N     | N   | Y     | Y     | Y    |

| インフラストラクチャ設定製品                         | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|----------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                        | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [簡易SDP (Simple SDP) ]                  | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [SIPトランク (SIP Trunk) ]                 | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [SIPプロファイル (SIP Profile) ]             | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [SSTパッケージ機能 (SST Package Capability) ] | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [T.38ファクスリレー (T38 Fax Relay) ]         | N                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [トランスレーションパターン (Translation Pattern) ] | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [UCサービス (UC Service) ]                 | N                                    | N     | N     | N   | Y     | Y     | Y    |
| [Unified CMグループ (Unified CM Group) ]   | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [VG202]                                | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [VG204]                                | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [VG224]                                | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [VG350]                                | N                                    | N     | N     | N   | N     | N     | Y    |

| インフラストラクチャ設定製品                      | Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|-------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                     | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [ボイスリージョン (Voice Region) ]          | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [Voiceport]                         | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ボイスメールパイロット (Voicemail Pilot) ]    | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ] | Y                                    | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

### Cisco Unified Communications Manager - Session Management Edition 用のインフラストラクチャ設定製品

表 15: インフラストラクチャ設定製品 (Cisco Unified Communications Manager - Session Management Edition)

| インフラストラクチャ設定製品              | Cisco Session Management Edition |       |       |     |       |       |      |
|-----------------------------|----------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                             | 8.0.x                            | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [SIP トランク (SIP Trunk) ]     | Y                                | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [SIP プロファイル (SIP Profile) ] | Y                                | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |



## Cisco Unified Message Processor 用のインフラストラクチャ設定製品

表 16: インフラストラクチャ設定製品 (Cisco Unified Message Processor)

| インフラ<br>ストラク<br>チャ設定<br>製品                                                    | Cisco ユニファイドメッセージプロセッサ |       |       |     |       |       |      |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                                                               | 8.0.x                  | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [同報リス<br>ト<br>(Distribution<br>List) ]<br>(Cisco<br>Unity<br>Connection)<br>1 | Y                      | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [同報リス<br>ト<br>(Distribution<br>List) ]<br>(Cisco<br>Unity)                    | Y                      | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [コールハ<br>ンドラ<br>(Call<br>Handlers) ]                                          | Y                      | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [サービ<br>ス<br>クラス<br>(Class of<br>Service) ]                                   | Y                      | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [同報リス<br>ト<br>(Distribution<br>List) ]                                        | Y                      | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [ディレク<br>トリハン<br>ドラ<br>(Directory<br>Handlers) ]                              | Y                      | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

| インフラストラクチャ設定製品                                                     | Cisco ユニファイド メッセージ プロセッサ |       |       |     |       |       |      |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                                                                    | 8.0.x                    | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [同報リスト (Distribution List) ] (Cisco Unity Connection) <sup>1</sup> | Y                        | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [インタビューハンドラ (Interview Handlers) ]                                 | Y                        | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
| [加入者テンプレート (Subscriber Template) ]                                 | Y                        | Y     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

<sup>1</sup> [同報リスト (Distribution List) ] (Cisco Unity Connection) は、Cisco Unified Communications Manager 8.0.3 以降でサポートされます。

表 17: インフラストラクチャ設定製品 (Cisco ユニファイド プレゼンス プロセッサ)

| インフラストラクチャ設定製品                 | Cisco ユニファイド プレゼンス プロセッサ |       |       |     |       |      |
|--------------------------------|--------------------------|-------|-------|-----|-------|------|
|                                | 8.0.x                    | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 10.0 |
| [オーディオプロファイル (Audio Profile) ] | Y                        | Y     | Y     | Y   | Y     | Y    |
| [CIPプロファイル (CIP Profile) ]     | Y                        | Y     | Y     | Y   | Y     | Y    |

| インフラストラクチャ<br>設定製品                                        | Cisco ユニファイドプレゼンス プロセッサ |       |       |     |       |      |
|-----------------------------------------------------------|-------------------------|-------|-------|-----|-------|------|
|                                                           | 8.0.x                   | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 10.0 |
| [オーディオ<br>プロファイル<br>(Audio<br>Profile) ]                  | Y                       | Y     | Y     | Y   | Y     | Y    |
| [会議プロ<br>ファイル<br>(Conferencing<br>Profile) ]              | Y                       | Y     | Y     | Y   | Y     | Y    |
| [CTIゲート<br>ウェイプロ<br>ファイル<br>(CTI<br>Gateway<br>Profile) ] | Y                       | Y     | Y     | Y   | Y     | Y    |
| [LDAPプロ<br>ファイル<br>(LDAP<br>Profile) ]                    | Y                       | N     | Y     | Y   | Y     | Y    |
| [ボイスメー<br>ルプロファ<br>イル<br>(VoiceMail<br>Profile) ]         | Y                       | N     | Y     | Y   | Y     | Y    |

## 設定テンプレートの作成

最初に、設定テンプレートを作成してから、そのテンプレートに項目を追加します。追加できる項目は、個々のオブジェクトまたは既存の設定テンプレートのいずれかです。



(注) [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates) ]メニューは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみサポートされています。このメニューは、Prime Collaboration Provisioning Standard ではサポートされていません。

## 手順

- 
- ステップ 1** [設計 (Design) ] > [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates) ] を選択します。
- ステップ 2** [設定テンプレートのセットアップ (Set Up Configuration Template) ] ページで、[新規 (New) ] アイコンをクリックします。
- ステップ 3** 表示されたプロンプトに設定テンプレートの名前を入力し、[OK] をクリックします。
- 

既存の設定テンプレートを更新するには、テンプレートを選択して必要な情報を更新します。

名前を変更するには、作成済みのテンプレートをクリックします。名前の変更ダイアログボックスで、名前を変更して [保存 (Save) ] をクリックします。

設定テンプレートを削除するには、[設定テンプレートの削除 (Remove Configuration Template) ] をクリックします。

設定テンプレートをコピーするには、[設定テンプレートのコピー (Copy Configuration Template) ] をクリックします。元のテンプレート名に `_copy` が追加され、設定テンプレートのコピーが作成されます。

## 設定テンプレートへの項目の追加

追加できる項目は、個々のオブジェクトまたは既存の設定テンプレートのいずれかです。

これらのインフラストラクチャオブジェクトには、名前に変数 `DOMAIN` および `SERVICEAREA` を含めることで、それぞれの属するドメインまたはサービスエリアに基づく一意の名前を指定できます。

設定テンプレートを送信するとき、Provisioning は `DOMAIN` と `SERVICEAREA` をそれぞれドメイン名とサービスエリア名に置き換えるため、新しいオブジェクトには自動的に一意の名前が割り当てられます。これは、Provisioning による Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、または Cisco Unity Express 上でのパーティション化に必要なインフラストラクチャ要素になります。

設定は、設定テンプレートで定義された順に行われます。これらのオブジェクトの自動設定に関する依存関係は、オブジェクトを手動で設定する場合と同じです。したがって、設定テンプレートでは適切な順序でオブジェクトを定義する必要があります。

これらの依存関係に関する詳細、およびその他の要件については、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、または Cisco Unity Express の該当するマニュアルを参照してください。

多くのインフラストラクチャ設定製品のフィールドでは、リストに項目を追加し、リスト内で項目を上下に移動できます。インフラストラクチャ設定製品のフィールドのリストには、Cisco Unified Communications Manager にすでに存在する項目だけが表示されます。設定テンプレートの送信時に作成される項目を設定テンプレートで定義することもできます。新しい項目は、設定テ

ンプレートが送信後に限り存在します。これらの項目が、同じ設定テンプレート内の他の項目の必要条件になる場合があります。

このため、Provisioning では、手動でリストにオプションを追加できるようになっています。たとえば、同じ設定テンプレートでルートパーティションとコーリング検索スペースを定義できます。設定テンプレートでコーリング検索スペース項目を定義するにはルートパーティションを指定する必要がありますが、ルートパーティションはまだ作成されていないため、設定テンプレートのオプションとしてルートパーティションは表示されません。

設定テンプレートに項目を追加するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [設計 (Design) ] > [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates) ] を選択します。
- ステップ 2** [既存の設定テンプレートの選択 (Choose an Existing Configuration Template) ] アイコンをクリックして、目的の設定テンプレートを選択します。
- ステップ 3** [新規項目の追加 (Add a New Item) ] をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add) ] フィールドで、次のいずれかを実行します。
- 新しい項目を作成するには、[新規項目 (New Item) ] を選択して [ステップ 5](#) に進みます。
  - 既存の設定テンプレートを追加するには、[名前 (Name) ] をクリックして次の手順を実行します。
    - 1 目的の設定テンプレート名を選択して [保存 (Save) ] をクリックします。設定テンプレートが追加されます。
    - 2 [ステップ 6](#) に進みます。
- ステップ 5** プロセッサタイプと項目タイプを選択します。プロセッサタイプごとにタスクを実行するには、[設定テンプレートに新しい項目を追加するためのデバイスおよび項目タイプ](#)、(106 ページ) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save) ] をクリックします。
- 

設定テンプレートの項目の順序を変更するには、フィールドの横の上または下向き矢印キーを押します。項目が移動します。テンプレート項目とインフラストラクチャ設定製品のフィールドの項目を変更できます。すべての項目の順序が変更されることに注意してください。フィールドの項目の順序を変更できる場合は、そのフィールドの横に上および下向き矢印が表示されます。

設定テンプレート項目を編集するには、[編集 (Edit) ] アイコンをクリックします。[設定テンプレート項目の編集 (Edit a Configuration Template Item) ] ページで、ドロップダウンの横のプラス記号 (+) をクリックし、項目をリストにさらに追加します。名前を入力し、[OK] をクリックします。

テンプレートから項目を削除するには、項目の横の [削除 (Remove) ] をクリックします。

項目のコピーを作成するには、コピーする項目の [コピー (Copy) ] アイコンをクリックします。

## 設定テンプレートに新しい項目を追加するためのデバイスおよび項目タイプ

表 18: 設定テンプレートに新しい項目を追加するためのデバイスおよび項目タイプ

| デバイスタイプ       | 項目タイプ                                               | 手順                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Unified CME   | [Unified CME IOSテンプレート (Unified CME IOS Template) ] | <p><b>1</b> 適切な Cisco IOS コマンドを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express および一般的な IOS ルータの場合は、Cisco IOS コマンドは設定端末モードでデバイスに適用されます。Cisco IOS コマンドの <i>configure terminal</i> および <i>exit</i> が内部でコマンドに追加されます。</p> <p>Cisco Unity Express の場合、コマンドを設定端末モードで実行させるには、テンプレートの先頭に <i>configure terminal</i> コマンドを追加する必要があります。</p> <p>(注) サブモジュールモードコマンドの入力を必要とするデバイスの場合は、サブモジュールモードの開始と終了のコマンドを入力する必要があります。また、Provisioning では、入力したコマンドの構文はチェックされません。</p> <p><b>2</b> [保存 (Save) ] をクリックします。項目が設定テンプレートに追加されます。</p> |
| Unity Express | [Unified CME IOSテンプレート (Unified CME IOS Template) ] | <p><b>1</b> 適切な Cisco IOS コマンドを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express および一般的な IOS ルータの場合は、Cisco IOS コマンドは設定端末モードでデバイスに適用されます。Cisco IOS コマンドの <i>configure terminal</i> および <i>exit</i> が内部でコマンドに追加されます。</p> <p>Cisco Unity Express の場合、コマンドを設定端末モードで実行させるには、テンプレートの先頭に <i>configure terminal</i> コマンドを追加する必要があります。</p> <p>(注) サブモジュールモードコマンドの入力を必要とするデバイスの場合は、サブモジュールモードの開始と終了のコマンドを入力する必要があります。また、Provisioning では、入力したコマンドの構文はチェックされません。</p> <p><b>2</b> [保存 (Save) ] をクリックします。項目が設定テンプレートに追加されます。</p> |

| デバイス<br>タイプ                                     | 項目タイプ                                                                | 手順                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [一般的な<br>IOSルータ<br>(Generic<br>IOS<br>Router) ] | [一般的なIOS<br>ルータ(テンプレ<br>ート)<br>(Generic IOS<br>Router<br>Template) ] | <p><b>1</b> 適切な Cisco IOS コマンドを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express および一般的な IOS ルータの場合は、Cisco IOS コマンドは設定端末モードでデバイスに適用されます。Cisco IOS コマンドの <code>configure terminal</code> および <code>exit</code> が内部でコマンドに追加されます。</p> <p>(注) サブモジュールモード コマンドの入力を必要とするデバイスの場合は、サブモジュールモードの開始と終了のコマンドを入力する必要があります。また、Provisioning では、入力したコマンドの構文はチェックされません。</p> <p><b>2</b> [保存 (Save) ] をクリックします。項目が設定テンプレートに追加されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [一般的な<br>IOSルータ<br>(Generic<br>IOS<br>Router) ] | [一般的なIOS<br>ルータ(既成)<br>(Generic IOS<br>Router<br>Pre-built) ]        | <p><b>1</b> 事前に作成されたテンプレートを含むディレクトリを選択します。次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ディレクトリがドロップダウンリストに表示されない場合は、[一般的なIOSルータ(既成) (Generic IOS Router Pre-built) ] テンプレートを <a href="http://Cisco.com">Cisco.com</a> からダウンロードします。</li> <li>• アナログ音声ゲートウェイを設定するディレクトリとして、[アナログ音声ゲートウェイの設定 (Analog Voice Gateway Configurations) ] を選択します。</li> </ul> <p><b>2</b> 自動設定に使用する事前に作成されたテンプレートのファイル名を選択します。</p> <p>テンプレートで使用されるすべてのキーワードに対するキーワードリストエントリのセットが表示され、読み取り専用の [コマンド (Commands) ] フィールドが表示されます。</p> <p><b>3</b> キーワードに、CLI で置き換えられる値を設定します。</p> <p>このリストにキーワードを少なくとも1つ入力する必要があります。または、すでに作成したキーワードリストを使用できます。</p> <p><b>4</b> [保存 (Save) ] をクリックします。項目が設定テンプレートに追加されます。</p> |

| デバイスタイプ          | 項目タイプ                             | 手順                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Unified CM       | ドロップダウンリストからインフラストラクチャ設定製品を選択します。 | リストからインフラストラクチャオブジェクトを選択すると、画面が更新され、選択したオブジェクトのオプションが表示されます。表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって異なります（各インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、 <a href="#">デバイス用のインフラストラクチャ設定製品</a> 、 <a href="#">(92 ページ)</a> を参照してください）。<br><br>必要に応じてフィールドに入力します。ドロップダウン リストに必要な項目が含まれていない場合があります。項目が設定テンプレートに追加されます。 |
| Unity Connection | ドロップダウンリストからインフラストラクチャ設定製品を選択します。 | リストからインフラストラクチャオブジェクトを選択すると、画面が更新され、選択したオブジェクトのオプションが表示されます。表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって異なります（各インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、 <a href="#">デバイス用のインフラストラクチャ設定製品</a> 、 <a href="#">(92 ページ)</a> を参照してください）。<br><br>必要に応じてフィールドに入力します。項目が設定テンプレートに追加されます。                                  |
| Unity            | ドロップダウンリストからインフラストラクチャ設定製品を選択します。 | リストからインフラストラクチャオブジェクトを選択すると、画面が更新され、選択したオブジェクトのオプションが表示されます。表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって異なります（各インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、 <a href="#">デバイス用のインフラストラクチャ設定製品</a> 、 <a href="#">(92 ページ)</a> を参照してください）。<br><br>必要に応じてフィールドに入力します。項目が設定テンプレートに追加されます。                                  |

## キーワード リストの新規作成とキーワードの追加

設定テンプレートを作成する際に同じ定義パラメータを複数回使用する場合は、キーワード置換を設定すると操作が簡単になります。キーワード置換を使用して文字列を作成し、その文字列を設定テンプレートに入力すると、その文字列は対応する値に置き換えられます。



## 手順

- ステップ 1 [設計 (Design)] > [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] を選択します。
- ステップ 2 [設定テンプレートのセットアップ (Set Up Configuration Template)] ページで、キーワード置換リストの横の [キーワードリストの新規作成 (Creating a New Keyword List)] アイコンをクリックします。
- ステップ 3 キーワードリストの名前を入力して [OK] をクリックします。
- ステップ 4 [キーワード (Keyword)] フィールドに、ドル記号 (\$) で始まる文字列を入力します。たとえば、次のような文字列を入力します。

`${Region}`

**注意** すべてのキーワードを `${}` で囲まず、キーワードの終わりに文字を追加しないと、キーワードの置換は失敗します。

- ステップ 5 [値 (Value)] フィールドに、対応する値を入力します。たとえば、「San Jose」と入力します。
- ステップ 6 [更新 (Update)] をクリックし、[完了 (Done)] をクリックします。  
これで、この例では、`${Region}` という文字列を入力した場合に、その文字列が San Jose という値に置き換えられます。

キーワードや対応する値をさらに追加することもできます。追加したら [完了 (Done)] をクリックします。

作成したキーワードを、[キーワード置換 (Keyword Substitution)] ドロップダウンリストから選択できるようになります。

キーワードを編集するには、[キーワードリストの編集 (Edit Keyword List)] をクリックします。[キーワードリスト (Keyword List)] ページで、キーワードと値を変更することができます。[削除 (Remove)] チェックボックスをオンにすると、リストからキーワードを削除できます。

キーワードリスト全体を削除するには、[キーワードリストの削除 (Remove Keyword List)] アイコンをクリックします。

## テンプレートを使用した設定の生成

設定テンプレートを適用するには、該当するドメイン、サービスエリア、またはデバイスに設定テンプレートを送信します。

## 手順

- 
- ステップ 1** テンプレートの [設定テンプレートのセットアップ (Set Up Configuration Template)] ページを開きます (設定テンプレートの作成, (103 ページ) を参照)。
- ステップ 2** (オプション) ドメインを選択します。サービスエリアとデバイスのリストに、選択したドメインに属するサービス エリアとデバイスが表示されます。ドメインが選択されない場合は、Provisioning 内のすべてのデバイスがリストに表示されます。
- ステップ 3** サービス エリアとデバイスの一方または両方を選択します。サービス エリアを選択するとデバイス リストが更新され、選択したサービス エリアに属するデバイスだけが表示されます。サービス エリアまたはデバイスを選択すると、各テンプレート項目に [サポート対象 (Supported)] と [サポート対象外 (Unsupported)] のいずれかが表示されます。サポートされていない項目は、選択したデバイスまたはサービス エリア内のデバイスに対して有効なテンプレート項目ではありません。そのようなテンプレート項目は、生成されたテンプレートには追加されません。
- ステップ 4** (オプション) キーワードリストを選択します。これは、テンプレートにキーワードが含まれている場合にだけ必要です。キーワード リストの作成については、[キーワード リストの新規作成とキーワードの追加](#), (108 ページ) を参照してください。
- ステップ 5** [設定の生成 (Generate Configuration)] をクリックし、[OK] をクリックします。設定が生成されて [バッチプロジェクト (Batch Project)] ページが表示されます。設定のプロビジョニングのスケジュールについては、[バッチプロジェクトの管理](#), (152 ページ) を参照してください。
- 

## 設定テンプレートのインポートとエクスポート

テンプレート インポート/エクスポート ツール (configtemplate.sh) を使用すると、Provisioning サーバとの間で設定テンプレートのインポートやエクスポートを実行できます。

configtemplate.sh ファイルは、/opt/cupm/sep/ipt/bin フォルダにあります。

テンプレート インポート/エクスポート ツールを使用するときは、次のことに注意してください。

- テンプレートを別の Provisioning サーバにインポートするときに、インポート対象のテンプレートに特定のコール プロセッサ固有の属性が含まれている場合は、テンプレートをインポートする Provisioning サーバでそのコール プロセッサを追加して同期する必要があります。
- エクスポートされた設定テンプレート ファイルに変更を加えないでください。
- ネストしているテンプレートを別々にインポート/エクスポートしないでください。
- all オプションを使用するときは、すべてのファイルが同じディレクトリに存在する必要があります。そうでない場合は、インポートに失敗します。
- ネストしているテンプレートの 1 つを指定したときに、そのテンプレートに従属するテンプレートはインポート/エクスポートされません。従属するテンプレートは個別にインポート/

エクスポートする必要があります。まとめてインポート/エクスポートするには、**all** オプションを使用します。このときに、すべての従属ファイルが指定したディレクトリに存在している必要があります。

この方法で、事前に作成された Cisco IOS テンプレートをエクスポートすることはできません。事前に作成されたテンプレートは、Provisioning データベースには格納されません。これらのテンプレートは、ios-pre-built ディレクトリのサブディレクトリにコピーされた際、自動的にインポートされます。

## 設定テンプレートのインポート

### 手順

**ステップ 1** Provisioning システムで、コマンドプロンプトを開きます。

**ステップ 2** コマンドプロンプトで /opt/cupm/sep/ipt/bin フォルダに移動し、コマンド `./configtemplate.sh -import <XML file name> -d <directory>` を実行します。値は次のとおりです。

- **<XML file name>** : インポートするテンプレートの名前。  
(注) **<XML file name>** の代わりに **all** を指定することもできます。これを指定すると、ディレクトリに存在するすべてのテンプレート (xml ファイル) がインポートされます。
- **<directory>** : インポートするファイルが存在するディレクトリ。これはオプションです。この引数を省略した場合のデフォルトは、現在のディレクトリです。

例 : `./configtemplate.sh -import RoutePattern.xml -d /opt/cupm/templates`

(注) コマンドをインポートする前に、フォルダ内のファイルが .xml ファイルだけであることを確認してください。

## 設定テンプレートのエクスポート

設定テンプレートをエクスポートするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Provisioning システムで、コマンドプロンプトを開きます。

**ステップ 2** コマンドプロンプトで /opt/cupm/sep/ipt/bin フォルダに移動し、コマンド `./configtemplate.sh -export <template name> -d <directory>` を実行します。値は次のとおりです。

- **<template name>** : エクスポートするテンプレートの名前。  
**<template name>** の代わりに **all** を指定することもできます。これを指定すると、存在するすべてのテンプレートがエクスポートされます。

- `<directory>` : ファイルのエクスポート先のディレクトリ。これはオプションです。この引数を省略した場合のデフォルトは、現在のディレクトリです。

例: `./configtemplate.sh -export RoutePattern -d /opt/cupm/templates`

- (注) テンプレートをエクスポートする場合は、常に新しいディレクトリ名を使用してください。既存のディレクトリ名を使用すると、新しいテンプレートが正しくエクスポートされません。

## 顧客ドメインテンプレート

複数のドメインを実装する場合は、実装に必要なデフォルトのビジネスルールとユーザタイプに従って、顧客ドメインテンプレートを設定できます。

新しく作成したドメインは、顧客ドメインテンプレートからビジネスルールとユーザタイプの標準セットを継承します。これらのビジネスルールとユーザタイプは、ドメインの作成後に各ドメインの要件に応じて変更できます。顧客ドメインテンプレートに対して加えた変更は、それ以降に新しく作成されるドメインにだけ反映されます。

顧客ドメインテンプレートは、Provisioning のインストール時にデフォルトで作成されます。顧客ドメインテンプレートを設定する際は、新規ドメインに対してビジネスルールやユーザ権限を指定するのと同じように、ビジネスルールやユーザ権限を指定します。

これらの新しい Provisioning 機能を使用するには、顧客ドメインテンプレートを編集する必要があります。

## Provisioning で事前に作成された機能

Provisioning は、事前に作成されたテンプレート ファイル用に次の追加機能を提供します。

- キーワード用の一般的な Cisco IOS テンプレート形式を使用して、`swconfig.txt` ファイル内のキーワードを指定できます。

一般的な Cisco IOS テンプレートの形式は次のとおりです。

```
#{KEY_WORDNAME}
```

Provisioning では、具体的にはダッシュ (-) など、一般的な Cisco IOS テンプレートでサポートされる追加文字をキーワード名に含めることができます。

事前に作成された Cisco IOS の形式は次のとおりです。

```
@KEYWORD_NAME
```

- キーワード値をデフォルトに設定するため、およびキーワード値を検証するために、`Config-UserGuide-<Name>.txt` ファイルに、次の 3 つのオプションのカラムを追加できます。
  - `Type` : キーワード検証を判断するための 4 つのタイプの 1 つ。タイプには、`STRING`、`NUMERIC`、`IPV4`、および `IPV6` があります。事前に作成されたテンプレートに関連付けられているローカルキーワードリストに値を入力すると、その値が検証され、検証

が失敗した場合はエラーメッセージが表示されます。テンプレート項目を保存する前に、エラーを修正する必要があります。

° **Default Value** : ローカル キーワードリストを作成する際に初期的に使用される値。

° **Length** : STRING タイプの長さは、この値を超えることはできません。

任意のキーワードに値 CUPM\_SKIP を使用できますが、この値を含む行は、デバイスに送信される Cisco IOS コマンドには含まれません。

### Provisioning でサポートされない事前に作成された機能

キーワード名が空の角カッコ ([]) で終了している場合は、このキーワードに複数の値を割り当てることができることを意味しています。Provisioning では、1 つの値のみを設定できます。

## インフラストラクチャ設定の概要

Provisioning の [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ページでは、コールプロセッサおよびユニファイドメッセージプロセッサのインフラストラクチャ設定を見ることができます。このページで、コールプロセッサおよびユニファイドメッセージプロセッサの設定の追加、編集、削除を行うことができます。また、保留中の操作の表示や、操作のスケジュールも可能です ([インフラストラクチャ設定タスクのスケジュール](#), (116 ページ) を参照)。

インフラストラクチャ設定を使用するには、[インフラストラクチャ設定管理 (Infrastructure Configuration Management)] 承認権限が割り当てられ、対応するインフラストラクチャ製品に対する権限が割り当てられている必要があります ([インフラストラクチャ設定の権限の管理](#), (196 ページ) を参照)。

インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、[デバイス用のインフラストラクチャ設定製品](#), (92 ページ) を参照してください。

インフラストラクチャ設定機能は、Cisco Unified Communications Manager デバイスに基づくコールプロセッサと、Cisco Unity または Cisco Unity Connection のみに基づくユニファイドメッセージプロセッサに適用されます。

## [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] からのデバイスの相互起動

Prime Collaboration Provisioning では、管理者は CUCM、Unity Connection、IM and Presence サービスなどの設定済みデバイスを、[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ページから相互起動することができます。特定のデバイスを相互起動する場合は、そのデバイスの UI にアクセスして、相互起動した特定のデバイスのサーバを直接操作できます。

オブジェクトセレクト ウィジェットでデバイスをポイントし、[クイックビュー (Quick View)] アイコンをクリックして、使用するデバイスのバージョンと IP アドレスを表示します。デバイス

のクイックビューから実行できる操作のリストについては、「[デバイスの追加](#)」を参照してください。



(注)

• Cisco TMS を相互起動するには、TMS サーバで HTTPS を有効にする必要があります。HTTPS が無効な場合は、相互起動ウィンドウで URL を HTTP に変更する必要があります。

• CUCM を相互起動すると、[検索およびリスト (Find and List)] ページが表示されます。CUCM で特定の操作を実行する方法については、次のマニュアルを参照してください。

『[Cisco Unified Communications Manager Administration Guide, Release 10.0](#)』

Unity Connection で特定の操作を実行する方法については、次のマニュアルを参照してください。

『[System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 10.0](#)』

IM and Presence サービスで特定の操作を実行する方法については、次のマニュアルを参照してください。

『[Monitoring Cisco Unified Communications Manager IM and Presence, Release 10.0](#)』

## インフラストラクチャ設定インスタンスの追加

インフラストラクチャ設定インスタンスを追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] を選択します。使用できるすべてのデバイスが左ペインにリストされます。
- ステップ 2** デバイスのインフラストラクチャ製品を表示するには、それぞれのデバイスを展開します。
- ステップ 3** 相互起動 ([[インフラストラクチャ設定 \(Infrastructure Configuration\)](#)] からの [デバイスの相互起動](#)) するインフラストラクチャ製品をクリックするか、ネイティブに起動します。
- 相互起動すると、そのデバイスの [検索およびリスト (Find and List)] ページが表示されます。[新規追加 (Add New)] をクリックし、必要な情報を入力して [保存 (Save)] をクリックします。
  - 一部のインフラストラクチャ製品 (バージョン 10.0 以前) はネイティブに起動します。ここでは、Provisioning 内で設定し、製品インスタンスを追加できます。次の手順を実行します。
    - 1 [追加 (Add)] をクリックして、[インフラストラクチャ設定 - 製品インスタンスの設定 (Infrastructure Configuration - configure Product Instance)] ページで必要な情報を入力します。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、[インフラストラクチャ設定製品のフィールド](#)、(423 ページ) を参照してください。

- 2 [適用 (Apply) ] または [下書きとして保存 (Save as Draft) ] をクリックします。  
[適用 (Apply) ] では、設定がただちにデバイスへ送信されます。[下書きとして保存 (Save as Draft) ] では、設定がローカルにのみ保存されます。後でサービスをデバイスに送信するには、[適用 (Apply) ] をクリックするか、インフラストラクチャ設定のスケジュール機能を使用します (インフラストラクチャ設定タスクのスケジュール, (116 ページ) を参照してください)。

また、[下書きとして保存 (Save as Draft) ] を選択すると、オブジェクトのプロビジョニング状態が [追加未実行 (Uncommitted Add) ] となります (プロビジョニング状態の詳細については、インフラストラクチャプロビジョニングの状態, (117 ページ) を参照してください) 。動作ステータスは非アクティブです。つまり、オブジェクトはまだデバイスに送信されていません。

- (注) [適用 (Apply) ] をクリックすると、デバイスが再起動し、進行中のコールが予期せず終了します。

インフラストラクチャ設定インスタンスをネイティブ起動用にコピーするには、[コピー (Copy) ] をクリックします。[インフラストラクチャ設定 - 製品インスタンスの設定 (Infrastructure Configuration - configure Product Instance) ] ページで、[下書きの設定 (Draft Configuration) ] タブをクリックして必要な情報を入力します。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。[適用された設定 (Applied Configuration) ] タブには、設定済みのインスタンスが表示されます。[適用 (Apply) ] または [下書きとして保存 (Save as Draft) ] をクリックします。インフラストラクチャ設定インスタンスが「copy of」というプレフィックス付きで保存されます。

ネイティブ起動用のインフラストラクチャ設定インスタンスを削除するには、次のいずれかを実行します。

- ただちに設定済みのインスタンスをデバイスから削除するには、[削除 (Delete) ] をクリックします。
- オーダーを後で送信する場合は、[削除のスケジュール (Schedule Delete) ] をクリックします。
- 設定済みのインスタンスがローカルに保存されて残っている場合は、[下書きの削除 (Delete Draft) ] をクリックします。

オブジェクトのプロビジョニング状態が [削除未実行 (Uncommitted Delete) ] となります (プロビジョニング状態の詳細については、インフラストラクチャプロビジョニングの状態, (117 ページ) を参照してください) 。動作ステータスはアクティブです。

[下書きの削除 (Delete Draft) ] を実行しても、他のインフラストラクチャ製品やユーザ サービスでそのインスタンスを引き続き使用できます。たとえば、あるルートパーティションに削除対象のマークが付いている場合も、そのルートパーティションは回線または電話製品やコーリングサーチスペースで選択可能です。

インフラストラクチャ設定インスタンスをネイティブ起動用に編集するには、変更するインスタンスをクリックします。[下書きの設定 (Draft Configuration) ] タブで、必要な変更を行います。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。必要な情報を入力します。

[適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックし、変更を保存します。



(注) Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されている設定値を消去するには、値として 0 を入力する必要があります。値を消去しただけでは、Cisco Unified Communications Manager 内の設定は解除されません。

## インフラストラクチャ設定タスクのスケジュール

インフラストラクチャ設定のスケジュール機能を使用すると、保留中の操作を持つインスタンスをグループ化してプロビジョニングをスケジュールすることができます。

インフラストラクチャ設定をスケジュールするには、タスクを作成する必要があります。タスクに保留中の設定を追加できます。この設定とは、追加、変更、または削除の操作です。2 つ以上のプロセッサからの保留中の項目を同じタスクに入れることができます。また、このタスクのスケジュールは、決められた時間に実行するように設定することも、別のタスクの実行が正常終了した後に実行するように設定することも可能です。

インフラストラクチャ設定のスケジュールされたタスクを表示するには、[スケジュール設定 (Schedule Configuration)] をクリックします ([展開 (Deploy)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] を選択)。

結果を絞り込むには、検索機能を使用します。検索機能を使用するには、結果ページの [フィルタの表示 (Show Filter)] をクリックし、検索条件を表示します。

インフラストラクチャ設定タスクは開始タイプに基づきます。

タスクの開始タイプが日時の場合、タスクの実行はスケジュールされた日時に開始されます。そのタスクの項目がすべて指定されたオーダーが作成されます。タスクのステータスが [処理中 (In Progress)] に変化し、それ以降は変更も削除もできなくなります。タスク内のすべての項目が正常に完了した場合は、タスクのステータスが [完了 (Completed)] に変化します。何らかの詳細が失敗すると、タスク全体が中止されます。中止または失敗したタスクを再実行することはできません。新しいタスクを作成する必要があります。

開始タイプが別のタスクの場合は、別のタスクの正常完了後に、目的のタスクが開始されます。別のタスクが異常終了した場合、このタスクが開始されることはありません。このことは、[タスクのリスト (List of Tasks)] ページに表示されます。



(注) タスクを作成した後で、そのステータスが [処理中 (In Progress)]、[完了 (Completed)]、または [failed (失敗)] の場合は、目的のタスクを更新できません。タスクが開始される前は、スケジュールの日時の変更や、タスクの一部として送信する保留中の項目の追加と削除を行うことができます。



## 手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy) ] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration) ] を選択します。
- ステップ 2 [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration) ] ページで [スケジュール設定 (Schedule Configuration) ] をクリックします。
- ステップ 3 [新規追加 (Add New) ] をクリックします。
- ステップ 4 [スケジュール保留設定 - タスクの設定 (Schedule Pending Configuration - Configure Task) ] ページで、名前の説明などの必要な情報を入力します。操作タイプとして、インフラストラクチャ設定インスタンスの追加、修正、または削除を設定できます。1 つのタスクで複数の操作を実行できません。選択できる操作タイプは 1 つだけです。
- ステップ 5 タスクの詳細を選択 (三角のアイコンをクリック) し、目的の値を選択して [選択 (Select) ] をクリックします。
- ステップ 6 [スケジュール保留設定 - タスクの設定 (Schedule Pending Configuration - Configure Task) ] ページで [保存 (Save) ] をクリックします。

スケジュールされたインフラストラクチャ設定タスクを削除するには、[スケジュール保留設定 - タスクの設定 (Schedule Pending Configuration - Configure Task) ] ページで [削除 (Delete) ] をクリックします。

インフラストラクチャ設定タスクを消去するには、Provisioning をメンテナンスモードにする必要があります。インフラストラクチャ設定のスケジュールタスク ([完了 (Completed) ]、[失敗 (Failed) ]、および [中断 (Aborted) ]) は、システムに保存されます。これらのタスクは定期的に消去できます。データを消去するアクティビティはすべて、[データメンテナンスの設定 (Data Maintenance Configuration) ] ページから実行されます。データのページの詳細については、[Provisioning のデータ消去の有効化](#)、(287 ページ) を参照してください。

## インフラストラクチャプロビジョニングの状態

インフラストラクチャ設定要求は、インフラストラクチャ設定アクティビティを実行するときに使用されます。

インフラストラクチャ設定プロセスが取る状態は、次のとおりです。

- [追加未実行 (Uncommitted Add) ] : 設定はローカルに作成されていますが、デバイス上には存在しません。
- [追加処理中 (Add in Progress) ] : 保留中設定の処理が進行中であり、オーダーを通して設定が行われている途中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [追加失敗 (Add Failed) ] : このオブジェクトに対する操作に失敗しました。
- [追加をスケジュール済み (Add Scheduled) ] : 保留中の設定済みオブジェクトを処理するタスクのスケジュールが設定済みであり、実行待ちです。この状態では、変更を行うことはできません。

- [更新未実行 (Uncommitted Update) ]: デバイス上に存在するオブジェクトがローカルでは変更済みですが、まだデバイスに送信されていません。
- [更新処理中 (Update in progress) ]: 変更操作がオーダーの一部として進行中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [更新失敗 (Updated Failed) ]: 変更操作に失敗しました。
- [更新をスケジュール済み (Update Scheduled) ]: デバイス上のオブジェクトを変更するための保留中設定が、タスクの一部としてスケジュールされています。この状態では、変更を行うことはできません。
- [削除未実行 (Uncommitted Delete) ]: デバイス上に存在するオブジェクトに削除対象のマークが付いています。このオブジェクトの削除は、まだデバイスに対して要求されていません。
- [削除処理中 (Delete in progress) ]: 削除操作がオーダーの一部として進行中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [削除失敗 (Delete Failed) ]: 削除操作に失敗しました。
- [削除をスケジュール済み (Delete Scheduled) ]: オブジェクトをデバイスから削除するための保留中設定が、タスクの一部としてスケジュールされています。この状態では、変更を行うことはできません。

## 電話ボタンテンプレートの設定

特定の電話タイプで使用できる最大回線数は、電話ボタンテンプレートを使用して設定します。

Cisco Unified Communications Manager の電話ボタンテンプレートは、電話で使用できる回線数およびスピードダイヤル数と、電話上でそれらが表示される場所を指定するものです。旧式の電話モデルの場合はテンプレートが固定されており、つまり、回線は電話上の特定のボタンに直接マッピングされます。新しい電話モデルは、より動的なボタン構造を備えています。たとえば、Cisco 7960 には 6 つのボタンがあり、それぞれが 1 つの回線またはスピードダイヤルに対応しています。

Cisco Unified Communications Manager のインフラストラクチャを同期する際、Provisioning では Cisco Unified Communications Manager で定義されているすべての電話ボタンテンプレートが取得されます。電話ボタンテンプレートには標準的なセットが必ず 1 つは存在するため、どの電話タイプにも最低 1 つのテンプレートが存在します。

コールプロセッサの各電話ボタンテンプレートの最大回線数を表示できます。空白または負の値は、無制限として扱われます。

電話ボタンテンプレートの最大回線数を表示するには、[管理 (Administration) ] > [システム設定 (System Configuration) ] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Templates) ] を選択します。[電話ボタンテンプレート設定 (Phone Button Template Configuration) ] ページで、コールプロセッサを選択して [最大回線情報の表示 (View Maximum Line Information) ] をクリックします。

デフォルトの電話ボタンテンプレートを指定するには、[管理 (Administration)] > [システム設定 (System Configuration)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Templates)] を選択します。[電話ボタンテンプレート設定 (Phone Button Template Configuration)] ページで、コールプロセッサを選択します。電話タイプを選択して [テンプレートリストの更新 (Update Template List)] をクリックします。[電話ボタンテンプレートの設定の編集フォーム (Phone Button Template Configuration Edit Form)] で、テンプレートを選択して [更新 (Update)] をクリックします。

## ビジネス ルールの概要

Provisioning には、Provisioning 内のコンポーネントの使用方法を決定する、一連の定義済みのビジネス ルールが用意されています。これらのビジネス ルールは、オーダーの処理、同期処理の動作、およびシステム内のさまざまなオブジェクトのデフォルト値を制御します。

ビジネス ルールはドメイン レベルで適用されます。Provisioning をインストールする際、独自のビジネス プロセスに基づいて、顧客ドメイン テンプレートでビジネス ルールを設定します。新規ドメインを作成すると、そのドメインは顧客ドメインテンプレートから標準的なビジネス ルールのセットを継承します。その後、必要に応じてそれぞれの新規ドメインのビジネス ルールを変更できます。顧客ドメインテンプレートに対して加えた変更は、それ以降に新しく作成されるドメインにだけ反映されます。顧客ドメイン テンプレートの詳細については、[顧客ドメイン テンプレート](#)、(112 ページ) を参照してください。

新規ドメインは、ビジネス ルールに加えてデフォルトのユーザ権限情報も継承し、そのドメイン内に配置されるユーザ用の Inventory Manager Instance Browser、サービスエリア、および音声端末内にフォルダが自動作成されます。

ルールはデータ主導型 (Provisioning では [データ (Data)] フィールドを使用)、有効/無効主導型、またはその両方にすることができます。どちらが該当するかは、ルールの説明で示されます。



(注) [データ (Data)] フィールドまたは [有効 (Enabled)] フィールドが該当しない一部のビジネス ルールでは、[N/A] と表示されます。ユーザがフィールドに入力した事項のうち、[N/A] とマークされているものはすべてシステムによって無視されます。

## ビジネス ルールの説明

表 19: [ビジネス ルールの説明](#) では、すべての標準的なビジネス ルールをアルファベット順に示し、それらのデフォルトのデータと有効な設定についても説明します。

表 19: ビジネス ルールの説明

| ルール                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| AssignSoftPhoneName                               | <p>ワークフローでプロビジョニングされている SoftPhone に、一意の名前を割り当てます。この名前はコール プロセッサが、[データ (Data) ]フィールドの値をプレフィックスとして使用し、そこに CTI ポートのカウンタ番号+1 を追加して自動的に生成します。コール プロセッサはこのプレフィックスと CTI ポートのカウンタ番号の組み合わせがすでに使用中であるかどうかをチェックし、使用中の場合は一意の組み合わせになるまで CTI ポートのカウンタ番号に 1 を加えていきます。</p> <p>Data SoftPhone_</p> <p>Enabled true (n/a)</p> |
| [すべてのユーザを同期 (Sync All Users) ] (コール プロセッサ)        | <p>有効な場合は、ドメインの同期時に、ドメイン内のすべてのコール プロセッサの全ユーザ アカウントが、同期中のドメインに割り当てられます。無効な場合は、ドメインと同じ部署のユーザだけがドメインに割り当てられます。</p> <p>Data &lt;blank&gt;</p> <p>Enabled false</p>                                                                                                                                              |
| [すべてのユーザを同期 (Sync All Users) ] (Unity Connection) | <p>このルールが有効な場合は、特定のユニファイドメッセージ プロセッサの全ユーザ アカウントが Provisioning ドメインに割り当てられます。そうでない場合は、特定のユニファイドメッセージ プロセッサのユーザ アカウントのうち、コール プロセッサに一致するユーザ アカウントがあるものだけが割り当てられます。</p> <p>Data &lt;blank&gt;</p> <p>Enabled false</p>                                                                                          |
| [既存のユーザのみを同期 (Sync Only Existing Users) ]         | <p>有効な場合、ドメインの同期時に新しいユーザは作成されません。ドメイン内の既存のユーザのサービスだけが同期されます。</p> <p>Data &lt;blank&gt;</p> <p>Enabled false</p>                                                                                                                                                                                             |

| ルール                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [部署名が一致 (Match Department) ]      | <p>有効な場合、コールプロセッサのユーザアカウントは、指定された値リスト内の値と一致する部署名コード値に基づいて、この Provisioning のドメインに関連付けられます。部署名コード値のリストは、二重引用符 (") で囲み、セミコロン (;) デリミタで区切る必要があります。部署名コード値には、ワイルドカード文字 (*または%) を含めることができます。</p> <p>たとえば、[データ (Data) ]フィールドでは次のように指定します。</p> <pre> "Dept 1";";";"Dept 2" </pre> <p>コールプロセッサのユーザアカウントのうち、Dept 1 または Dept 2 に属するもの、あるいは部署名コードが設定されていないものが、ドメインに関連付けられます。</p>                                                                                                                                                                                             |
| [デバイスプールが一致 (Match Device Pool) ] | <p>有効な場合、コールプロセッサのユーザアカウントは、[データ (Data) ]フィールドでデバイスプール値が指定された電話がある場合に限り、この Provisioning のドメインに関連付けられます。デバイスプール値には、ワイルドカード文字 (*または%) を含めることができます。また、Cisco Unified Communications Manager の名前の値 (Provisioning のコールプロセッサ名) をプレフィックスにする必要があります。値は二重引用符 (") で囲み、セミコロン (;) デリミタで区切る必要があります。</p> <p>次に例を示します。</p> <pre> "CUCM1:DevicePool1";"CUCM2:Device*2" </pre> <p>コールプロセッサ CUCM1 にデバイスプール DevicePool1 の電話またはリモート接続先プロファイルを持つユーザ、およびコールプロセッサ CUCM2 にデバイスプール DevicePool2 の電話またはリモート接続先プロファイルを持つユーザが、ドメインに関連付けられます。</p> <pre> Data &lt;blank&gt; Enabled false </pre> |

| ルール                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ロケーションが一致 (Match Location) ]  | <p>有効な場合、コール プロセッサのユーザ アカウントは、[データ (Data) ]フィールドでロケーション値が指定された電話がある場合に限り、この Provisioning ドメインに関連付けられます。ロケーション値には、ワイルドカード文字 (*または%) を含めることができます。また、Cisco Unified Communications Manager の名前の値 (Provisioning のコール プロセッサ名) をプレフィックスにする必要があります。値は二重引用符で囲み、セミコロン (;) デリミタで区切る必要があります。</p> <p>次に例を示します。</p> <pre>"CUCM1:Location1";"CUCM2:Loc*2"</pre> <p>コール プロセッサ CUCM1 にロケーション Location1 の電話を持つユーザ、およびコール プロセッサ CUCM2 にロケーション Location2 の電話を持つユーザが、ドメインに関連付けられます。</p> <pre>Data &lt;blank&gt; Enabled false</pre> |
| ChangeUnityPasswordOnNextLogin | <p>有効な場合、Cisco Unity または Cisco Unity Connection のユーザは、Provisioning でパスワードがリセットされた後、強制的にパスワードの変更を求められます。このルールでは[データ (Data) ]フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <pre>Data &lt;blank&gt; Enabled false</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ChangeCCMPasswordOnNextLogin   | <p>有効な場合、Cisco Unified Communications Manager ユーザは、Provisioning Manager からパスワードがリセットされた後、強制的にパスワードの変更を求められます。このルールでは[データ (Data) ]フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <pre>Data &lt;blank&gt; Enabled false</pre> <p>ChangeCCMPasswordOnNextLogin ルールは、Cisco Unified Communications Manager でユーザの追加中にデフォルトで有効になります。そのため、Provisioning でユーザのオーダーをプロビジョニングする場合は、ユーザの ChangeCCMPasswordOnNextLogin ルールが有効になっていることを確認してください。</p>                                                                                         |

| ルール                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ChangeProvisioningPasswordOnNextLogin | <p>有効な場合、Cisco Unified Provisioning Manager ユーザは、Provisioning Manager からパスワードがリセットされた後、強制的にパスワードの変更を求められます。このルールでは[データ (Data) ]フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>Data &lt;blank&gt;<br/>Enabled true</p>                                                              |
| CreateSelfCareAccounts                | <p>有効な場合、新しいユーザが独自にオーダーを行うことができるように、新しいユーザのログインアカウントが自動的に作成されます。このルールが無効になっている場合も、ログインアカウントは作成されますが、そのアカウントで独自にオーダーを行うことはできません。</p> <p>Data &lt;blank&gt;<br/>Enabled true</p>                                                                                         |
| DefaultCallManagerPassword            | <p>新しい Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications Manager Express のアカウントに対し、ユーザの電話または回線の初回オーダー時に作成されたデフォルトのパスワードを設定します。このパスワードは、Cisco SoftPhone でユーザが割り当てた回線にアクセスする際にも使用できます。最低文字数は 5 文字です。</p> <p>Data admin123<br/>Enabled true (n/a)</p> |
| DefaultCallManagerPIN                 | <p>ユーザを Cisco Unified Communications Manager でアクティブ化する際に使用するデフォルトの暗証番号を設定します。Cisco Unified Communications Manager では、ユーザは回線または電話がそのユーザについてオーダーされたときに初めてアクティブ化されます。このルールは、初回に暗証番号を設定する際以外、Provisioning では使用されません。最低文字数は 5 文字です。</p> <p>Data 12345<br/>Enabled true</p>  |

| ルール                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DefaultCUPMPassword            | <p>Self-Care アカウントのデフォルトのパスワードを指定します。デフォルトではユーザ パスワードは空で、管理者がユーザ ウィザードでユーザのパスワードを変更するまでユーザはログインできません。デフォルトパスワードを指定するには、[データ (Data) ]フィールドでデフォルトパスワードを指定し、[有効 (Enabled) ]を[はい (True) ]に設定する必要があります。</p> <p>(注) 新しいパスワード値は、パスワードポリシーに一致する必要があります。</p> <p>Data &lt;blank&gt;</p> <p>Data true</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| DefaultDeviceProfile           | <p>エクステンション モビリティ対応の電話に使用します。デフォルト設定の[なし (None) ] (または空欄のまま) では、このルールは使用されません。</p> <p>Data NONE</p> <p>Enabled true (n/a)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| DefaultUnitySubscriberPassword | <p>Cisco Unified Messaging システム (Cisco Unity、Cisco Unity Connection など) 上の新しいボイスメールアカウントにデフォルトパスワードを設定します。ワークフローでは [データ (Data) ]の値が初期パスワードとして使用されます。Cisco Unity または Cisco Unity Connection では、この値を整数にする必要があります。Cisco Unity および Cisco Unity Connection では、12345 のような明白な値は拒否されます。このルールでは [有効 (Enabled) ]フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>DefaultUnitySubscriberPassword ルールでは、[データ (Data) ]フィールドに入力されたデフォルトパスワードの長さは検証されません。場合によっては、Cisco Unity および Cisco Unity Connection に異なるクレデンシャルポリシーが設定されていることがあります。</p> <p>Provisioning の管理者は、デバイスに設定されているポリシーに応じて、これらのルールにデフォルトパスワードを入力する必要があります。これらのルールに入力されたデフォルトパスワードがデバイスで受け入れられない場合、デフォルト操作へのリセットクレデンシャルに失敗し、デバイスからエラーメッセージが返されます。</p> <p>Data 053421</p> <p>Enabled true (n/a)</p> |



| ルール                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DefaultCallManagerDigestCredentials | <p>ダイジェスト クレデンシャルのデフォルト パスワードを指定します。デフォルト パスワードを指定するには、[データ (Data)] フィールドにパスワードを入力し、[有効 (Enabled)] を [はい (True)] に設定する必要があります。</p> <p>(注) 新しいパスワード値は、パスワード ポリシーに一致する必要があります。</p> <p>Data &lt;blank&gt;<br/>Enabled true</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| DefaultUserType                     | <p>新しいユーザにデフォルトで割り当てるユーザ タイプを指定します。[データ (Data)] フィールドの値には、有効なユーザタイプの名前が含まれていなければなりません。</p> <p>(注) このルールは、組織の大部分を構成するユーザ 権限に設定する必要があります。これにより、ドメイン同期の際に大部分のユーザが正しく設定されます。</p> <p>Data Employee<br/>Enabled true (n/a)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| DefaultWebAccessPassword            | <p>Cisco Unified Messaging システム (Cisco Unity、Cisco Unity Connection など) 上の新しいボイスメール アカウントに Web アクセス用のデフォルト パスワードを設定します。ワークフローでは [データ (Data)] の値が初期パスワードとして使用されます。このルールでは [有効 (Enabled)] フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>DefaultWebAccessPassword ルールでは、[データ (Data)] フィールドに入力されたデフォルト パスワードの長さは検証されません。場合によっては、Cisco Unity および Cisco Unity Connection に異なるクレデンシャル ポリシーが設定されていることがあります。</p> <p>Provisioning の管理者は、デバイスに設定されているポリシーに応じて、これらのルールにデフォルト パスワードを入力する必要があります。これらのルールに入力されたデフォルト パスワードがデバイスで受け入れられない場合、デフォルト操作へのリセット クレデンシャルに失敗し、デバイスからエラー メッセージが返されます。</p> <p>Data Admin123<br/>Enabled true (n/a)</p> |

| ルール                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DescriptionString        | <p>新しい電話、新しいユーザ デバイス プロファイル (EM_Access)、および新しいユーザに使用されるデフォルトの説明ストリングです。FIRSTNAME、LASTNAME、USERID、および EXTENSION というキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、ユーザ ID および内線番号に置き換えられます (この情報はユーザの電話に追加される最初の行です)。</p> <p>オーナー変更オーダーの場合、このルールからデフォルト値が自動的に適用されます。新しい電話オーナーの名前、姓、ユーザ ID、内線番号が使用されます。</p> <p>(注) 電話の説明を以前に設定したままにする場合、このルールを無効にします。</p> <p>Data FIRSTNAME LASTNAME USERID EXTENSION</p> <p>Enabled true (n/a)</p> |
| DNAutoReservation        | <p>有効な場合、回線がキャンセルされると、回線に関連付けられた電話番号が自動的に元のオーナーのために予約されます。</p> <p>Data &lt;blank&gt;</p> <p>Enabled false</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| DNAutoReservationTimeout | <p>電話番号が [予約済み (Reserved)] 状態で保持される期間 (日:時間) を指定します。</p> <p>Data 7:0</p> <p>Enabled true</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ExternalNumberMasks      | <p>有効な場合、オーダーのサービス エリアに関連付けられた [外線番号 (External Number)] マスクが、このサービス エリアに対してオーダーされた回線の回線表示の [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] 値として使用されます。電話の変更をオーダーする場合、このルールの値は前回の電話サービスのオーダーから継承されます。ただし前回のオーダー時に値が設定されなかった場合は、[サービスエリア (Service Area)] の値が使用されます。</p> <p>(注) このルールには、Cisco Unified Communications Manager で外部電話マスクに使用するものと同じ値を使用できます。</p> <p>Data &lt;blank&gt;</p> <p>Enabled true</p>     |

| ルール                                   | 説明                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| IsAuthorizationRequiredForAddOrder    | <p>有効な場合、プロビジョニングを実行するには、まず承認者が追加オーダーを承認する必要があります。無効な場合は、自動的に追加オーダーが承認されます。</p> <p>(注) このルールは、バッチプロビジョニングまたは Provisioning NBI を使用してオーダーを行う場合には適用されません。</p> <p>Data &lt;blank&gt;<br/>Enabled false</p> |
| IsAuthorizationRequiredForOrder       | <p>有効な場合、プロビジョニングを実行するには、まず承認者がオーダーを承認する必要があります。無効な場合は、自動的にオーダーが承認されます。</p> <p>(注) このルールは、バッチプロビジョニングまたは Provisioning NBI を使用してオーダーを行う場合には適用されません。</p> <p>Data &lt;blank&gt;<br/>Enabled false</p>     |
| IsAuthorizationRequiredForChangeOrder | <p>有効な場合、プロビジョニングを実行するには、まず承認者が変更オーダーを承認する必要があります。無効な場合は、自動的に変更オーダーが承認されます。</p> <p>(注) このルールは、バッチプロビジョニングまたは Provisioning NBI を使用してオーダーを行う場合には適用されません。</p> <p>Data &lt;blank&gt;<br/>Enabled false</p> |

| ルール                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| LineDisplayString         | <p>電話回線の内部発信者 ID の表示形式の構成に使用されるテンプレート ストリングです。無効な場合は、FIRSTNAME LASTNAME がデフォルトに設定されます。このルールは、サービス エリアで Cisco Unified Communications Manager Express がコールプロセッサとなっている場合は適用されません。</p> <p>[表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID))] プロビジョニング属性のデフォルト値は、このルールから適用されます。バッチプロビジョニングまたは Provisioning ユーザ インターフェイスで CUPM_BLANK または空の値を指定する場合、[表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID))] プロビジョニング属性はこのルールで設定されます。</p> <p>したがって、[表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID))] プロビジョニング属性に空の値を設定する場合は、このルールを有効にして、値が空であることを確認する必要があります。</p> <p>(注) コールプロセッサの場合は、[名 (First Name)] および [姓 (Last Name)] のフィールドに入力できる文字の合計数は 30 文字になります。この上限を超えた状態でオーダーを作成した場合、コールプロセッサからエラーが送信されます。</p> <p>Data FIRSTNAME LASTNAME</p> <p>Enabled true</p> |
| MonitorPhoneReturnEnabled | <p>有効な場合、[データ (Data)] フィールドで指定したユーザグループに割り当てられた追加のワークフローアクティビティを実装することで、電話が返されたかどうかを追跡します。</p> <p>Data Shipping</p> <p>Enabled false</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| NameDialingInfo           | <p>このストリングは、自動アテンダント名ダイヤル ストリングの構成に使用されます。FIRSTNAME LASTNAME は置き換えられますが、EXTENSION は置き換えられません。</p> <p>(注) この機能を使用できるのは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 3.3.3 だけです。</p> <p>Data FIRSTNAME LASTNAME</p> <p>Enabled true</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

| ルール                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PhoneAssignmentDoneBy | <p>電話のオーダー ワークフローのうち、割り当ての手順の遂行を担当するユーザ グループを指定します。</p> <p>有効なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [受領 (Receiving) ]</li><li>• [出荷 (Shipping) ]</li><li>• [割り当て (Assignment) ]</li><li>• [オーダーオーナー (OrderOwner) ] (オーダーを開始したユーザ)</li><li>• [なし (None) ] (ワークフローにより自動的に電話と MAC アドレスを割り当てる)</li></ul> <p>Data None</p> <p>Enabled true(n/a)</p> <p>(注) このルールは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみ使用できます。Prime Collaboration Provisioning Standard は、PhoneAssignmentDoneBy ルールをサポートしていません。</p> |

| ルール                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PhoneReceiptDoneBy      | <p>電話のオーダー ワークフローのうち、受領の手順の遂行を担当するユーザまたはユーザ グループを指定します。受領手順は、ユーザが実際に電話を受領したことを示します。</p> <p>有効なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [受領 (Receiving) ]</li> <li>• [出荷 (Shipping) ]</li> <li>• [割り当て (Assignment) ]</li> <li>• [オーダーオーナー (OrderOwner) ] (オーダーを開始したユーザ)</li> <li>• [なし (None) ] (手順をスキップ)</li> </ul> <p>Data None</p> <p>Enabled true (n/a)</p> <p>(注) このルールは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみ使用できます。Prime Collaboration Provisioning Standard は、PhoneReceiptDoneBy ルールをサポートしていません。</p> |
| PhoneReservationTimeout | <p>電話がシステム内で予約済みのままとなる期間 (日数) を指定します。無効な場合、電話は無期限で予約済みとなります。</p> <p>Data 10</p> <p>Enabled true (n/a)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

| ルール                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PhoneShippingDoneBy | <p>電話のオーダー ワークフローのうち、出荷の手順の遂行を担当するユーザを指定します。有効なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [受領 (Receiving) ]</li> <li>• [出荷 (Shipping) ]</li> <li>• [割り当て (Assignment) ]</li> <li>• [オーダーオーナー (OrderOwner) ] (オーダーを開始したユーザ)</li> <li>• [なし (None) ] (手順をスキップ)</li> </ul> <p>Data None</p> <p>Enabled true (n/a)</p> <p>(注) このルールは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみ使用できます。Prime Collaboration Provisioning Standard は、PhoneShippingDoneByルールをサポートしていません。</p>                                                                                                                |
| PseudoUserID        | <p>[関連付けられたユーザ (Associated Users) ]機能を使用せずに[電話のエクスポート (Export Phones) ]によって生成されたエクスポートされたデータ ファイルの[NewUserID]フィールドを構築するために使用されます。次のキーワードがサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DIRECTORYNUMBER : 電話の 1 行目の [電話番号-ルートパーティション (Directory Number-Route Partition) ] の値に置き換えられます。</li> <li>• MACADDRESS : (Softphone の) MAC アドレスまたはデバイス名に置き換えられます。</li> <li>• RANDOMNUMBER : 自動的に生成される 6 桁のランダムな番号に置き換えられます。</li> </ul> <p>このルールが無効な場合、[関連付けられたユーザ (Associated Users) ]機能を使用せずに[電話のエクスポート (Export Phones) ]を使用することはできません。</p> <p>Data pseudo-DIRECTORYNUMBER</p> <p>Enabled true (n/a)</p> |

| ルール                                                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PurgeUponUmRemoval                                                        | <p>有効な場合、ユーザの Cisco Unity アカウントが削除されると、ユーザの電子メールおよびボイスメールはシステムから消去されます。</p> <p>(注) このルールは、[データ (Data) ]フィールドで [はい (True) ] または [いいえ (False) ] を指定することで、有効と無効を切り替えます。</p> <p>Data false</p> <p>Enabled true (n/a)</p>                                                           |
| [UnityConnectionからプライマリユーザを同期 (Sync Primary User From Unity Connection) ] | <p>有効な場合、ユーザの情報は関連付けられたユニファイドメッセージプロセッサのアカウントから更新されます。そうでない場合、これらの情報はコールプロセッサから更新されます。ルールが有効な場合は、ユニファイドメッセージプロセッサ ID も指定できます。ユーザが複数のユニファイドメッセージプロセッサにアカウントを持っている場合、この ID が優先されます。この値は空欄にしておくことも可能で、その場合は優先順位を設定しないことを意味します。</p> <p>Data &lt;blank&gt;</p> <p>Enabled false</p> |

## ビジネス ルールの設定

ビジネスルールを変更する場合は、まずドメインを選択する必要があります。変更できるのは、ルールの値と、ルールを有効にするかどうかです。ルール名や説明は変更できません。

すべてのビジネスルールには次のようなプロパティがあります。[データ (Data) ] および [有効 (Enabled) ] の各フィールドを修正できます。

| プロパティ               | 説明                                                           |
|---------------------|--------------------------------------------------------------|
| [ルール名 (Rule Name) ] | ルールの名前。                                                      |
| [説明 (Description) ] | ルールの詳細な説明。                                                   |
| [データ (Data) ]       | ルールに設定する値。                                                   |
| [有効 (Enabled) ]     | ルールを適用するかどうかを指定します。有効な値は [はい (true) ] または [いいえ (false) ] です。 |





(注) 各ビジネス ルールについての資料は注意深く読み、[データ (Data) ]プロパティと [有効 (Enabled) ]プロパティを適切に設定してください。



(注) Provisioning には、ビジネスルールのデフォルトのリセット機能はありません。ビジネスルールの設定を変更した後でデフォルト設定に戻したくなった場合は、手動で設定を変更する必要があります。

次の手順は、AssignSoftPhoneName ルールを例に、ルールのプロパティを変更する方法を説明したものです。

### 手順

- ステップ 1 [管理 (Administration) ]>[システムの設定 (System Configuration) ]>[ルール (Rules) ]を選択します。
- ステップ 2 [ルール設定 (Rule Configuration) ]ページで、ルールを変更するドメインを選択します。
- ステップ 3 [ルールの設定 (Configure Rule) ]からルールを選択します。
- ステップ 4 [編集 (Edit) ]アイコンをクリックします。[データ (Data) ]および[有効 (Enabled) ]の各フィールドがアクティブになります。
- ステップ 5 必要な変更を行って、[保存 (Save) ]をクリックします。AssignSoftPhoneName ルールに変更が加えられます。  
ドメイン同期ルールを設定するには、[ドメイン同期ルールの設定 (Configure Domain Synchronization Rules) ]を選択し、同期ルールを選択します。詳細については、[ドメイン同期に関するビジネスルールの設定](#)、(80 ページ) を参照してください。

Provisioning を設定する場合は、ビジネス ルールの使用方法と Provisioning のコンポーネントの動作方法を計画することが重要です。少なくとも、次のルールについて考慮する必要があります。

- AssociateAllUsersInCallProcessor
- CreateSelfCareAccounts
- EmailSender
- IsAuthorizationRequiredForAddOrder
- IsAuthorizationRequiredForOrder
- IsAuthorizationRequiredForChangeOrder
- MailHost
- OrderProvisionedEmailTemplate
- OrderRejectedEmailTemplate
- PhoneAssignmentDoneBy

- PhoneReceiptDoneBy
- PhoneShippingDoneBy

## ビジネス ルールの設定の使用シナリオ

ユーザのアクセス、製品、およびオーダーの設定例について、次のリストで説明します。

表 20: ビジネス ルールの設定の使用シナリオ

| 使用シナリオ      | ビジネス ルール                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ユーザのアクセスの設定 | <p>次のビジネス ルールを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザが回線を使用して、自動的にその番号を自分用に予約する場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [DNAutoReservation] : 予約の切り替え</li> <li>◦ [DNReservationTimeout] : 番号を予約する期間</li> </ul> </li> <li>• ユーザのセルフケア アカウントを設定する <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [CreateSelfCareAccounts]</li> <li>◦ [DefaultCUPMPassword]</li> </ul> </li> <li>• 新規ユーザのデフォルトのユーザ タイプを割り当てる <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [DefaultUserType]</li> </ul> </li> <li>• 電話インベントリを管理するために特定のドメインのユーザを割り当てる <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [DomainPhoneManagement]</li> <li>◦ [PhoneReservationTimeout]</li> </ul> </li> <li>• ユーザ タイプを管理するためにユーザを割り当てる <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [DomainUserTypeConfiguration]</li> </ul> </li> </ul> |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 製品の設定 | <ul style="list-style-type: none"><li>• Cisco Unified Communications Manager で名前を CTI ポートに割り当てる<ul style="list-style-type: none"><li>◦ [AssignSoftPhoneName] : デフォルト値についてはルールを参照</li></ul></li><li>• 電話番号を予約する<ul style="list-style-type: none"><li>◦ [DNReservationTimeout]</li></ul></li><li>• 電話がキャンセルされた後に返されたかどうかを追跡する<ul style="list-style-type: none"><li>◦ [MonitorPhoneReturnEnabled]</li></ul></li></ul> |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サービスの設定 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unity アカウントまたは Cisco Unified Communications Manager アカウントにデフォルトのパスワードを使用する       <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [DefaultCallManagerPassword]</li> <li>◦ [DefaultCallManagerPIN]</li> <li>◦ [DefaultUnitySubscriberPassword]</li> </ul> </li> <li>• オーダーが却下されるか、または完了したときに電子メールを送信する（電子メールを送信しないオプションもある）       <p style="margin-left: 20px;">（注） Provisioning で電子メール機能を使用するには、[EmailSender] と [MailHost] の両方を有効にする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [EmailSender]</li> <li>◦ [MailHost]</li> <li>◦ [OrderProvisionedEmailTemplate]</li> <li>◦ [OrderRejectedEmailTemplate]</li> </ul> </li> <li>• 承認が必要なオーダーのタイプをチェックする       <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [IsAuthorizationRequiredForAddOrder]</li> <li>◦ [IsAuthorizationRequiredForOrder]</li> <li>◦ [IsAuthorizationRequiredForChangeOrder]</li> </ul> </li> <li>• 電話の割り当て、出荷、および受け取りを処理する       <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [PhoneAssignmentDoneBy]</li> <li>◦ [PhoneReceiptDoneBy]</li> <li>◦ [PhoneShippingDoneBy]</li> </ul> </li> <li>• ボイスメール/電子メールの一方または両方のアカウントがキャンセルされたときに、キャンセルされたボイスメール/電子メールの一方または両方のアカウントのメッセージを削除する       <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [PurgeUponUmRemoval]</li> </ul> </li> </ul> |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## バッチ プロビジョニング

ユーザを作成してサービスを自動的にプロビジョニングするには、バッチプロビジョニングを使用します。バッチプロビジョニングを使用すると、新しい事業所の展開やレガシーシステムからの移行を簡単に行うことができます。

1人のユーザを扱うのであれば、ユーザサービスを個別にオーダーできます。しかし、大量のサービスをプロビジョニングするときは、これらを1つのバッチにまとめたほうが便利です。バッチプロビジョニングを使用すると、複数のタイプのオーダーを含む単一のバッチを作成できます。

展開された Cisco Unified Communications アプリケーション上でのみ実行する BAT ファイルとは異なり、Provisioning のバッチは Provisioning で管理される 1 つまたは多数のアプリケーションで実行できます。

また、種類が異なる複数のサービスを1つのバッチ操作で処理することもできます。たとえば、電話とボイスメールの追加と変更を1つのバッチにまとめることが可能です。

バッチは、Provisioning にアップロードした後、ただちに実行できる他、スケジュールして別の日に実行することもできます。

## バッチ操作ファイルの作成

バッチプロビジョニングを実行するには、次の操作を実行する必要があります。

- 1 ユーザとプロビジョニングするサービスを記述したスプレッドシートを作成し（通常は電話と回線を含める）、そのスプレッドシートをタブ区切りのテキストファイル（バッチ操作ファイル）に変換します。



- (注) Excel を使用してバッチファイル (.txt) を編集し、更新されたスプレッドシートをタブ区切りのテキストファイルとして保存する場合は、特殊文字（特にカンマ）が含まれる値に二重引用符が追加されることがあります。これは、スプレッドシートをタブ区切りのテキストファイルに変換するときに、Excel によって特殊文字に二重引用符が追加されるためです。これらの引用符は、バッチプロジェクトを実行する際にエラーの原因となる可能性があります。これを避けるには、バッチプロジェクトを実行する前にタブ区切りのテキストファイルから二重引用符を削除する必要があります。
- 2 バッチ操作ファイルを Provisioning のバッチプロジェクトにアップロードします。
  - 3 バッチプロジェクトを実行するか、後で実行するためにスケジュールします。Provisioning では、ファイルに記述されたデータに基づいて、ユーザの作成と、回線および電話のプロビジョニングが行われます。

スケジュールしたプロジェクトのリスト、および実行中のプロジェクトの詳細を表示することもできます。

オーダーのプロビジョニング中は、ステータスが [完了 (Completed)] と表示されます。[完了 (Completed)] リンクをクリックして、目的のデバイスに関連する更新を表示します。

バッチ操作ファイルには、カラム ヘッダーを 1 行含める必要があります。データ カラムは任意の順序でかまいませんが、タブ区切りのテキストファイルに保存する必要があります。データの編集には、最終的にここで示すガイドラインに準拠したファイルが作成されるなら、どのようなテキストエディタを使用してもかまいません。たとえば、Microsoft Excel でバッチファイルを作成し、それをタブ区切りのファイルとしてエクスポートできます。

## バッチ操作ファイルのフィールド

### バッチ操作ファイルに必要なカラム

次の表に、すべてのバッチ操作ファイルに必要なカラムを示します。

表 21: バッチ操作ファイルに必要なカラム

| カラム                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [オーダータイプ (Order Type)] | <p>オーダータイプ。有効なオプションは次のとおりです（大文字と小文字が区別されます）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• add</li> <li>• cancel</li> <li>• change: ボイスメール、電子メール、またはユニファイドメッセージングには使用できません。</li> <li>• addUser: 複数のユーザを一度に追加します。1人のユーザとそのユーザの製品を追加する場合は、通常、add オーダータイプを使用します。一度に複数のユーザを追加する場合は、addUser オーダータイプを使用します。</li> <li>• changeUser: 複数のユーザの情報を一度に変更します。</li> <li>• deleteUser: 複数のユーザを一度に削除します。</li> <li>• addServiceArea: 複数のサービスエリアを一度に追加します。</li> <li>• changeServiceArea: 複数のサービスエリアを一度に変更します。</li> <li>• deleteServiceArea: 複数のサービスエリアを一度に削除します。</li> <li>• addServiceTemplate: 複数のサービス テンプレートを一度に追加します。</li> <li>• changeServiceTemplate: 複数のサービス テンプレートを一度に変更します。</li> </ul> |

| カラム                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 以下は、同報リストのバッチ プロビジョニングに固有です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ Add-New-Members : 同報リストに新しいメンバーを追加します。</li> <li>◦ Remove-Members : 同報リストからメンバーを削除します。</li> </ul> </li> <li>• addDevice : 複数のデバイスを一度に追加します。</li> <li>• updateDevice : 複数のデバイスを一度に変更します。</li> <li>• deleteDevice : 複数のデバイスを一度に削除します。</li> <li>• 以下は、アナログ電話のバッチ プロビジョニングに固有です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ add : アナログ電話またはアナログ電話と回線を追加します。 アナログ音声ゲートウェイ コンフィギュレータがロードされ、音声ポート IOS テンプレートとダイヤル ピア IOS テンプレートがプロビジョニングされるアナログ電話を追加します。</li> <li>◦ change : アナログ電話を変更または交換します。</li> <li>◦ cancel : アナログ電話をキャンセルします。 Unified Communications Manager内で電話がキャンセルされ、デバイスから音声ポートとダイヤル ピアが削除されます。</li> </ul> </li> </ul> |
| [ユーザID (User ID) ] | <p>オーダーをどのユーザ ID に対してプロビジョニングするのかを指定します。</p> <p>addServiceArea、changeServiceArea、および deleteServiceArea の場合は、このフィールドを空のままにできます。</p> <p>すべてのインフラストラクチャ製品で、ユーザ ID は <i>icadmin</i> です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| カラム                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [製品名 (Product Name) ]                  | <p>製品名。入力値はオーダータイプによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Add orders</b> : オーダー可能な製品 (バンドルを含む) にする必要がありますが、サブタイプは指定できません (たとえば、「Cisco 7960」ではなく「Endpoint」を指定します)。アナログ電話をオーダーする場合は、ipt.properties ファイル内の dfc.ipt.cisco.callmanager.analog_phone_support を Y に更新します。</li> <li>• <b>Cancel</b> : ユーザのレコードに含まれるオプションの製品名を指定できます。これにはバンドルは含まれません。従属オブジェクトは、その親が削除されると自動的に削除されます。</li> <li>• <b>Change</b> : オーダー可能な製品にする必要があります。</li> <li>• <b>addUser</b> および <b>deleteUser</b> : 空白のままにします (何かを入力しても無視されます)。</li> <li>• <b>addServiceArea</b>、<b>changeServiceArea</b>、<b>deleteServiceArea</b>、<b>addServiceTemplate</b>、<b>changeServiceTemplate</b> : 空白のままにします。</li> </ul> |
| [サービスエリア (Service Area) ]              | <p>オーダーの対象となるサービス エリアの名前。</p> <p><b>addUser</b> および <b>deleteUser</b> の場合は空白のままにします (何かを入力しても無視されます)。</p> <p>すべてのインフラストラクチャ製品について、プロセッサ名が指定されている場合、サービスエリアは不要です。プロセッサ名が指定されていない場合は、[サービスエリア (Service Area) ]と[ドメイン (Domain) ]の名前が必要です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template) ] | <p>次の条件に該当する場合は、必ず入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品名が電話 (または電話を含むバンドル) またはエクステンションモビリティアクセス (またはエクステンションモビリティアクセスを含むバンドル) である。</li> <li>• 電話タイプが仮想電話 ([CTI ポート (CTI Port) ]など) でない。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager に関連付けられたサービス エリアでオーダーされた。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [ドメイン (Domain) ]                       | ユーザまたはサービスに関連付けられたドメインの名前。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [エンドポイントタイプ (Endpoint Type) ]          | エンドポイントのタイプ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |



| カラム                      | 説明                                                                                                                        |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MACアドレス (MAC Address) ] | エンドポイントの MAC アドレス。<br>moveService : Cisco IP Communicator、コール プロセッサ バージョン 5 未満では、MAC アドレスを使用します。バージョン 5 以上では、デバイス名を使用します。 |

#### ユーザの新規作成に関連するバッチ操作ファイルのカラム

次の表に、ユーザを新規作成するときに使用される追加のカラムを示します（[バッチ操作ファイルのフィールド](#)、[\(138 ページ\)](#) は、すべてのバッチ操作ファイルに必須のカラムです）。

表 22: ユーザの新規作成に関連するバッチ操作ファイルのカラム

| カラム                    | 説明                                                                                                                                                                |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名 (First Name) ]      | (オプション) ユーザの名。                                                                                                                                                    |
| [姓 (Last Name) ]       | ユーザの姓。                                                                                                                                                            |
| [ドメイン (Domain) ]       | 新規ユーザを配置するドメイン。                                                                                                                                                   |
| [電話番号 (Phone Number) ] | (オプション) 新規ユーザの電話番号。                                                                                                                                               |
| [電子メール (Email) ]       | (オプション) 新規ユーザの電子メール アドレス。                                                                                                                                         |
| [部署名 (Department) ]    | (オプション) 新規ユーザの部署名。                                                                                                                                                |
| [ユーザ権限 (User Roles) ]  | (オプション) 新しいユーザのユーザ権限。1 名のユーザに対して複数のユーザ権限を追加できます (ユーザ権限はセミコロンで区切ります)。<br><br>(注) ドメインでサポートされていないユーザ権限は無視されます。有効なユーザ権限がユーザに割り当てられていない場合、そのユーザは作成されず、バッチ オーダーは失敗します。 |
| [PMPassword]           | (オプション) Provisioning のユーザ パスワード。                                                                                                                                  |

#### ユーザの削除に関連するバッチ操作ファイルのカラム

次の表に、ユーザを削除するときに使用される追加のカラムを示します（[バッチ操作ファイルのフィールド](#)、[\(138 ページ\)](#) は、すべてのバッチ操作ファイルに必須のカラムです）。

表 23: ユーザの削除に関連するバッチ操作ファイルのカラム

| カラム              | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ドメイン (Domain) ] | (オプション) ユーザが存在するドメイン。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [OnlyFromCUPM]   | <p>(オプション) このカラムが有効な場合 (Y に設定されている場合)、ユーザのユーザレコード上のサービスはすべてグローバルリソース名前空間に移動し、実際のデバイス上のユーザまたはそのサービスは削除されません。このカラムが無効な場合、ユーザは Provisioning とデバイスの両方から削除されます。</p> <p>ヒント: [OnlyFromCUPM] を有効にしてあるユーザを削除した場合、そのユーザは削除後にドメインを同期したときに再び作成され (ユーザがドメイン同期ルールに適合する場合)、対応するサービスがユーザのユーザレコードに追加されます。別の方法として、適切なドメインに手動でユーザを作成した後、ドメインの同期を実行して対応するサービスを取得することもできます。これにより、ドメイン間でユーザを移動したり、サービスエリア間でユーザサービスを移動したりすることが可能となります。</p> |

#### デバイスの追加、変更、または削除のためのバッチ操作ファイルのカラム

次の表に、デバイスを追加するときに使用される追加のカラムを示します。

表 24: デバイスの追加、変更、または削除のためのバッチ操作ファイルのカラム

| カラム                                                                     | 説明                                            |
|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| [DeviceType]                                                            | デバイスのタイプ。                                     |
| [IPAddress]                                                             | デバイスの IP アドレス。                                |
| [DeviceName]                                                            | デバイスの名前。                                      |
| [NewDevicename]                                                         | デバイスの名前を変更し、新しい名前を指定します。                      |
| [Capability <number>]                                                   | 機能に割り当てられる番号。                                 |
| [Capability <number>] が Unified Communications Manager の場合、次のヘッダーが有効です。 |                                               |
| • Capability<number> Version                                            | Unified Communications Manager デバイスのバージョン。    |
| • Capability<number>IPAddress                                           | Unified Communications Manager デバイスの IP アドレス。 |

| カラム                                                      | 説明                                                     |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| • Capability<number>Action                               | Unified Communications Manager デバイスにアクセスするアクション。       |
| • Capability<number> UserName                            | Unified Communications Manager デバイスにアクセスするためのユーザ名。     |
| • Capability<number> Password                            | Unified Communications Manager デバイスにアクセスするためのパスワード。    |
| • Capability<number> ConfirmPassword                     | Unified Communications Manager デバイスにアクセスするためのパスワードの確認。 |
| • Capability<number> Protocol                            | Unified Communications Manager デバイスのプロトコル。             |
| • Capability<number> LDAPDirectoryIntegration            | LDAP 統合が必要かどうかを指定します。                                  |
| • Capability<number> EMServiceName                       | エクステンション モビリティ サービスの名前。                                |
| • Capability<number> EMServiceURL                        | エクステンション モビリティ サービスの URL。                              |
| [Capability<number>] が Unity Connection の場合、次のヘッダーが有効です。 |                                                        |
| • Capability<number> Version                             | Unity Connection デバイスのバージョン。                           |
| • Capability<number> IPAddress                           | Unity Connection デバイスの IP アドレス。                        |
| • Capability<number> Action                              | Unity Connection デバイスに関連付けられたアクション。                    |
| • Capability<number> UserName                            | Unity Connection デバイスにログインするユーザ名。                      |
| • Capability<number> Password                            | Unity Connection デバイスにアクセスするためのパスワード。                  |

| カラム                                                   | 説明                                       |
|-------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| • Capability<number><br>ConfirmPassword               | Unity Connection デバイスにアクセスするためのパスワードの確認。 |
| [Capability<number>] が Unity Express の場合、次のヘッダーが有効です。 |                                          |
| • Capability<number> Version                          | Unity Express デバイスのバージョン。                |
| • Capability<number><br>CUELineUserName               | Unity Express デバイスにログインするユーザ名。           |
| • Capability<number> CUE Line<br>Password             | ユーザ名に関連付けられた回線パスワード。                     |
| • Capability<number><br>ConfirmCUELinePassword        | Unity Express デバイスにアクセスするためのパスワードの確認。    |
| • Capability<number> Service<br>EngineInterfaceNumber | サービス エンジンのインターフェイス番号。                    |
| Unity カラムが定義されている場合は、次のカラムが適用されます。                    |                                          |
| • [IPアドレス (IP Address) ]                              | Unity デバイスの IP アドレス。                     |
| • [バージョン (Version) ]                                  | Unity デバイスのバージョン。                        |
| • [ユーザ名 (Username) ]                                  | Unity デバイスにアクセスするためのユーザ名。                |
| • [パスワード (Password) ]                                 | ユーザ名に関連付けられたパスワード。                       |
| • [Capability<number><br>createbyImport]              | 詳細をインポートすることによってデバイスを作成します。              |
| • [Capability<number> UMPPORT]                        | Unity のポート。                              |

| カラム                                               | 説明                                   |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------|
| Unified Presence カラムが定義されている場合は、次のカラムが適用されます。     |                                      |
| • [Capability<number> Version]                    | Unified Presence デバイスのバージョン。         |
| • [Capability<number> IPAddress]                  | Unified Presence デバイスの IP アドレス。      |
| • [Capability<number> Action]                     | Unified Presence デバイスに関連付けられたアクション。  |
| • [Capability<number> UserName]                   | Unified Presence デバイスにアクセスするためのユーザ名。 |
| • [Capability<number> Password]                   | ユーザ名に関連付けられたパスワード。                   |
| • [Capability<number> ConfirmPassword]            | パスワードの確認。                            |
| • [Capability<number> Protocol]                   | Unified Presence デバイスのプロトコル。         |
| Call Manager Express カラムが定義されている場合は、次のカラムが適用されます。 |                                      |
| • [Capability<number> Version]                    | Call Manager Express デバイスのバージョン。     |
| IOS カラムを持つルータが定義されている場合は、次のカラムが適用されます。            |                                      |
| • [DeviceProtocol]                                | Cisco IOS ルータ デバイスのプロトコル。            |
| • [DeviceUserName]                                | Cisco IOS ルータ デバイスに関連付けられたユーザ名。      |
| • [DevicePassword]                                | ユーザ名に関連付けられたパスワード。                   |
| • [DeviceConfirmPassword]                         | パスワードの確認。                            |
| • [DeviceEnablePassword]                          | Cisco IOS ルータ デバイスのパスワードを有効にします。     |
| • [ConfirmDeviceEnablePassword]                   | デバイスを有効にするパスワードの確認。                  |

### 複数サービス エリアの追加と変更に関連するバッチ操作ファイルのカラム

次の表に、ユーザを削除するときに使用される追加のカラムを示します（[バッチ操作ファイルのフィールド](#)、[\(138 ページ\)](#) は、すべてのバッチ操作ファイルに必須のカラムです）。

表 25: 複数サービス エリアの追加と変更に関連するバッチ操作ファイルのカラム

| カラム                                                                | 説明                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| [ドメイン (Domain) ]                                                   | サービス エリアが属するドメインの名前。                                                  |
| [ユーザ権限 (User Roles) ]                                              | addServiceArea の場合にだけ使用されます。空白のままにできます。使用する場合は、ユーザ権限をセミコロンで区切って指定します。 |
| [コールプロセッサ名 (Call Processor Name) ]                                 | 指定されたサービス エリア内のコール プロセッサの名前。                                          |
| 次のカラムが適用されるのは、[コールプロセッサ名 (Call Processor Name) ]カラムが定義されている場合だけです。 |                                                                       |
| • [エンドポイントプロトコル (Endpoint Protocol) ]                              | 値は SCCP または SIP です。値が何も指定されない場合のデフォルトは SCCP です。                       |
| • [エンドポイントコール検索スペース (Endpoint Call Search Space) ]                 | エンドポイントのコーリング サーチ スペース。                                               |
| • [回線コール検索スペース (Line Call Search Space) ]                          | 回線のコーリング サーチ スペース。                                                    |
| • [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]                               | エンドポイントの共通デバイス設定。                                                     |
| • [ロケーション (Location) ]                                             | エンドポイントのロケーション。                                                       |

| カラム                                                                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| • [ルートパーティション (Route Partition) ]                                                     | 回線のルートパーティション。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| • [デバイスプール (Device Pool) ]                                                            | エンドポイントのデバイスプール。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ユニファイドメッセージプロセッサ名 (Unified Message Processor Name) ]                                 | 指定されたサービスエリア内のユニファイドメッセージプロセッサの名前。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 次のカラムが適用されるのは、[ユニファイドメッセージプロセッサ名 (Unified Message Processor Name) ]カラムが定義されている場合だけです。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| • [TTSのない加入者テンプレート (Subscriber Template Without TTS) ]                                | 指定されたユニファイドメッセージプロセッサ内で定義されている、TTS が有効になっていない TTS 無効加入者テンプレートの 1 つ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| • [TTSのある加入者COS (Subscriber COS With TTS) ]                                           | 指定されたユニファイドメッセージプロセッサ内で定義されている TTS 有効加入者 COS の 1 つ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| • [TTSのない加入者COS (Subscriber COS Without TTS) ]                                        | 指定されたユニファイドメッセージプロセッサ内で定義されている TTS 無効加入者 COS の 1 つ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [電話番号ブロック (Directory Number Blocks) ]                                                 | <p>サービスエリアへの電話番号ブロックの追加は、サービスエリアバッチプロビジョニングの拡張機能です。</p> <p>データ形式は、&lt;Prefix&gt;:&lt;First Number&gt;:&lt;Last Number&gt;:&lt;Minimum Length&gt;;&lt;Prefix&gt;:&lt;First Number&gt;:&lt;Last Number&gt;:&lt;Minimum Length&gt;です。</p> <p>デリミタ「;」は、複数の電話番号ブロックの設定で使用します。</p> <p>ユーザは、changeServiceArea 操作中に CUPM_BLANK キーワードを使用して既存のすべての電話番号ブロックを削除できます。changeServiceArea 操作では、CUPM_SKIP キーワードを使用して以前の値を維持することが可能です。</p> |

## アナログ電話またはアナログ電話サービスを追加するためのバッチ操作ファイルのカラム

表 26: アナログ電話またはアナログ電話サービスを追加するためのバッチ操作ファイルのカラム

| カラム                                                | 説明                                                                           |
|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] | 選択したアナログ電話に関連付けられた [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] フィールド。 |
| [Voiceport]                                        | [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] に関連付けられた Voiceport。       |
| [電話番号 (Directory Number) ]                         | アナログ電話に関連付けられた電話番号。                                                          |

## アナログ電話を交換するためのバッチ操作ファイルのカラム

表 27: アナログ電話を交換するためのバッチ操作ファイルのカラム

| カラム                                                      | 説明                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [新規アナログ音声ゲートウェイ参照 (New Analog Voice Gateway Reference) ] | 既存の [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] を置き換える [新規アナログ音声ゲートウェイ参照 (New Analog Voice Gateway Reference) ] フィールド。 |
| [新規VoicePort (New VoicePort) ]                           | 既存の [Voiceport] を置き換える [新規VoicePort (New VoicePort) ] フィールド。                                                                  |

## アナログ電話を変更するためのバッチ操作ファイルのカラム

表 28: アナログ電話を変更するためのバッチ操作ファイルのカラム

| カラム                                           | 説明                                                                                      |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| [AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ] | 帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索される、ルートパーティションのコレクションを指定します。 |



## バッチ操作ファイルの作成に関するガイドライン

サンプルのバッチ ファイルが、`/opt/cupm/sep/ipt/config/sample/batchProvisioning` フォルダに保存されています。 サンプルのバッチ ファイルには、必要に応じて別のカラムを追加できます。

バッチ操作ファイルを作成する場合は、次のガイドラインに従います。

- バッチ操作の値を作成する際、複数の値を入力するには、コロンデリミタを使用する必要があります。たとえば、複数のルートパーティションを含む新しい CallingSearchSpace を作成する際は、RP1:RP2:RP3 を使用します。
- 作成するユーザに Self-Care アカウントを与える場合は、該当するすべてのドメインについて CreateSelfCareAccounts ルールを有効にする必要があります。
- ProductName が電話（または電話を含むバンドル）で、なおかつ[電話のタイプ (Phone Type)] が仮想電話 ([CTI ポート (CTI Port)] など) でない場合は、MAC アドレスが必要です。
- 電話を変更するときは、新しい MAC アドレスが必要です。
- 製品をキャンセルするときは、オブジェクト名が必要です ([回線 (Line)] 製品と [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line)] 製品を除く)。
- [回線 (Line)] 製品または [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line)] 製品をキャンセルするときは、電話番号とルートパーティションが必要です。
- [VG202] 製品、[VG 204] 製品および [VG 224] 製品を削除すると、デバイスおよび Provisioning のすべての電話が削除されます。削除に関する警告メッセージが表示されます。メッセージの確認後にのみ、電話が削除されます。電話に関連付けられた顧客レコードを消去するには、ドメインの同期を実行する必要があります。
- ProductName が電話（または電話を含むバンドル）またはエクステンションモビリティアクセス（またはエクステンションモビリティアクセスを含むバンドル）で、[電話のタイプ (Phone Type)] が仮想電話 ([CTI ポート (CTI Port)] ) でなく、なおかつ Cisco Unified Communications Manager だけに関連付けられたサービスエリアでオーダーされた場合は、[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] が必要です。
- Cisco Unity デバイス (Cisco Unity、Cisco Unity Connection、Cisco Unity Express) では、一部の製品とサービスはサポートされていません。指定されたサービスエリアのデバイスでサポートされていない製品がバッチ操作ファイルに設定されている場合、バッチプロビジョニングは失敗します。
- 手動オーダー入力プロセスでユーザが入力する必要がある製品属性は、バッチプロジェクトで同等のオーダーを正常に完了するためにも必要となります。次に例を示します。
  - [電話のタイプ (Phone Type)] : オーダーする製品が電話または電話を含むバンドルの場合は、電話のタイプ (Cisco 7960 や Cisco 7912 など) を指定します。
  - [回線タイプ (Line Type)] : オーダーする製品が回線または回線を含むバンドルの場合は、回線のタイプ ([自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line)] や [選択した回線 (Chosen Line)] など) を指定します。

- [電話番号 (Directory Number)] : ProductName が [回線 (Line)] で、タイプが [選択した回線 (Chosen Line)] の場合は必須です。また、そのオーダーだけでは依存関係が満たされない製品をオーダーする場合は (たとえば、単一の [回線 (Line)] をオーダーする場合など)、従属オブジェクトを指定するカラムが必要です。
  - [ルートパーティション (Route Partition)] : ProductName が [回線 (Line)] で [オーダータイプ (Order Type)] が [変更 (Change)] の場合は必須です。
- オーダーする製品に、そのオーダーだけでは満たされない依存関係がある場合は (たとえば、単一の [回線 (Line)] をオーダーする場合など)、従属オブジェクトを指定するカラムが必要です。次に例を示します。
    - [選択されている電話 (SelectedPhone)] : 回線を追加する電話の MAC アドレス。
    - [選択されている回線 (SelectedLine)] : ボイスメールを追加する回線の電話番号。
    - [選択されているボイスメール (SelectedVoicemail)] : ユニファイドメッセージングを追加するボイスメールの電話番号。
    - [選択されているEMアクセス (SelectedEM\_Access)] : EM\_Line を追加する EM\_Access (デバイスプロファイル) の名前。

バンドルに基本製品のインスタンスが複数含まれている場合は、属性のカラム名の末尾に (1)、(2)、などを付ける必要があります (たとえば、[回線タイプ(1) (Line Type(1))] や [電話番号(1) (Directory Number(1))] など)。

- バンドル製品で、製品属性名が別の基本製品のものと同一である場合は、区別するために製品名を属性に付加します。

たとえば、コーリングサーチスペースという属性は、電話と回線の両方にあります。[電話サービス (Phone Service)] という製品に対しては、[電話コーリングサーチスペース (Phone Calling Search Space)] と [回線コーリングサーチスペース (Line Calling Search Space)] を指定できます。

- スピードダイヤル情報は次の方法で指定できます。
  - 直接 : 1つのカラムで情報を指定する場合に使用します。カラムヘッダーは [スピードダイヤル情報 (Speed Dial Info)] です。必要な形式は index:number:label で、これをセミコロンで区切ってスピードダイヤルごとに繰り返します。index はスピードダイヤルの位置 (1、4、5 など)、number は電話番号、label はスピードダイヤル名です。たとえば、1:8675306:Joe;4:888:Voicemail のようになります。

この形式を使用して別の回線を追加する場合は、それまでにカラムに入力したスピードダイヤル情報をすべて再入力して、新しいスピードダイヤル情報を追加する必要があります。

この形式は、スピードダイヤルの初期設定時に使用することをお勧めします。既存のスピードダイヤルのリストにスピードダイヤルを追加する場合は、次の項目で説明する形式を使用する必要があります。

- 一致するカラムのセット：Speed Dial  $n$  ( $n$  はスピードダイヤルの位置) と Speed Dial  $n$  Name という 1 組のカラムを使用します。この形式を使用すると、既存のスピードダイヤルリストの末尾に新しいスピードダイヤルが追加されます。

次に例を示します。

```
Speed Dial 1 Speed Dial 1 Name Speed Dial 4 Speed Dial 4 Name
8675306 Joe 888 Voicemail
```

カンマを挿入することでスピードダイヤル番号の間隔を空けることができます。1 個のカンマにより、2 秒間の遅延が設定されます。スピードダイヤル電話番号には任意の数のカンマを挿入することができます。

- 回線グループ情報を指定する際は、LineGroupName:position という形式をセミコロンで区切って回線グループごとに繰り返します。LineGroupName は回線グループの名前です。position は選択した回線グループ内の電話番号の位置で、値として last (または LAST)、または 1 ~ 100 の数字を指定できます。たとえば、LG1:1;LG2:5;LG3:last のようになります。別の回線を追加する場合は、すべての回線グループ情報を入力する必要があります。回線グループのカラムヘッダーは、[回線グループ(1) (Line Groups(1))] や [回線グループ(2) (Line Groups(2))] のようにする必要があります。
- カラムのインスタンスが複数ある場合 (たとえば、電話番号が複数ある場合など) は、各インスタンスのカラム名の末尾に (1) や (2) などを指定する必要があります (たとえば、[電話番号(1) (Directory Number(1))] や [電話番号(2) (Directory Number(2))] など)。
- Cisco Unified Communications Manager Express の電話および回線設定テンプレートでは、区切り文字としてチルダ (~) を使用する必要があります。たとえば、username AAAAA passwordBBBBBBB~pin 676771 のようになります。この属性のカラムヘッダーは、[CME電話設定テンプレート (CME Phone Configuration Template)] です。
- Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されているプロビジョニング属性の値の設定を解除するには、値として 0 を入力する必要があります。値を空にするだけでは、Cisco Unified Communications Manager でプロビジョニング属性は設定解除されません。
- ボイスメールアカウントをオーダーするときに、[選択した回線 (Chosen Line)] オプションを使用して E.164 形式の電話番号を選択した場合、Provisioning は電話番号から + 記号を削除して、内線番号を設定します。ただし、[代行内線番号 (Alternate Extension)] フィールドは、自動的に入力されません。バッチファイルの [代行内線番号 (Alternate Extension)] フィールドに、(+ 記号付きで) 電話番号を入力する必要があります。

## バッチ操作ファイルでのキーワードの使用

特定の機能を実行するには、バッチ操作ファイルで次のキーワードを使用します。

- CUPM\_BLANK：追加オーダータイプの場合は、その属性に対して値はプロビジョニングされません。変更オーダータイプの場合は、現在の属性値がクリアされるか (該当する場合)、プロセッサによって要求されるデフォルト値に設定されます。



(注) 設定専用属性に対して変更オーダータイプを使用するときに、属性が列挙型であり、有効値のスタティックリストをサポートする場合は（たとえば[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー（Calling Search Space Activation Policy）]）、CUPM\_BLANK は効果を持たなくなり、古い値が維持されます。

- CUPM\_SKIP : 操作ファイルの処理時にこのプロビジョニング属性をスキップします。この属性は、オーダー中に設定されません。前の設定値が保持されます。  
CUPM\_SKIP を追加オーダータイプとともに使用するときは、すべての属性がスキップ可能とは限りません。次に示す属性はスキップされません。
- 必須属性（たとえば[デバイスプール（Device Pool）]や[ロケーション（Location）]）はスキップされません。このような属性には、サービスエリアレベルのプロビジョニング属性設定が使用されます。
- [デバイスの説明（Device Description）]と[表示(内部発信者ID)（Display (Internal Caller ID)）]。これらの設定にはルールがあるため、そのルールに基づく値が使用されます。

## バッチプロジェクトの管理

バッチプロビジョニングサポートは、Unified Communications Manager、Unity Connection、Unity、Presence Processor、Unity Express、Call Manager Express、および Generic IOS Router のすべてのデバイスに提供されています。管理権限を持つユーザは、バッチプロビジョニングを使用してデバイスをプロビジョニングできます。

すべてのデバイスのサンプルバッチファイルは、opt/cupm/sep/ipt/config/sample/batchProvisioning ディレクトリにあります。

バッチ操作ファイルを作成したら、そのファイルが属するバッチプロジェクトを作成する必要があります。バッチ操作ファイルをアップロードすると、その内容がバッチ操作に変換され、バッチ操作ファイル内のすべてのバッチ操作に共通するカラムが表示されます。

バッチ操作ファイルは、バッチ操作間の依存関係に従って正しい順序でアップロードする必要があります。これらの依存関係の詳細については、[バッチ操作ファイルの作成に関するガイドライン](#)、(149 ページ) を参照してください。

バッチプロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1** [展開 (Deploy) ] > [バッチプロビジョニング (Batch Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2** [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project) ] ページで [新規 (New) ] アイコンをクリックします。
- ステップ 3** [バッチプロジェクトの新規作成 (Create a New Batch Project) ] ページで、バッチ プロジェクトの名前を入力してメモを追加します。
- ステップ 4** [作成 (Create) ] をクリックします。バッチ プロジェクトの作成後は、1 つまたは複数のバッチ操作ファイルをバッチ プロジェクトにアップロードできます。
- ステップ 5** [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project) ] 画面で、[バッチ操作ファイルのアップロード (Upload a Batch Action File) ] をクリックします。
- ステップ 6** [バッチ操作ファイルのアップロード (Upload a Batch Action file) ] ページで、次のいずれかを実行します。
- [アップロードするファイル (File to Upload) ] フィールドに、アップロードするファイルの完全なディレクトリパスとファイル名を入力します。
  - [参照 (Browse) ] をクリックし、アップロードするファイルを探してクリックします。
- ステップ 7** [アップロード (Upload) ] をクリックします。
- ステップ 8** 次のいずれか、または複数の操作を行います。
- (この手順を繰り返して) 別のバッチ操作ファイルをアップロードします。
  - バッチプロジェクトをただちに実行するか、後で実行するためにスケジュール設定します。バッチプロジェクトのキャンセル、一時停止、その他の操作については、次の表を参照してください。
  - バッチプロジェクトを後で実行するためにスケジュールします ([バッチプロジェクトの管理, \(152 ページ\)](#) を参照)。

Provisioning では現在、バッチプロジェクトまたはバッチ操作ファイルを編集することはできません。その代わりに、バッチ操作ファイルを手動で更新してから、そのファイルを新しいバッチプロジェクトにアップロードし、不要になったバッチプロジェクトを削除できます。

不要になったバッチプロジェクトは削除可能です。バッチプロジェクトを削除するには、バッチプロジェクト名の横にある [削除 (Delete) ] アイコンをクリックします。

表 29: バッチプロジェクトの管理

| バッチ操作 | 手順 |
|-------|----|
|       |    |

|                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バッチプロジェクトをただちに実行する            | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project) ] ページで、[セレクト (Chooser) ] アイコンをクリックして必要なバッチプロジェクトを選択します。</li> <li>2 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule) ] ペインで[現在 (Now) ] をクリックします。</li> <li>3 [OK] をクリックします。バッチプロジェクトが開始され、ステータスが [処理中 (In Progress) ] に変化します (画面を更新するには、[更新 (Refresh) ] アイコンをクリックします)。バッチプロジェクトが完了したら、ステータスが [完了 (Complete) ] に変化します。</li> </ol> |
| バッチプロジェクトをスケジュールまたはスケジュール変更する | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule) ] ペインで、[スケジュール日の選択 (Select Schedule Date) ] アイコンをクリックします。<br/><br/>表示されるダイアログボックスで、日時、協定世界時 (UTC) オフセット、または必要に応じてロケーションを指定します。</li> <li>2 [選択 (Select) ] をクリックします。<br/><br/>時計アイコンが [ステータス (Status) ] セクションに表示され、バッチプロジェクトがスケジュールされたことを示します。<br/><br/>(注) インフラストラクチャ設定用に作成されたバッチプロジェクトは、エラーがあると再起動できません。</li> </ol>     |

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>バッチプロジェクトをキャンセルする</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 必要なバッチプロジェクトを選択します。</li> <li>2 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule) ] ペインで [中断 (Abort) ] をクリックします。</li> <li>3 [OK] をクリックしてバッチプロジェクトをキャンセルします。</li> </ol> <p>実行中のバッチプロジェクトをキャンセル (中止) できます。この場合、Provisioning で進行中の操作はすべて完了しますが、残りの操作は実行されません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>プロジェクトを一時停止する</p>     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 必要なバッチプロジェクトを選択します。</li> <li>2 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule) ] ペインで、[プロジェクトの一時停止の日時 (Project Pause Date/Time) ] の横にある [一時停止 (Pause) ] をクリックします。</li> </ol> <p>[OK] をクリックして確定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 [更新 (Refresh) ] アイコンをクリックします。プロジェクトのステータスが [一時停止 (Paused) ] に変化します。</li> <li>4 次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• バッチプロジェクトを再開するには、[再開 (Restart) ] をクリックします。バッチプロジェクトが再開されます。</li> <li>• バッチプロジェクトをキャンセルするには、[中断 (Abort) ] をクリックします。バッチプロジェクトがキャンセルされます。</li> </ul> </li> </ol> <p>バッチプロジェクトを一時停止すると、Provisioning で進行中の操作はすべて完了しますが、それ以上の操作は実行されません。</p> |

|                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>一時停止するバッチプロジェクトをスケジュールする</p>           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページの [実行の一時停止 (Pause Execution)] セクションで、[プロジェクトの一時停止の日時 (Project Pause Date/Time)] の横にある [セレクト (Chooser)] アイコンをクリックします。</li> <li>2 [OK] をクリックして確定します。[日時の選択 (Select Date and Time)] ダイアログボックスが表示されます。</li> <li>3 日付と時刻、および必要に応じて UTC オフセットまたは場所を指定し、[選択 (Select)] をクリックします。日付と時刻が [実行の一時停止 (Pause Execution)] の横に表示され、バッチプロジェクトの一時停止がスケジュールされたことを示します。</li> </ol> <p>バッチプロジェクトの一時停止をスケジュールできます。これはたとえば、バッチプロジェクトを後で開始するためにスケジュールしたにもかかわらず、そのプロジェクトを予定されているメンテナンス停止期間の前に確実に停止させる場合などに役立ちます。</p> |
| <p>スケジュールされたバッチプロジェクトをキャンセルする</p>         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページの [プロジェクトスケジュール (Project Schedule)] ペインで、[プロジェクト開始日時 (Project Start Date/Time)] の横にある [クリア (Clear)] アイコンをクリックします。</li> <li>2 [OK] をクリックして確定します。</li> </ol> <p>スケジュールしたバッチプロジェクトは、まだ処理が開始されていない場合、キャンセルできます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>バッチプロジェクトに対してスケジュールされた一時停止をキャンセルする</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule)] セクションで [クリア (Clear)] アイコンをクリックします。</li> <li>2 [OK] をクリックして確定します。バッチプロジェクトに対してスケジュールされた一時停止がクリアされます。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |



|                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>バッチプロジェクトの詳細を表示する</p>       | <p>[バッチプロジェクト操作 (Batch Project Actions) ] ペインで [表示 (View) ] をクリックします。</p> <p>[バッチ操作の詳細の表示 (View Batch Action Details) ] ページが表示されます。このページには、バッチプロジェクト操作の設定情報がすべて表示されます。</p> <p>バッチプロビジョニングでは、ユーザ権限を持つユーザは、エンドポイントのオーダー中に新しいエンドポイントを追加できます。疑似ユーザもエンドポイントに追加可能です。</p>                                                                                                                                         |
| <p>バッチプロジェクトの現在のステータスを表示する</p> | <p>[バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project) ] ページで、[バッチプロジェクト操作 (Batch Project Actions) ] ペインに各バッチプロジェクト操作のステータスが表示されます。</p> <p>バッチプロジェクトが完了した後、対象ユーザのユーザレコードをチェックして、オーダーが処理されたことを確認できます。</p> <p>管理者は、バッチプロジェクトで現在実行されている単一のオーダーの詳細を確認するために、[マイアクティビティ (My Activities) ] ([展開 (Deploy) ]&gt;[ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ]&gt;[マイアクティビティ (My Activities) ]) を使用して各オーダーのワークフロー内での実行状況を表示することもできます。</p> |





## 第 7 章

# インベントリの管理

エンドポイントインベントリを使用して、エンドポイントを追加、更新、または削除できます。電話番号の追加と更新、特定ユーザ向けの電話番号の予約、および[予約済み (Reserved)]状態の指定期間が経過した電話番号のクリアが可能です。

Provisioning では、内部のアセット管理インベントリ システムで、すべてのサービスとユーザに関する情報を追跡しています。管理者は、この情報を閲覧し、HTML 形式または Microsoft Excel 形式のレポート テンプレートの生成に使用できる高度な検索を作成して、保存することができます。

- [エンドポイントインベントリの管理, 159 ページ](#)
- [電話番号の管理, 163 ページ](#)
- [インベントリの検索, 167 ページ](#)

## エンドポイント インベントリの管理

ドメインに基づくエンドポイントインベントリ レポートを表示できます。[エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)] ページには、次の詳細が表示されます。

表 30: [エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページのフィールドの説明

| フィールド                | 説明                                                                                                      |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [エンドポイント (Endpoint)] | ドメイン、モデル、MACアドレス、およびステータスを指定して、新しいエンドポイントを追加できます。[選択 (Chooser)] アイコンをクリックして、既存のエンドポイントのリストを表示することも可能です。 |
| [ドメイン (Domains)]     | 管理されているドメインのリスト。                                                                                        |
| [モデル (Model)]        | エンドポイント タイプのリスト。                                                                                        |

| フィールド                                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MACアドレス (MAC Address) ]                  | 個々のエンドポイントを特定する 16 進値。MAC アドレスの長さは 12 文字にする必要があります。有効な値は英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9) です (例 : 201B79989002)。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [ステータス (Status) ]                         | エンドポイントのステータス。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [使用中 (In-use) ] : このエンドポイントはいずれかのユーザが使用中です。</li> <li>• [予約済み (Reserved) ] : このエンドポイントは特定のユーザ向けに予約されています。</li> <li>• [使用可能 (Available) ] : このエンドポイントは使用可能であり、手動または自動でユーザに割り当てることができます。</li> <li>• [戻し済み (Returned) ] : このエンドポイントはインベントリに戻されましたが、インベントリへの到着は未確認です。</li> <li>• [プロビジョニング (Provisioning) ] : このエンドポイントは現在プロビジョニング中です。</li> </ul> |
| [予約対象 (Reserved For) ] (オプション)            | エンドポイントの利用者として予約されている特定のユーザ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [予約日時 (Reserved On) ] (オプション)             | エンドポイントの利用期間として予約されている日付。エンドポイント情報を追加または更新すると自動的に表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [予約タイムアウト (Reservation Timeout) ] (オプション) | エンドポイントが予約中として保持される日数。この予約のタイムアウトは、それぞれの Provisioning 管理者が設定するので、このフィールドは編集できません。<br><br>ドメインのエンドポイント予約タイムアウトは、 <code>endpointReservationTimeout</code> ルールで決まります ( <a href="#">ビジネス ルールの概要</a> , (119 ページ) を参照)。                                                                                                                                                                                                 |



(注) ユーザは Self-Care オプションを使用して、回線の設定、サービスの管理、エンドポイントのオプションの設定をすばやく簡単に行うことができます。詳細については、[個人設定のカスタマイズ](#), (202 ページ) を参照してください。

[オーダー (Ordering) ] 承認権限が割り当てられているユーザは、次のタスクを実行してエンドポイントインベントリを管理できます。

| タスク | 説明                                                           | 手順                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 追加  | すべてのユーザが利用可能なエンドポイントを追加するか、または特定のユーザに対してエンドポイントを指定することができます。 | <p><b>1</b> [展開 (Deploy) ]&gt;[プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ]&gt; [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints) ]を選択します。</p> <p><b>2</b> [エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management) ]ページに値を入力して[追加 (Add) ]をクリックします。 エンドポイントインベントリの詳細については、 <a href="#">エンドポイントインベントリの管理, (159ページ)</a> を参照してください。</p> <p>(注) サードパーティ製デバイスは、Prime Collaboration Provisioning で SIP デバイスとして追加する必要があります。 詳細については、 <a href="#">『Supported Devices for Prime Collaboration Provisioning』</a> を参照してください。</p> |

| タスク          | 説明                 | 手順                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エンドポイント情報の更新 | エンドポイント情報を変更できません。 | <p><b>1</b> [展開 (Deploy) ]&gt;[プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ]&gt; [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints) ]を選択します。</p> <p><b>2</b> [エンドポイント (Endpoint) ]フィールドで[選択 (Chooser) ]アイコンをクリックします。</p> <p>(注) 全桁を指定した MAC アドレスまたは一部の桁を指定した MAC アドレスに基づいて、エンドポイントを検索できます。指定する MAC アドレスの先頭または末尾 (あるいはその両方) に、ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用できます。ただし、MAC アドレスの途中には使用できません。検索基準に SEP は指定しないでください。</p> <p><b>3</b> [エンドポイントの選択 (Choose an Endpoint) ]ダイアログボックスで、目的のエンドポイントを選択します。</p> <p><b>4</b> 必要に応じてエンドポイントを更新し、[更新 (Update) ]をクリックします。詳細については、<a href="#">エンドポイントインベントリの管理, (159ページ)</a> を参照してください。</p> <p>(注) [使用中 (In-use) ]状態のエンドポイントは更新できません。</p> |

| タスク            | 説明                                                                                                                                                | 手順                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エンドポイントの削除     | <p>エンドポイントをインベントリリストから削除できます。</p>                                                                                                                 | <p>[エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management) ] ページで [選択 (Chooser) ] アイコンをクリックします。</p> <p>[エンドポイントの選択 (Choose an Endpoint) ] ダイアログボックスで、目的のエンドポイントを選択して [削除 (Remove) ] をクリックします。</p> <p>[使用中 (In-use) ] 状態のエンドポイントは削除できません。</p> <p>どのユーザにも関連付けられていないエンドポイントは、孤立エンドポイントと呼ばれます。これらのエンドポイントを特定して、不要な場合は削除することができます。孤立エンドポイントを特定するには、[エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management) ] ページで [ユーザが関連付けられていないエンドポイントの検索 (Search Endpoints Without Associated User) ] をクリックします。孤立エンドポイントを削除するには、リストから 1 つまたは複数のエンドポイントを選択し、[選択したエンドポイントの削除 (Delete Selected Endpoints) ] をクリックします。</p> |
| 有効期限が切れた予約のクリア | <p>必要に応じて、予約期限が切れたエンドポイントをすべてインベントリから削除できます。</p> <p>エンドポイントの有効期限が切れた予約をクリアし、エンドポイントのステータスを [予約済み (Reserved) ] から [使用可能 (Available) ] に変更できます。</p> | <p>[エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management) ] ページで、該当するドメインを選択して [有効期限が切れた予約のクリア (Clear Expired Reservations) ] をクリックします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

## 電話番号の管理

ほとんどの場合、サービスエリア電話番号ブロック (DNB) を使用して、電話番号が割り当てられます。ただし、プロビジョニングインベントリでは、各サービスエリアに関連付けられた電話番号を明示的に追跡 (保存および管理) できます。

電話番号の追加と更新、特定ユーザ向けの電話番号の予約、および [予約済み (Reserved) ] 状態の指定期間が経過した電話番号のクリアが可能です。



(注) [電話番号を予約済み (Reserved) ]状態に保持できる期間を変更するには、DNReservationTimeoutルールを修正します。詳細については、[ビジネスルールの概要](#)、(119ページ)を参照してください。

電話番号のステータスは、[使用中 (In-use) ]、[予約済み (Reserved) ]、または [使用可能 (Available) ]のいずれかになります。

回線を追加すると、Provisioning では次の手順で電話番号が割り当てられます。

- 1 該当のユーザ向けに予約済みのディレクトリがあるかどうか確認します。
- 2 [使用可能 (Available) ]状態の電話番号を確認します。
- 3 使用可能な次の電話番号のサービス エリア DNB を確認します。

ドメインのサービスエリアコンポーネントでは、個々の電話番号ではなく DNB を作成できます。ユーザに電話番号を割り当てると、Provisioning で個々の電話番号の追跡が行われます。

[電話番号インベントリ (Directory Number Inventory) ]ページには、次の詳細が表示されます。

表 31 : [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management) ]ページのフィールド

| フィールド                                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電話番号 (Directory Number) ]                              | 追加または更新する電話番号を指定します。                                                                                                                                                                                                                 |
| [コールプロセッサ/ルートパーティション (Call Processor/Route Partition) ] | 電話番号の追加先とするコールプロセッサおよびルートパーティション。<br>(注) この時点では、電話番号は追加されません。電話番号を要求するオーダーを受け取ると、コールプロセッサに追加するために、ここで指定した電話番号が予約されます。                                                                                                                |
| [ステータス (Status) ]                                       | 電話番号のステータス。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [使用中 (In-use) ] : いずれかのユーザが現在使用中です。</li> <li>• [予約済み (Reserved) ] : 特定のユーザ向けに特定の期間、予約されています。</li> <li>• [使用可能 (Available) ] : 使用可能で、いずれかのユーザに割り当てることができます。</li> </ul> |
| [予約対象 (Reserved For) ] (オプション)                          | 電話番号の予約先とするユーザの指定先。                                                                                                                                                                                                                  |



| フィールド                         | 説明                                          |
|-------------------------------|---------------------------------------------|
| [予約日時 (Reserved On) ] (オプション) | 電話番号を予約した日付。エンドポイント情報を追加または更新すると自動的に表示されます。 |

インベントリの電話番号を管理するため、次のタスクを実行できます。

| タスク | 説明                                                                                                                                                 | 手順                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 追加  | <p>電話番号を追加すると、その番号のステータスを指定して、特定のユーザ向けに予約できます。</p> <p>別々のコールプロセッサであれば、それぞれに同じ電話番号が存在してもかまいません。電話番号を追加する場合は、コールプロセッサとルートパーティションの両方を指定する必要があります。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [展開 (Deploy) ] &gt; [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ] &gt; [電話番号の管理 (Manage Directory Numbers) ] を選択します。</li> <li>2 [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management) ] ページで、[新しい電話番号の追加 (Add New Directory Number) ] をクリックします。右ペインの各フィールドが編集可能になります。</li> <li>3 目的のフィールドに入力し (表 31 : [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management) ] ページのフィールドを参照) 、[保存 (Save) ] をクリックします。</li> </ol> |

| タスク            | 説明                                                                           | 手順                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 電話番号の更新        | <p>電話番号を検索し、選択して更新できます。</p> <p>(注) ステータスが [使用中 (In-use) ] の電話番号は更新できません。</p> | <p>1 [展開 (Deploy) ] &gt; [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ] &gt; [電話番号の管理 (Manage Directory Numbers) ] を選択します。</p> <p>2 [電話番号 (Directory Number) ] フィールドで、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 目的の電話番号がわかっている場合は、その番号を入力して [検索 (Search) ] をクリックします。</li> <li>• アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用し、電話番号を検索します。 [電話番号の選択 (Choose a Directory Number) ] ダイアログボックスで、目的の電話番号をクリックします。</li> </ul> <p>3 [現在の電話番号の更新 (Update Current Directory Number) ] をクリックします。右ペインの各フィールドが編集可能になります。</p> <p>4 目的のフィールドに入力し (表 31 : [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management) ] ページのフィールドを参照) 、 [保存 (Save) ] をクリックします。</p> |
| 有効期限が切れた予約のクリア | <p>電話番号の有効期限の予約をクリアして、その電話番号を利用可能プールに戻すことができます。</p>                          | <p>[電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management) ] ページで、 [有効期限が切れた予約のクリア (Clear Expired Reservations) ] をクリックします。</p> <p>電話番号を予約状態に保持する日数を設定するには、 <a href="#">ビジネス ルールの概要, (119 ページ)</a> を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 電話番号の削除        | <p>使用中の番号は削除できません。</p>                                                       | <p>[電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management) ] ページで、電話番号を選択して [削除 (Delete) ] をクリックします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

## インベントリの検索

[管理 (Administration)] 承認権限が割り当てられている場合は、インスタンス ブラウザを使用してプロビジョニングインベントリを参照および検索できます。次のオブジェクトがインスタンスセレクトアに表示されます。

| オブジェクト     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グローバル リソース | ルートパーティション、コーリングサーチスペース、コールピックアップグループなどのインフラストラクチャデータを表示します。                                                                                                                                                                                                         |
| 製品カタログ     | 表示された情報を編集しないでください。製品のリストを表示する場合は、Provisioning NBI SDK に含まれる製品カタログの外部バージョンを参照してください。データのスキーマは、SDK のサブディレクトリ <code>productcatalog/schema</code> にあります。製品の定義は、SDK のサブディレクトリ <code>productcatalog/metadata</code> にあります。すべての必須属性とオプションの属性を定義する XML ファイルが、製品ごとに1つずつあります。 |
| ユーザ        | Provisioning のすべてのユーザとそのロケーションが表示されます。                                                                                                                                                                                                                               |
| ドメイン       | 固有の電話番号、エンドポイント、ルール、およびサービスエリア。                                                                                                                                                                                                                                      |

基本検索または詳細検索を使用して、インベントリオブジェクトを検索できます。基本検索を使用すると、そのプロパティを基にしてオブジェクトのインスタンスを検索できます。詳細検索を使用すると、より詳細な検索条件を指定できます。

顧客、プロパティ、関連付け、ネームスペースなどの複数の制約を組み込んで、検索結果を制限することが可能です。また、検索で返されるプロパティを指定することもできます。詳細検索をレポートとして保存すると、カテゴリに分類可能です。レポートを作成できるのは、管理者だけです。

## 基本検索の実行

インスタンス ブラウザを使用すると、特定のオブジェクトのインスタンスを対象とした基本検索を実行できます。基本検索では、検索パラメータはクラスのプロパティに基づいています。

インスタンス検索の最初の手順は、基となるクラスを指定することです。次の方法で、検索条件と結果の表示方法を指定できます。

- キーワードまたは部分キーワードを指定します。ワイルドカードとしてアスタリスク (\*) を使用します。
- クラス名とラベルプロパティのどちらに従って結果を表示するかを指定します。

- 検索対象を特定のドメインに制限します。
- 抽象、関連付け、インターフェイス クラスを含めるか、または除外します。

インスタンスの基になっているクラスを特定すると、そのクラスのプロパティに基づく検索条件を指定して、検索を絞り込むことができます。検索できるプロパティの数は、クラスによって異なります。

### 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ]>[プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ]>[インベントリブラウザ (Inventory Browser) ]を選択します。
- ステップ 2** インスタンス ブラウザで [検索 (Search) ] アイコンをクリックし、次に [オブジェクトクラス (Object Class) ] セレクタ アイコンをクリックします。
- ステップ 3** [クラス検索 (Class Search) ] 画面で検索パラメータを入力し、[検索 (Search) ] をクリックします。 [検索可能プロパティ (Searchable Properties of) ] ペインに検索結果が表示されます。
- 

## 詳細検索の実行

詳細検索を実行すると、特定のオブジェクトクラス内のインベントリ インスタンスを検索できます。詳細検索は、将来の使用に備えて保存できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ]>[プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- [インベントリブラウザ (Inventory Browser) ] をクリックし、基本検索を使用してクラスを選択してから、[詳細 (Advanced) ] をクリックします。
  - [インベントリ検索 (Inventory Search) ] をクリックし、[レポートの作成 (Create Reports) ] をクリックしてからクラスを選択します。
- ステップ 3** 該当する制約を追加します。プロパティ、関連付け、ネームスペース、または顧客を使用して、検索を制約できます。
- ステップ 4** 使用可能なプロパティのリストから、検索で戻すプロパティのリストを作成します。
- ステップ 5** 必要に応じてプロパティへのパスを作成し、検索で返される関連プロパティを指定します。
- ステップ 6** 必要に応じてオブジェクトへのパスを作成し、検索で返される関連オブジェクトを指定します。検索結果には、選択したオブジェクトを含むインスタンスだけが含まれます。

- ステップ7 検索結果にネームスペースとオブジェクトクラスを含めるのか、除外するのかを指定します。
- ステップ8 検索を実行します。

## 制約

[制約の追加 (Add Constraint) ] セクションを使用して、検索の制約を定義します。 詳細検索では、次の制約を使用できます。

| 制約                      | 説明                                                                                                                                    |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プロパティ (Properties) ]   | 指定したプロパティ条件を満たすオブジェクトに結果を制限します。 プロパティの制約は、大文字と小文字を区別するようにも、区別しないようにも設定できます。 値のすべてが一致した場合だけ結果に返すようにも、一部が一致した場合も返すようにも指定できます。           |
| [関連付け (Associations) ]  | 指定した関連付けのパスを使用して、他のオブジェクトと関連付けられている (または関連付けられていない) オブジェクトに結果を制限します。 関連付けのパスを使用すると、ソース オブジェクトと照会されるオブジェクトとの関係を、複数の関連付けクラスに広げることができます。 |
| [ネームスペース (Namespaces) ] | 指定したネームスペースに含まれる (または含まれていない) オブジェクトに結果を制限します。                                                                                        |
| [顧客 (Customers) ]       | 特定の顧客に関連付けられているオブジェクトに結果を制限します。                                                                                                       |

## プロパティの制約の定義

特定のプロパティの制約に合うオブジェクトだけを選択する検索を定義できます。たとえば、特定のモデル番号を持つインスタンスだけを検索結果に含めるような制約を定義することが可能です。この場合、プロパティの制約は、特定のオブジェクトのプロパティを検索する場合のフィルタとして機能します。

プロパティの制約を定義する場合は、次の条件を使用できます。

- [次と等しい (Equals) ] : 選択したプロパティの値と等しい値を指定します。
- [次を含む (Contains) ] : 選択したプロパティの値に含まれる値を指定します。
- [次と等しくない (Not equal to) ] : 選択したプロパティの値と等しくない値を指定します。
- [次を含まない (Does not contain) ] : 選択したプロパティの値に含まれない値を指定します。

- [次の範囲 (In range) ] : 指定した範囲内の Date プロパティを持つ値を指定します。この演算子を使用できるのは、オブジェクトに Date プロパティが指定されていて、クラス定義プロパティに reportable=true が設定されている場合だけです。

演算子を選択したら、値を指定することも、フィールドを空白にしておくこともできます。値を指定する場合はデフォルト値になりますが、検索を実行するユーザが必要に応じて値を変更できます。フィールドを空白にしておいた場合は、後で検索を実行するユーザが、そのプロパティの制約の値を指定できます。

プロパティの制約を定義するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [詳細インスタンス検索 (Advanced Instance Search) ] 画面の [制約の追加 (Add Constraint) ] リストから、プロパティを選択します。
- ステップ 2** [追加 (Add) ] をクリックします。使用可能な条件がリストに表示されます。
- ステップ 3** 使用可能な条件のリストから、適切な演算子を選択して [追加 (Add) ] をクリックします。
- ステップ 4** 適切なプロパティを選択します。
- ステップ 5** [値 (Value) ] フィールドで、次のいずれかを実行します。
- 制約のデフォルト値を指定します。
  - フィールドを空白のままにして、ユーザが独自の制約を指定できるようにします。
- ステップ 6** 検索で大文字と小文字を区別しないようにするには、[大文字と小文字を区別しない (IgnoreCase) ] を有効にします。
- ステップ 7** [追加 (Add) ] をクリックします。
- ステップ 8** 制約の追加を続行する場合は、ステップ 1 ~ 7 を繰り返します。
- ステップ 9** 複数の制約を定義した場合は、必要に応じて [オペランド (Operand) ] カラムの *and* または *or* 演算子を指定します。
- 

他のオブジェクトと関連する、または関連しないオブジェクトを選択する検索を定義できます。たとえば、特定タイプの音声端末に関連する回線の検索を定義して、他のタイプの音声端末を除外することができます。また、範囲内でソートしたり、2 ~ 6 本の回線を所有するすべてのエンドポイントを検索したりすることも可能です。

関連付けの制約を定義する場合は、次の条件を使用できます。

- [関連付け (Associated with) ] : 検索クラスを他のオブジェクトインスタンスに関連付けるオブジェクトインスタンスと、関連付けのパスを指定する際に使用します。
- [関連付けられていません (Not associated with) ] : 検索クラスに関連付けないオブジェクトインスタンスを指定する際に使用します。

- [範囲を指定して関連付け (Associated with range)] : 検索クラスに関連付けるオブジェクトインスタンスの範囲を指定する際に使用します。この条件を選択する場合は、適切な関連付け、条件、および数量の情報を入力する必要があります。

演算子を選択したら、制約のオブジェクトインスタンスを選択する必要があります。関連付けるオブジェクトインスタンスを選択する手順は、各演算子によって異なります。

## [関連付け (Associated With)] 演算子を使用する制約の定義

[関連付け (Associated With)] 演算子を使用して制約を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 [制約の追加 (Add Constraint)] リストから [関連付け (Associations)] を選択します。
- ステップ 2 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 3 使用可能な条件のリストから、[関連付け (Associated with)] を選択して [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4 [制約の追加 (Add Constraint)] セクションの [インスタンス (Instance)] フィールドで、[検索 (Search)] アイコンをクリックします。
- ステップ 5 [クラスへ (To Class)] リストで、オブジェクトインスタンスに関連付けるクラスを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 6 [関連付けごと (By Association)] リストで適切な関連付けを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 7 [別名で参加 (Participating As)] リストで、クラスの適切な権限を選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 8 [クラスへ (To Class)] フィールドに他のクラスを指定するには、ステップ 5 ~ 7 を繰り返します。
- ステップ 9 特定のオブジェクトインスタンスへの制約を制限するには、[検索 (Search)] アイコンをクリックして、そのインスタンスを検索します。  
デフォルトでは、制約は特定のインスタンスに制限されていません。
- ステップ 10 [追加 (Add)] をクリックして選択内容を保存します。
- ステップ 11 定義済みの制約を追加するには、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 12 複数の制約を定義した場合は、必要に応じて [オペランド (Operand)] カラムの *and* または *or* 演算子を選択します。

## [範囲で関連付け (Associated with range)] 演算子を使用する制約の定義

[範囲で関連付け (Associated with range)] 演算子を使用して制約を定義するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [制約の追加 (Add Constraint) ] リストから [関連付け (Associations) ] を選択します。
- ステップ 2** [追加 (Add) ] をクリックします。
- ステップ 3** 使用可能な条件のリストから、[範囲で関連付け (Associated with range) ] 条件を選択して [追加 (Add) ] をクリックします。  
選択した制約が [制約の追加 (Add Constraint) ] セクションに追加されます。
- ステップ 4** [関連付け (Associations) ] リストから、検索に使用する関連付けクラスを選択します。
- ステップ 5** [条件 (Condition) ] リストから、検索に適した条件を選択します。
- ステップ 6** [数量 (Quantity) ] フィールドに、条件が一致する必要があるインスタンスの数を入力し、[追加 (Add) ] をクリックします。  
[選択した制約 (Selected Constraints) ] セクションに制約が表示されます。
- ステップ 7** 制約の追加を続行する場合は、ステップ 1 ~ 6 を繰り返します。
- ステップ 8** 複数の制約を定義した場合は、必要に応じて [オペランド (Operand) ] カラムの *and* または *or* 演算子を選択します。
- 

## ネームスペースの制約の定義

ネームスペースの制約を使用して、検索を制限したり、特定のネームスペースを除外したりします。

### 手順

- 
- ステップ 1** [制約の追加 (Add Constraint) ] リストからネームスペースを選択して、[追加 (Add) ] をクリックします。 [制約の追加 (Add Constraint) ] セクションにネームスペースが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- 検索にネームスペースを指定するには、[次と等しい (Equals) ] を選択します。
  - 検索からネームスペースを除外するには、[次と等しくない (Not Equal To) ] を選択します。
- ステップ 3** [値 (Value) ] リストに使用可能なネームスペースが表示されます。
- ステップ 4** [値 (Value) ] リストからネームスペースを選択して、[追加 (Add) ] をクリックします。 [選択した制約 (Selected Constraints) ] セクションに制約が表示されます。
- ステップ 5** 制約の追加を続行する場合は、ステップ 1 ~ 4 を繰り返します。
- ステップ 6** 複数の制約を定義した場合は、必要に応じて [オペランド (Operand) ] カラムの *and* または *or* 演算子を選択します。
-



デフォルトでは、各インスタンスのネームスペース、オブジェクトクラス、およびオブジェクトの値は、詳細検索の結果に表示されます。デフォルト値の他に、詳細検索で表示する値を選択できます。

[検索結果に表示するプロパティ (Properties to Return) ]セクションには、検索されるオブジェクトクラスの使用可能なプロパティと、検索で返されるプロパティが表示されます。[検索結果に表示するプロパティ (Properties to Return) ]セクションを使用すると、検索を拡張して、プロパティ値のリストを表示できます。

## 検索結果に表示する関連プロパティ

[検索結果に表示する関連プロパティ (Associated Properties to Return) ]セクションでは、検索で返される関連するオブジェクトクラスのプロパティを特定します。[検索結果に表示する関連プロパティ (Associated Properties to Return) ]セクションを使用すると、検索を拡張して、関連するオブジェクトのプロパティ値のリストを含めることができます。

### 手順

- ステップ 1 [関連プロパティ (Associated Properties) ]セクションで、[追加 (Add) ]をクリックします。
- ステップ 2 [クラスへ (To Class) ]リストで、オブジェクトクラスを選択します。
- ステップ 3 [適用 (Apply) ]をクリックします。
- ステップ 4 [関連付けごと (By Association) ]リストで適切な関連付けを選択し、[適用 (Apply) ]をクリックします。
- ステップ 5 選択したクラスの適切な権限を選択します。[適用 (Apply) ]をクリックします。
- ステップ 6 次のいずれかを実行します。
  - [クラスへ (To Class) ]リストから、オブジェクトクラスを選択します。[適用 (Apply) ]をクリックします。必要なクラスを追加したら、ステップ 2～3 を繰り返します。
  - [プロパティの選択 (Select Property of) ]リストから、ステップ 2 で選択したクラスのプロパティを選択します。[適用 (Apply) ]をクリックします。
- ステップ 7 [追加 (Add) ]をクリックします。新しく関連付けたプロパティが検索画面に表示されます。



### ヒント

プロパティを削除するには、[削除 (Remove) ]チェックボックスをオンにしてから、[削除 (Remove) ]ボタンをクリックします。

[検索結果に表示する関連オブジェクト (Associated Objects to Return) ]セクションでは、検索で返される関連するオブジェクトクラスを特定します。[検索結果に表示する関連オブジェクト (Associated Objects to Return) ]セクションを使用すると、検索を拡張して、特定のクラスの関連するオブジェクトのリストを含めることができます。

## 検索レポートの作成

将来の使用に備えて、詳細検索の内容を保存できます（[詳細検索の実行](#)、[\(168 ページ\)](#) を参照）。これらを検索レポートと呼びます。また、Provisioning では使用可能なサンプルの検索レポートも用意されていますが、独自の検索レポートを作成することもできます。サンプルの検索レポートは編集できません。

### 手順

- 
- ステップ 1 [展開 (Deploy) ] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ] > [インベントリ検索 (Inventory Search) ] を選択します。
  - ステップ 2 [検索レポート (Search Reports) ] ページで、[新規 (New) ] アイコンをクリックします。
  - ステップ 3 [クラス検索 (Class Search) ] ダイアログボックスで、検索フィールドにクラスを入力するか、表示されたクラスのいずれか 1 つを選択します。
  - ステップ 4 [インスタンス検索 (Instance Search) ] ページで、検索条件を入力して [保存 (Save) ] をクリックします。[インスタンス検索 (Instance Search) ] ページの使用方法については、[詳細検索の実行](#)、[\(168 ページ\)](#) を参照してください。
  - ステップ 5 レポートの名前を入力し、そのレポートのカテゴリを選択します。
  - ステップ 6 [保存 (Save) ] をクリックします。[詳細検索 (Advanced Search) ] ページに戻り、ここで検索を開始できます。
- 

## 検索レポートの実行

検索を検索レポートとして保存すると、そのレポートを実行することができます。検索レポートを実行する前に、検索結果を現在のブラウザ ウィンドウに表示するか、新しいウィンドウに表示するかを選択できます。

### 手順

- 
- ステップ 1 [展開 (Deploy) ] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ] > [インベントリ検索 (Inventory Search) ] を選択します。
  - ステップ 2 [検索レポート (Search Reports) ] ページで、実行するレポート (サンプル検索レポートの 1 つまたは作成した検索レポート) をクリックします。
  - ステップ 3 必要に応じて制約の値を変更します。
  - ステップ 4 別のブラウザ ウィンドウに検索結果を表示するには、[新しいウィンドウで結果を開く (Open results in a new window) ] を選択します。
  - ステップ 5 次のいずれかを実行します。
    - 検索を実行して検索結果を表示するには、[検索 (Search) ] をクリックします。

- 検索を実行して検索結果を Excel スプレッドシートに書き込むには、[Excel] をクリックします。

検索レポートを編集するには、[検索レポート (Search Reports)] ページで、編集する検索レポートの横にある [編集 (Edit)] アイコンをクリックします。

検索レポートを削除するには、[検索レポート (Search Reports)] ページで、削除する検索レポートの隣にある [編集 (Edit)] アイコンをクリックします。[検索オプション (Search Options)] セクションで [削除 (Delete)] をクリックします。

---





## 第 8 章

# Provisioning のダッシュボードとレポート

一般的に、運用担当者は毎日ダッシュボードの画面を見て、IP テレフォニー環境をモニタします。Provisioning には 3 つのダッシュボードがあります。その内容は次のとおりです。

- グローバル管理ダッシュボード：プロセッサ、デバイス、ドメイン、ユーザの操作ステータスについてのリアルタイム情報を管理します。
- ドメイン管理ダッシュボード：ドメインに関連したデバイスおよびユーザの操作ステータスについてのリアルタイム情報を管理します。
- ユーザダッシュボード：実行中、保留中、および失敗したオーダーの詳細を管理します。ユーザダッシュボードは、管理、オーダー、および Self-Care 権限以外のユーザに表示されます。

Provisioning のダッシュボードの利点は次のとおりです。

- 情報へのアクセスが簡単：プロセッサのキャパシティ、デバイスの同期ステータス、保留中のオーダー、展開の詳細を表示できます。また、ログイン済みのユーザおよびロックされているユーザも表示できます。
- カスタマイズが簡単：ダッシュボードの変更およびパーソナライズが可能であるため、見たいものを表示するようにダッシュボードのレイアウトを設定できます。
- 軽量の GUI：データは Unified のダッシュボードに表示されます。外部ポップアップウィンドウの使用は最小化されています。

### グローバル管理ダッシュボード

ホームダッシュボードでは、重要な統計情報ならびにプロセッサの詳細、保留中のオーダー、デバイス同期のステータス、ドメインと展開の詳細、およびログイン済みのユーザとロックされているユーザを表示できます。

このダッシュボードは [ホーム (Home)] の下で使用できます。

これらの情報すべてを単一のページに表示できるため、複数のページ間を移動する必要はありません。また、ダッシュボードに示されたリンクをクリックして、関連する詳細情報を表示することもできます。

ライセンスで許可されている音声端末数（エンドポイント数）および使用されている音声端末数の詳細が円グラフで示されます。この円グラフを表示するためには、Adobe Flash Player をシステムにインストールする必要があります。インストールされていない場合は、インストールするように求められます。

次の表に、グローバル管理、ドメイン管理、およびユーザダッシュボードで使用可能なダッシュレットを示します。

表 32 : Provisioning のダッシュボード

| ダッシュレット                                  | 説明                                                                                                                                                                                         | グローバル管理 | ドメイン管理 | ユーザ管理 |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------|-------|
| [容量 (Capacity) ]                         | このペインには、プロセッサ関連の詳細がリストされます。プロセッサのリスト、使用可能なライセンス数、および使用されているライセンス数を表示できます。このペインには、使用可能なライセンス数および使用されているライセンス数がグラフィック表示されます。                                                                 | X       | —      | —     |
| [保留中のオーダーのステータス (Pending Order Status) ] | 実行中、保留中、および失敗したオーダーのステータスのリストを表示できます。オーダー番号がハイパーリンクとして示されるため、そのリンクにアクセスしてオーダーの詳細を確認できます。ユーザは、承認および割り当てを待機しているオーダーのリストも表示できます。オーダー関連の詳細については、 <a href="#">オーダーの管理</a> 、(211 ページ) を参照してください。 | X       | X      | X     |

| ダッシュレット                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | グローバル管理 | ドメイン管理 | ユーザ管理 |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------|-------|
| [デバイス同期ステータス (Device Sync Status) ] | <p>デバイスおよびデバイスの同期の詳細を示すリストを表示できます。同期のステータスと完了日が示されます。このペインには検索フィルタがあり、デバイスの名前およびタイプに基づいてデバイスを検索できます。[デバイス同期ステータス (Device Sync Status) ]で利用可能な情報は読み取り専用です。同期の詳細については、<a href="#">プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期, (67 ページ)</a> を参照してください。</p>                                                                                                         | X       | X      | —     |
| [展開の詳細 (Deployment Details) ]       | <p>ドメイングループとドメイングループの設定の詳細を示すリストを表示できます。ドメイン名にアクセスすると、[ドメインの設定 (Domain Configuration) ]画面を起動できます。ユーザ数、およびドメインに関連付けられているサービスエリアが、同期完了日と一緒に表示されます。</p> <p>このペインには検索フィルタがあり、同期完了日に基づいて特定のドメイン、ユーザ、サービスエリアを検索できます。[展開の詳細 (Deployment Details) ]ペインで利用可能な情報は読み取り専用です。ドメインおよびドメイン設定の詳細については、<a href="#">ドメインの追加, (50 ページ)</a> を参照してください。</p> | X       | X      | —     |

| ダッシュレット                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                           | グローバル管理 | ドメイン管理 | ユーザ管理 |
|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------|-------|
| [ ログインしたユーザ (Logged-In Users) ] | アクティブセッションを表示し、単一または複数のアクティブセッションをログアウトさせることができます。このペインでは、アクティブセッションの詳細を表示できます。最大 100 人の管理者が同時にログインできます。[ ログアウト (Logout) ] ボタンを使用すると、単一または複数のアクティブセッションを終了できます。このペインは、グローバル管理権限を持っている場合にのみ使用可能です。 <a href="#">アクティブセッションの表示またはログアウト、(197 ページ)</a> を参照してください。 | X       | —      | —     |
| [ ロックされたユーザ (Locked Users) ]    | このペインでは、ロックされているユーザのリストを表示できます。[ ロック解除 (Unlock) ] ボタンを使用すると、ロックされているユーザのロックを解除できます。このペインは、グローバル管理ユーザ権限を持っている場合にのみ使用可能です。                                                                                                                                     | X       | —      | —     |

- [Provisioning のレポート、180 ページ](#)
- [エンドポイントインベントリ レポートの生成、182 ページ](#)
- [監査トライアル レポート、183 ページ](#)

## Provisioning のレポート

Provisioning は、次の事前に設定されたレポートのセットを提供します。

| レポート                       | 説明                                                                                     |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| [ サービスエリア (Service Area) ] | Provisioning で設定されたすべてのサービスエリアのコールプロセッサ、メッセージプロセッサ、ルートパーティション、ユーザ権限、電話番号ブロックの詳細を提供します。 |



| レポート                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [リソース設定 (Resource Configuration) ]    | 各コールプロセッサの関連付けられたドメイン、デバイスプール、サービスエリアを表示します。各メッセージプロセッサのユーザ名、IP アドレス、関連付けられたドメイン、ユーザテンプレートも表示します。                                                                                                                                                                                                                                         |
| [サービス設定 (Service Configuration) ]     | サービス カタログを表示します。使用可能なテレフォニー製品、インフラストラクチャ設定製品、サービスをリストします。また、すべてのドメインの各ユーザ権限に関連付けられたサービスとエンドポイントも表示します。                                                                                                                                                                                                                                    |
| [エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory) ] | すべてのエンドポイントのMACアドレス、デバイス名、ドメイン、サービスエリア、電話ボタンテンプレート、タイプ、コールプロセッサ、コーリングサーチスペース、ルートパーティション、デバイスプール、およびユーザ ID を表示します。                                                                                                                                                                                                                         |
| [DNインベントリ (DN Inventory) ]            | Provisioning で設定されたすべての電話番号のコールプロセッサ、ルートパーティション、コールピックアップグループ、使用ステータス、予約ステータスを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [電話番号ブロック (Directory Number Block) ]  | Provisioning で設定されたすべての電話番号ブロックのサービスエリア、最初の番号、最後の番号、ブロックサイズ、最小長を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [監査証跡 (Audit Trail) ]                 | 次のイベントを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザのログイン</li> <li>• ユーザのログアウト</li> <li>• パスワード/暗証番号の変更</li> <li>• パスワード/暗証番号のリセット</li> <li>• ボイスメール アカウントのロック解除</li> <li>• アカウントのロック</li> <li>• アカウントのロック解除</li> <li>• タイムアウト</li> </ul> <p>監査証跡レポートの詳細については、<a href="#">監査トライアルレポート</a>、( <a href="#">183 ページ</a>) を参照してください。</p> |

| レポート                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [エンドポイント/回線不一致 (Endpoint/Line Mismatch) ] | 次のエンドポイント/回線不一致レポートを使用して、エンドポイントに関連付けられていない回線を特定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [回線未割り当てのユーザ (Users without Lines) ]</li> <li>• [回線割り当て済み/エンドポイント未割り当てのユーザ (Users with Lines but No Endpoints) ]</li> <li>• [未割り当ての回線 (Unassigned Lines) ]</li> </ul> |

Provisioning のレポートを表示するには、[レポート (Reports) ]>[インタラクティブレポート (Interactive Reports) ]>[Provisioningのレポート (Provisioning Reports) ]を選択します。

[レポート (Reports) ]メニューの [Communications Managerのレポート (Communication Manager Reporting) ]リンクをクリックし、[Communications Managerのレポート (Communication Manager Reporting) ]ページを起動します。このページは、Provisioning で設定されたすべての Communication Manager デバイスをリストします。特定の Communication Manager リンクをクリックすると、Cisco Unified Reporting アプリケーションが、その Communication Manager に対して相互起動されます。

## エンドポイントインベントリ レポートの生成

エンドポイントインベントリ レポートを生成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [レポート (Report) ]>[インタラクティブレポート (Interactive Reports) ]>[エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory) ]を選択します。
- ステップ 2** ドメインとエンドポイント モデルを選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
- 検索を実行して検索結果を表示するには、[検索 (Search) ]をクリックします。
  - 検索を実行して検索結果を .tsv 形式で表示するには、[エクスポート (Export) ]をクリックします。検索結果は、タブ区切り値の形式でエクスポートされます。
- ステップ 4** 設定をデフォルトに変更するには、[リセット (Reset) ]をクリックします。
- ステップ 5** [レポートをスケジュールする日時を選択 (Select date and time to schedule report) ]リンクをクリックします。
- ステップ 6** 予定表のウィンドウから日付と時刻を選択します。
- ステップ 7** UTC オフセットまたは場所の詳細を選択します。
- ステップ 8** [選択 (Select) ]をクリックして、レポートのスケジュール日時を設定します。

サーバで、スケジュールされたレポートが `opt\cupm\sep\ipt\config\reports\  
Endpoint_Inventory_Search<Report Generated Time>.tsv` に保存されます。

(注) 検索されたエンドポイントが 5000 を超える場合は、最初の 5000 検索レコードだけがレポートに表示されます。5000 を超えるエンドポイントのレポート全体を表示するには、[エクスポート (Export)] または [スケジュール (Schedule)] オプションを使用できます。また、[ドメイン (Domain)] および [モデル (Model)] フィルタを使用して、検索範囲を絞り込んでレポート サイズを縮小できます。

[エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] ページから [エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)] レポートを生成することも可能です。

- 1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] を選択します。
- 2 [ドメイン (for domain)] フィールドで、レポート表示の対象とするドメインを選択します。
- 3 [エンドポイントの検索 (Search Endpoint)] をクリックします。  
[エンドポイントインベントリレポート (Endpoint Inventory Report)] で、エンドポイントの横の [編集 (Edit)] をクリックし、[エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページを起動します。このフィールドにはエンドポイントの情報が入力されています。



(注) エンドポイント インベントリを検索するには、ポリシー グループまたは管理者グループのメンバーとしてログインしている必要があります。

## 監査トライアル レポート

次の表に、監査トライアル レポートに表示されるフィールドを示します。

| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [操作 (Action)]                                            | ログイン、ログアウト (または管理者による強制ログアウト)、タイムアウト (30分を超えるUIのアイドル状態)、アカウントのロック (ログイン試行回数を超過したため)、ユーザ/ボイスメールアカウントのロック/ロック解除、パスワード/暗証番号の変更、パスワード/暗証番号のリセットがあります。 |
| [実行者 (Performer)]                                        | 操作を実行したユーザ。ユーザまたは管理者の場合があります。タイムアウトなどのシステム操作を除きます。タイムアウトの場合、プログラム (CUPM) 自体が操作を実行します。                                                             |
| [実行者ドメイン (Performer Domain)] および [ユーザドメイン (User Domain)] | 実行者またはユーザが属するドメイングループ。 <code>globaladmin</code> の場合、ドメインのグループ化はこのシステムアカウントには適用されないため、実行者およびユーザドメインは表示されません。                                       |

| フィールド                | 説明                                                                                    |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| [ユーザ (User) ]        | 実行されたイベント/操作の対象者。                                                                     |
| [プロセッサ (Processor) ] | ログインしたユーザの IP アドレスが表示されます。                                                            |
| [日付 (Date) ]         | イベントの日付と時刻。                                                                           |
| [説明 (Description) ]  | ユーザがログインしていた時間 (時間:分:秒の形式) が表示されます。                                                   |
| [結果 (Result) ]       | 実行された操作が成功したかどうかが表示されます。たとえば、パスワード変更の試行が失敗した場合は、その結果がパスワード UI および監査トライアル レポートに反映されます。 |

監査ログ トライアル レポートを使用してオーダーを追跡することもできます。これは、ユーザによって実行されたアクティビティを追跡し、操作がいつ実行されたのか識別するために役立ちます。たとえば、ユーザのログイン/ログアウト イベントを基にして、ログイン期間中に特定のユーザによって作成されたオーダーを検索できます。ユーザによって作成されたオーダーを検索するには、[展開 (Deploy) ]>[履歴の検索 (Search History) ]を選択し、[作成者 (Author) ]フィールドにユーザ ID を入力します。



## 第 9 章

# ユーザの管理

ユーザとは、アクティブな IP テレフォニー サービスを利用しているユーザを意味します。Provisioning では、ユーザの追加、ユーザ情報の同期、サービスの再適用、ユーザ情報の更新、およびドメイン固有のユーザ権限の管理を行うことができます。

ユーザ権限とは、組織の中でユーザが保有する権限を指します。この権限によって、各ユーザに利用が認められるサービスが決定されます。ユーザ権限は、システム側で事前に定義しておきます。



(注) アウトオブバンドで設定を行う（プロセッサに対して直接設定を行うけれども Provisioning との同期を行わない）場合は、オーダーが失敗することがあります。Provisioning は、プロビジョニングを行うプロセッサと常に同期させる必要があります。

- [ユーザの追加, 185 ページ](#)
- [ユーザ パスワードの管理, 188 ページ](#)
- [ユーザの同期, 191 ページ](#)
- [承認権限, 192 ページ](#)
- [インフラストラクチャ設定の権限の管理, 196 ページ](#)
- [ユーザのユーザ レコードへのアクセス, 197 ページ](#)

## ユーザの追加

ユーザを追加するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] ページで [追加 (Add) ] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザの追加 (Add User) ] ウィンドウで、[ユーザID (User ID) ]、[ドメイン (Domain) ]、[姓 (Last name) ] を入力します。また、必要に応じて他のフィールドにも値を入力します。特定のドメインまたはユーザ権限のクイック ビューを起動するには、ドメインおよびユーザ権限の選択中にドロップダウンメニューをクリックして、[クイックビュー (Quick View) ] アイコンをポイントします。
- ステップ 4** [保存してプロビジョニングを開始 (Save and Begin Provisioning) ] ドロップダウンで、次の手順を実行します。
- ユーザの詳細を保存して [サービスのプロビジョニング (Service Provisioning) ] ページを起動するには、[保存してプロビジョニングを開始 (Save and Begin Provisioning) ] をクリックします。
  - 詳細を保存して別のユーザを追加するには、[保存して追加を続行 (Save and Add Another) ] をクリックします。
  - 詳細を保存して [ユーザの追加 (Add User) ] ウィンドウを閉じるには、[保存して閉じる (Save and Close) ] をクリックします。

- (注)
- サービスが関連付けられているユーザを削除する場合は、ユーザを削除する前にサービスの関連付けを解除するように通知されます。
  - ユーザ ID は固有の値である必要があります。大文字と小文字は区別されません。使用できる文字は、英数文字 (A～Z、a～z、0～9)、アンダースコア ( \_ )、ハイフン ( - )、ピリオド ( . )、アポストロフィ ( ' )、スペース ( )、およびアットマーク ( @ ) です。
  - Cisco Unified Communications Manager Express および Cisco Unity Express のユーザ名を作成する場合は、[名 (First Name) ] および [姓 (Last Name) ] のフィールドにアルファベットだけを入力してください。それ以外のタイプの文字を使用した場合、ユーザのオーダーは失敗します。
  - コールプロセッサのユーザ名を作成する場合、[名 (First Name) ] および [姓 (Last Name) ] のフィールドに入力できる文字の合計数は 30 文字です。この上限を超えた状態でプロビジョニングすると、コールプロセッサからエラーメッセージが送信されます。
  - [疑似 (Pseudo) ] 権限では、コールプロセッサでユーザが関連付けられていない電話をプロビジョニングすることができます。
  - ユーザの権限を選択する際、[従業員 (Employee) ] ユーザ権限は、組織内での従業員の標準的な設定に合わせておく必要があります。デフォルトのユーザ権限または [従業員 (Employee) ] ユーザ権限をニーズに合わせて設定しておかないと、従業員ユーザレコードに、必要なオプションが記録されなくなります。
  - DefaultUserType ルール (承認権限, (192 ページ) ) は、デフォルトとして設定するユーザ権限を制御します。Provisioning では、[従業員 (Employee) ] ユーザ権限がデフォルトのユーザ権限として設定されます。Provisioning でドメインのデフォルトのユーザ権限名を更新する場合は、DefaultUserType ルールをそのドメインの新しいデフォルト権限名に更新してください。
  - ユーザ名を変更しても、そのユーザの電話または回線説明フィールドは変更されません (電話または回線が前のユーザ名でオーダー済みの場合)。
  - Cisco Unified Communications Manager Express および Cisco Unity Express に対しては、[名 (First Name) ] および [姓 (Last Name) ] のフィールドにアルファベットだけを入力してください。それ以外のタイプの文字を使用した場合、ユーザのオーダーは失敗します。
  - Cisco Unified Communications Manager に対しては、[名 (First Name) ] および [姓 (Last Name) ] のフィールドに入力できる文字の合計数が 30 文字になります。
  - 関連付けられているサービスがない場合は、ユーザを削除するように求められます。
  - ユーザからサービスが関連付け解除されても、サービスはデバイス (プロセッサ) から削除または関連付け解除されません。Provisioning 内で関連付け解除されるだけです。
  - この後にドメインの同期が実行されると、同期ルールに応じてユーザが再度作成さ

れ、サービスをユーザに関連付けられるようになります。

### [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] からの CUCM および Unity Connection の相互起動に関するリンク

Prime Collaboration Provisioning では、管理者は選択したユーザに対して、マネージャの設定とアシスタントの設定の相互起動を許可することができます。管理者は、Prime Collaboration Provisioning からユーザ、電話、および回線に関するリンクページを相互起動できます。マネージャの設定とアシスタントの設定を相互起動すると、サーバ上でUIにアクセスして直接操作できるようになります。また、シングルサインオンを使用すると、いくつかのアプリケーションを相互起動できます。詳細については、「[Prime Collaboration のシングルサインオン](#)」を参照してください。

ユーザにボイスメールサービスをプロビジョニング済みの場合、ボイスメールサービスからの相互起動リンクは、通知デバイス、代行内線番号、グリーティング、プライベート同報リストになります。

[サービスの詳細 (Service Details)] ページで [ユーザサービス (User Services)] をポイントし ([展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] でユーザを選択)、[クイックビュー (Quick View)] アイコンをクリックして、マネージャの設定とアシスタントの設定の相互起動リンクを表示します。

## ユーザパスワードの管理

パスワードを変更したり、デフォルトにリセットしたり、アプリケーションへの初期ログイン後にパスワードを変更するようユーザに求めたりすることができます。パスワードを管理するには、適切な権限 (表 33 : 承認権限) が必要です。

次の情報を更新できます。

- Provisioning のログインパスワード
- Cisco Unified Communications Manager のパスワード



(注) Cisco Unified Communications Manager が外部認証を使用するように設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager のパスワードは変更できません。Provisioning は、パスワードが (実際にアップデートされていなくても) アップデートされていることを示します。

- Cisco Unified Communications Manager の暗証番号
- Cisco Unified Communications Manager Express のパスワード
- Cisco Unity Subscriber のパスワード
- Cisco Unity Connection の暗証番号



- Cisco Unity Connection Web のパスワード

Cisco Unity Connection Web のパスワードをリセットするときに、新しいパスワードが必要な長さに達しない場合は、次のエラーが発生します：Unity Connection Password: Failed to reset credential: The credential minimum length check failed. Minimum length = 8 (Unity Connection パスワード: クレデンシャルのリセットに失敗しました。クレデンシャルの最小長チェックに失敗しました。最小長 = 8)

- Unified CM の MLPP パスワード

このパスワードは、([サービスのプロビジョニング (Service Provisioning) ] ページで) ユーザサービスの [MLPP ユーザ ID 番号 (MLPP User Identification Number) ] と [MLPP 優先認証レベル (MLPP Precedence Authorization Level) ] を設定した場合に限り、[暗証番号/パスワードの管理 (Manage PIN/Password) ] オプションを使用して変更できます。

パスワードには、少なくとも次のうちのいずれか3種類を組み合わせる必要があります。

- 大文字の英字
- 小文字の英字
- 数字
- 特殊文字

パスワードを変更したり、パスワードを Provisioning システムのデフォルトにリセットしたり、アプリケーションへの次回ログイン時にパスワードを変更するようユーザに求めたりすることができます。ユーザパスワードのデフォルト値については、Provisioning 管理者、マネージド サービスプロバイダー、または企業の IT 部署にお問い合わせください。

デフォルトのパスワードは、次のルールによって制御されます。

- DefaultCUPMPassword
- DefaultCallManagerPassword
- DefaultCallManagerPIN
- DefaultCallManagerDigestCredentials
- DefaultUnitySubscriberPassword
- DefaultWebAccessPassword

ルールの詳細については、「[ビジネス ルールの概要](#)」を参照してください。



(注) ユーザのパスワードをリセットした後で、パスワードの変更に必要なデフォルト値をユーザに通知する必要があります。

パスワードを変更したり、パスワードをリセットしたり、アプリケーションへの次回ログイン時にパスワードを変更するようユーザに求めたりするには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** 該当ユーザの [ユーザの管理 (Manage User)] ページを開きます (「[ユーザの追加](#)」を参照)。
- ステップ 2** [パスワードの管理 (Manage Passwords)] をクリックします。
- ステップ 3** [パスワード管理 (Password Management)] ページで、修正する [パスワード (Password)]、[暗証番号 (PIN)]、または [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] を選択できます。ドロップダウンリストから変更するパスワードを選択します。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
- パスワードを変更するには、新しいパスワードを指定して (確定し)、[適用 (Apply)] をクリックします。
  - パスワードをデフォルトに設定するには、[パスワードのリセット (Reset Password)] をクリックします。
  - アプリケーションへの次回ログイン時にパスワードを変更するようユーザに求めるには、[ユーザにプロンプトを表示する (Prompt User)] をクリックします。
- ステップ 5** [完了 (Done)] をクリックして確定します。
- 

パスワード作成中は次のルールが適用されます。

- ユーザ名と同じ文字列や、ユーザ名を逆にした文字列はパスワードに使用できません。
- パスワードでは、4 回以上続けて同じ文字を繰り返すことはできません。
- 次の文字列はパスワードに使用できません。
  - Cisco またはその逆
  - Cisc0 (o の代わりにゼロを使用)
  - C!sco (i の代わりに感嘆符を使用)
  - Ci\$co (s の代わりにドル記号を使用)
  - 以前のパスワードの大文字と小文字を変えたもの
- パスワードには、小文字、大文字、特殊文字、および数字を含める必要があります。
- 必要な最小文字数は 8 文字です (デフォルトの文字数ですが、変更できます)。
- 許容される最大文字数は 80 文字です (デフォルトの文字数ですが、変更できます)。

Provisioning では、opt/cupm/sep の下に passwordpolicy.properties というファイル名でパスワードポリシープロパティが保存されます。必要に応じて、プロパティファイルを修正してパスワードポリシーを変更できます。パスワードポリシーの設定を変えた場合は必ず、Provisioning を再起動する必要があります。



(注)

- Provisioning を Assurance サーバと統合する予定の場合は、管理者ユーザの Assurance パスワードポリシーに準拠していることを確認します。
- Provisioning ユーザは、パスワードを使用してコールプロセッサにログインし、自分に割り当てられているエンドポイントの設定詳細を表示して編集できます。

Cisco Unified Communications Manager Express では各ユーザにエンドポイントを 1 台しか割り当てることはできませんでしたが、Provisioning はこの制限を克服し、各ユーザに複数のエンドポイントを割り当てられるようになりました。

Cisco Unified Communications Manager Express では、2 台目以降の電話には同じユーザ名の後にチルダ (~) と 1 から始まるシーケンス インデックスを付けて、新しいユーザが作成されます (たとえば、TestUser と TestUser~1)。ユーザが Cisco Unified Communications Manager Express の Web インターフェイスを介してエンドポイントの詳細を表示するためには、正しいユーザ名を使用する必要があります。

Provisioning でパスワードを変更すると、Cisco Unified Communications Manager Express では対応するユーザ名のパスワードがすべて同時に変更されます。

## ユーザの同期

Provisioning のユーザ データは、コールプロセッサおよび Unity Connection のユーザ データと同期されます。同期の詳細については、「[ドメインの同期の概要](#)」を参照してください。

ユーザを同期させる際には、次の点に注意してください。

- Cisco Unified Communications Manager Express でユーザを最初に作成し、後から Provisioning と同期させた場合は、そのユーザのユーザ名と電話番号のフィールドに [不明 (Unknown)] と表示されることがあります。

ユーザ情報は Provisioning を介してアップデートできますが、この情報は Cisco Unified Communications Manager Express システムに適用され、ephone 記述フィールドのユーザに関する既存の情報をすべて書き換える点にご注意ください。

- ドメインおよびサービス エリアに存在するデバイスが Cisco Unified Communications Manager Express だけであり、その Cisco Unified Communications Manager Express で ephone username コマンドが設定されていない場合は、ドメインの同期中に Provisioning でユーザが作成されません。

Cisco Unified Communications Manager Express で、すべてのユーザについて ephone username コマンドが設定されていることを確認してください。

- Cisco Unified Communications Manager Express において、ephone 設定モードで button コマンドを使用する場合は、区切り文字としてコロン (:) を使用してください。Provisioning は、button コマンドの区切り文字としてコロンだけをサポートします。他の区切り文字を使用した場合、Provisioning には [ユーザレコード詳細 (User Record Details)] ページが表示されません。エンドポイントだけが表示されます。

## 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2** ユーザのリストから、[クイックビュー (Quick View) ] をポイントして [ユーザの同期 (Synchronize User) ] をクリックします。
- (注) ドメインのユーザ数が多い場合は、同期に数分かかることがあります。
- 

## 承認権限

グローバルな権限とドメイン固有の権限、2種類のグローバル Provisioning ユーザ権限を使用できます。

Provisioning ユーザは、その権限に応じて、Provisioning でさまざまなタスクを実行する権限を与えられます（「承認権限」の表を参照）。Prime Collaboration Provisioning の Standalone アプリケーションと統合アプリケーションの両方でユーザ権限を作成できます。新しくインストールされた Provisioning サーバ（ユーザデータを含む）と Assurance サーバを統合する際は、Assurance と Provisioning の両方に共通するユーザを作成するか、Provisioning の権限のみを作成することが可能です。Provisioning サーバと既存のユーザデータ（ユーザとユーザ）を接続する場合は、[ユーザ管理 (User Management) ] ページで globaladmin 権限と domain-admin 権限が自動的に同期されます。

次の点に注意してください。

- Provisioning を Assurance サーバに接続する前に作成された globaladmin ユーザと domain-admin ユーザだけが、統合された UI で自動的に同期されます。同期後に、globaladmin と domain-admin は Assurance の [ヘルプデスク (Helpdesk) ] 権限を付与されます。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 10.0 Assurance Advanced](#)』ガイドを参照してください。
- Provisioning を Assurance サーバに接続する前に作成された globaladmin と domain-admin 以外のユーザは同期されません。たとえば、[オーダー (Ordering) ] 権限、[承認 (Approval) ] 権限などを持つユーザは同期されません。これらのユーザは、統合された UI にログインできません。
- Provisioning を Assurance サーバに接続する前に作成された globaladmin と domain-admin 以外のユーザは同期されません。たとえば、[オーダー (Ordering) ] 権限、[承認 (Approval) ] 権限などを持つユーザは同期されません。これらのユーザは、統合された UI にログインできません。
- 統合モードでは、[ユーザ管理 (User Management) ] ページで複数ドメインと単一ドメインのユーザを作成できます。
- [アクティビティ (Activity) ] 権限は、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみ使用できます。このメニューは、Prime Collaboration Provisioning Standard ではサポートされていません。
- Prime Collaboration Provisioning Standard でオーダーを作成する際は、MAC アドレスまたはダミー MAC アドレスが必要です。

表 33 : 承認権限

| 承認権限                                                                                                                                                                                                                                                           | 説明                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [グローバルな権限 (Global Roles) ]                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                       |
| [管理 (Administration) ]                                                                                                                                                                                                                                         | すべての Provisioning 機能にアクセスできます。                                                                                                                        |
| [メンテナンス (Maintenance) ]                                                                                                                                                                                                                                        | システムのクリーンアップアクティビティを設定できます。<br>「メンテナンス モード」を参照してください。                                                                                                 |
| [ドメインの権限 (Roles for Domain) ]<br>ドロップダウンリストで、承認権限を設定するドメインを選択します。選択した権限は、選択したドメインにだけ適用されます。すべての使用可能なドメインに同じ承認権限を適用するには、[すべてのドメインに適用 (Apply to all domains) ]を選択します。<br>(注) 管理者が [すべてのドメインに適用 (Apply to all domains) ]を選択した場合、全ドメインのユーザの既存の権限は、現在の選択内容で上書きされます。 |                                                                                                                                                       |
| [ポリシー (Policy) ]                                                                                                                                                                                                                                               | 電話ボタンテンプレートの表示、ユーザ権限の修正、および電話インベントリの追加または更新を行うことができます。                                                                                                |
| [インフラストラクチャ設定管理 (Infrastructure Configuration Management) ]                                                                                                                                                                                                    | インフラストラクチャ設定オブジェクトをプロビジョニングできます。この権限を選択する場合は、[権限プロファイル (Permission Profile) ] ボックスからプロファイルも選択する必要があります。                                               |
| [権限プロファイル (Permission Profile) ]                                                                                                                                                                                                                               | この承認権限が割り当てられているインフラストラクチャ設定オブジェクトユーザが設定できる権限を設定します (権限の設定の詳細については、 <a href="#">インフラストラクチャ設定の権限の管理</a> 、(196 ページ) を参照してください) 。                        |
| [SelfCareUser]                                                                                                                                                                                                                                                 | 自分のサービスを管理できます。回線のセットアップ、サービスの管理、電話オプションの設定をすばやく簡単に行うことができます。<br>(注) [SelfCareUser] チェック ボックスは、そのドメインの CreateSelfCareAccounts ルールが有効になっている場合のみ使用できます。 |
| [オーダー権限 (Ordering Roles) ]<br>これらの権限を割り当てられたユーザは、他のユーザや自分自身のオーダーを発行できます。                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                       |

| 承認権限                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [オーダー (Ordering) ]              | 許可する操作: <ul style="list-style-type: none"> <li>ドメイン内のユーザの追加、削除、またはアップデート</li> <li>ドメイン内のユーザ権限の追加、削除、またはアップデート (ドメインルールで許可されている場合)</li> <li>ドメイン内のインベントリにある電話の追加、削除、または更新 (ドメインルールで許可されている場合)</li> <li>ドメイン内の詳細ユーザ情報の検索と表示</li> <li>ドメイン内のユーザに対するオーダーの発行</li> </ul> |
| [詳細オーダー (Advanced Ordering) ]   | [オーダー (Ordering) ]権限によって指定されているすべての機能にアクセスできます。また、[オーダーエントリ (Order Entry) ]ページの [詳細オーダー (Advanced Ordering) ]オプションにもアクセスできます。                                                                                                                                      |
| [詳細割り当て (Advanced Assignment) ] | [オーダー (Ordering) ]権限によって指定されているすべての機能にアクセスできます。また、オーダーの入力時に電話製品の MAC アドレスを割り当てることができます。                                                                                                                                                                            |
| [アクティビティ権限 (Activity Roles) ]   | これらの権限のいずれかを割り当てられたユーザは、オーダー処理中にグループに割り当てられているアクティビティを実行できます。                                                                                                                                                                                                      |
| [承認 (Approval) ]                | オーダーを受け入れて承認を完了できます。                                                                                                                                                                                                                                               |
| [割り当て (Assignment) ]            | MACアドレスを割り当てるユーザアクティビティを受け入れることができます。                                                                                                                                                                                                                              |
| [出荷 (Shipping) ]                | オーダーを受け入れて出荷を完了できます。                                                                                                                                                                                                                                               |
| [受領 (Receiving) ]               | オーダーを受け入れて受領を完了できます。                                                                                                                                                                                                                                               |

## ユーザ権限の編集



(注) グローバルな権限はシステム全体に適用され、ドメイン権限はユーザが属するドメインにだけ適用されます。

表 33 : 承認権限には、スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning と統合アプリケーションの Provisioning の両方で利用可能な承認権限が示されています。

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning と統合アプリケーションの両方で、[ユーザ管理 (User Management)] ページからこれらの承認権限を作成し、管理することができます。

統合アプリケーションで承認権限を管理するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [ユーザ管理 (User Management)] を選択します。
  - ステップ 2 編集するユーザ名を選択して [編集 (Edit)] をクリックします。
  - ステップ 3 必要な変更を保存します。  
スタンドアロンの *Prime Collaboration Provisioning* アプリケーションで承認権限を管理するには、次の手順を実行します。
  - ステップ 4 [管理 (Administration)] > [ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)] > [ユーザ管理 (User Management)] を選択します。
  - ステップ 5 [ユーザの管理 (Manage User)] ページで、[ユーザID (User ID)] フィールドの横の [選択 (Chooser)] アイコンをクリックします。
  - ステップ 6 割り当てられた権限フィールドの横にある [編集 (Edit)] をクリックします。[ユーザ認証権限の割り当て (Assign User Authorization Roles)] ページが表示されます。  
ヒント [承認権限の管理 (Manage Authorization Roles)] をクリックして [ユーザ認証権限の割り当て (Assign User Authorization Roles)] ページにアクセスすることもできます。
  - ステップ 7 ユーザに割り当てる権限を選択します。
  - ステップ 8 [更新 (Update)] をクリックします。
  - ステップ 9 [完了 (Done)] をクリックします。
- 

[ユーザ管理 (User Management)] ページでは、次の情報を変更できます。

- ユーザ氏名
- ユーザの名
- ユーザの姓
- ユーザの電子メール
- グローバルプロビジョニング権限 (管理またはメンテナンス)
- ドメインのプロビジョニング権限

統合モードでは、ユーザの追加機能を使用して作成したユーザは Web クライアントだけに適用できます。CLI から Assurance サーバおよび Provisioning サーバ (またはそのいずれか) にログインすることはできません。

# インフラストラクチャ設定の権限の管理

[インフラストラクチャ設定の権限プロパティ (Infrastructure Configuration Permission Profiles) ] ページで、[インフラストラクチャ設定管理 (Infrastructure Configuration Management) ] 承認権限を持つユーザが、設定目的でいずれかのインフラストラクチャ設定製品のアクセス権を持つように権限を設定します。

## インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの作成

### 手順

- 
- ステップ 1 [管理 (Administration) ]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management) ]>[インフラストラクチャ設定権限 (Infrastructure Configuration Permissions) ] を選択します。
  - ステップ 2 [インフラストラクチャ設定の権限プロファイル (Infrastructure Configuration Permission Profiles) ] ページで、[新規追加 (Add New) ] をクリックします。
  - ステップ 3 [権限プロファイル設定 (Permission Profile Configuration) ] ページで、名前を入力します。使用できる文字は、英数文字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア ( \_ )、ハイフン ( - )、ピリオド ( . )、スペース ( )、およびアットマーク ( @ ) です。
  - ステップ 4 (オプション) 説明を入力します。
  - ステップ 5 [サービス (Services) ] ペインで、設定できるようにするプロファイルの製品を選択します。
  - ステップ 6 [保存 (Save) ] をクリックします。
- 

## インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの更新

### 手順

- 
- ステップ 1 [管理 (Administration) ]>[権限プロファイル (Permission Profiles) ] を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションで、[管理 (Administration) ]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management) ]>[インフラストラクチャ設定権限 (Infrastructure Configuration Permissions) ] を選択すると表示されます)。
  - ステップ 2 [インフラストラクチャ設定の権限プロファイル (Infrastructure Configuration Permission Profiles) ] ページで、更新するプロファイルをクリックします。
  - ステップ 3 [権限プロファイル設定 (Permission Profile Configuration) ] ページで、目的の変更を行います。
  - ステップ 4 [保存 (Save) ] をクリックします。
-



## インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの削除

### 手順

- ステップ1 [管理 (Administration) ]>[権限プロファイル (Permission Profile) ]を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションで、[管理 (Administration) ]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management) ]>[インフラストラクチャ設定権限 (Infrastructure Configuration Permissions) ]を選択すると表示されます)。
- ステップ2 [インフラストラクチャ設定の権限プロファイル (Infrastructure Configuration Permission Profiles) ] ページで、削除するプロファイルをクリックします。
- ステップ3 [インフラストラクチャ設定の権限プロファイル (Infrastructure Configuration Permission Profiles) ] ページで、[削除 (Delete) ] をクリックします。

## ユーザのユーザ レコードへのアクセス

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションにアクセスするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ1 [展開 (Deploy) ]>[ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ]を選択します。
- ステップ2 目的のユーザをクリックします。
- ステップ3 [サービスのプロビジョニング (Provision Services) ] をクリックします。

## アクティブ セッションの表示またはログアウト

アクティブセッションを表示し、単一または複数のアクティブセッションをログアウトさせることができます。

### 手順

- ステップ1 スタンドアロンモードでは、[管理 (Administration) ]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management) ]>[ログインしたユーザ (Logged In Users) ]を選択します。 コンバージドモードでは、[レポート (Reports) ]>[管理レポート (Administrative Reports) ]>[ログオンしたユーザ (Who Is Logged On) ]を選択します。

[ログインしたユーザ (Logged In Users) ] ページが表示され、アクティブセッションのリストが表示されます。

**ステップ 2** 単一または複数のセッションをキャンセルするには、終了するセッションを選択します。

**ステップ 3** [ログアウト (Log out) ] をクリックします。  
選択したセッションおよびユーザが、サーバからログアウトされます。

(注) [ログインしたユーザ (Logged In Users) ] および [ロックされたユーザ (Locked Users) ] にアクセスできるのは globaladmin だけです。

## グローバル検索ツールの使用方法

検索ツールを使用して、次の作業を実行できます。

- ユーザの特定
- MAC アドレスの特定
- 電話番号の特定

表示ペインの上部にある検索フィールドを使用して検索するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** ホームページの右上隅にあるドロップダウンリストから、[Provisioningデータ (Provisioning Data) ] を選択します。

**ステップ 2** 検索フィールドのドロップダウンリストから [ユーザID (User ID) ]、[姓 (Last Name) ]、[MAC アドレス (MAC Address) ]、または [電話番号 (Directory Number) ] を選択します。

**ステップ 3** 有効な情報を入力します。

**ステップ 4** Enter を押して検索を開始します。完全一致がある場合は、そのユーザまたはエンドポイントデバイスに移動します。



# 第 10 章

## Prime Collaboration Self-Care の使用方法

Prime Collaboration が提供する電話 Self-Care ポータルでは、ユーザ名やパスワードなどの初期設定を制御できます。Self-Care ポータルを使用して、自分のアカウントとサービスを更新することができます。Self-Care 機能によって、回線設定の変更、サービスの管理、電話オプションの設定を行えるようになります。

Cisco Unified Communications Manager 10.0 では、新しい Self-Care 機能が導入されました。この Self-Care は Cisco Unified CM からのみアクセスできます。Prime Collaboration Self-Care、つまり Cisco Unified CM 10.0 以前の Prime Collaboration Provisioning からの Self-Care を有効にできます。



(注) Prime Collaboration Self-Care は、CM ベースの Self-Care とともに Cisco Unified CM 10.0 および Cisco Unity Connection 10.0 でも利用可能です。Prime Collaboration Self-Care を使用していない場合、管理者は [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページの [Prime Collaboration Self-Care を有効 (Enable Prime Collaboration Self-Care)] チェックボックスをオフにする必要があります。

Cisco Unified Communications Manager Self-Care は、Cisco Unified CM 10.0 だけを Cisco Unity Connection 10.0 のみと使用している環境、またはユーザが Cisco Unified CM 10.x クラスタ 1 台だけのサービスを持っている場合に推奨します。



(注) Cisco Unified Communications Manager が 2 名以上のユーザ間で共有され、複数のユーザが LDAP を使用している場合は、Cisco Unified Communications Manager のバージョンにかかわらず Prime Self-Care が使用されます。

Prime Collaboration Self-Care を有効にするには、[Self-Care アカウントの作成](#)、(200 ページ) を参照してください。

CM ベースの Self-Care を有効にするには、『[Cisco Unified Communications Self Care Portal User Guide, Release 10.0.0](#)』を参照してください。

- [Self-Care アカウントの作成](#)、200 ページ
- [Prime Collaboration Self-Care の開始](#)、201 ページ

- [個人設定のカスタマイズ](#), 202 ページ
- [Self-Care ユーザ移行スクリプト](#), 208 ページ

## Self-Care アカウントの作成

Prime Collaboration Provisioning のスタンドアロンまたは統合アプリケーションでは、Self-Care アカウントを作成できます。作成するユーザごとに Self-Care を有効または無効にできます。



(注)

- Self-Care 権限を割り当てるには、新しいドメインを作成する際に CreateSelfCareAccounts ルールを有効にする必要があります。CreateSelfCareAccounts ルールは、デフォルトで無効になっています。
- Self-Care Migration Utility を実行して、既存のドメインの Self-Care 権限を割り当てることもできます。これにより、既存のユーザの Self-Care 権限が有効になります。詳細については、[Self-Care ユーザ移行スクリプト](#), (208 ページ) を参照してください。
- [SelfCareUser] チェックボックスは、CreateSelfCareAccounts ルールが有効な場合にのみ使用できます。
- ユーザの作成後、そのユーザは、globaladmin または domain-admin がアカウントパスワードを変更した後に限り、Self-Care にログインできるようになります。デフォルトでは、ユーザのパスワードは空です。[DefaultCUPMPassWord] データ フィールドでデフォルトのパスワードを指定し、[有効 (Enabled)] を [はい (true)] に設定して、デフォルトのパスワードを設定します。

ユーザの Self-Care アカウントを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 [ユーザの追加 (Add User)] をクリックして、[Prime Collaboration Self-Care を有効 (Enable Prime Collaboration Self-Care)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 必要なユーザ情報を入力して保存します。

## バッチ プロビジョニングを使用した Self-Care の有効化と無効化

新しいユーザの作成時に、バッチ プロビジョニングを使用して Self-Care を有効にできます。Self-Care をユーザに対して有効にするには、バッチ操作ファイルで承認権限を SelfCareUser として提供します。

バッチプロビジョニングを使用して、既存ユーザの Self-Care 権限の有効/無効を切り替えることもできます。有効にする場合は SelfCareUser として承認権限を提供し、無効にする場合はバッチ操作ファイルで何も提供しません。



(注) Self-Care アカウントを作成するには、ドメインに対して CreateSelfCareAccounts ルールを有効にする必要があります。

バッチプロビジョニングの詳細については、[バッチプロジェクトの管理](#)、(152 ページ) を参照してください。

## Prime Collaboration Self-Care の開始

ユーザ権限に応じて Self-Care を開始できます。



(注) IE 10 を使用している場合、Self-Care ポータルを正常に機能させるには [標準 (Standards)] モードを選択する必要があります。

Self-Care 権限だけを持つユーザは、ログイン後にセルフケア ポータルが表示されます。

### 手順

**ステップ 1** ブラウザで `http://<provisioning-ip>/cupm/selfcareuser/Login` と入力します。

**ステップ 2** Self-Care クレデンシャルを使用してログインします。  
ユーザには Self-Care 権限しかないため、アクセスできるのは Self-Care メニューだけです。このようなユーザは Provisioning メニューを利用できません。

## [個人設定 (Personal Settings)] からの Prime Collaboration Self-care の開始

ユーザに他の承認権限 ([メンテナンス (Maintenance)]、[オーダー (Ordering)]、[アクティビティ (Activity)] 権限など) に加えて [Self-Care] 権限もある場合は、[個人設定 (Personal Settings)] から Self-Care を開始できます。

[個人設定 (Personal Settings)] を開始するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1 クレデンシャルを使用して Provisioning にログインします。
  - ステップ 2 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
  - ステップ 3 ユーザを選択して [サービスのプロビジョニング (Provision Services)] をクリックします。
  - ステップ 4 [個人設定 (Personal Settings)] を選択し、選択したユーザの Self-Care オプションを更新します。
- 

ユーザのクイック ビューから、[Self-Careの開始 (Launch Self-Care)] をクリックできます。

## 個人設定のカスタマイズ

Self-Careを使用すると、次の電話の用途に関して、個々の属性や個人の初期設定を設定できます。

- スピードダイヤル番号、サイレント機能のオプション、および保留音の設定などの電話オプション
- エクステンション モビリティとシングルナンバー リーチのオプションを設定できる、プロフィールのオプション
- コールの転送、発信者 ID、通知など、特定の電話回線のオプション
- パスワード、暗証番号 (PIN) など、電話のユーザに関するユーザ オプション

/opt/cupm/sep/ipt.properties ファイルを更新して、Self-Care ポータルの [電話の設定 (Phone Settings)]、[回線の設定 (Line Settings)]、および [ユーザ設定 (User Settings)] に表示される機能の表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、[電話の設定 (Phone Settings)] の機能を設定する場合は、次のように入力します。

```
enabled features for Phone Settings should be provided as follows:
General, SpeedDials, DoNotDisturb, Locale, MusicOnHold, Others
dfc.ipt.selfcare.phone.features=General, SpeedDials, DoNotDisturb, Locale, MusicOnHold, Others#
```



- 
- (注) ipt.properties ファイルを更新するには、ルートユーザとしてログインする必要があります。変更を有効にするためには、cupm サービスを再起動する必要があります。
- 

Self-Care オプションを設定するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1 ブラウザで、<http://<provisioning-ip>/cupm/selfcareuser/Login> と入力します。
  - ステップ 2 ユーザ名とパスワードを入力します。  
Self-Care ポータル画面が表示されます。 Self-Care ポータル画面は、次の要素で構成されます。

- 電話カルーセル：（画面左下の）電話カルーセルには、設定可能な電話とサービスプロファイルのアイコンがあります。アイコンのいずれかの横側をクリックすると、追加の電話またはプロファイルを表示できます。
- メインメニュー：（電話カルーセル右側の）メインメニューのオプションは、[電話の設定 (Phone Settings) ]、[回線の設定 (Line Settings) ]、および [ユーザ設定 (User Settings) ] です。電話カルーセルで選択した内容に応じて、[電話の設定 (Phone Settings) ] オプションは、[エクステンションモビリティの設定 (Extension Mobility Settings) ] または [シングルナンバーリーチの設定 (Single Number Reach Settings) ] に変化します。
- 設定エリア：選択したメインメニューの設定可能なカテゴリが次に表示されます。[スピードダイヤル (Speed Dials) ] などのカテゴリをクリックすると、画面の右側に設定可能なオプションが表示されます。

**ステップ 3** 電話カルーセルで、設定する電話またはプロファイルを選択します。

**ステップ 4** [回線の設定 (Line Settings) ] メニューで、設定しているオプション回線が正しく選択されていることを確認します。

Self-Care ポータルで設定可能なオプションは次のとおりです。

- [電話の設定 (Phone Settings) ]/[エクステンションモビリティの設定 (Extension Mobility Settings) ] の設定
- [シングルナンバーリーチの設定 (Single Number Reach Settings) ] の設定
- [回線の設定 (Line Settings) ] の設定
- [ユーザ設定 (User Settings) ] の設定

## [電話の設定 (Phone Settings) ]/[エクステンションモビリティの設定 (Extension Mobility Settings) ] の設定

次の表に、Self-Care を使用して実行できる電話とエクステンションモビリティの設定を示します。

表 34 : [電話の設定 (Phone Settings) ]/[エクステンションモビリティの設定 (Extension Mobility Settings) ] の設定

| 設定              | 説明                  | 手順                                                                                                     |
|-----------------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [一般 (General) ] | 電話の MAC アドレスを更新します。 | [電話の設定 (Phone Settings) ] > [MAC アドレス (MAC Address) ] を選択し、電話の有効な MAC アドレスを入力して、[保存 (Save) ] をクリックします。 |

【電話の設定 (Phone Settings)】/【エクステンションモビリティの設定 (Extension Mobility Settings)】の設定

| 設定                        | 説明                                                                                                                                                                         | 手順                                                                                                                                                |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [スピードダイヤル (Speed Dials) ] | スピードダイヤル用の電話番号を追加します。<br>スピードダイヤルの間隔を空けるには、数字の間にカンマを追加します。任意の数のカンマを追加できます。カンマ1個あたりのデフォルトの遅延は2秒間です。                                                                         | [電話の設定 (Phone Settings) ]>[スピードダイヤル (Speed Dials) ]を選択し、[追加 (Add) ]をクリックします。必要な情報を入力し、[保存 (Save) ]をクリックします。                                       |
| [サイレント (Do Not Disturb) ] | [サイレント (Do Not Disturb) ]機能を有効または無効にします。<br>[サイレント (Do Not Disturb) ]機能が有効になっているとき、着信コールがあった場合に実行するアクションを選択します。                                                            | [電話の設定 (Phone Settings) ]>[サイレント (Do Not Disturb) ]を選択し、[[サイレント]を有効にする (Enable Do Not Disturb) ]チェックボックスをオンにします。                                  |
| [ロケール (Locale) ]          | 作業とネットワークでサポートする時間と言語のロケールを選択します。                                                                                                                                          | [電話の設定 (Phone Settings) ]>[ロケール (Locale) ]を選択し、[ユーザロケール (User Locale) ]ドロップダウンリストから場所を選択し、[保存 (Save) ]をクリックします。                                   |
| [保留音 (Music On Hold) ]    | 保留にしたときに再生される音楽のソースを選択します。                                                                                                                                                 | [電話の設定 (Phone Settings) ]>[保留音 (Music On Hold) ]を選択し、コールを保留にしたときに再生する音源を[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]ドロップダウンリストから選択して、[保存 (Save) ]をクリックします。 |
| [その他 (Others) ]           | 次のオプションを有効または無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• スピーカーフォン</li> <li>• スピーカーフォンとヘッドセット</li> <li>• ビデオ</li> <li>• PC ポートの使用</li> <li>• エクステンション モビリティ</li> </ul> | [電話の設定 (Phone Settings) ]>[その他 (Others) ]を選択し、各オプションのチェックボックスを必要に応じてオンまたはオフにして [保存 (Save) ]をクリックします。                                              |



## 回線の設定

次の表に、選択した電話またはプロフィールの各回線で使用可能な回線の設定を示します。

表 35: [回線の設定 (Line Settings) ]

| 設定                      | 説明                                                 | 手順                                                                                                                                                         |
|-------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [コール転送 (Call Forward) ] | デフォルトのコール転送オプションを設定します。外部または内部の着信コールの転送をカスタマイズします。 | [回線の設定 (Line Settings) ] を選択し、[コール転送 (Call Forward) ]、[発信者ID (Caller ID) ]、[通知 (Notification) ]、または [保留音 (Music On Hold) ] を選択して更新し、[保存 (Save) ] をクリックします。 |
| [発信者ID (Caller ID) ]    | 発信者 ID オプションを設定します。                                |                                                                                                                                                            |
| [通知 (Notification) ]    | 着信コールとメッセージの通知のオーディオおよびビジュアル オプションを設定します。          |                                                                                                                                                            |
| [保留音 (Music On Hold) ]  | コールを保留にしたときに再生される音楽のソースを選択します。                     |                                                                                                                                                            |

## ユーザ設定

使用可能な [ユーザ設定 (User Settings) ] のオプションを、次のリストで説明します。

表 36: ユーザ設定

| 設定                  | 説明                                                       | 手順                                                                                                                      |
|---------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [情報 (Information) ] | 名前を更新します。<br>自分の電子メール アドレスを入力します。<br>プライマリ Phone を選択します。 | [ユーザ設定 (User Settings) ] を選択し、[情報 (Information) ]、[パスワード (Password) ] または [暗証番号 (PIN) ] を選択して更新し、[保存 (Save) ] をクリックします。 |
| [パスワード (Password) ] | パスワードを更新します。                                             |                                                                                                                         |
| [暗証番号 (PIN) ]       | 暗証番号を更新します。                                              |                                                                                                                         |

## 共通 Self-Care タスク

次の表に、ユーザが実行できるすべての共通 Self-Care タスクを示します。

表 37: 共通 Self-Care タスク

| タスク                      | 手順                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| パスワードを変更する               | [ユーザ設定 (User Settings)] > [パスワード (Passwords)] を選択します。                                                                                                                                                  |
| 暗証番号を変更する                | [ユーザ設定 (User Settings)] > [暗証番号 (PIN)] を選択します。<br><br>(注) 電話とボイスメールの暗証番号を変更できます。電話の暗証番号は、Cisco Unified Communications Manager (またはエクステンション モビリティの) の暗証番号をリセットし、ボイスメールは Unity Connection の暗証番号をリセットします。 |
| スピーカフォンの使用を無効にする         | [電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[スピーカフォンの無効化 (Disable Speakerphone)] チェックボックスをオンにします。                                                                                                   |
| エクステンションモビリティを有効にする      | [電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[Ciscoエクステンションモビリティ (Cisco Extension Mobility)] チェックボックスをオンにします。                                                                                        |
| ビデオ コールを有効にする            | [電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[ビデオを有効にする (Enable Video)] チェックボックスをオンにします。                                                                                                             |
| コールを転送する                 | [回線の設定 (Line Settings)] > [コール転送 (Call Forward)] を選択し、着信コールを転送するオプションを設定します。                                                                                                                           |
| 電子メール情報を提供する             | [ユーザ設定 (User Settings)] > [情報 (Information)] を選択し、電子メールアドレスを入力します。                                                                                                                                     |
| プライマリデバイスとして異なる電話を選択します。 | [ユーザ設定 (User Settings)] > [情報 (Information)] を選択し、[プライマリデバイス (Primary Device)] ドロップダウン リストから優先デバイスを選択します。                                                                                              |
| コールおよびメッセージ通知を選択する       | [回線の設定 (Line Settings)] > [通知 (Notification)] を選択し、着信コールとメッセージの通知オプションを選択します。                                                                                                                          |

| タスク             | 手順                                                                                               |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コール保留音のソースを選択する | [電話の設定 (Phone Settings)] > [保留音 (Music On Hold)] を選択し、ユーザまたはネットワークによってコールが保留にされたときに使用する音源を選択します。 |

## シングルナンバー リーチの設定

シングルナンバー リーチ機能では、別の電話番号とビジネス IP 電話番号を関連付けることができます。ビジネス電話番号でコールに応答した場合、Provisioning Manager は、ビジネス電話に加えて、指定済みの電話の呼び出し音を自動的に鳴らします。このような方法で、シングルナンバー リーチ機能により、受信者の場所にかかわらず、発信者は単一の番号をダイヤルして受信者に電話をかけることができます。

シングルナンバー リーチ用の代替番号を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** 電話カールセルで、リモート接続先プロファイルに関連付けられているアイコンを選択します。
  - ステップ 2** [シングルナンバー リーチの設定 (Single Number Reach Settings)] > [代替番号 (Alternate Numbers)] を選択します。
  - ステップ 3** 表「表 38 : シングルナンバー リーチのフィールドの説明」に従って情報を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
  - ステップ 4** 必要に応じて、[新規追加 (Add New)] をクリックして別の代替番号を追加します。
- 

表 38 : シングルナンバー リーチのフィールドの説明

| フィールド                                         | 説明                                                                 |
|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| [代替番号 (Alternate Number)]                     | プライマリ Phone でコールを受信したとき、Provisioning Manager が呼び出し音を鳴らす代替番号を入力します。 |
| [説明 (Description)]                            | (オプション) 代替番号の説明を入力します。                                             |
| [リーチミーエニウェアを有効にする (Enable Reach Me Anywhere)] | このチェックボックスをオンにすると、着信コールで複数の電話機が同時に鳴ります。                            |
| [これはモバイルデバイスです (This is a mobile device)]     | モバイルデバイス用の代替番号の場合は、このチェックボックスをオンにします。                              |

| フィールド                                                                             | 説明                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [代替番号を呼び出し始めるまでの時間: 秒 (Allow me ... seconds to answer) ]                          | コールを代替番号へ送る前に、Provisioning Manager がプライマリ Phone での応答を待機する時間 (秒単位) を入力します。                                                               |
| [代替番号を呼び出し続ける時間: 秒 (Continue ringing the alternate number for ... seconds) ]      | Provisioning Manager が代替番号で着信音を鳴らし続ける時間 (秒単位) を入力します。                                                                                   |
| [コールを代替番号に接続しないようにする猶予時間: 秒 (If the alternate number answers within ... seconds)] | コールを代替デバイスに送った後で、そのデバイスに接続する前に Provisioning Manager が待機する時間 (秒単位) を入力します。この待機時間を設定すると、コールによってボイス メールなどの自動応答がデバイス上で開始されないように防止することができます。 |
| [回線の関連付け情報 (Line Association Information) ]                                       | この代替番号に関連付ける回線のチェックボックスをオンにします。                                                                                                         |

## Self-Care ユーザ移行スクリプト

SelfCareMigrationUtility は、移行中または CLI から移行後に起動できます。このツールは、CreateSelfCareAccounts ルールおよび DefaultCUPMPassWord ルールセットを持つドメイン内のすべてのユーザを処理します。

このツールは /opt/cupm/sep/ipt/bin から CLI を経由して実行できます。また、実行はグローバル (全ドメイン対象) でも単一ドメインでも可能です。

スクリプトを実行するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** /opt/cupm/sep/ipt/bin へ移動します。

**ステップ 2** 次を実行します。 ./SelfCareMigrationUtility.sh ALL ENABLE

- ALL : すべてのドメインを示します。
- ENABLE : 指定したドメインの全ユーザに対するセルフケアを有効にします。

セルフケア オプションを無効にするには、次の手順を実行します。

```
./SelfCareMigraionUtility.sh ALL DISABLE
```

スクリプトはドメイン レベルでも実行できます。これを実行するには、次の手順を実行します。

```
./SelfCareMigrationUtility.sh DOMAIN NAME [ENABLE | DISABLE]
```

---

移行の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 10.0 Migration Guide](#)』を参照してください。





# 第 11 章

## オーダーの管理

個別のサービスまたはバンドルサービスをプロビジョニングできます。[オーダー (Ordering)] 承認権限を持つユーザは、自分自身または他のユーザのオーダーを追加、変更、またはキャンセルできます。

Provisioning には、Provisioning の設定内容に応じてサービスのアクティブ化やビジネスフローなどのオーダー処理を実行する、オートメーションエンジンが組み込まれています。

オーダーのプロビジョニングに要する時間は場合によって異なります。オーダーが正常に完了したかどうかを確認するには、該当ユーザのユーザレコードに進みます ([展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します)。サービスは [ユーザレコードオプション (User Record Options)] ペインに表示され、[オーダーの表示 (View Orders)] セクションにサービスのステータスが [完了 (Complete)] と表示されます。また、オーダー番号によるオーダーの検索も実行できます。



(注) システムが長い期間アイドル状態になると、最初のオーダーが作成されるまでに通常より長くなる場合があります。

オーダーを作成する際は、次の点に注意してください。

- メッセージプロセッサ (Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および Cisco Unity Express) でサービスをオーダーしている間、すべてのサービスが利用可能であるわけではありません。これは、プロセッサがすべてのサービスをサポートしてはいないためです。 [サポートされる Cisco Unity サービス、\(212 ページ\)](#) には Cisco Unity プロセッサでオーダー可能およびオーダー不能な音声サービスがリストされています。
- Cisco Unified Communications Manager Express または Cisco Unity Express のいずれかに対するサービスをオーダーする際、Cisco IOS CLI コマンドの入力時 ([詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] ペインのプロビジョニング属性を設定するとき) には注意してください。自分の承認権限によって設定できる内容が制限されることはありません。
- 属性の中には、特定のプロトコルの特定のエンドポイントタイプでサポートされないものがあります。エンドポイントのオーダーを作成する場合は、選択したエンドポイントタイプとプロトコルによってサポートされる属性の値を設定するだけです。そうしないと、サービスのプロビジョニングが成功しません。

- Provisioning は、インターコムのコーリング サーチ スペースやルート パーティションなどのサポートされないインフラストラクチャ オブジェクトを、Cisco Unified Communications Manager から同期します。これらのサポートされないオブジェクトを Provisioning サービスで使用すると、エラーが発生します。
  - [音声ゲートウェイの有効化 (Enable Voice Gateway) ]機能のプロパティを N に設定すると、[オーダーエントリ (Order Entry) ]画面にアナログ エンドポイントが表示されます。プロパティを Y に設定した場合、この画面にアナログ エンドポイントは表示されません。
  - アナログ エンドポイントをオーダーするには、[サービスエリアの設定 (Service Area Configuration) ]画面で [音声ゲートウェイ参照 (Voice Gateway References) ]をサービス エリアに追加する必要があります。
- 
- [サポートされる Cisco Unity サービス, 212 ページ](#)
  - [ユーザのサービスのオーダー, 214 ページ](#)
  - [コールプロセッサに対する回線とエンドユーザの関連付け, 235 ページ](#)
  - [共有エンドポイントと共有回線のオーダー, 237 ページ](#)
  - [エンドポイントのない回線のオーダー, 241 ページ](#)
  - [ボイスメールサービスのオーダー, 241 ページ](#)
  - [プレゼンスサービスのオーダー, 260 ページ](#)
  - [ユーザへのユーザプロファイルの関連付け, 264 ページ](#)
  - [ユーザが関連付けられていないエンドポイントの管理, 265 ページ](#)
  - [既存のエンドポイントの交換, 266 ページ](#)
  - [エンドポイントのオーナーの変更, 267 ページ](#)
  - [回線情報の変更, 268 ページ](#)
  - [ボイスメールアカウントのロック解除, 269 ページ](#)
  - [オーダーの検索, 270 ページ](#)
  - [オーダーの処理, 271 ページ](#)
  - [ワーク オーダーの状態, 275 ページ](#)
  - [電子メール通知, 276 ページ](#)

## サポートされる Cisco Unity サービス

次の表に、Cisco Unity によってサポートされる製品とサービスを示します。



表 39: サポートされる Cisco Unity 製品およびサービス

| メッセージ プロセッサ            | サービス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Cisco Unity            | <p>オーダー可能なもの :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ] (バンドル)</li> <li>• [ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]</li> <li>• [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ]</li> <li>• [メッセージングサービス (Messaging Service) ]</li> </ul> <p>オーダー不可能なもの :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ボイスメール (Voicemail) ] または [電子メール (Email) ] (個別)</li> <li>• [拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service) ]</li> </ul> |
| Cisco Unity Connection | <p>オーダー可能なもの :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ] (バンドル)</li> <li>• [ボイスメール (Voicemail) ] または [電子メール (Email) ] (個別)</li> <li>• [拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service) ]</li> <li>• [ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]</li> <li>• [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ]</li> <li>• [メッセージングサービス (Messaging Service) ]</li> </ul>                                                              |

|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Cisco Unity Express | <p>オーダー可能なもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service) ]</li> <li>• [ボイスメール (Voicemail) ]</li> </ul> <p>オーダー不可能なもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ]</li> <li>• [メッセージングサービス (Messaging Service) ]</li> <li>• [ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ] (バンドル)</li> <li>• [ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]</li> <li>• [電子メール (Email) ] (個別)</li> </ul> |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## ユーザのサービスのオーダー

すべてのサービスのオーダー作成は同じ基本手順に従います。

ユーザは必ずしもすべてのサービスにアクセスできるわけではありません。特定のユーザレコードに表示されるサービスのリストは、次の項目によって異なります。

- ユーザに割り当てられているユーザ権限、およびユーザが利用できるドメインとサービスエリア。
- サービスエリア内で配信をサポートするリソースを利用できるかどうか（たとえば、Unified Messaging を提供するには、Cisco Unity または Cisco Unity Connection システムを利用できる必要があります）。
- Provisioning システムの設定。

サービスの依存関係は次のとおりです。

- 回線には既存のエンドポイントが必要です。
- ボイスメールおよび電子メールには既存の回線が必要です。
- ユニファイドメッセージングには電子メールが必要です。
- エクステンション モビリティ回線にはエクステンション モビリティ アクセスが必要です。

ユーザのサービスをオーダーするには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] ページで、ユーザを選択します。
- ステップ 3** [ユーザサービスの詳細 (User Service Details) ] ページで [新規サービス (New Service) ] をクリックします。
- ステップ 4** ドロップダウンリストからサービスエリアを選択します。 マウス ポインタを [クイックビュー (Quick View) ] アイコンの上に置くと、ドロップダウンリストにサービスエリアの情報が表示されます。
- ステップ 5** [続行 (Continue) ] をクリックします。  
 プロビジョニング可能なすべてのサービスが表示されます。 [表 40 : Provisioning のサービス, \(217 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6** プロビジョニングするサービスを選択し、[続行 (Continue) ] をクリックします。  
 (注) ユーザのリストにエンドポイントが表示されない場合は、指定したユーザのユーザ権限をエンドポイントに関連付ける必要があります。 ユーザ権限をエンドポイントに関連付ける方法については、 [ユーザ権限の追加, \(59 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 7** [サービスのプロビジョニング (Service Provisioning) ] ページで、[オーダー入力 (Order Entry) ] ウィザードに従ってサービスの必要情報を入力します (必須フィールドの詳細については、 [表 41 : \[オーダーエントリ \(Order Entry\) \] のフィールド, \(228 ページ\)](#) を参照してください) 。  
 オーダーを作成する際は、次の点に注意してください。
- [[<サービスタイプ>情報 \(<Service Type> Information\)](#) ] および [[詳細オーダー設定 \(Advanced Order Configuration\)](#) ] ペインには、選択したサービスの仕様が表示されます。
  - [[詳細オーダー \(Advanced Order\)](#) ] または [[管理者 \(Administrator\)](#) ] 承認権限が割り当てられているユーザは、 [[詳細オーダー設定 \(Advanced Order Configuration\)](#) ] ペインにアクセス可能です。 ただし、 [[詳細オーダー設定 \(Advanced Order Configuration\)](#) ] を使用しなくても、オーダーを完了したりエンドポイントをプロビジョニングしたりすることができます。 プロビジョニング属性の詳細については、 [プロビジョニング属性, \(299 ページ\)](#) を参照してください。
- (注) Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されているプロビジョニング属性の値の設定をクリアするには、値として 0 を入力する必要があります。 値を指定せずにフィールドを空白のままにしても、プロビジョニング属性の値はクリアできません。
- ステップ 8** [続行 (Continue) ] をクリックしてオーダーを作成します。
- ステップ 9** [確認 (Confirm) ] をクリックして [OK] をクリックします。 [サービスの詳細 (Service Details) ] ページにオーダー番号を表示できます。 [プロビジョニング履歴 (Provisioning History) ] ペインをチェックして、オーダーステータスを確認します。 特定のオーダーを検索するには、 [オーダーの検索, \(270 ページ\)](#) を参照してください。

グローバル検索オプション（ホームページの右隅にある検索）を使用して、[加入者ID（Subscriber ID）]と[姓（Last Name）]、[MACアドレス（MAC address）]、および[電話番号（Directory Number）]を検索できます。

- [加入者ID（Subscriber ID）]と[姓（Last Name）]の検索では、英数字（A～Z、a～z、0～9）、ハイフン（-）、アンダースコア（\_）、ドット（.）、アットマーク（@）、スペース、アポストロフィを使用できます。例：AASJKUser006、AAS\*、AA\*、\*SJKUser006、3242#@!#####&@!\*@(3)、AANewRDUser00\*
- [MACアドレス（MAC address）]検索では、英数字（A～Z、a～z、0～9）、ダッシュ（-）、ピリオド（.）、アンダースコア（\_）を使用できます。例：0024C444C3C6、0024\*、\*24
- [電話番号（Directory Number）]検索では、英数字、ピリオド、アンダースコアを使用できません。+、?、()、および-などの特殊文字は電話番号に使用できます。例：\+0000057、\+0000\*、\+\*、\*0000\*、\*57

- (注)
- グローバル検索オプションでMACアドレスを使用して電話番号を検索する場合は、xxxxxxxxxxxxxの形式を使用します。
  - 検索結果をより速く取得するため、検索文字列には最低3文字を入力することをお勧めします。

オーダーしたサービスのプロビジョニング属性を表示するには、[サービスの詳細（Service Details）] ページで目的のサービスをポイントし、[操作（Actions）] リストの[表示（View）] をクリックします。

オーダーしたサービスにユーザのメモを追加するには、[サービスの詳細（Service Details）] ページで目的のサービスをポイントし、[操作（Actions）] リストの[ユーザのメモ（User Notes）] をクリックします。

作成したサービスのテンプレートを作成するには、クイックビューから[テンプレートの作成（Create Template）] をクリックします。必要な詳細を入力して[テンプレートの作成（Create Template）] をクリックします。すべての値が入力された、サービスのテンプレートが作成されます。

多数のサービスを展開している場合は、それらのアクティビティを1つのアクティビティにまとめることができます。Provisioningのバッチプロビジョニング機能を使用すると、複数のタイプのオーダーを含む単一のバッチを作成できます。また、種類が異なる複数のサービスを1つのバッチ操作で処理することもできます。

バッチプロジェクトを設定するには、[展開（Deploy）]>[バッチプロビジョニング（Batch Provisioning）] を選択します。

- バッチプロビジョニングの詳細については、[バッチプロビジョニング](#)、(137 ページ) を参照してください。



(注) サービスのプロビジョニング中に [セキュリティ プロファイル (Security Profile) ] のプロビジョニング属性を選択してエラーが発生した場合は、オーダーが正常に完了するように [保護デバイス (Protected Device) ] オプションのチェックボックスをオフにします。 Cisco Unified Communications Manager クラスタのクラスタ モードとデバイス セキュリティ モードが適切に設定されていることを確認します。 Cisco Unified CM のセキュリティパラメータの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Cluster and Security Modes」を参照してください。

表 40 : Provisioning のサービス

| サービス                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [モビリティサポートの有効化 (Enable Mobility Support) ] | <p>現在選択されているコールプロセッサで、選択されているユーザのモビリティを有効にします。デフォルトのパラメータを使用してオーダーする場合は、次のプロビジョニング属性が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ] : [はい (True) ]</li> <li>• [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access) ] : [はい (True) ]</li> <li>• [最大デスクピックアップ待機時間 (Max Desk Pickup Wait Time) ] : 1000 ミリ秒</li> <li>• [リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit) ] : 4</li> <li>• [プライマリユーザデバイス (Primary User Device) ]</li> </ul> <p>このサービスは Cisco Unified Communications Manager 6.0.x 以降だけで利用できます。</p> |
| [プレゼンスを有効にする (Enable Presence) ]           | <p>コールプロセッサでユーザの Presence Server ライセンスを有効にして、プレゼンスメッセージングを更新できるようにします。このオプションは Cisco Unified Communications Manager 8.x 以降だけで利用できます。サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client) ]</p>                                   | <p>コールプロセッサでユーザの Unified Personal Communicator ライセンスを有効にして、Cisco Unified Personal Communicator を使用できるようにします。これは、[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client) ] および [クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ] のバンドルです。<br/>                 [プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client) ] は Cisco Unified Communications Manager 8.x 以降だけで利用できます。このサービスは、[プレゼンスを有効にする (Enable Presence) ] をオーダーする場合にのみ利用できます。<br/>                 サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p> |
| <p>[拡張モビリティサービス (Enhanced Mobility Service) ]</p>                                      | <p>選択したコールプロセッサの選択したユーザ向けのエクステンションモビリティデバイスプロファイル、回線、ボイスメールを含みます。<br/>                 このバンドルでは、エクステンションモビリティ、回線、ボイスメールなどの標準プロビジョニングサービスを1つのオーダーで作成できます。サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[拡張モビリティサービスとユニファイドメッセージング (Enhanced Mobility Service with Unified Messaging) ]</p> | <p>選択したコールプロセッサの選択したユーザ向けのエクステンションモビリティ デバイス プロファイル、回線、ボイスメール、電子メール、ユニファイドメッセージングを含みます。<br/>                 サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>[クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ]</p>                                           | <p>ユニファイドプレゼンスプロセッサで Unified Personal Communicator のユーザ設定を有効にします。[クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ] は、[クライアントサービスの有効化 (Enable Client Service) ] または [プレゼンスサービス (Presence Service) ] などのバンドル サービスを通じてのみオーダーできます。<br/>                 サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p>                                                                                                                                                                                      |

|                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[SoftPhoneサポートを有効にする (Enable SoftPhone Support) ]</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• PC の物理エンドポイント（両方を同時に呼び出し）または CTI ポート（Unified CM 上で定義された仮想電話）での使用を有効にします。</li> <li>• Unified CM Express ではサポートされません。または、Unified CM Express に基づくコールプロセッサからのオーダー時にはサポートされません。</li> <li>• 使用可能なすべてのコールプロセッサがすでに SoftPhone をサポートしている場合は、サービスリストに表示されません。使用可能な特定のコールプロセッサに対して有効なサービスエリアのリストが表示されます。</li> <li>• オーダー時に、ユーザのコンピュータのサーバ名または IP アドレスを [関連付けられたPC (Associated PC) ] フィールドに指定します。</li> <li>• サービス エリアに基づいてこのサービスを有効にできるのは、複数のサービス エリアが関連付けられていても Unified CM ごとに 1 回限りです。</li> <li>• CTI ポートを使用する Cisco SoftPhone だけに適用されます。Cisco IP Communicator は Unified CM との通信に CTI ポートを使用しませんが、MAC アドレスを持つ物理エンドポイントとして機能します。Cisco IP Communicator をオーダーするには、物理エンドポイントをオーダーし、Cisco IP Communicator をエンドポイントタイプとして選択する必要があります。</li> <li>• Cisco Jabber for Desktop が Cisco Jabber for Desktop クライアント上のデスクトップ電話として機能するために必要です。</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service) ]</p> | <p>エンドポイント、回線、ボイスメールを含みます。回線はオーダーしたエンドポイントに自動的に関連付けられ、ボイスメールは自動的に回線に関連付けられます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express で [拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service) ] のオーダーを作成する際は、コール転送プロビジョニング属性を入力する必要があります。オーダーの入力時に、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] をクリックし、[ボイスメール設定テンプレート (Voicemail Configuration Template) ] プロビジョニング属性で次のコマンドを入力します：<code>call-forward busy &lt;voice mail port/dn&gt; call-forward noan &lt;voice mail port/dn&gt; timeout &lt;seconds&gt;</code>。Cisco Unity Express のサービスエリアでは、[ボイスメール表示名 (Voice Mail Display Name) ] フィールドに英数字のみを入力します。それ以外のタイプの文字を使用した場合、ユーザのオーダーは失敗します。</p> <p>Cisco Unity Express のサービスエリアでは、インフラストラクチャまたはユーザの同期中にオーダーを追加、変更、またはキャンセルすることはできません。</p> |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ]または [回線でのエクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access with Line) ]</p> | <p>ユーザが特定のエンドポイントタイプにログインして、自分のエンドポイントのデバイス プロファイルを適用できるようにします。このサービスは単独で使用できるか、または回線にバンドルされています。</p> <p>エクステンション モビリティは、コールプロセッサが Provisioning に追加されたとき、オプションのエクステンション モビリティの詳細がコールプロセッサに対して入力された場合にだけ、オーダーに使用できます。</p> <p>SIP 電話がサポートされているサービス エリアで [エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] のオーダーを作成する際は、7911、7941、7942、7945、7961、7962、7965、7970、7971、または 7975 の Cisco Unified IP Phone の場合にだけ、電話ボタンテンプレートを選択します。</p> <p>選択した電話ボタンテンプレートでエクステンション モビリティがサポートされていない場合は、オーダーが失敗します。</p> <p>また、[iPhone用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones) ] をオーダーする際、次の属性にデフォルト値を使用すると、オーダーが失敗する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [DND オプション (DND Option) ]</li> <li>• [DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ] (設定専用属性)</li> <li>• [MLPP通知 (MLPP Indication) ]</li> </ul> <p>[iPhone用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones) ] をオーダーする際は、これらの属性に次の値を使用してサービス テンプレートを作成し、オーダーの作成中にテンプレートを適用することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [DNDオプション (DND Option) ] - [コール拒否 (Call Reject) ]</li> <li>• [DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ] - [無効 (Disable) ]</li> <li>• [MLPP通知 (MLPP Indication) ] - [オフ (Off) ]</li> </ul> |
| <p>[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ]</p>                                                                       | <p>Cisco Unified Communications Manager で、デバイスプロファイルに対してオーダーされたディレクトリ番号または回線です。ユーザがすでに [エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] を所有している場合にアップグレードとしてオーダーできます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[Cisco Jabberサービス (Cisco Jabber Service) ]</p>  | <p>Jabber サービスをオーダーできます。 [Cisco Jabberサービス (Cisco Jabber Service) ]は、Cisco Jabber for Tablet、Cisco Jabber for Desktop、Cisco Jabber for Android、Cisco Jabber for BlackBerry、Cisco Jabber for iPhone に対してオーダー可能です。 [Cisco Jabberサービス (Cisco Jabber Service) ]をオーダーページで表示するには、ユーザ権限タイプとして少なくとも [従業員 (Employee) ]が必要です。<br/>Prime Collaboration 9.0 から Prime Collaboration 9.5 バージョンにアップグレードしている場合は、このサービスをユーザ権限に関連付けるまでオーダー用として表示されません。 (<a href="#">ユーザ権限の追加, (59ページ)</a> を参照。)</p>                   |
| <p>[回線 (Line) ]</p>                                | <p>[回線 (Line) ]サービスはエンドポイントの有無に関わらず、ユーザに対してプロビジョニング可能です。新しい[回線 (Line) ]サービスのプロビジョニングでは、出荷、割り当て、受領、または追跡 (返品用) の手順は必要ありません。<br/><br/>[回線 (Line) ]サービスの横にある [アップグレード (Upgrade) ]の指示は、既存のエンドポイント用に[回線 (Line) ]がオーダーされることを示します。<br/>コールプロセッサでは、回線の表示が 30 文字を超えることはできません。 [名 (First Name) ]と [姓 (Last Name) ]を組み合わせた文字が 30 文字を超えないようにしてください。この上限を超えた状態でオーダーを作成した場合、コールプロセッサからエラーが送信されます。<br/><br/>[回線 (Line) ]サービスのエンドユーザの関連付けは自動的にプロビジョニングされます。詳細については、<a href="#">ユーザ権限の追加, (59ページ)</a> を参照してください。</p> |
| <p>[共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint) ]</p> | <p>共有[共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint) ]は、ユーザが同じ物理エンドポイントで独自の別回線を必要としている場合にオーダーします。このサービスをプロビジョニングすると、エンドポイントとそのすべての回線が各ユーザのレコードに表示されます。<br/><br/>ユーザレコード内で共有されているエンドポイントの横に、[共有 (Shared) ]アイコンが表示されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>[メッセージングサービス (Messaging Service) ]</p>          | <p>エンドポイント、回線、ボイスメール、電子メールで構成されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[エンドポイント (Endpoint) ]</p> | <p>関連付けられた回線または電話番号のないエンドポイントをオーダーします。回線または電話番号に関連付けることはできません。</p> <p>SIP フォンでは、7911、7941、7942、7945、7961、7962、7965、7970、7971、7975 の Unified IP Phone に対してのみ [エクステンション モビリティ (Extension Mobility) ] を有効にするため、[はい (Yes) ] を選択します。[エクステンション モビリティ (Extension Mobility) ] は、他の SIP 電話ではサポートされていません。</p> <p>エンドポイント名のガイドラインは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Unified Personal Communicator :             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ユーザ名と一致している必要があります (UPC では、オーダーがプロビジョニングされた後に自動的にエンドポイント名に追加されます)。</li> <li>◦ 大文字 (A ~ Z) または数字 (0 ~ 9) を含める必要があります。他の文字は無視されます。</li> <li>◦ UPC の後に 12 文字を追加することができます。<br/>たとえば、ユーザ名が john_jackson の場合は、JOHNJACKSON と入力します。</li> </ul> </li> <li>• Cisco Jabber for iPhone :             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ プレフィックス TCT を含める必要があります (入力しない場合は、Provisioning により自動的に追加されます)。</li> <li>◦ プレフィックスを含んで 15 文字未満にする必要があります。</li> <li>◦ 含めることができるのは英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9) だけです。Provisioning は、情報をエンドポイントにプッシュする前に小文字を大文字に変換します。</li> </ul> </li> <li>• CTI ポート : 1 ~ 15 文字の英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア ( _ )、ハイフン ( - )、またはピリオド ( . ) を含める必要があります。</li> <li>• IP Communicator : 1 ~ 15 文字の英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア ( _ )、ハイフン ( - )、またはピリオド ( . ) を含める必要があります。</li> </ul> <p>Cisco Services Framework : 1 ~ 15 文字の英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9) を含める必要があります。</p> <p>(注) エンドポイント属性は、選択したエンドポイントタイプでサポートされる機能に基づいて表示されます。</p> |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[エンドポイントサービス (Endpoint Service) ]</p>             | <p>新しいエンドポイントと回線を追加します。</p> <p>[エンドポイントサービス (Endpoint Service) ]をオーダーする場合、回線の最大数は電話タイプの電話ボタンテンプレートによって異なります (電話ボタンテンプレートが使用可能な場合)。Cisco Unified Communications Manager Express では電話ボタンテンプレートを使用できないため、回線の最大数は各エンドポイントタイプの製品カタログで定義されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express に対して [エンドポイントサービス (Endpoint Service) ]をオーダーする際は、次の点に注意します。Provisioning は、常に2回線の ephone-dn をプロビジョニングします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Provisioning は、常に2回線の ephone-dn をプロビジョニングします。</li> <li>• ユーザの同期中、Provisioning は、1回線、2回線、および8回線のすべての ephone-dn を同期させます。</li> <li>• エンドポイントには孤立した ephone-dn (ephoneによって使用されていない ephone-dn、または ephone に関連付けられていない ephone-dn) を持たせないでください。</li> </ul> <p>(注) エンドポイント属性は、選択したエンドポイントタイプでサポートされる機能に基づいて表示されます。</p> |
| <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]</p> | <p>ユーザ用の [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]をオーダーしてユーザの属性を設定し、シングルナンバーリーチ (SNR) をサポートする [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]を選択または設定できるようにします。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]では、オーナーの変更と交換の操作がサポートされません。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]</p>      | <p>1つの [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] で、無制限の [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] をオーダーします。 [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] は、回線の自動割り当てまたは選択されたタイプをサポートします。</p> <p>ユーザ間で [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] を共有でき、同じ接続先を [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]、[回線 (Line) ]、および [モビリティアクセス回線の有効化 (Enable Mobility Access Line) ] で共有できます。 この場合、回線のすべてのタイプが共有回線として表示されます。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] では、[回線 (Line) ] サービスでオーダーするように [ボイスメール (Voice Mail) ] または [エクステンションモビリティ (Extension Mobility) ] をオーダーできます。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] のオーダーは、ユーザ権限では可能ですが、疑似ユーザでは実行できません。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p> |
| <p>[リモート接続先プロファイルサービス (Remote Destination Profile Service) ]</p> | <p>このコールプロセッサを共有するためにすべてのサービスエリアの [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] サービスを有効にします。また、[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] を追加します。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] のオーダーは、ユーザ権限では可能ですが、疑似ユーザでは実行できません。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[シングルナンバーリーチサービス (Single Number Reach Service) ]</p>             | <p>[モビリティの有効化 (Enable Mobility) ]、モビリティの有効化、および [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]を設定します。</p> <p>デスクトップ電話でモビリティを動作させるには、次の手順を実行する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [電話 (phone) ]および [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]で、[回線 (Line) ]を共有するように設定します。</li> <li>• [リモート接続先 (Remote Destination) ]に使用される [ユーザID (User ID) ]を [オーナー (Owner) ]に設定します。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager でソフトキー テンプレートを作成して、これをデスクトップ電話に割り当てます。Provisioning では、ソフトキーのカスタマイズはサポートされていません。Cisco Unified Communications Manager で、テンプレートをカスタマイズする必要があります。</li> </ul> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (59 ページ) を参照)。</p> |
| <p>[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]</p>                         | <p>すでに電子メールとボイスメールを所有している場合は、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]機能を追加するオーダーを作成できます。[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]機能により、ボイスメールからの電子メールの取得と、電子メールからのボイスメールの取得が可能になります。</p> <p>Cisco Unity では、テキスト/スピーチ (TTS) 機能を有効化することになります。Cisco Unity Connection では、TTS 機能と Internet Mail Access Protocol (IMAP) 機能を有効化することになります。</p> <p>[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]サービスの横にある [アップグレード (Upgrade) ]の指示は、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]機能を含めるように既存の電子メールとボイスメールがアップグレードされることを示します。</p>                                                                                                                                                                                       |
| <p>[ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ]<sup>2</sup></p> | <p>[ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ]のオーダーには、回線、エンドポイント、ボイスメール、電子メール、ユニファイドメッセージング サービスが含まれます。</p> <p>ユーザが利用できるサービスのリストは、ユーザ権限と Provisioning のシステム設定に基づきます。必要なサービスを含めるようにこのリストを変更する場合は、Provisioning の管理者に問い合わせてください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[ユーザサービス (User Services) ]</p>                     | <p>コールプロセッサでユーザのプレゼンス サービス設定を有効にすることで、プレゼンス メッセージングを有効にします。<br/>[ユーザサービス (User Services) ]を設定するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Provisioning にプレゼンスサーバを追加し、インフラストラクチャの同期を実行します。</li> <li>2 オーダーに使用するサービスエリアにプレゼンスサーバを追加します。</li> </ol> <p>(注) [ユーザサービス (User Services) ]は Cisco Unified Communications Manager 9.x で利用できます。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上では、[ユーザサービス (User Services) ]はオーダー可能なサービスとして使用できなくなります。サービスのオーダーを作成するとデフォルトで追加されます。</p>                                                                                                |
| <p>[ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ] (バンドル)</p> | <p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ]サービスのオーダーを作成します。</p> <p>[ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ]サービスの横にある [アップグレード (Upgrade) ]の指示は、ボイスメールと電子メールを含めるように [回線 (Line) ]サービスがアップグレードされることを示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express でボイスメールのオーダーを作成する際は、コール転送プロビジョニング属性を入力する必要があります。オーダーを入力する際に、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ]をクリックし、[ボイスメール設定テンプレート (Voicemail Configuration Template) ]プロビジョニング属性で、次のコマンドを入力します：<br/>call-call-forward busy &lt;voice mail port/dn&gt; forward noan &lt;voice mail port/dn&gt; timeout &lt;seconds&gt;</p> |
| <p>[ボイスメール (Voicemail) ] (個別)</p>                     | <p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [ボイスメール (Voicemail) ]サービスのオーダーを作成します。</p> <p>[ボイスメール (Voicemail) ]サービスの横にある [アップグレード (Upgrade) ]の指示は、ボイスメールを含めるように [回線 (Line) ]サービスがアップグレードされることを示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express でボイスメールのオーダーを作成する際は、コール転送プロビジョニング属性を入力する必要があります。オーダーを入力する際に、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ]をクリックし、[ボイスメール設定テンプレート (Voicemail Configuration Template) ]プロビジョニング属性で、次のコマンドを入力します：<br/>call-forward busy &lt;voice mail port/dn&gt; call-forward noan &lt;voice mail port/dn&gt; timeout &lt;seconds&gt;</p>                                           |

|                                                   |                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[電子メール (Email) ]<br/>(個別)<br/><sup>3</sup></p> | <p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [電子メール (Email) ] サービスのオーダーを作成します。<br/>[電子メール (Email) ] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade) ] の指示は、電子メールを含めるように [回線 (Line) ] サービスがアップグレードされることを示します。</p> |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- <sup>2</sup> Cisco Unity の [電子メール (Email) ] または [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ] をオーダーした後、[ユーザレコード詳細 (User Record Details) ] ページの電子メールアドレスに完全なドメイン情報が付加されるまでには初期遅延があります。完全な電子メールアドレスを表示するには、オーダー後にユーザの同期およびドメインの同期を実行する必要があります。
- <sup>3</sup> Cisco Unity の [電子メール (Email) ] または [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ] をオーダーした後、[ユーザレコード詳細 (User Record Details) ] ページの電子メールアドレスに完全なドメイン情報が付加されるまでには初期遅延があります。完全な電子メールアドレスを表示するには、オーダー後にユーザの同期およびドメインの同期を実行する必要があります。

表 41: [オーダーエントリ (Order Entry) ] のフィールド

| GUI 要素                                           | 説明                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [関連付けられたPC (Associated PC) ]                     | SoftPhone のサポートで使用するコンピュータの名前 (DNS による解決が可能なもの) または IP アドレスです。                                                                                |
| [電子メールID (Email ID) ]                            | 電子メール ID を入力します。スペースを含めることはできません。                                                                                                             |
| [表示名 (Display Name) ] (電子メール)                    | 電子メールの [差出人 (From) ] フィールドで使用する名前を入力します。                                                                                                      |
| [エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility) ] | [はい (Yes) ] または [いいえ (No) ] を選択します。                                                                                                           |
| [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ]     | 次のいずれかを選択します。[自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line) ] : システムが自動的に電話番号を割り当てます。<br>[選択した回線 (Chosen Line) ] : ユーザが電話番号を指定します。電話番号にダッシュやスペースを含めることはできません。 |



|                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[回線タイプ (Line Type) ]</p>       | <p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line) ] : システムが自動的に電話番号を割り当てます。</li> <li>• [選択した回線 (Chosen Line) ] : ユーザが電話番号を指定します。電話番号にダッシュやスペースを含めることはできません。</li> </ul> <p>回線が設定された後で、ページ右側の保存アイコンをクリックして設定を保存します。</p> <p>選択すると、ページに[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] オプションが表示されます。回線のプロビジョニング属性を設定します。[回線のコピー (Copy Line) ] フィールドから回線を選択して [完了 (Done) ] をクリックし、同じエンドポイントで設定した回線のプロビジョニング属性をコピーすることもできます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>[電話番号 (Directory Number) ]</p> | <p>電話番号をフィールドに直接入力することも、[セレクトア (Chooser) ] アイコンをクリックして電話番号を選択することもできます。</p> <p>[セレクトア (Chooser) ] アイコンをクリックすると、[電話番号 (Directory Number) ] 検索ページが表示されます。[電話番号 (Directory Number) ] 検索ページを使用するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [電話番号 (Directory Number) ] 検索ページで、次の中から検索基準を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [電話番号 (Directory Number) ] : 検索する具体的な番号を入力します。</li> <li>• [使用可能なDN (Available DNs) ] : オンにすると、Provisioning データベース内の使用可能な電話番号がすべて表示されます。</li> <li>• [予約済みDN (Reserved DNs) ] : オンにすると、オーダーを作成するユーザ用に予約された電話番号が表示されます。</li> <li>• [DNブロック (DN Blocks) ] : オーダー対象のサービスエリアに設定された電話番号ブロックが表示されます。</li> </ul> </li> <li>2 [検索 (Find) ] をクリックします。検索結果が表示されます。</li> <li>3 対象の電話番号をクリックします。</li> </ol> <p>該当する番号が [電話番号 (Directory Number) ] フィールドに入力されます。</p> |

|                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[回線の位置 (Line Position) ]</p>               | <p>オーダー処理中は、エンドポイントで使用可能な回線の位置のリストページが表示されます。回線の位置の横には、その回線の位置が使用可能であるかどうかが表示されます。<br/>回線の位置のページでは、次の操作が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 回線タイプの設定：対象回線の横の [未割り当て (Not Assigned) ] をクリックし、次のページで回線タイプを設定します。回線が設定された後で、ページの右側の保存アイコンをクリックして設定を保存します。</li> <li>• 回線の位置の変更：回線の位置の横にある上または下向き矢印キーを押します。</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager Express またはエクステンションモビリティアクセス回線では、回線の位置がサポートされていません。</p> |
| <p>[選択されているエンドポイント (Selected Endpoint) ]</p>  | <p>リストからエンドポイントを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[MACアドレス (MAC Address) ]</p>               | <p>(オプション) MAC アドレスを選択するか、または入力します。アナログエンドポイントの場合は、選択した音声ポートに基づいて MAC アドレスが生成されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[エンドポイントタイプ (Endpoint Type) ]</p>          | <p>リストからエンドポイントタイプを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>[プロトコル (Protocol) ]</p>                    | <p>プロトコルを選択します。エンドポイントは SCCP と SIP の両方、またはそのいずれかをサポートします。[プロビジョニング属性 (Provisioning Attribute) ] で設定されたデフォルトのプロトコルでプロビジョニングします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>[ターゲットエンドポイント (Target Endpoint) ]</p>      | <p>リストから対象のエンドポイントを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template) ]</p> | <p>使用可能な電話ボタンテンプレートのリストです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>[サービステンプレート (Service Template) ]</p>       | <p>使用可能なサービステンプレートのリストです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ]</p>            | <p>アナログ音声ゲートウェイ参照を選択します。<br/>                 ユーザの同期を実行する前に、インフラストラクチャの同期を実行する必要があります。ユーザの同期において、同期されたアナログエンドポイントが IM には存在しない音声ゲートウェイ参照に関連付けられていた場合、その音声ポートインスタンスの作成および関連付けはスキップされます。この結果、そのアナログエンドポイントは Provisioning を使用して管理できなくなります。</p> <p>アナログ エンドポイントの同期および IM インスタンスの作成は、バージョン 6.x 以上のコール プロセッサでのみ実行できます。バージョン 5.x 以下のコール プロセッサでは、アナログ エンドポイントのインスタンス作成はスキップされます。これは、アナログ音声ゲートウェイがバージョン 6.x 以上のコール プロセッサでのみサポートされるためです。</p> <p>[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] フィールドは、ゲートウェイの説明と英数字の参照番号を含めるために拡張されます。音声ゲートウェイのインフラストラクチャ サービスの設定中にゲートウェイの説明が入力されると、その説明が [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] フィールドに表示されます。</p> |
| <p>[名前 (Name) ]</p>                                                  | <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] の名前が表示されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>[説明 (Description) ]</p>                                           | <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] の説明が表示されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>[選択されているリモート接続先プロファイル (Selected Remote Destination Profile) ]</p> | <p>選択された [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] の名前が表示されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>[サービスエリア (Service Area) ]</p>                                     | <p>使用可能なサービス エリアのリストです。<br/>                 [サービスエリア (Service Area) ] にユニファイドメッセージ プロセッサとして Unity Connection が設定されており、Unity Connection に外部電子メールサーバがない場合は、Provisioning で [電子メール (Email) ] のオーダーを行う際に、オプションとして [サービスエリア (Service Area) ] が表示されません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]</p>                          | <p>[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ] を有効にできる、使用可能な電子メールのリストです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[ダミーMACアドレスの使用 (Use Dummy MAC Address) ]</p>          | <p>Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) 電話に使用されます。このチェックボックスをオンにすると、Provisioning はシステムで一意的なダミー MAC アドレスを持つ電話を作成します。</p> <p>TAPS 電話を Cisco Unified Communications Manager でプロビジョニングし、実際の MAC アドレスに更新した後、Provisioning でユーザとドメインの同期を実行する必要があります。それによって、Provisioning 内のダミー MAC アドレスが実際の MAC アドレスに更新されます。</p> <p>ダミーのエンドポイントがオーダーされた後の変更オーダーやキャンセル オーダーでは、ユーザやドメインの同期は必要ありません。</p>                                                                                                                                        |
| <p>[ボイスメールエイリアス (Voicemail Alias) ]</p>                  | <p>ボイスメールのエイリアスを入力します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>[ボイスメール表示名 (Voicemail Display Name) ]</p>             | <p>ボイスメールの表示名を入力します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[Voiceport]</p>                                       | <p>[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] フィールドに基づいて、該当する音声ポートが設定されます。占有されているポートおよび使用可能なポートのリストを表示できます。オーダー用に選択できるのは使用可能なポートだけです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ]</p>        | <p>オーダーしたサービスの使用可能なプロビジョニング属性がリストされます。このページでは、オーダーを作成する際のプロビジョニング属性を設定できます (プロビジョニング属性の詳細については、<a href="#">サービステンプレートの作成, (61 ページ)</a> を参照してください)。[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] オプションの横のプラス記号 (+) をクリックし、このペインを展開します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されているプロビジョニング属性の値の設定を解除するには、値として 0 を入力する必要があります。値をクリアしただけでは、Cisco Unified Communications Manager 内のプロビジョニング属性は解除されません。</p> <p>[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] は、[詳細オーダー (Advanced Ordering) ] 承認権限が割り当てられているユーザだけが使用できます。</p> |
| <p>[予約済みのエンドポイントを選択する (Choose a reserved endpoint) ]</p> | <p>予約済みのエンドポイントがリストされている検索ページを開きます。予約済みのエンドポイントは特定のユーザのために予約されています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| [エンドポイントのコ<br>ピー (Copy endpoint) ] |  |
|------------------------------------|--|

ユーザ権限でサポートされているシステムのエンドポイントがすべてリストされている検索ページを開きます。エンドポイントをコピーして、既存のエンドポイントと同じ設定で新しいエンドポイントをプロビジョニングすることができます。

設定をコピーするには、検索ページでエンドポイントを選択して [OK] をクリックし、エンドポイントの設定を新しいエンドポイントにコピーすることを確認します。

この機能を使用できるのは、[詳細オーダー (Advanced Ordering)] 権限を持つユーザだけです。

グローバルアクセスを行うことができる場合は、エンドポイントが同じコールプロセッサに属していれば、管理対象のエンドポイントと管理対象外のエンドポイントを含めた、ユーザがオーダー可能なすべてのエンドポイントをコピーできます。

ドメインアクセスを行うことができる場合は、エンドポイントが同じコールプロセッサに属していれば、ユーザがオーダー可能であり、さらにユーザが管理可能なドメイン内にある管理対象エンドポイントだけをコピーできます。

これは、各エンドポイントに固有の設定が存在するため、すべての設定が新しいエンドポイントにコピーされるわけではないからです。次の設定は新しいエンドポイントにコピーされません。

- [電話番号 (Directory Number)]
- [MACアドレス (MAC Address)]
- [エンドポイントの説明 (Endpoint Description)]

エンドポイントがコピーされても、サービスは新しいエンドポイントにコピーされません。たとえば、回線、ボイスメール、電子メールがエンドポイントに存在する場合、これらは新しいエンドポイントにコピーされません。さらに、エンドポイントに関連付けられている設定専用の属性もコピーされません。

[エンドポイントのコピー (Copy endpoint)] を使用してコピーできるのは、オーダーの作成時に設定されたプロビジョニング属性だけです。

コピーされたエンドポイントの Cisco Unified Communications Manager のバージョンで属性がサポートされない場合、またはコピーされたエンドポイントのタイプで属性がサポートされない場合、その属性は新しいエンドポイントでクリアされます。

アナログ電話のみ、別のアナログ電話にコピーすることができます。IP Phone をアナログ電話にコピーすることはできません。

エンドポイントをコピーする場合、追加オーダー時に設定されたプロビジョニング属性はコピーされるだけです。

|                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                       | <p>オーダーが完了すると、Cisco Unified Communications Manager で、[共通設定の上書き (Overriding Common settings) ]チェックボックスがオンになります。つまり、新しいエンドポイントのデフォルト属性は変更されています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>[オーダー可能な Cisco Jabber サービス (Orderable Cisco Jabber Services) ]</p> | <p>Cisco Jabber サービスは、Cisco Unified Communications Manager で Jabber を有効にした場合のみオーダー可能です。Cisco Unified Communications Manager の Jabber を有効にするには、[展開 (Deploy) ]&gt;[ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified communication Services) ]を選択します。</p> <p>リストから Jabber サービスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Jabber for Tablet</li> <li>• Cisco Jabber for iPhone</li> <li>• Cisco Jabber for Desktop</li> <li>• Cisco Jabber for Blackberry</li> <li>• Cisco Jabber for Android</li> </ul> |

## コールプロセッサに対する回線とエンドユーザの関連付け

Provisioning の次の回線サービスのいずれかをオーダーすると、回線とエンドユーザの関連付けが自動的に作成されます。

- [回線 (Line) ]
- [共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint) ]
- [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ]
- [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]

関連付けは、次のルールに基づいて作成されます。

- 回線サービスの追加オーダーの場合は、エンドユーザの関連付けが、すべての回線サービスに対してコールプロセッサ上で自動的にプロビジョニングされます。
- 回線サービスの変更オーダーの場合は、関連付けが次のように作成されます。
  - ユーザの関連付けが存在しない場合は、オーダーを行ったユーザ ID と回線サービスとの間で関連付けがプロビジョニングされます。
  - ユーザの関連付けが存在していて、オーダーを行ったユーザ ID がすでに関連付けられている場合は、その関連付けが保持されます。

- ユーザの関連付けが存在していて、オーダーを行ったユーザ ID が関連付けられていない場合は、既存のユーザとともにオーダーを行ったユーザに対して、新しい関連付けがプロビジョニングされます。
- 回線サービスのキャンセルオーダーの場合は、サービス自体がデプロビジョニングされているため、ユーザの関連付けもまた Cisco Unified Communications Manager から削除されます。
- エンドポイントオーダーを変更または交換する場合は、エンドポイントのタイプに基づいてサポートされる値を入力する必要があります。有効な値を入力しないと、オーダーは回復不能な状態になります。たとえば、iPhone および Nokia では特定の値のセットがサポートされます。
- エンドポイントの交換オーダーの場合は、古いエンドポイントのユーザの関連付けが保持されます。
- オーナー変更の場合は、次のようになります（IP Phone にのみ適用）。
  - 以前のオーナーの回線に関連付けられているユーザは、新しいオーナーの関連付けに置き換える必要があります。
  - 登録ユーザから疑似ユーザにエンドポイントのオーナーを変更する場合は、関連付けがデプロビジョニングされます。
  - 疑似ユーザから通常のユーザにオーナーを変更する場合は、関連付けが追加されます。

Provisioning によって回線がプロビジョニングされていない場合、回線が Provisioning に同期されると、Cisco Unified Communications Manager でその回線に対するユーザの関連付けが作成されないことがあります。

この場合は、Line to End-user Association ユーティリティを実行する必要があります。このユーティリティを実行しないと、プライマリ内線以外の回線のプレゼンス ステータスがレポートされず、シングルナンバー リーチ サービスが正しく動作しなくなります。

Line to End-user Association ユーティリティの実行に関する詳細については、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps12363/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps12363/prod_installation_guides_list.html)を参照してください。

ユーザの同期中、Provisioning では、コールプロセッサから回線オブジェクトの全ユーザの関連付けが同期されます。

- 6.0.x 以降のバージョンの Cisco Unified Communications Manager だけが、この関連付けでプロビジョニングされます。
- この関連付けは、疑似ユーザには提供されません。



(注) 関連付けられたユーザのリストに設定されている特定のユーザを削除することはできません。この制限を回避するには、ユーザの関連付けを Cisco Unified Communications Manager から手動で削除し、Cisco Unified Communications Manager を Provisioning と同期してください。



## 共有エンドポイントと共有回線のオーダー

Provisioning の中で共有エンドポイントと共有回線の両方を設定できます。次のシナリオが可能です。

- 共通共有回線：複数のユーザが異なるエンドポイントから同じ回線を共有します。
- プライマリ共有回線：複数のユーザが異なるエンドポイントから同じ回線を共有しますが、すべてのユーザについて1人のユーザの回線ディスプレイ（ヘルプデスクなど）が使用されます。ユーザは、共有回線とは別に独自の回線を所有することもできます。
- 共有エンドポイント：複数のユーザが同じエンドポイントを共有しますが、そのエンドポイントから別々の回線を所有します。

共有エンドポイントおよび共有回線をオーダーする際は、次の点に注意してください。

- ボイスメール、電子メール、およびユニファイドメッセージングを装備している回線がすでに存在する共有エンドポイントに対して、2番目のユーザが回線をオーダーした場合、それらの1番目の回線の製品は、そのユーザのユーザレコードに表示されません。共有回線をオーダーした場合も同様です。
- 2番目のユーザが共有エンドポイントを削除した場合、その共有エンドポイントは1番目のユーザのユーザレコードに引き続き表示され、Cisco Unified Communications Manager にも引き続き存在します。ただし、2番目のユーザが共有エンドポイントの回線を削除した場合、その回線は1番目のユーザのユーザレコードから削除され、Cisco Unified Communications Manager からも削除されます。
- 2番目のユーザが共有回線を削除した場合、その共有回線は Cisco Unified Communications Manager 上で2番目のユーザのエンドポイントから削除されます。ただし、1番目のユーザのユーザレコードには引き続き表示され、Cisco Unified Communications Manager 上で1番目のユーザのエンドポイントにも引き続き存在します。
- 1番目のユーザは、2番目のユーザの回線に対して新しいボイスメールをオーダーしないようにしてください（オーダーした場合は、ボイスメールが独自のユーザレコードに表示されます）。この場合、ボイスメールはすでに同じ電話番号で存在するため、Cisco Unity で2番目のボイスメールは機能しません。
- 共有回線に設定されている電話番号のプロビジョニング属性に対して行われた変更も、電話番号が同じすべての回線に適用されます。新規の共有回線には、既存の回線の電話番号属性が適用されます。
- 1番目のユーザが共有回線またはエンドポイントを削除すると、その共有回線またはエンドポイントの関連付けは2番目のユーザに移ります。

## 共通共有回線の設定

複数のユーザが各自のエンドポイントで回線を使用することによって同じ電話番号を共有する、というシナリオを設定できます。

- ユーザ名はそれぞれ、各自のエンドポイントにおける共有回線上に表示されます。
  - 他の人に電話をかけると、発信者 ID にはユーザ名が表示されます。
  - ユーザの各自のエンドポイントと共有回線は、各自の加入者レコードに表示されます。
- 共通共有回線を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
  - ステップ 2** サービスをプロビジョニングするユーザの横のチェックボックスをオンにします。
  - ステップ 3** [サービスのプロビジョニング (Provision Services) ] をクリックします。
  - ステップ 4** [ユーザサービスの詳細 (User Service Details) ] ページで [新規サービス (New Service) ] をクリックします。
  - ステップ 5** [サービスエリア (Service Area) ] を選択して [続行 (Continue) ] をクリックします。
  - ステップ 6** [共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint) ] を選択し、[続行 (Continue) ] をクリックしてオーダー処理を開始します。
  - ステップ 7** 次の手順を実行します。
    - [共有エンドポイントタイプの回線用に選択した回線 (Chosen Line for the line on a shared endpoint type) ] を選択します。
    - 回線の [回線の位置 (Line Position) ] を選択します。
    - ターゲット エンドポイントを指定します。
    - 共有回線の電話番号を指定します。
  - ステップ 8** [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] ペインを展開します。
  - ステップ 9** [電話番号情報 (Directory Number Information) ] ペインで、ディレクトリの [ルートパーティション (Route Partition) ] を選択します。
  - ステップ 10** [詳細設定 (Advanced Configuration) ] のその他のペインに必須情報を入力し、[確認 (Confirm) ] をクリックします。
  - ステップ 11** 残りの各ユーザについて上記の手順を繰り返します。
-

## プライマリ共有回線の設定

複数のユーザが各自のエンドポイントから同じ回線を共有するものの、プライマリ ユーザの回線ディスプレイが他のユーザよりも優先される、というシナリオを設定できます。

- 1人のプライマリ ユーザと1人または複数のセカンダリ ユーザの全員が、同じ回線を共有できます。
- プライマリ ユーザの回線ディスプレイは、すべてのユーザのエンドポイントにおける共有回線上に表示されます。
- セカンダリ ユーザが共有回線を使用してコールを発信すると、発信者 ID に、プライマリ ユーザの回線ディスプレイが表示されます。
- セカンダリ ユーザのユーザ レコードには、共有回線と、各自の回線が表示されます。
- プライマリ ユーザのユーザ レコードには、3つの共有エンドポイントおよび3つの回線のすべてと、個々のユーザの回線が表示されます。

プライマリ共有回線の設定手順の例

このシナリオでは、ヘルプ デスクがプライマリ ユーザであり、セカンダリ ユーザ 1 および 2 と回線を共有しています。

| ユーザ       | 回線ディスプレイ              | 宛先番号 |
|-----------|-----------------------|------|
| プライマリ ユーザ | [ヘルプデスク (Help Desk) ] | 123  |
| ユーザ 1     | [ユーザ1 (User 1) ]      | 321  |
| ユーザ 2     | [ユーザ2 (User 2) ]      | 345  |



(注) すべてのエンドポイントについて、共有回線に対応するキャパシティを備えたエンドポイントモデルを選択していることを確認してください。

## 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザ1 (User 1) ] をクリックして [新規サービス (New Service) ] をクリックします。
- ステップ 3** [サービスエリア (Service Area) ] を選択して [続行 (Continue) ] をクリックします。
- ステップ 4** [エンドポイントサービス (Endpoint Service) ] を選択して [続行 (Continue) ] をクリックします。
- ステップ 5** [未割り当て (Not Assigned) ] リンクをクリックして回数のタイプを割り当てます。
- ステップ 6** 電話番号を 321 と指定します。エンドポイントおよびサービスのオーダーを作成できます。個々のサービスのオーダーを作成するか、バンドルされたサービスをオーダーできます。
- ステップ 7** ユーザ 2 について **ステップ 1** ~ **ステップ 6** を繰り返しますが、電話番号を 345 と指定します。
- ステップ 8** プライマリ ユーザ (ヘルプデスク) について **ステップ 1** ~ **ステップ 6** を繰り返しますが、宛先番号を 123 と指定します。
- ステップ 9** **ステップ 1** を繰り返します。
- ステップ 10** [プライマリユーザ (Primary User) ] をクリックします。
- ステップ 11** 新しい [共有エンドポイントの回線 (Line on Shared Endpoint) ] を選択し、必ず次の手順を実行します。
- [選択した回線 (Chosen Line) ] を選択します。
  - 電話番号を 123 と指定します。
  - ユーザ 1 のエンドポイントの MAC アドレスを選択します。
- ステップ 12** ユーザ 2 のエンドポイントの MAC アドレスを選択します。  
**ステップ 10** を繰り返し、必ず次の手順を実行します。  
[選択した回線 (Chosen Line) ] を選択します。  
電話番号を 123 と指定します。
- ステップ 13** [確認 (Confirm) ] をクリックします。
- 

2 人以上のユーザが同じエンドポイントを共有するものの、それぞれ独自の回線と回線ディスプレイ情報を持つ、というシナリオを設定できます。

- 各ユーザの回線ディスプレイは、共有エンドポイントの各自の回線に表示されます。
- 他の人に電話をかけると、発信者 ID には、該当するユーザの回線ディスプレイが表示されます。
- 各ユーザレコードには、共有エンドポイント、各自の回線、他のユーザの回線がリストされます。

## エンドポイントのない回線のオーダー

Provisioning では、関連付けられているエンドポイントのない回線または共有回線をオーダーできます。ユーザは、[ユーザプロビジョニング (Provisioning)] ページ ([展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)]) から、または Self-Care から追加できます (Self-Care については、[Prime Collaboration Self-Care の使用方法](#)、(199 ページ) を参照してください)。エンドポイントのない回線は、UI から、またはバッチ プロビジョニングから一括で追加できます。



(注) この機能は、Cisco Unified CM 10.0 以上でサポートされています。また、小規模、中規模、および大規模などのすべての展開モデルでサポートされています。

回線にエンドポイントを追加するには、[サービスの詳細 (Service Details)] ペインにリストされている回線サービスをポイントし、[エンドポイントの接続 (Attach Endpoint)] オプションをクリックします。また、クイック ビューの [エンドポイントの切断 (Detach Endpoint)] オプションを使用すると、関連付けられているエンドポイントを回線から切断できます。

Self-Care から登録したエンドポイントを管理するために、Self-Care から関連付けた後で、エンドポイントを再同期する必要があります。

エンドポイントのキャンセル中に、エンドポイントの回線サービスを保持することができます。エンドポイントサービスをキャンセルしたら、保持されている回線は、エンドポイントのない回線と見なされます。Provisioning では、ボイスメール サービスと電子メール サービスをエンドポイントのない回線に追加できます。

次のエンドポイント/回線不一致レポートを使用して、エンドポイントに関連付けられていない回線を特定できます。

- [回線未割り当てのユーザ (Users with No Line)]
- [回線割り当て済み/エンドポイント未割り当てのユーザ (Users with Lines and No Endpoint)]
- [未割り当ての回線 (Unassigned Lines)]

このレポートを生成するには、[レポート (Reports)] > [エンドポイント/回線不一致レポート (Endpoint/Line Mismatch Reports)] をクリックして、目的のレポートの横にある [エクスポート (Export)] をクリックします。

## ボイスメール サービスのオーダー

ボイスメール サービスをオーダーするには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2** 対象のユーザをクリックします。
- ステップ 3** [ユーザサービスの詳細 (User Service Details) ] ページで [新規サービス (New Service) ] をクリックします。
- ステップ 4** ドロップダウンリストからサービス エリアを選択します。 マウス ポインタを [クイックビュー (Quick View) ] アイコンの上に置くと、ドロップダウンリストにサービス エリアの情報が表示されます。
- ステップ 5** [続行 (Continue) ] をクリックします。
- ステップ 6** [ボイスメールサービス (Voicemail service) ] を選択して [続行 (Continue) ] をクリックします。
- ステップ 7** [サービスのプロビジョニング (Service Provisioning) ] ページで、次の手順を実行します。
- [基本ボイスメール情報 (Basic Voicemail Information) ] ペインで、必要な情報を入力します。
  - [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] ペインで、次のタブに必要な情報を入力します。
    - [一般 (General) ] (フィールドの説明については、表 42 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] - [一般 (General) ] , (243 ページ) を参照してください) 。
    - [受信したメッセージ (Received Messages) ] (フィールドの説明については、表 43 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] - [受信したメッセージ (Received Messages) ] , (244 ページ) を参照してください) 。
    - [コールの動作 (Call Behavior) ] (フィールドの説明については、表 44 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] - [コールの動作 (Call Behavior) ] , (248 ページ) を参照してください) 。
    - [電話メニュー (Phone Menu) ] (フィールドの説明については、表 45 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] - [電話メニュー (Phone Menu) ] , (252 ページ) を参照してください) 。
    - [送信したメッセージ (Sent Messages) ] (フィールドの説明については、表 46 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] - [送信したメッセージ (Sent Messages) ] , (254 ページ) を参照してください) 。
    - [代替ID (Alternate Identities) ] 。
- (注) [一般 (General) ]、[受信したメッセージ (Received Messages) ]、[コールの動作 (Call Behavior) ]、[電話メニュー (Phone Menu) ]、[送信したメッセージ (Sent Messages) ]、および [代替ID (Alternate Identities) ] タブは、Unity Connection 10.x 以上で表示されます。
- ステップ 8** [続行 (Continue) ] をクリックします。
- ステップ 9** [確認 (Confirm) ] をクリックして [OK] をクリックします。
-

表 42: [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [一般 (General)]

| フィールド                                                                           | 説明                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [クロスサーバ転送先内線番号 (Cross-Server Transfer Extension)]                               | ユーザが別のユーザへコールを転送しようとしたがクロスサーバ転送が失敗した場合に、転送コールをリリースする内線番号を入力します。                                                                                  |
| [発信ファクスサーバ (Outgoing Fax Server)]                                               | ユーザに適用可能なファクスサーバを選択します。                                                                                                                          |
| [パーティション (Partition)]                                                           | オブジェクトが属するパーティションを選択します。パーティションはグループ化されて検索スペースになります。検索スペースは、ユーザまたは外部発信者が Unity Connection と対話しているときに到達できるオブジェクト (ユーザや同報リストなど) の範囲を定義するために使用されます。 |
| [検索範囲 (Search Scope)]                                                           | ユーザアカウントに適用する検索スペースを選択します。                                                                                                                       |
| [電話システム (Phone System)]                                                         | ユーザの内線番号が作成された電話システムを選択します。                                                                                                                      |
| [アクティブなスケジュール (Active Schedule)]                                                | リストからスケジュールを選択して、標準および時間外のグリーティングを再生する日時と、グリーティング後の Unity Connection によるアクションを指定します。                                                             |
| [ディレクトリに登録 (List in Directory)]                                                 | 企業ディレクトリにユーザを登録するには、このチェックボックスをオンにします。外部発信者は、このディレクトリを使用してユーザにアクセスします。                                                                           |
| [メッセージの配信失敗時に不達確認を送信する (Send Non-Delivery Receipts on Failed Message Delivery)] | メッセージの配信失敗時に不達確認 (NDR) メッセージを送信者ヘルートするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                      |
| [既知の内線から発信するときの暗証番号をスキップする (Skip PIN When Calling From a Known Extension)]      | この内線番号から発信するとき、ユーザに暗証番号の入力を要求しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                       |

|                                                                     |                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [短い予定表キャッシングポール間隔を使用する (Use Short Calendar Caching Poll Interval) ] | このチェックボックスをオンにすると、[予定表：短い予定表キャッシングポール間隔(分) (Calendars: Short Calendar Caching Poll Interval (In Minutes)) ] フィールドに設定された頻度に従ってユーザの Outlook カレンダー情報が更新されます。 |
| [次回ログイン時に自己登録を設定する (Set for Self-Enrollment at Next Sign-In) ]      | このチェックボックスをオンにすると、ユーザは次回ログイン時に名前と標準グリーティングを記録して暗証番号を設定し、企業ディレクトリに登録するかどうかを選択するように求められます。                                                                  |
| <b>[ロケーション (Location) ]</b>                                         |                                                                                                                                                           |
| [アドレス (Address) ]                                                   | ユーザの番地を入力します。                                                                                                                                             |
| [ビル名 (Building) ]                                                   | ユーザが居るビル名を入力します。                                                                                                                                          |
| [市区町 (City) ]                                                       | 市区町名を入力します。                                                                                                                                               |
| [都道府県 (State) ]                                                     | 都道府県名を入力します。                                                                                                                                              |
| [郵便番号 (Postal Code) ]                                               | 郵便番号を入力します。                                                                                                                                               |
| [国 (Country) ]                                                      | 国名を入力します。                                                                                                                                                 |
| [タイムゾーン (Time Zone) ]                                               | ユーザの適切なタイムゾーンを選択します。                                                                                                                                      |
| [言語 (Language) ]                                                    | ユーザの適切な言語を選択します。                                                                                                                                          |
| [マネージャ (Manager) ]                                                  | マネージャの名前を入力します。                                                                                                                                           |
| [部署名 (Department) ]                                                 | ユーザの部署名を入力します。                                                                                                                                            |
| [課金ID (Billing ID) ]                                                | アカウント情報、部署名、プロジェクトコードなど、組織固有の情報に使用できる課金ID。                                                                                                                |

表 43 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] - [受信したメッセージ (Received Messages) ]

| フィールド                                          | 説明                                                               |
|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| [最大メッセージ長 (Maximum Message Length) ]           | 識別できない発信者が残すことのできるメッセージの録音時間を、秒単位で設定します。                         |
| [発信者がメッセージを編集できる (Callers Can Edit Messages) ] | 発信者がメッセージを再生、追加、再録音、または削除できるようにするプロンプトを再生するには、このチェックボックスをオンにします。 |



|                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[メッセージの緊急性 (Message Urgency) ]</p>       | <p>識別できない発信者または明示的にサインインしていないユーザがメッセージを残した場合に、Unity Connection によって許可されるアクションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [通常にする (Mark Normal) ] : 識別できない発信者が残したメッセージに対して、緊急のマークを付けません。</li> <li>• [緊急にする (Mark Urgent) ] : 識別できない発信者が残したすべてのメッセージに緊急のマークを付けます。</li> <li>• [発信者が選択できる (Ask Callers) ] : メッセージに緊急のマークを付けるかどうかについて、Unity Connection から識別できない発信者に問い合わせます。</li> </ul>                  |
| <p>[プライベートメッセージ (Message Sensitivity) ]</p> | <p>識別できない発信者または明示的にサインインしていないユーザがメッセージを残した場合に、Unity Connection によって許可されるアクションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [通常にする (Mark Normal) ] : 識別できない発信者が残したメッセージに対して、プライベートのマークを付けません。</li> <li>• [プライベートにする (Mark Private) ] : 識別できない発信者が残したすべてのメッセージにプライベートのマークを付けます。</li> <li>• [発信者が選択できる (Ask Callers) ] : メッセージにプライベートのマークを付けるかどうかについて、Unity Connection から識別できない発信者に問い合わせます。</li> </ul> |
| <p>[セキュアにする (Mark Secure) ]</p>             | <p>識別できない発信者または明示的にサインインしていないユーザがこのユーザに残したメッセージに対して、Unity Connection でセキュアのマークを付けるには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[録音後のメッセージの再生 (Play After Message Recording) ]</p>         | <p>識別できない発信者または明示的にサインインしていないユーザがメッセージを送信した後に、Unity Connection によって許可されるアクションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [メッセージを再生しない (Do Not Play Recording) ]: メッセージ送信後に録音メッセージは再生されません。</li> <li>• [システムデフォルトメッセージを作成する (System Default Recording) ]: メッセージ送信後にデフォルトのシステム録音メッセージを再生します。</li> <li>• [メッセージを再生する (Play Recording) ]: メッセージ送信後にカスタマイズされた録音メッセージを再生します。</li> </ul> |
| <p>[メッセージの選択 (Recording Selection) ]</p>                      | <p>このフィールドは、[録音後のメッセージの再生 (Play After Message Recording) ] フィールドの [メッセージを再生する (Play Recording) ] オプションを選択した場合に限り有効になります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[発信者に使用する言語 (Language That Callers Hear) ]</p>             | <p>発信者にシステムプロンプトを再生するときの言語を選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>[メッセージ後のアクション (After Message Action) ]</p>                 | <p>このフィールドは、[録音後のメッセージの再生 (Play After Message Recording) ] フィールドの [メッセージを再生する (Play Recording) ] オプションを選択した場合に限り有効になります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[開封確認要求へ応答する (Respond to Requests for Read Receipts) ]</p> | <p>発信者にシステムプロンプトを再生するときの言語を選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[メッセージエイジングポリシー (Message Aging Policy) ]</p>                          | <p>発信者がメッセージを残した後に Unity Connection によって実行されるアクションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コールアクション (Call Action) ]: 該当するアクションをリストから選択します。</li> <li>• [コールハンドラ (Call Handler) ]: 指定したシステム コール ハンドラにコールを送信します。</li> <li>• [インタビューハンドラ (Interview Handler) ]: 指定したインタビューハンドラにコールを送信します。</li> <li>• [ディレクトリハンドラ (Directory Handler) ]: 指定したディレクトリハンドラにコールを送信します。</li> <li>• [カンバセーション (Conversation) ]: 指定したカンバセーションにコールを送信します。</li> <li>• [メールボックスを持つユーザ (User with Mailbox) ]: 指定したユーザ内線番号にコールを送信します。</li> </ul> |
| <p>[メールボックスクォータのシステム設定の使用 (Use System Settings for Mailbox Quotas) ]</p> | <p>メールボックスクォータのシステム設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>[警告クォータ (Warning Quota) ]</p>                                         | <p>ユーザのメールボックスがこのサイズに達すると、そのユーザは、メールボックスが最大許容サイズに達しつつあることを警告されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[送信クォータ (Send Quota) ]</p>                                            | <p>ユーザのメールボックスがこのサイズに達すると、そのユーザはボイスメッセージを送信できなくなります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>[送信/受信クォータ (Send/Receive Quota) ]</p>                                 | <p>ユーザのメールボックスがこのサイズに達すると、そのユーザはボイスメッセージを送受信できなくなります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>[メッセージアクション (Message Actions) ]</p>                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>[ボイスメール (Voicemail) ]</p>                                             | <p>ユーザがボイスメッセージを受信したときに、Unity Connection によって実行されるアクションを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|                   |                                                               |
|-------------------|---------------------------------------------------------------|
| [電子メール (Email) ]  | ユーザが電子メールメッセージを受信したときに、Unity Connection によって実行されるアクションを選択します。 |
| [ファクス (Fax) ]     | ユーザがファクス メッセージを受信したときに、Unity Connection によって実行されるアクションを選択します。 |
| [開封確認 (Receipt) ] | ユーザが開封確認を受信したときに、Unity Connection によって実行されるアクションを選択します。       |

表 44: [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ]-[コールの動作 (Call Behavior) ]

| フィールド                                                                     | 説明                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| [発信者入力キー (Caller Input Keys) ]                                            | 発信者入力の設定を編集するには、該当するキーを選択します。                                             |
| [追加入力待機時間 (Wait for Additional Digits) ]                                  | ロックされていないキーを発信者が1つ押した後で、Unity Connection が追加入力を待機する時間の長さを示します。            |
| [付加番号を有効にする (Enable Prepend Digits) ]                                     | コールハンドラおよびユーザ メールボックスで先頭に追加される数字を使用して短縮内線番号をシミュレートするには、このチェックボックスをオンにします。 |
| [付加番号 (Prepend Digits) ]                                                  | 発信者がユーザのグリーティングを聞いている間に、ダイヤルした内線番号に対して先頭に追加される数字を入力します。                   |
| [代替ルール (Alternate Rule) ]、[終了ルール (Closed Rule) ]、[標準ルール (Standard Rule) ] |                                                                           |
| [ルールステータス (Rule Status) ]                                                 | ルールを有効にするか無効にするかを指定します。                                                   |
| [日時 (Date/Time) ]                                                         | ルールが特定の終了日まで有効である場合に、ルールが無効になる日時を示します。                                    |

|                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[コールの転送先 (Transfer Calls To) ]</p> | <p>次のいずれかの設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [グリーティング (Greeting) ] : このオプションを選択した場合、コールは次の宛先に転送されます。</li> </ul> <p>ユーザ設定の場合 : ユーザ グリーティング (ユーザの電話機で呼び出し音は鳴りません) 。</p> <p>コールハンドラ設定の場合 : コールハンドラ グリーティング。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [内線 (Extension) ] : コールの転送先となる内線番号を入力します。</li> </ul> |
| <p>[内線 (Extension) ]</p>              | <p>電話システムでオブジェクトへの接続に使用される内線番号。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[転送タイプ (Transfer Type) ]</p>                                                         | <p>Unity Connection によるコールの転送方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [スイッチへリリースする (Release to Switch) ] : Unity Connection は自動的に発信者を保留にし、内線番号をダイヤルして、コールを電話システムにリリースします。回線が話し中であるか応答しない場合、コールは電話システム (Unity Connection ではない) からユーザまたはハンドラのグリーティングに転送されます。この転送タイプを使用すると、Unity Connection で着信コールをより迅速に処理できます。 [スイッチへリリースする (Release to Switch) ] 設定は、電話システムでコール転送が有効である場合に限り使用してください。</li> <li>• [転送を監視する (Supervise Transfer) ] : Unity Connection が電話受付係の役割を果たして、転送を処理します。回線が話し中であるか応答しない場合、コールはUnity Connection (電話システムではない) からユーザまたはハンドラのグリーティングに転送されます。監視転送は、コールの転送を電話システムで実行するかどうかにかかわらず使用できます。</li> </ul> <p>転送オプションは間接的なコールだけに適用されます。識別できない発信者や別のユーザが直接ユーザの内線番号をダイヤルした場合、転送オプションは適用されません。</p> |
| <p>[待機する呼び出し回数 (Rings to Wait For) ]</p>                                                | <p>ユーザまたはハンドラのグリーティングを再生する前に、内線番号を呼び出す回数を選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>[ 「お電話を転送しております」 のプロンプトを再生 (Play the "Wait While I Transfer Your Call" Prompt) ]</p> | <p>転送の実行中に、Unity Connection から発信者に対して「お電話を転送しております (Wait while I transfer your call) 」というプロンプトが再生されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[内線が話し中の場合 (If Extension Is Busy) ]</p>                 | <p>電話が話し中である場合の Unity Connection によるコールの処理方法を示します。コールを保留にしている間はポートが使用されるため、保留のオプションは必要以上に使用しないことをお勧めします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[コール接続時に通知する (Tell Me When the Call Is Connected) ]</p> | <p>ユーザが電話に応答したときに Unity Connection で「お電話を転送しております (transferring call) 」というプロンプトが再生されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[スイッチヘリリリースする (Release to Switch) ] が選択されているか、[コールの転送先 (Transfer Calls To) ] が [グリーティング (Greeting) ] オプションに設定されている場合、このオプションは使用できません。</p>                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>[コールの宛先を通知する (Tell Me Who the Call Is For) ]</p>        | <p>ユーザが電話に応答したときに Unity Connection で「&lt;ユーザまたはコールハンドラの録音名&gt; の方にお電話がはいています (call for &lt;recorded name of user or call handler&gt;)」または「&lt;ダイヤルされた内線番号&gt; の方にお電話がはいています (call for &lt;dialed extension number&gt;)」というプロンプトが再生されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。この設定は、電話を複数のユーザで共有している場合、またはユーザがダイヤルされた複数の内線番号のコールを受け付ける場合に使用します。</p> <p>[スイッチヘリリリースする (Release to Switch) ] が選択されているか、[コールの転送先 (Transfer Calls To) ] が [グリーティング (Greeting) ] オプションに設定されている場合、このオプションは使用できません。</p> |
| <p>[コールを取るか確認する (Ask Me If I Want to Take the Call) ]</p>  | <p>コールを転送する前に、コールを受け付けるかどうかを Unity Connection からユーザに問い合わせるようには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[スイッチヘリリリースする (Release to Switch) ] が選択されているか、[コールの転送先 (Transfer Calls To) ] が [グリーティング (Greeting) ] オプションに設定されている場合、このオプションは使用できません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |

|                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[発信者の名前を確認する (Ask for the Caller's Name) ]</p> | <p>Unity Connection から発信者に対して名前を言うように要求する場合は、このチェックボックスをオンにします。ユーザが電話に応答すると、Unity Connection からコールが転送される前に「...様からのお電話です (Call from...) 」というプロンプトが再生されます。</p> <p>[スイッチへリリースする (Release to Switch) ] が選択されているか、[コールの転送先 (Transfer Calls To) ] が [グリーティング (Greeting) ] オプションに設定されている場合、このオプションは使用できません。</p> |
|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

表 45: [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ]-[電話メニュー (Phone Menu) ]

| フィールド                                                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[タッチトーンカンバセーションメニュースタイル (Touchtone Conversation Menu Style) ]</p>              | <p>タッチトーン カンバセーションに使用するメニュー スタイルを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>[タッチトーンカンバセーション (Touchtone Conversation) ]</p>                                 | <p>ユーザがメッセージを電話で再生および管理するときに再生される、タッチトーンカンバセーションスタイルを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[ガイダンス音量 (Conversation Volume) ]</p>                                           | <p>カンバセーションがユーザに再生されるときの音量レベルを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>[ガイダンス速度 (Conversation Speed) ]</p>                                            | <p>ユーザにプロンプトが再生されるときの速度を選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[メッセージロケータでメッセージの検索を有効にする (Enable Finding Messages with Message Locator) ]</p> | <p>ユーザが電話でメッセージを確認するときに他のユーザおよび識別できない発信者からのボイスメッセージを検索できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[メッセージロケータのソート順 (Message Locator Sort Order) ]</p>                             | <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ラストイン、ファーストアウト (Last In, First Out) ]</li> <li>• [ファーストイン、ラストアウト (First In, Last Out) ]</li> </ul> <p>[メッセージロケータでメッセージを検索 (Finding Messages with Message Locator) ] の [有効 (Enabled) ] チェックボックスと併せて使用して、ユーザが個々のメッセージを電話で検索できるようにします。</p> |



|                                                                                |                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [時間フォーマット (Time Format) ]                                                      | ユーザが電話でメッセージを再生するときに、Unity Connection でタイムスタンプの再生に使用される時間形式を示します。                                                                                                                   |
| [メニューに応答するとき (When Responding to Menus) ]                                      |                                                                                                                                                                                     |
| [メニューの繰り返し回数 (Times to Repeat Menu) ]                                          | ユーザがメニューに応答しないときに、Unity Connection でそのメニューを繰り返す回数を指定します。有効値の範囲は 0 ~ 10 です。                                                                                                          |
| [最初のタッチトーンを待つ(ミリ秒) (Wait for First Touchtone (Milliseconds)) ]                 | Unity Connection で、メニューの再生後にユーザが最初のキーを押すか、ボイスコマンドを発音するまで待機する時間を指定します。有効値の範囲は 500 ~ 10,000 ミリ秒です。<br>デフォルト設定 : 5,000 ミリ秒                                                             |
| [名前、内線番号、暗証番号を待つ(ミリ秒) (Wait for Names, Extensions, and PINs (Milliseconds)) ]  | メッセージの宛先指定、パスワードまたは暗証番号の更新、コール転送またはメッセージ通知の番号の変更などのためにユーザ名または内線番号を入力する場合に、ユーザがキーを押した後、次のキーを押すまで Unity Connection が待機する時間を指定します。有効値の範囲は 1,000 ~ 10,000 ミリ秒です。<br>デフォルト設定 : 3,000 ミリ秒 |
| [複数桁のメニューオプションを待つ(ミリ秒) (Wait for Multiple Digit Menu Options (Milliseconds)) ] | Unity Connection で、ユーザが特定の電話メニューで使用可能なキーの組み合わせの最初の数字を表すキーを押してから、新たなキーを押すまで待機する時間を指定します。有効値の範囲は 250 ~ 5,000 ミリ秒です。<br>デフォルト設定 : 1,500 ミリ秒                                            |
| [サインイン後に再生 (After Sign-In, Play) ]                                             | 適切なチェックボックスをオンにして、ユーザのサインイン後に Unity Connection によって再生される内容を示します。                                                                                                                    |

|                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[カンバセーション終了後 (When Exiting the Conversation) ]</p> | <p>次のいずれかのアクションを選択して、カンバセーション終了時のUnity Connectionによるユーザの送信先を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コールアクション (Call Action) ] : 該当するアクションをリストから選択します。</li> <li>• [コールハンドラ (Call Handler) ] : 指定したシステム コール ハンドラにコールを送信します。</li> <li>• [インタビューハンドラ (Interview Handler) ] : 指定したインタビューハンドラにコールを送信します。</li> <li>• [ディレクトリハンドラ (Directory Handler) ] : 指定したディレクトリ ハンドラにコールを送信します。</li> <li>• [カンバセーション (Conversation) ] : 指定したカンバセーションにコールを送信します。</li> <li>• [メールボックスを持つユーザ (User with Mailbox) ] : 指定したユーザ内線番号にコールを送信します。</li> </ul> |
|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

表 46 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ]-[送信したメッセージ (Sent Messages) ]

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[メッセージ音量 (Message Volume) ]</p>                                   | <p>ユーザが電話でメッセージの本文やファクスメッセージの録音された音声コメントを再生するときに、Unity Connection によって再生されるメッセージの音量レベルを選択します。</p> |
| <p>[メッセージ再生速度 (Message Speed) ]</p>                                  | <p>ユーザが電話でメッセージの本文やファクスメッセージの録音された音声コメントを再生するときに、Unity Connection によるメッセージの再生速度を選択します。</p>        |
| <p>[メッセージの早送り位置(ミリ秒) (Fast Forward Message by (milliseconds) ) ]</p> | <p>ユーザがメッセージを聞いている途中で早送りしたときに、Unity Connection が前方へスキップする時間を指定します。</p>                            |

|                                                                                     |                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [メッセージの巻き戻し位置(ミリ秒) (Rewind Message by (milliseconds)) ]                             | ユーザがメッセージを聞いている途中で巻き戻したときに、Unity Connection が後方へスキップする時間を指定します。                                                                                               |
| [開封済みメッセージ再生数 (For Saved Messages Play Count) ]                                     | このチェックボックスをオンにすると、開封済みメッセージの合計件数を、Unity Connection が通知します。                                                                                                    |
| [下書きメッセージ再生数 (For Draft Messages Play Count) ]                                      | このチェックボックスをオンにすると、下書きとして保存されたメッセージの件数を、Unity Connection が通知します。                                                                                               |
| [メッセージの前にメッセージタイプメニューを再生 (Play Message Type Menu Before Messages) ]                 | このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で Unity Connection にサインインしたとき、Unity Connection がメッセージタイプメニューを再生します。                                                                   |
| [メニューが自動的に次のメッセージに進んだ後 (After the Menu Automatically Advance to the Next Message) ] | Unity Connection で、ユーザが [メッセージ後 (After Message) ]メニューのオプションで [保存 (Save) ]や [削除 (Delete) ]などのアクションを実行しなくても、メッセージスタック内の次のメッセージに自動的に進むようにするには、このチェックボックスをオンにします。 |
| [新規および開封済みメッセージを削除する場合に確認する (Confirm When Deleting New and Saved Messages) ]        | このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で新規および保存済みのメッセージを削除する場合に、Unity Connection はメッセージの削除を選択したことについて確認します。ユーザが削除済みメッセージにアクセスできない場合は、このチェックボックスをオンにすることを検討してください。            |
| [新規メッセージ再生時にアナウンス (For New Messages, Play) ]                                        | 新規のマークが付いたメッセージの合計数をアナウンスするように Unity Connection を設定するには、必要に応じてチェックボックスをオンにします。                                                                                |
| [メッセージ再生中に切断されたとき (When Disconnected During Message Playback) ]                     |                                                                                                                                                               |
| [メッセージブックマークの作成 (Create a Message Bookmark) ]                                       | メッセージの再生中にコールが切断されたとき、またはユーザが切断したときに、メッセージのブックマークを作成するように Unity Connection を設定するには、このチェックボックスをオンにします。                                                         |

|                                              |                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [新規メッセージのマーク (Mark a New Message) ]          | ユーザがメッセージの本文にアクセスしてから切断するか、メッセージの管理方法を示す前に切断された場合に、そのメッセージに新規のマークを付けるように Unity Connection を設定するか、または開封済み (読み取り済み) のマークを付けるように設定するのかわを示します。                     |
| [各メッセージの再生時にアナウンス (For Each Message, Play) ] |                                                                                                                                                                |
| [送信者情報 (Sender's Information) ]              | このチェックボックスをオンにすると、Unity Connection はメッセージを再生した後に、メッセージの送信者に関する情報を再生します。                                                                                        |
| [内線番号を含める (Include Extension) ]              | [送信者情報 (Sender's Information) ] チェックボックスと併用します。メッセージの再生後に、メッセージを残したユーザの録音名と内線番号を再生するように Unity Connection を設定するには、このチェックボックスをオンにします。                            |
| [送信者の ANI (Sender's ANI) ]                   | [送信者情報 (Sender's Information) ] チェックボックスと併用します。識別できない発信者によって残されたメッセージの場合は、このチェックボックスをオンにしてメッセージを再生した後で電話番号 (ANI または発信者 ID) 情報を提供するように Unity Connection へ指示します。 |

|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[新しいメッセージの再生順序 (New Message Play Order) ]</p>                                                         | <p>ユーザに対する Unity Connection による新規メッセージの再生順序を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [メッセージタイプによる並び替え (Sort by Message Type) ]: メッセージタイプを選択し、上および下向き矢印をクリックしてメッセージタイプのリストを並べ替えます。</li> <li>• [並べ替え順序 (Then By) ]: [日付の新しいメッセージを優先 (Newest First) ]または [日付の古いメッセージを優先 (Oldest First) ]を選択し、Unity Connection による新規メッセージまたは開封済みメッセージの再生順序を指定します。</li> </ul> <p>緊急メッセージは、開封確認を除いて、メッセージタイプごとに常に通常のメッセージの前に再生されることに注意してください (開封確認は送信時刻で並び替えられます)。</p> |
| <p>[保存メッセージの再生順序 (Saved Message Play Order) ]</p>                                                        | <p>ユーザに対する Unity Connection による開封済みメッセージの再生順序を示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>[削除済みメッセージの再生順序 (Deleted Message Play Order) ]</p>                                                    | <p>[日付の新しいメッセージを優先 (Newest First) ]または [日付の古いメッセージを優先 (Oldest First) ]を選択し、削除したメッセージの再生順序を指定します。</p> <p>(注) 緊急メッセージは、開封確認を除いて、メッセージタイプごとに常に通常のメッセージの前に再生されます (開封確認は送信時刻で並び替えられます)。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>[送信メッセージの設定 (Send Message Settings) ]</p>                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>[ユーザは、このサーバ上のユーザにブロードキャストメッセージを送信できる (User Can Send Broadcast Messages to Users on This Server) ]</p> | <p>ユーザがローカルの Unity Connection サーバ上の全ユーザにブロードキャストメッセージを送信できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>[ユーザは、サーバに保存されたブロードキャストメッセージを更新できる (User Can Update Broadcast Messages Stored on This Server) ]</p>   | <p>ユーザがブロードキャストメッセージを編集できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザは、ローカルの Unity Connection サーバ上の全ユーザにブロードキャストメッセージも送信できるようになります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [メッセージの宛先と送信先 (Message Addressing and Sending) ]                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [受信者の入力方法 (Enter a Recipient By) ]                                                         | <p>メッセージを他のユーザ宛てに指定するときに、カンバセーションでユーザに要求する入力方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [姓、名の順 (Spelling the Last Name Then First Name) ]</li> <li>• [内線番号順 (Entering the Extension) ]</li> <li>• [名、姓の順 (Spelling the First Name Then Last Name) ]</li> </ul> |
| [受信者を名前で確認する (Confirm Recipient by Name) ]                                                 | <p>ユーザを宛先として指定したときに、選択した名前の確認プロンプトを再生する場合は、このオプションを有効にします。</p>                                                                                                                                                                                                            |
| [各受信者の後に名前を追加する (Continue Adding Names After Each Recipient) ]                             | <p>複数の受信者にメッセージを送信および転送するとき、各受信者の後に名前の追加を続けることをユーザに求めるように <b>Unity Connection</b> を設定するには、このオプションを有効にします。</p>                                                                                                                                                             |
| [通話が切断されたとき、または自分が切断したとき (When a Call Is Disconnected or the User Hangs Up) ]              | <p>ユーザがメッセージの送信、応答、または転送を処理しているときにコールが切断された場合に、メッセージを送信するように <b>Unity Connection</b> を設定するか、またはメッセージを破棄するように設定するのかわを示します。コールは意図的に切断されることもあれば、ユーザが電話を切ったり、携帯電話のバッテリーが切れたり、圏外になったりする場合など、不意に切断されることもあります。</p>                                                               |
| [下書きメッセージの保存をユーザに許可する (Allow Users to Save Draft Messages) ]                               | <p>ユーザが作成中のメッセージを下書きとして保存するかどうかを選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                       |
| [メッセージの転送または応答時に緊急フラグを保持する (Retain Urgency Flag When Forwarding or Replying to Messages) ] | <p>ユーザが電話インターフェイスを使用して緊急メッセージを転送したり、緊急メッセージに返信したりするとき、緊急フラグを維持するように <b>Unity Connection</b> を設定するには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                |

## ボイスメールのパスワード/暗証番号の変更

ユーザのボイスメールのパスワード/暗証番号を変更するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2 [クイックビュー (Quick View) ] アイコンの上にカーソルを置いて、ユーザのクイック ビューを起動します。
- ステップ 3 [パスワード/暗証番号の管理 (Manage Passwords/PINs) ] をクリックします。
- ステップ 4 [ユーザの管理 (Manage User) ] ページで、[パスワードの選択 (Select Password) ] ドロップダウンリストから [Unity Connectionの暗証番号 (Unity Connection PIN) ] を選択し、ユーザのボイスメールの暗証番号を変更します。 Unity Connection の Web アプリケーション パスワードを変更するには、[Unity Connection Webのパスワード (Unity Connection Web Password) ] を選択します。
- ステップ 5 [完了 (Done) ] をクリックします。

[ユーザの管理 (Manage User) ] ページで追加した Unity Connection パスワード/暗証番号は、対象ユーザについて作成されているすべてのボイスメール アカウントに適用されます。個々のボイスメールアカウントのパスワード/暗証番号を変更するには、[サービスの詳細 (Service Details) ] ページで対象のボイスメール サービスの横に表示されている [クイックビュー (Quick View) ] アイコンにカーソルを置き、[パスワード/暗証番号 (Password/PIN) ] をクリックします。パスワード/暗証番号の設定は [ボイスメールの管理 (Manage Voicemail) ] ページでも変更できます。次の表に、[ボイスメールの管理 (Manage Voicemail) ] ページの [パスワード/暗証番号 (Password/PIN) ] 設定エリアに表示されるフィールドを示します。

| フィールド                                  | 説明                                                                                                                                                |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [管理者がロックする (Locked by Administrator) ] | ユーザが Cisco Unity Connection にアクセスできないようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザがボイスメールにアクセスできないようにするには、このチェックボックスをオンにしてボイスメールの暗証番号を設定します。                      |
| [ユーザによる変更不可 (User Cannot Change) ]     | ユーザがパスワードや暗証番号を変更できないようにするには、このオプションをオンにします。この設定は、複数のユーザがアクセスできるアカウントに対する使用が最も適しています。このオプションを選択する場合は、[無期限にする (Does Not Expire) ] チェックボックスもオンにします。 |

| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [次回ログイン時に、ユーザによる変更が必要 (User Must Change at Next Sign-In) ] | 一時的なパスワードまたは暗証番号を設定しており、ユーザが Cisco Unity Connection に次回サインインするとき、ユーザに新しいパスワードまたは暗証番号の設定を求める場合は、このオプションを選択します。                                                            |
| [無期限にする (Does Not Expire) ]                                | このチェックボックスをオンにすると、システムからユーザに対するこのクレデンシャルの変更要求が拒否されます。このチェックボックスは、通常、高いセキュリティを必要としないユーザや、複数の人物に利用される可能性があるアカウントに対して使用します。このチェックボックスをオンにした場合、該当するユーザはこのクレデンシャルをいつでも変更できます。 |
| [認証ルール (Authentication Rule) ]                             | 選択したユーザ パスワードまたは暗証番号の設定に適用する認証ポリシーを選択します。                                                                                                                                |

## プレゼンス サービスのオーダー

プレゼンス サービスをオーダーするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2 サービスをプロビジョニングするユーザの横のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [サービスのプロビジョニング (Provision Services) ] をクリックします。
- ステップ 4 [ユーザサービスの詳細 (User Service Details) ] ページで [新規サービス (New Service) ] をクリックします。
- ステップ 5 [サービスエリア (Service Area) ] を選択して [続行 (Continue) ] をクリックします。
- ステップ 6 [ユーザサービス (User Services) ] を選択してから [続行 (Continue) ] をクリックし、ユーザサービス製品を設定します。  
 (注) [ユーザサービス (User Services) ] は Cisco Unified Communications Manager 9.x で利用できます。Provisioning 9.0 にアップグレードすると、ユーザ サービスをオーダーに使用できなくなります。対応するユーザ権限にこのサービスを手動で関連付ける必要があります。 [ユーザ権限とサービスの関連付け](#)、(60 ページ) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上では、[ユーザサービス (User Services) ] はオーダー可能なサービスとして使用できなくなります。サービスのオーダーを作成するとデフォルトで追加されます。

「ユーザサービスの入力フィールド」の表に、ユーザサービスのさまざまな設定フィールドを示します。



**ステップ 7** [続行 (Continue) ] をクリックします。

**ステップ 8** [オーダーの確認 (Order Confirmation) ] ページで、[確認 (Confirm) ] をクリックします。

表 47: ユーザサービスの入力フィールド

| フィールド                                                                                | 説明                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| [サービステンプレート (Service Template) ]                                                     | 使用するサービステンプレートを選択します。                                                              |
| [サービス設定の有効化 (Enable Service Settings) ]                                              |                                                                                    |
| [Unified CM IM and Presenceのユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence) ] | Unified CM IM and Presence を有効または無効にするために使用します。                                    |
| [ホームクラスタ (Home Cluster) ]                                                            | 該当クラスタが、ユーザに対してホームクラスタであるかどうかを示します。                                                |
| [UCサービスプロファイル (UC Service Profile) ]                                                 | サービスプロファイルをユーザに関連付けるために使用します。                                                      |
| [ユーザプロファイル (User Profile) ]                                                          | ユーザに関連付けられたプロファイルを示します。                                                            |
| [ユーザロケール (User Locale) ]                                                             | ドロップダウンリストから、ユーザに関連付けるロケールを選択します。 そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。 |
| [ユーザ情報 (User Information) ]                                                          |                                                                                    |

|                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[セルフプロビジョニングユーザID (Self-Provisioning User ID) ]</p>                      | <p>Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上では、回線サービスのオーダーを作成すると、セルフプロビジョニング ユーザ ID が（プライマリ内線番号に基づいて）ユーザの電話番号にデフォルトで追加されます。セルフプロビジョニング ユーザ ID を変更するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [ユーザサービス (User Services) ] の横に表示される [クイックビュー (Quick View) ] アイコンにカーソルを置き、[変更 (Change) ] をクリックします。</li> <li>2. [オーダーの変更 (Change Order) ] ページで、セルフプロビジョニングユーザID を更新して [続行 (Continue) ] をクリックします。</li> <li>3. [詳細の確認 (Confirm Details) ] ページで [確認 (Confirm) ] をクリックします。</li> </ol> <p>Cisco Unified Communications Manager 9.x では、[セルフプロビジョニングユーザID (Self-Provisioning User ID) ] フィールドが表示されません。</p> |
| <p>[エクステンションモビリティ (Extension Mobility) ]</p>                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[デフォルトのプロファイル (Default Profile) ]</p>                                    | <p>ドロップダウンリストから、このユーザのデフォルトのエクステンション モビリティ プロファイルを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space) ]</p>           | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、ユーザのプレゼンス要求に使用するコーリングサーチスペースを選択します。ドロップダウン リストからユーザのコーリングサーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースのデフォルトは [なし (None) ] に設定されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[クラスタ間のエクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster) ]</p> | <p>このユーザが、クラスタ間のシスコエクステンションモビリティ機能を使用できるようにする場合に、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[電話番号の割り当て (Directory Number Association) ]</p>                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プライマリ内線 (Primary Extension) ]                                                                                         | このフィールドは、ユーザのプライマリ電話番号を表します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <b>[モビリティ情報 (Mobility Information) ]</b>                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access) ]                                                                        | ユーザがモバイル ボイス アクセス自動音声応答 (IVR) システムにアクセスしてモバイルコネク ト コールを起動し、モバイルコネク ト機能をアクティブまたは非アクティブにできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup) ]                                                                | 携帯電話からデスクトップ電話に転送されたコールをユーザがピックアップするまでに許可する、最大時間をミリ秒単位で入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <b>[MLPP(Multilevel Precedence and Preemption)認証設定 (Multilevel Precedence and Preemption Authorization Settings) ]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [MLPPユーザID番号 (MLPP User Identification Number) ]                                                                       | MLPP ユーザ ID 番号は 6 ~ 20 桁の数字で構成する必要があります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [MLPP優先認証レベル (MLPP Precedence Authorization Level) ]                                                                   | 優先認証レベルは、[標準 (Routine) ] から [エグゼクティブオーバーライド (Executive Override) ] までの、任意の標準優先レベルに設定できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <b>[グループと権限 (Groups and Roles) ]</b>                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [グループ (Groups) ]                                                                                                       | このリストボックスは、エンドユーザレコードが保存された後で表示されます。このリストボックスには、エンドユーザが属するグループが表示されます。ユーザを 1 つまたは複数のユーザグループに追加するには、次の手順を実行します。<br><br><ol style="list-style-type: none"> <li>1 [追加 (Add) ] ボタンをクリックします。</li> <li>2 ユーザを追加するグループを特定し、グループの横のチェックボックスをオンにします。</li> <li>3 ウィンドウの下部にある [選択項目の追加 (Add Selected) ] をクリックします。</li> </ol> <p>グループからユーザを削除するには、[グループ (Groups) ] リストボックスでグループを選択し、[削除 (Remove) ] ボタンをクリックします。</p> |

|               |                                     |
|---------------|-------------------------------------|
| [権限 (Roles) ] | このリストボックスには、ユーザに割り当てられている権限が表示されます。 |
|---------------|-------------------------------------|

## ユーザへのユーザ プロファイルの関連付け

ユーザに対して Self-Care を有効にするには、対象のユーザにユーザ プロファイルを割り当てる必要があります。

ユーザ サービスにはユーザ プロファイル プロビジョニング属性が含まれます。また、ユーザ サービスにはすべての設定済みユーザ プロファイルが表示されます。サービスをオーダーする際に、ユーザに対する目的のプロファイルを選択することができます。

ユーザ プロファイル属性は、ユーザ サービスのサービス テンプレートにも表示されます。ユーザ プロファイルがサービス エリア レベルで設定されている場合は、ユーザに対して最初のオーダーが作成された際に、値がサービス エリア から取得されて対象のユーザに関連付けられます。



(注) ユーザ プロファイル属性は Cisco Unified CM 10.x 以上でサポートされています。

ユーザ データ サービス (UDS) 機能が Provisioning で有効化されている場合、ユーザはすべてのクラスタでプロビジョニングされますが、ユーザ プロファイルは最初のオーダーが作成されたクラスタ内のユーザに限り割り当てられます。

### ユーザへのユーザ プロファイルの自動割り当て

サービス テンプレートを使用してユーザ プロファイル属性をサービス エリア レベルで設定し、そのユーザ プロファイルをユーザに自動的に関連付けることができます。ユーザ作成時に、ユーザ プロファイルの値が該当するサービス エリア から取得され、[ユーザの追加 (Add User) ] 要求に追加されます。

### ユーザへのユーザ プロファイルの手動割り当て

ユーザ プロファイルをユーザに手動で割り当てるには、ユーザ サービスを設定する必要があります。目的のユーザ プロファイルをドロップダウン リストから選択してオーダーを作成し、ユーザ プロファイルをユーザに関連付ける必要があります。

設定済みのユーザ プロファイルは、ユーザ サービスを更新すると変更できます。ユーザ プロファイルがユーザに対して設定されている場合、設定済みのユーザ プロファイル値は [サービスの詳細 (Service Details) ] ページに表示されます。



(注) ユーザ同期の一環として、ユーザ プロファイルがコール プロセッサからインポートされ、プロビジョニング インベントリに保存されます。

## ユーザが関連付けられていないエンドポイントの管理

[疑似 (Pseudo) ]ユーザ権限では、コールプロセッサでユーザが関連付けられていないエンドポイントをプロビジョニングすることができます。

疑似ユーザ向けのエンドポイントのプロビジョニングは通常のユーザ向けと同じですが、ユーザがコールプロセッサで作成されない点が異なります。疑似ユーザ向けの次の基本サービスを含むサービスをオーダーできます。

- エンドポイント (すべてのエンドポイント タイプを含む)
- 回線
- ボイスメール
- 電子メール
- ユニファイド メッセージング

ユーザにサービスが設定されていない場合だけ、ユーザ権限を [疑似 (Pseudo) ] から通常の権限に変更したり、その逆の変更を行ったりすることができます。

次の手順は、ユーザが関連付けられていないエンドポイントを疑似または既存のユーザに関連付ける方法を示します。

### 手順

- 
- ステップ 1** ユーザが関連付けられていないすべてのエンドポイントをファイルにエクスポートします ([ユーザが関連付けられていないエンドポイントのエクスポート](#), (265 ページ) を参照)。
  - ステップ 2** エクスポートしたファイルを修正して、各エンドポイントを新しい疑似ユーザまたは対象の既存ユーザに関連付けます。
  - ステップ 3** 修正したファイルを使用してバッチ操作ファイルを作成し、次にバッチ プロジェクトを実行します ([バッチ プロビジョニング](#), (137 ページ) を参照)。
  - ステップ 4** バッチプロジェクトの完了では、ドメインの同期を実行してエンドポイントにサービスエリアを割り当て、エンドポイントがユーザ レコードに表示されるようにする必要があります。  
 (注) サービス エリアがファイルに表示される場合は、ドメインの同期が実行されるとエンドポイントがサービス エリアに割り当てられます (完全に一致する場合)。ドメインが限定されない同期ルールを使用するように設定されている場合、エンドポイントは最初に利用可能なサービス エリアに割り当てられます。
- 

## ユーザが関連付けられていないエンドポイントのエクスポート

ユーザが関連付けられていないエンドポイントをエクスポートして、実際のユーザ名または疑似ユーザ名でバッチ インポートすることができます。



(注) エクスポートできるのは、ハードウェア電話です。 ソフトフォンやエクステンション モビリティはエクスポートできません。

### 手順

- ステップ 1** [展開 (Deploy) ]>[プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory) ]>[エンドポイントの管理 (Manage Endpoints) ]を選択します。
- ステップ 2** [エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management) ]ページで、コールプロセッサとエンドポイント モデルを選択して [ユーザが関連付けられていないエンドポイントの検索 (Search Endpoints Without Associated User) ]をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザが関連付けられていないエンドポイント (Endpoints Without Associated Users) ]ページで、エクスポートするエンドポイントの横のチェック ボックスをオンにして [選択したエンドポイントのエクスポート (Export Selected Endpoints) ]をクリックします。
- ステップ 4** エンドポイントのバッチインポート用にエクスポートされたファイルを使用する場合は、[ユーザが関連付けられていないエンドポイントのエクスポート (Export Endpoints without Associated Users) ]ダイアログ ボックスで、ユーザ ID のドメインとサフィックスを指定します。
- ステップ 5** [エクスポート (Export) ]をクリックします。

## 既存のエンドポイントの交換

交換機能を使用して、ユーザの既存のエンドポイントを交換したり、エンドポイントの MAC アドレスを変更したり、または他のエンドポイントの設定を更新したりできます。



(注) 交換機能では、割り当てられた回線の位置を変更できません。

同じエンドポイントタイプを選択するか、ユーザが利用できるその他のエンドポイントタイプのリストから選択できます。ユーザがアクセスできるエンドポイントタイプは、ユーザ権限と、交換するエンドポイントの回線数によって決まります。必要な回線数をサポートしていないエンドポイントは、変更オーダー処理では利用できません。

エンドポイントを交換すると、そのすべての回線が新しいエンドポイントに移されます。新しいエンドポイントに割り当てられるサービスエリアは、元のエンドポイントのものと同じです。

[オーダー (Ordering) ]承認権限を持つユーザは、自分のエンドポイントや他のユーザのエンドポイントを交換できます。

交換エンドポイント オーダーを送信する際は、次の点に注意してください。

- Provisioning でサポートされておらず、エンドポイント交換オーダーを行う前からエンドポイントに存在していた属性はすべて、デフォルト値にリセットされるか、エンドポイントから

削除されます。Provisioning でサポートされる属性のリストについては、[プロビジョニング属性の説明](#)、(299 ページ) を参照してください。

- 元のエンドポイントに割り当てられていた回線は、新しく追加したエンドポイントに関連付けられます。ただし、新しく選択されて関連付けられたエンドポイント ボタン テンプレートで、元のエンドポイントと同じ数（またはそれ以上）だけ割り当てられた回線がサポートされている必要があります。
- エンドポイント交換オーダーを実行すると、ドメイン用に設定されたサービスだけが維持されます。それ以外のサービスがエンドポイントに存在する場合、それらのサービスは削除されます。
- 属性の中には、特定のプロトコルの特定のエンドポイントタイプでサポートされないものがあります。エンドポイントのオーダーを作成する場合は、選択したエンドポイントタイプとプロトコルによってサポートされる属性の値を設定するだけです。これらを設定しないと、オーダーは失敗する可能性があります。
- エンドポイント オーダーを交換する場合は、エンドポイント タイプに基づいて [DND オプション (DND Option) ] 属性に、サポートされる値を指定する必要があります。Nokia や iPhone などのいくつかのエンドポイントでは、この属性について値が 1 つしかサポートされませんが、他のエンドポイントでは最大で 3 つまたは 4 つの値がサポートされます。[DND オプション (DND Option) ] に不適切な値を入力すると、そのオーダーは交換されません。  
 ユーザのエンドポイントを交換するには、[サービス (Services) ] ペインで交換するエンドポイントにマウスを置き、[操作 (Actions) ] リストの [交換 (Replace) ] をクリックします。  
 エンドポイントまたはサービスの基本および詳細設定を変更するには、[操作 (Actions) ] リストの [変更 (Change) ] をクリックします。



(注) すべてのバージョンの Provisioning で、ボイスメールエイリアスを変更できるわけではありません。Cisco Unity Connection については、すべてのバージョンでボイスメールエイリアスを変更できます。8.0 よりも前のバージョンの Cisco Unity では、ボイスメールの変更において選択済みのボイスメールエイリアスまたは回線を変更することはできませんが、表示名は変更できます。

## エンドポイントのオーナーの変更

エンドポイントのオーナーを、同じドメイン内のあるユーザから別のユーザに変更できます。

エンドポイントのオーナーを変更するには、[サービス (Services) ] ペインで変更するエンドポイントの上にマウスのカーソルを合わせて、[操作 (Actions) ] リストの [オーナーの変更 (Change Owner) ] をクリックします。

エンドポイントのオーナーを変更すると、そのエンドポイントに関連付けられているすべてのサービス ([回線 (Line) ]、[電子メール (Email) ]、[ボイスメール (Voicemail) ]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ] など) も変更されます。

必要に応じて、[電子メールID (Email ID)] と [表示名 (Display Name)] に異なる値を入力します。電子メールのID、電子メールの表示名、ボイスメールのエイリアス、またはボイスメールの表示名を変更しない場合、ユニファイドメッセージプロセッサのサービスは変更されません。変更されるのは、古いオーナーと新しいオーナーに対する Provisioning 内のユーザレコードだけです。

ただし、これらの設定のうちいずれかが変更された場合、ユニファイドメッセージプロセッサのボイスメールアカウントおよび電子メールアカウントは、いったん非アクティブにされた後で、再びアクティブにされます。

新しいオーナーに割り当てられるサービスエリアは、元のオーナーのサービスエリアと同じです。



(注) [オーダー (Ordering)] または [詳細オーダー (Advanced Ordering)] 権限を持つユーザは、各自のエンドポイントまたは他のユーザの電話に対して、これらの変更を行うことができます。

ユーザのログインID (姓名) を含む属性は、ドメインルールやユーザのプロビジョニング属性に応じて、新しいユーザの情報とともに更新されます。

ユーザのログインIDを含む可能性がある属性は次のとおりです。

- [エンドポイントの説明 (Endpoint Description)]
- [呼び出し表示 (Alerting Name)] (オンライン)
- [エンドポイントオーナーユーザID (Endpoint Owner User ID)]
- [ASCII表示(内部発信者ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))]
- [ASCII回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)]
- [回線テキストラベルASCII呼び出し表示 (Line Text Label ASCII Alerting Name)]

エンドポイントのオーナーを変更する場合は、次のポイントに注意します。

回線が移動すると、新しいユーザと古いユーザの電話番号とプライマリ内線は、それに合わせて更新されます。

エンドポイントが共有されている場合は、エンドポイントのオーナーを変更できません。[オーナーの変更 (Change Owner)] ボタンは表示されません。

関連付けられているサービスのいずれかに対して処理中のオーダーがある場合は、警告メッセージが表示され、続行できません。

## 回線情報の変更

回線の詳細を変更するオーダーを送信できます。次の回線の詳細を変更できます。

- 電話番号
- 回線の位置



- プロビジョニング属性

[回線 (Line) ]、[共有エンドポイントの回線 (Line on Shared Endpoint) ]、および[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ] 製品の詳細を変更できます。

[回線 (Line) ] 製品には2組のプロビジョニング属性があります。1つは電話番号レベルのもので、もう1つは回線レベルのもので。複数の回線で同じ電話番号を共有している場合、電話番号レベルで設定されたプロビジョニング属性は共通となり、回線間で共有されます。ある回線のプロビジョニング属性を変更すると、すべての回線に影響を与えます。

回線レベルで設定されたプロビジョニング属性は共有されません。ある回線のプロビジョニング属性を変更しても、他の回線には影響を与えません。



(注) [プロビジョニング属性管理 (Provisioning Attribute Management) ] ウィザードで、属性の表示名の前にアスタリスク (\*) が付いているものは電話番号レベルのプロビジョニング属性であり、回線間で共有できます。

新しい電話番号が入力され、新しい番号と元のルートパーティションの組み合わせが既存の電話番号オブジェクトと一致した場合は、すべての電話番号レベルのプロビジョニング属性に、[プロビジョニング属性管理 (Provisioning Attribute Management) ] ウィザードでの既存の電話番号オブジェクトからの値が表示されます。

ルートパーティションを変更しても、ウィザードが自動的に更新されて新しい一致する電話番号値が表示されることはなく、ウィザード上で表示されている内容がエンドポイントでプロビジョニングされます。

回線の詳細を更新するには、[サービス (Services) ] ペインで、変更する回線をポイントして [操作 (Actions) ] リストの [変更 (Change) ] をクリックします。

## ボイスメールアカウントのロック解除

ユーザエラーやシステムエラーが原因でボイスメールアカウントがロックされた場合は、Provisioning を通じてアカウントのロックを解除できます。

次のアカウントのロックを解除できます。

- ボイスメールアカウント : Cisco Unity デバイス、Cisco Unity Connection デバイス、および Cisco Unity Express デバイスの場合
- Web アクセス アカウント : Cisco Unity Connection デバイスの場合

### はじめる前に

ボイスメールアカウントのロックを解除するには、Cisco Unity デバイスまたは Cisco Unity Connection デバイスを設定する必要があります ([デバイスの管理](#), (39 ページ) を参照してください)。

## 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy) ] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2** 対象のユーザをクリックします。
- ステップ 3** [サービス (Services) ] ペインで、ロックを解除するボイスメールをポイントします。オプションボタンが付いた [操作 (Actions) ] リストが表示されます。ここで、選択した製品に対して操作を実行することができます。
- ステップ 4** [ロック解除 (Unlock) ] をクリックします。  
(注) Cisco Unity Connection では、ボイスメールアカウントか Web アクセスアカウントのいずれかを選択できる場合があります。ロックを解除する対象のアカウントを選択します。
- ステップ 5** [確認 (Confirm) ] をクリックして [OK] をクリックします。
- 

# オーダーの検索

次のいずれかの情報を使用して、オーダーを検索できます。

- オーダー情報：
  - オーダー番号
  - 作成者：オーダーを作成した人
  - オーダー ステータス
  - 拡張ステータス：オーダーの状態（プロビジョニング中、承認待ち、出荷待ちなど）
  
- ユーザ情報：
  - ログイン
  - 氏名
  - 電話番号
  - 電子メール
  - 部署名
  - ドメイン
  
- オーダー日
- 要求された納入日

オーダーを検索するには、[展開 (Deploy)] > [履歴の検索 (Search History)] を選択します。検索ページで、検索情報を入力して [検索 (Search)] をクリックします。

[エクスポート (Export)] をクリックし、検索の詳細をタブ区切りファイルとしてエクスポートすることができます。オーダーのあらゆる変更をこのレポートに表示できます。

## オーダーの処理

ユーザのオーダーの送信が完了すると、オーダーが承認されて出荷されます。これらの手順は、Provisioning システムがどのように設定されたのかに応じて、自動的に実行される場合や、ユーザによる処理が必要になる場合があります。

オーダー処理の段階では、4つのアクティビティがユーザに割り当てられる可能性があります。これらのアクティビティは、ドメインに対して設定されたルールに基づいて割り当てられます。ルールの詳細については、[ドメイン同期に関するビジネスルール](#)、(78 ページ) を参照してください。

- オーダーの承認：プロビジョニングの実行にはオーダーの承認が必要です。オーダーを拒否することもできます。このユーザには [承認 (Approval)] 承認権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては、次のルールによって制御されます。
  - IsAuthorizationRequiredForAddOrder
  - IsAuthorizationRequiredForChangeOrder
  - IsAuthorizationRequiredForCancelOrder
- 割り当て：MAC アドレスをエンドポイントに割り当てます。このユーザには [割り当て (Assignment)] 権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては、PhoneAssignmentDoneBy ルールによって制御されます。
- 出荷：オーダーを出荷します。このユーザには [出荷 (Shipping)] 承認権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては PhoneShippingDoneBy ルールによって制御されます。
- 受領：[受領 (Receiver)] ユーザ権限を持つユーザが実行します。オーダーしたエンドポイントを受領したことを示します。この割り当ては PhoneReceiptDoneBy ルールによって制御されます。



(注) Provisioning 管理者は、これらのアクティビティの割り当て方法を設定できます。

## オーダーの承認

オーダーを承認するには、[承認 (Approval)] 承認権限が割り当てられている必要があります ([承認権限](#)、(192 ページ) を参照)。

オーダーが承認または却下された後で、オーダーが作成された対象のユーザに電子メールが送信されます。電子メールを送信するには、次のビジネスルールを有効にする必要があります（[ビジネスルールの概要](#)、（119 ページ）を参照）。

- EmailSender
- MailHost
- OrderProvisionedEmailTemplate
- OrderRejectedEmailTemplate

ユーザの設定済みの電子メール アカウントに、電子メールが送信されます。



- (注) オーダーが却下された場合は、ユーザレコードでオーダーステータスが[キャンセル (Cancel)] に設定され、プロビジョニングは実行されません。オーダーに問題が生じ、ユーザがエラー処理ワークフロー手順でオーダーの残りを中止することを選択した場合は、そのオーダーステータスが [保留 (Hold)] に設定されます。

## 手順

- 
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [アクティビティ (Activities)] > [マイアクティビティ (My Activities)] を選択します。
- ステップ 2** [マイアクティビティ (My Activities)] ページで処理するオーダーをクリックします。
- ステップ 3** [表示アクティビティ (Viewing Activity)] ページで [承認 (Accept)] をクリックします。表示されている [表示アクティビティ (Viewing Activity)] ページに、[メモの追加 (Add a Note)] フィールドが追加されます。
- (注) オーダーを却下したり、別のユーザまたはグループにオーダーを委任したりすることもできます。アクティビティを委任した場合は、新しいユーザまたはグループにそのアクティビティが割り当てられます。
- ステップ 4** エンドポイントの MAC アドレスを入力して、[手順の完了 (Step Complete)] をクリックします。
- 

## エンドポイントの出荷

Provisioning システムの設定内容によっては、この手順が不要となる場合があります。管理者が出荷を有効にした場合は、この手順を実行するために [出荷 (Shipping)] 承認権限が割り当てられている必要があります（[承認権限](#)、（192 ページ）を参照）。エンドポイントの出荷は、MAC アドレスの割り当てと出荷の 2 部構成になっています。

## 手順

- 
- ステップ 1 [展開 (Deploy) ] > [アクティビティ (Activities) ] > [マイアクティビティ (My Activities) ] を選択します。
  - ステップ 2 [マイアクティビティ (My Activities) ] ページで出荷するオーダーをクリックします。
  - ステップ 3 [表示アクティビティ (Viewing Activity) ] 画面で [承認 (Accept) ] をクリックします。 [表示アクティビティ (Viewing Activity) ] エンドポイントの [割り当て (Assignment) ] ページで、 [MACアドレス (MAC Address) ] フィールドがアクティブになります。
  - ステップ 4 [MACアドレス (MAC Address) ] フィールドに 16 進値を入力します。有効な値は英数字 (A ~ Z, a ~ z, 0 ~ 9) です。値の長さは 12 文字にする必要があります。  
(注) MACアドレスは、エンドポイントのステッカー、およびハンドセットのエンドポイント設定ディスプレイで参照できます。
  - ステップ 5 必要な情報を追加したら、 [手順の完了 (Step Complete) ] をクリックします。
  - ステップ 6 [マイアクティビティ (My Activities) ] ページで [更新 (Refresh) ] アイコンをクリックします。
  - ステップ 7 [マイアクティビティ (My Activities) ] ページに表示されるオーダーをクリックします。
  - ステップ 8 [表示アクティビティ形式 (Viewing Activities Form) ] ページで [承認 (Accept) ] をクリックします。
  - ステップ 9 [手順の完了 (Step Complete) ] をクリックします。オーダーを作成しなかった場合、オーダーは [マイアクティビティ (My Activities) ] ページに表示されなくなります。
- 

エンドポイントを承認するために、 [マイアクティビティ (My Activities) ] ページで必要なオーダーをクリックし、 [承認 (Accept) ] をクリックします。 エンドポイントを承認するには、 [受領 (Receiving) ] 承認権限が割り当てられている必要があります。

## サービスのキャンセル

サービスをキャンセルするには、キャンセル オーダーを発行する必要があります。 サービスをキャンセルすると、その製品に関連付けられているすべてのサービスもキャンセルされます。 関連付けられているサービスのリストについては、 [表 48 : 関連付けられているサービスのリスト](#)、 (274 ページ) を参照してください。



- 
- (注) [シングルナンバーリーチサービス (Single Number Reach Service) ] については、 [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ] サービスをキャンセルしても、 [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] サービスまたは [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] サービスはキャンセルされません。 また、 [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] サービスをキャンセルしても [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ] サービスはキャンセルされません。
-

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy) ]>[ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ]を選択します。
- ステップ 2 対象のユーザをクリックします。[サービス (Services) ]ペインで、キャンセルするサービスの上にマウスのカーソルを合わせます。オプション ボタンが付いた [操作 (Actions) ] リストが表示されます。ここで、選択したサービスに対して操作を実行することができます。
- ステップ 3 [キャンセル (Cancel) ] をクリックし、[オーダーキャンセルフォーム (Order Cancel Form) ] ペインで [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 4 [OK] をクリックして確定し、[完了 (Done) ] をクリックします。  
キャンセルされたオーダーが、[オーダーの表示 (View Orders) ] ペインに完了ステータスで表示されます。

(注) サービスのセクションで、サービス名の横に情報アイコン (i) が表示され、そのサービスに対してオーダーが実行中であることが示されます。オーダーの処理が完了すると、情報アイコンは表示されなくなります。

オーダーの処理が完了すると、キャンセルされたサービスは、サービスの [ユーザレコードの詳細 (User Record Details) ] ペインに表示されなくなります。

表 48: 関連付けられているサービスのリスト

| サービス名                 | 関連付けられているサービス                                                                                                                                                |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ボイスメール (Voicemail) ] | [電子メール (Email) ]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]。                                                                                                       |
| [電子メール (Email) ]      | [ボイスメール (Voicemail) ]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]。<br><br>(注) Cisco Unity Connection では、[電子メール (Email) ] がキャンセルされた場合でも [ボイスメール (Voicemail) ] は残ります。 |
| [回線 (Line) ]          | [電子メール (Email) ]、[ボイスメール (Voicemail) ]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]。                                                                                 |

| サービス名                                         | 関連付けられているサービス                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [エンドポイント (Endpoint) ]                         | [回線 (Line) ]、[電子メール (Email) ]、[ボイスメール (Voicemail) ]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ]。<br><br>(注) [エンドポイント (Endpoint) ]をキャンセルすると、関連付けられている電話番号が Cisco Unified Communications Manager から削除されます。 |
| [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] | [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]。<br><br>(注) [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]をキャンセルすると、関連付けられている電話番号が Cisco Unified Communications Manager から削除されます。      |

## ワークオーダーの状態

ここでは、オーダーが入力された後に遷移する状態について説明します。

ワークオーダーの状態は次のとおりです。

- [初期 (Initial) ]
- [解放 (Released) ]
- [完了 (Completed) ]
- [保留 (Hold) ]

オーダーが発行されると、ワークオーダーが作成されて [初期 (Initial) ] 状態になります。ワークフローの実行が開始されると、オーダーは [解放 (Released) ] 状態に移行します。ワークフローが完了すると、オーダーはすべての手順が成功して [完了 (Complete) ] 状態に移行するか、または手順のいずれかが失敗して [保留 (Hold) ] 状態に移行します。[保留 (Hold) ] 状態に変化するオーダーについては、ワークオーダーの発行元によって、オーダーが失敗したか、この変化が自動的に発生したのかを確認しなければならない場合があります。

ワークオーダーには拡張ステータスフィールドもあります。オーダーが実行中の場合、拡張ステータスは [プロビジョニング中 (Being Provisioned) ] となります。オーダーが失敗すると、拡張ステータスは [回復可能なエラー (Recoverable Error) ] または [回復不可能なエラー (Unrecoverable Error) ] となります。オーダーがユーザの操作を待っている場合、拡張ステータスは特定の待機ステータスに設定されます。待機状態は通常、割り当てのために使用されますが、出荷または受

領時に使用されることもあります。拡張ステータスの変更は、ワークオーダーが変化している状態でも行われます。

ワークオーダーが失敗すると、[解放 (Released)] 状態から [保留 (Hold)] 状態への移行動作は、ワークオーダーを送信する際の次の状態によって異なります。

- Provisioning NBI が [解放 (Released)] 状態から [保留 (Hold)] 状態へ移行します。
- Provisioning ユーザーインターフェイスが [解放 (Released)] 状態のままになり、そのオーダーに対するアクションを待機します。
- バッチプロビジョニングは、拡張ステータスによって異なります。障害が回復可能なエラーである場合、オーダーは [解放 (Released)] 状態のままになり、アクションを待機します。障害が回復不可能なエラーである場合、オーダーは [保留 (Hold)] 状態に移行します。

## 電子メール通知

電子メール通知を使用すると、次のようなクリティカルイベントを表示できるため、通知の管理性が向上します。

- オーダーの承認
- オーダー エラー
- 同期エラー

通知は次の 2 つのレベルで設定できます。

- [ドメイン設定 (Domain Settings)] : ドメインでのオーダーの承認、割り当て、出荷、および受領などのワークフロー イベント。 [ドメイン通知テンプレートの設定](#), (277 ページ) および [ドメイン通知の設定](#), (278 ページ) を参照してください。
- [システム設定 (System Settings)] : オーダーエラーや同期エラーのようなイベントの場合。 [システム通知の設定](#), (280 ページ) を参照してください。



(注) グローバル管理とドメイン管理の権限を持つユーザーのみが通知を設定できます。

システムとドメインの通知設定をテストして、SMTP ホストおよびその他の設定が有効であることを確認できます。 [通知設定のテスト](#), (281 ページ) を参照してください。



(注) プロビジョニング通知オプションは、スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションでのみ使用できます。これらのオプションは、統合アプリケーションでは使用できません。



## ドメイン通知テンプレートの設定

[オーダーの承認 (Order Approvals)]、[割り当ての処理 (Handle Assignment)]、[出荷の処理 (Handle Shipping)]、および[受領の処理 (Handle Receiving)]などのドメイン固有のイベントの通知設定は、ドメインレベルで設定できます。ドメイン通知テンプレートは、システムで作成される新しいドメインに適用される値を設定するために使用できます。また、システム内の既存のすべてのドメインに、テンプレートから値を適用するように選択することもできます。

### 手順

- 
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)] > [ドメイン設定 (Domain Settings)] を選択します。
- ステップ 2** [通知設定-ドメイン設定 (Notification Configuration - Domain Settings)] ページで、必要に応じてドメインテンプレートを変更します。  
[電子メール設定 (Email Settings)] ペインでは、SMTP サーバの詳細と [送信元アドレス (From Address)] の値がシステム設定から継承され、読み取り専用形式で表示されます。これらの設定はドメインテンプレートで変更できません。ただし、特定のドメインについては、これらの設定を上書きできます。
- ステップ 3** 表示される [集計 (Aggregation)] ウィンドウと [エスカレーション (Escalation)] ウィンドウのタイムスロットを設定します。
- ステップ 4** [テスト設定 (Test Settings)] をクリックして、SMTP ホストやその他の詳細が正しく設定されていることを確認します。テスト通知設定を行うには、[通知設定のテスト](#)、(281ページ) を参照してください。
- ステップ 5** [通知イベント (Notification Events)] ペインで、通知を送信する必要があるイベントを選択します。  
(注) [ワークフロー保留アクティビティ (Workflow Pending Activity)] フィールドには、[オーダーの承認 (Order Approvals)]、[割り当ての処理 (Handle Assignment)]、[出荷の処理 (Handle Shipping)]、[受領の処理 (Handle Receiving)] などのイベントが含まれます。
- ステップ 6** [承認通知グループ (Approval Notification Group)]、[割り当て通知グループ (Assignment Notification Group)]、[出荷通知グループ (Shipping Notification Group)]、[受信通知グループ (Receiving Notification Group)] の各ペインで、次のことを行います。
- [外部電子メールアドレス (External email addresses)] : 通知を送信する電子メールアドレスを入力します。
  - [集計ウィンドウ (Aggregation Window)] : イベントが発生するとすぐに、ドメインイベントの通知が集計されるか、または送信されるのかを指定する設定を選択します。値が [未設定 (<Not Set>)] の場合は集計されず、イベントが発生するとすぐに通知が送信されます。その他の値の場合は、イベントの発生後、[集計 (Aggregation)] ウィンドウで設定された時間だけシステムが待機します。待機中に他の関連イベントが発生すると、このようなすべてのイベントの詳細が集計された通知が単一の電子メールに送信されます。

(注) イベントはワークフローイベントタイプに基づきます。承認通知と割り当て通知は別の電子メールに集計されます。

- [エスカレーションウィンドウ (Escalation Window) ]: ワークフローイベントでの非アクティブによって、システム管理者へのエスカレーション電子メールが送信されるかどうかを指定する設定を選択します。値が [未設定 (<Not Set>)] の場合、エスカレーションの電子メールは送信されません。

その他の値は、トリガーされたイベントに対してアクション (例: オーダーの承認) が実行されない場合、指定された時間の経過後に、システム管理者への電子メールの送信をシステムに対してトリガーします。

**ステップ 7** 次のいずれかを実行します。

- 将来作成されるドメインのデフォルト値として設定を保存するには、[ドメインテンプレート のみに適用 (Apply to domain template only) ] をクリックします。
- 既存のドメインに通知設定を適用するには、[すべてのドメインに適用 (Apply to all domains) ] をクリックします。

## ドメイン通知の設定

[オーダーの承認 (Order Approvals) ]、[割り当ての処理 (Handle Assignment) ]、[出荷の処理 (Handle Shipping) ]、および [受領の処理 (Handle Receiving) ] などのドメイン固有のイベントの通知設定は、ドメインレベルで設定できます。このページの設定は、テンプレートの設定後にドメインが作成された場合、またはテンプレートの作成時に [すべてのドメインに適用 (Apply to all domains) ] オプションが選択された場合に、ドメイン通知テンプレートから継承されます。

### 手順

- ステップ 1** [管理 (Administration) ] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management) ] > [ドメイン設定 (Domain Settings) ] を選択します。
- ステップ 2** [通知設定-ドメイン設定 (Notification Configuration - Domain Settings) ] ページで、ドロップダウンリストから目的のドメインを選択します。ページが更新され、選択したドメインに固有の通知設定が表示されます。
- ステップ 3** [電子メール設定 (Email Settings) ] ペインで、次の SMTP サーバの詳細を入力します。
- [メールサーバ名 (Mail Server Name) ]: SMTP サーバのホスト名または IP アドレス (例: mailer.company.com) 。
  - [メールサーバポート (Mail Server Port) ]: SMTP サーバポート。デフォルト以外のポートが使用されている場合のオプション設定です。

- [メールサーバユーザ名 (Mail Server User Name) ] : SMTP サーバアカウントのユーザ名。認証された SMTP サーバが使用される場合にだけ指定します。
- [メールサーバユーザパスワード (Mail Server User Password) ] : SMTP サーバアカウントのパスワード。認証された SMTP サーバが使用される場合にだけ指定します。
- [送信元アドレス (From address) ] : Provisioning 通知内の 「from」 アドレスとして使用する電子メールアドレス (例 : ProvisioningManagerNotification@company.com) 。

**ステップ 4** [テスト設定 (Test Settings) ] をクリックして、SMTP ホストやその他の詳細が正しく設定されていることを確認します。テスト通知設定を行うには、[通知設定のテスト, \(281 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 5** [通知イベント (Notification Events) ] ペインで、通知を送信するイベントを選択します。[ワークフロー保留アクティビティ (Workflow Pending Activity) ] フィールドには、[オーダーの承認 (Order Approvals) ]、[割り当ての処理 (Handle Assignment) ]、[出荷の処理 (Handle Shipping) ]、[受領の処理 (Handle Receiving) ] などのイベントが含まれます。

**ステップ 6** [承認通知グループ (Approval Notification Group) ] ペインで、外部電子メールアドレスの場合に、通知を送信する電子メールアドレスを入力します。承認通知グループは、ドメイン内でオーダーの承認を実行する権限を持つユーザのグループです。ドメインに対してこの権限を持つようにシステム内で設定されたユーザは、[システムユーザ (System Users) ] として表示されます。このようなユーザには常に承認イベントが通知されます。

**ステップ 7** [割り当て通知グループ (Assignment Notification Group) ]、[出荷通知グループ (Shipping Notification Group) ]、および [受信通知グループ (Receiving Notification Group) ] ペインで、外部電子メールアドレスの場合に、通知を送信する電子メールアドレスを入力します。割り当て通知グループは、ドメイン内で電話オーダーの MAC アドレスを割り当てる権限を持つユーザのグループです。ドメインに対してこの権限を持つようにシステム内で設定されたユーザは、[システムユーザ (System Users) ] として表示されます。このようなユーザには常に承認イベントが通知されます。

出荷通知グループは、ドメイン内で出荷アクティビティを実行する権限を持つユーザのグループです。ドメインに対してこの権限を持つようにシステム内で設定されたユーザは、[システムユーザ (System Users) ] として表示されます。このようなユーザには常に出荷イベントが通知されます。

受信通知グループは、ドメイン内で受領アクティビティを実行する権限を持つユーザのグループです。ドメインに対してこの権限を持つようにシステム内で設定されたユーザは、[システムユーザ (System Users) ] として表示されます。このようなユーザには常に受領イベントが通知されます。

**ステップ 8** [保存 (Save) ] をクリックして設定を適用します。

---

割り当て通知グループに送信される通知の集計とエスカレーションの設定は変更することができます。[ドメイン通知テンプレートの設定, \(277 ページ\)](#) を参照してください。

## システム通知の設定

通知設定は、同期エラーやオーダーエラーなどのシステムイベントに対応する通知を管理するために、システム レベルで設定できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** [管理 (Administration) ] > [プロビジョニング通知管理 (Notification Management) ] > [システム設定 (System Settings) ] を選択します。
- ステップ 2** [電子メール設定 (Email Settings) ] ペインで、次の SMTP サーバの詳細を入力します。
- [メールサーバ名 (Mail Server Name) ] : SMTP サーバ名または IP アドレス (例 : mailer.company.com) 。
  - [メールサーバポート (Mail Server Port) ] : SMTP サーバ ポート。 デフォルト ポートが使用される場合、このフィールドはオプションです。
  - [メールサーバユーザ名 (Mail Server User Name) ] : SMTP サーバ アカウントのユーザ名。 認証された SMTP サーバが使用される場合にだけ指定します。
  - [メールサーバユーザパスワード (Mail Server User Password) ] : SMTP サーバ アカウントのパスワード。 認証された SMTP サーバが使用される場合にだけ指定します。
  - [メールサーバユーザパスワードの確認 (Confirm Mail Server User Password) ] : 確認のために SMTP サーバ アカウントのパスワードを再入力します。
  - [送信元アドレス (From address) ] : Provisioning が通知を送信する電子メールアドレス (例 : CUPMNotification@company.com) 。
- ステップ 3** [テスト設定 (Test Settings) ] をクリックして、SMTP ホストやその他の詳細が正しく設定されていることを確認します。 テスト通知設定を行うには、[通知設定のテスト](#)、(281 ページ) を参照してください。
- ステップ 4** [電子メールコンテンツURLパラメータ (Email Content URL Parameters) ] ペインで、次の詳細を入力します。 これらは、電子メールコンテンツに表示される URL を構築するために使用されます。
- [プロトコル (Protocol) ] : Provisioning にアクセスするプロトコル (HTTP または HTTPS) 。
  - [ホスト (Host) ] : Provisioning にアクセスするホスト名または IP アドレス。
  - [ポート (Port) ] : Provisioning にアクセスするために使用されるポート (80 以外のポートが使用される場合にだけ必要) 。
- (注) [電子メールコンテンツURLパラメータ (Email Content URL Parameters) ] ペインのフィールドには、関連情報が自動的に入力されます。
- ステップ 5** [通知イベント (Notification Events) ] ペインで、通知を送信する必要があるイベントを選択します。
- ステップ 6** [通知グループの管理 (Administration Notification Group) ] ペインで、次の詳細を入力します。

- [外部電子メールアドレス (External Email Addresses) ] : 選択したシステム イベントの電子メール通知を送信する、ユーザまたはメーリングリストの電子メール ID。電子メールアドレスがシステム内で指定されている場合は、通知が管理者に送信されます。このリストは、[システムユーザ (System Users) ] フィールドに読み取り専用テキストとして表示されます。
- [集計ウィンドウ (Aggregation Window) ] : イベントが発生するとすぐに、システム イベントの通知が集計されるか、または送信されるのかを指定する設定を選択します。値が [未設定 (<Not Set>)] の場合は集計されず、イベントが発生するとすぐに通知が送信されます。

その他の値の場合は、イベントの発生後、[集計 (Aggregation) ] ウィンドウで設定された時間だけシステムが待機します。待機中に他の関連イベントが発生すると、このようなすべてのイベントの詳細が集計された通知が単一の電子メールに送信されます。

(注) イベントはタイプに基づいて集計されます。同期エラーとオーダー エラーは別の電子メールに集計されます。

**ステップ 7** [保存 (Save) ] をクリックします。

## 通知設定のテスト

システムおよびドメインの通知設定をテストして、SMTP ホストやその他の詳細が正しく設定されていることを確認できます。

通知設定をテストするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを選択します。

- [管理 (Administration) ] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management) ] > [システム設定 (System Settings) ]
- [管理 (Administration) ] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management) ] > [ドメイン設定 (Domain Settings) ]

**ステップ 2** [テスト設定 (Test Settings) ] をクリックし、電子メールアドレスを [テスト電子メールの送信先 (Send Test Email To) ] フィールドに入力します。

**ステップ 3** [テスト電子メールの送信 (Send test email) ] をクリックし、現在の設定を使用して電子メールを送信します。

(注) テストに失敗した場合はエラーメッセージが表示されます。設定で必要な変更を行い、もう一度テストを実行します。ただし、テストに成功しても、設定が自動的に保存されることはありません。必ず [テスト電子メールの設定 (Test Email Settings) ] ペインを閉じ、設定を保存してください。





# 第 12 章

## サーバの保守

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [ログ ファイルの管理, 283 ページ](#)
- [Provisioning のデータ消去の有効化, 287 ページ](#)
- [メンテナンス モード, 289 ページ](#)
- [バックアップと復元の実行, 290 ページ](#)
- [単一マシンの Provisioning データベースのバックアップ, 291 ページ](#)
- [単一マシンの Provisioning データベースの復元, 292 ページ](#)
- [分散データベース用の Provisioning のバックアップ, 293 ページ](#)
- [分散データベース用の Provisioning の復元, 294 ページ](#)
- [Provisioning ユーザ インターフェイスを使用したバックアップのスケジュール, 297 ページ](#)

## ログ ファイルの管理

Provisioning は、Service Enabling Platform (SEP) モジュールのアプリケーション ログ ファイル (sep.log) と、Network Interface and Configuration Engine (NICE) サービスのアプリケーション ログ ファイル (nice.01.log) を記述します。これらのログ ファイルは、/opt/cupm/sep/logs フォルダにあります。

ロギングを無効にすることはできません。ただし、次の作業を実行できます。

- 必要に応じて、ログ レベルを上げ、さらに多くのデータを収集する
- デフォルトのログ レベル ([標準 (NORMAL)]) に戻す

使用可能なログ レベルは次のとおりです。

- [詳細 (DETAIL)] (ほとんどの情報が提供される)

- [低 (LOW) ]
- [標準 (NORMAL) ]
- [高 (HIGH) ]
- [緊急 (EMERGENCY) ]

ログファイルは1時間ごと、またはログの最大サイズ制限に達するとバックアップされます。デフォルトのサイズ制限は20 MBです。ファイルは、`sep.log.date stamp timestamp` の形式で保存されます。



(注) ログファイルは、Provisioning サーバのサイズが5000 MBを超えたとき、またはログフォルダ内のログファイルの数が500を超えたときに削除されます。これらのレベルを変更するには、を参照してください。

## ログレベルの変更

### 手順

- ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムで、`opt/cupm/sep` フォルダに移動します。インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストール先は`/opt/cupm` になります。
- ステップ 2** `dfc.properties` ファイルを開き、`dfc.log.level` プロパティを目的のレベルに変更します。使用可能なログレベルは次のとおりです。
- DETAIL
  - LOW
  - NORMAL
  - HIGH
  - EMERGENCY
- ステップ 3** 変更を保存し、Prime Collaboration Provisioning サービスを再起動します。変更内容は Provisioning を再起動しないと有効になりません。
- a) SSH を使用してサーバにログインします。
  - b) `/opt/cupm` フォルダに移動し、`./cupm-app-service.sh stop` コマンドを実行します。
  - c) 次のコマンドを実行して、サービスが停止しているかどうかを確認します。

```
ps -aef | grep startcupm
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

```
ps -aef | grep nice
```



実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

- d) ポート 46009 (JBoss が使用) が解放されているかどうかを確認します。

```
netstat -a | grep 46009
```

ポートが使用中の場合は、解放されるまで待ちます。

- e) `./cupm-app-service.sh start` を実行し、アプリケーション サービスを開始します。  
サービスが開始するまで待ちます。



(注)

- ログ レベルを永続的に変更するには、`CUPM_INSTALL_DIR/sep/build/bin` (または `/opt/cupm/sep/build/bin`) にある `dfc.properties` ファイルの `dfc.log.level` の値を変更する必要があります。

Prime Collaboration Provisioning のログは `/opt/cupm/sep/logs` に保存されています。

- ログ レベルを一時的に変更するには、次の手順を実行します。

- 1 SSH を使用し、ルートで Prime Collaboration Provisioning サーバにログインします。
- 2 コマンドプロンプトを開いて、スクリプト ディレクトリ `cd CUPM_INSTALL_DIR/sep/ipt/bin` に直接移動します。
- 3 適切なオプションを使用して次のコマンドを実行し、ログ レベルを変更します。

```
./changeloglevel.sh -level loglevel [APPSERVER | NICE | BOTH]
```

APPSERVER、NICE、または BOTH オプションが指定されない場合は、デフォルトのオプション BOTH が使用されます。

ログ レベルは DETAIL、LOW、NORMAL、HIGH、または EMERGENCY のいずれかになります。

## ログファイルの最大サイズの変更

### 手順

- ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムで、`opt/cupm/sep` フォルダに移動します。  
インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストール先は `/opt/cupm` になります。

**ステップ 2** `dfc.properties` ファイルを開き、`dfc.log.maxsize` プロパティを目的のレベルに変更します（デフォルトは 20 Mb）。

**ステップ 3** 変更を保存し、Prime Collaboration Provisioning サービスを再起動します。変更内容は Provisioning を再起動しないと有効になりません。再起動するには、次の手順を実行します。

- a) SSH を使用してサーバにログインします。
- b) `/opt/cupm` フォルダに移動し、`./cupm-app-service.sh stop` コマンドを実行します。
- c) 次のコマンドを実行して、サービスが停止しているかどうかを確認します。

```
ps -aef | grep startcupm
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

```
ps -aef | grep nice
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

- d) ポート 46009（JBoss が使用）が解放されているかどうかを確認します。

```
netstat -a | grep 46009
```

ポートが使用中の場合は、解放されるまで待ちます。

**ステップ 4** 次のコマンドを実行して、アプリケーション サービスを開始します。

```
execute ./cupm-app-service.sh start
```

サービスが開始するまで待ちます。

## ログの消去レベルの変更

### 手順

**ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムで、`/opt/cupm/sep` フォルダに移動します。インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストール先は `/opt/cupm` になります。

**ステップ 2** `ipt.properties` ファイルを開き、次のいずれかまたは両方を実行します。

- ファイルの最大サイズのレベルを変更するには、`dfc.purgelog.maxused_mb` プロパティを適切なレベルに変更します。
- ログファイルの最大数のレベルを変更するには、`dfc.purgelog.maxlogsaved` プロパティを適切なレベルに変更します。

**ステップ 3** 変更を保存し、Prime Collaboration Provisioning サービスを再起動します。変更内容は Provisioning を再起動しないと有効になりません。

- a) SSH を使用してサーバにログインします。

- b) `/opt/cupm` フォルダに移動し、`./cupm-app-service.sh stop` コマンドを実行します。  
c) 次のコマンドを実行して、サービスが停止しているかどうかを確認します。

```
ps -aef | grep startcupm
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

```
ps -aef | grep nice
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

- d) ポート 46009 (JBoss が使用) が解放されているかどうかを確認します。

```
netstat -a | grep 46009
```

ポートが使用中の場合は、解放されるまで待ちます。

- ステップ 4** 次のコマンドを実行して、アプリケーション サービスを開始します。

```
execute ./cupm-app-service.sh start
```

サービスが開始するまで待ちます。

## Provisioning のデータ消去の有効化

スケジュールした間隔でデータを消去するように Provisioning を設定できます。

Provisioning は、次のタイプのデータを保持します。

- **オーダー**：製品のプロビジョニング（エンドポイント、回線、ボイスメール、またはいずれかのバンドルなど）のオーダーが行われると、オーダーデータのオブジェクトが作成され、システムに保存されます。
- **サービスアクション**：製品のプロビジョニング中に、アプリケーションがデバイスと通信すると作成されるオブジェクト。デフォルトでは、サービスアクションデータの消去が有効になっています。
- **タスク**：インフラストラクチャ設定の更新のスケジュール。インフラストラクチャ設定によって、設定をローカルに保存できます。保存された設定はタスクに組み込み、デバイスにプッシュできます。
- **ワークフロー**：製品のオーダーが行われると、ワークフロー（承認、出荷、受領）を通過してから、サービスアクティベータに届きます。
- **監査証跡**：暗証番号/パスワードは変更するたびにリセットされ、次のログオン時に変更されて、Unity または Unity Connection デバイス内のユーザのボイスメールがロック解除され、監査エントリが作成されます。



(注) データは、保持期間または保持数の基準に達すると消去されます。たとえば、データが保持期間より古い場合は削除されます。また、データの合計が保持数を超えると、データは削除されます。

## 手順

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [データメンテナンス (Data Maintenance)] を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの操作については、表 1-1 を参照してください)。
- ステップ 2** 消去をスケジュールするデータの行にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [日単位の保持期間 (Retention Time in Days)] カラムで、データを保持する日数を変更します (デフォルトは 7 日間で、サービスアクションの場合のみ 30 日間)。
- ステップ 4** [保持数 (Retention Count)] カラムで、保持するデータの数を選択します。
- (注) 保持数は、Provisioning で保持して消去しないオブジェクトの数です。たとえば、オーダー総数が 1000 で、保持数が 200 の場合、Provisioning では 800 のオーダーが消去され、最新の 200 オーダーだけが保持されます。
- [保持数 (Retention Count)] のデフォルト設定は次のとおりです。
- [順序 (Orders)] : 最新の 100 オーダー
  - [サービスアクション (ServiceAction)] : 無制限
  - [タスク (Task)] : 50
  - [ワークフロー (Workflow)] : 50
  - [監査証跡 (Audit Trail)] : 50
- ステップ 5** (オプション) 消去されたデータを削除する前にファイルへエクスポートするには、[エクスポート後に消去 (Export Before Purge)] フィールドで [はい (Yes)] を選択し、データの保存先となるディレクトリの場所を入力します。
- エクスポートされるのはオーダー データとワークフロー データだけです。サービスアクション データはエクスポートされません。
- ステップ 6** 消去間隔を選択し (デフォルトは 24 時間)、[更新 (Update)] をクリックします。
- [消去情報 (Purging Information)] ペインに、次にスケジュールされている消去と前回の消去の時期が表示されます。
- プロビジョニング データを消去するには、[管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [データメンテナンス (Data Maintenance)] を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションでは、[管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [データメンテナンス (Data Maintenance)] を選択します)。
- [データメンテナンスの設定 (Data Maintenance Configuration)] ページでデータを設定できます。

# メンテナンスモード

Provisioning をメンテナンスモードにすると、ドメイン、プロセッサ、サービスエリアの削除など、通常モードでは使用できない、ユーザに影響を与える操作を行うことができます。

管理者以外のすべてのユーザは、割り当てられた権限ごとに Provisioning 以外のすべてのページにアクセスできます。Provisioning のリンクは利用可能ですが、ユーザがこれらのページにアクセスしようとする、「アプリケーションは、現在メンテナンスモードです (the application is currently in Maintenance mode)」というメッセージが表示されます。

## 手順

- ステップ 1** [管理 (Administration) ]>[システムのセットアップ (System Setup) ]>[Provisioningのセットアップ (Provisioning Setup) ]>[メンテナンスモード (Maintenance Mode) ]を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの UI 操作については、[Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロン ユーザ インターフェイス](#)、(9 ページ) を参照してください)。  
[アプリケーションモード管理 (Application Mode Management) ]ページが表示され、次のメッセージが表示されます。  
「メンテナンスモードを終了すると、すべてのユーザのアクセスが回復します。プロセッサ(コールプロセッサ、ユニファイドメッセージプロセッサ)、AAAサーバ、ドメイン、サービスエリアの削除操作は実行できなくなります。(Exiting Maintenance mode will restore access to all users. Delete operations on processors (Call Processors, Unified Message Processors), LDAP and ACS Servers, Domains, and Service Areas will no longer be available.)」
- ステップ 2** [メンテナンスモード開始までの遅延時間(分) (Delay Before Maintenance Mode Begins (mins)) ] ドロップダウンリストから遅延時間を選択します。選択可能な遅延時間は 1 ~ 60 分です。ただちに Provisioning をメンテナンスモードにするには、[即時 (Immediately) ]を選択します。
- ステップ 3** [ログインしたユーザに表示するメッセージ (Message to Display to Logged-in Users) ]で、メッセージを入力します。このメッセージはログインしたユーザの画面に表示されます。200 文字まで入力できます。
- ステップ 4** [メンテナンスモードの開始 (Enter Maintenance Mode) ]をクリックし、次に[はい (Yes) ]をクリックして確定します。  
ログインページに警告が表示され、システムの使用は管理権限を持つユーザに制限されることがユーザに通知されます。ドメインの削除など、通常モードでは使用できないメンテナンスオプションが使用可能になります。
- ステップ 5** ドメインの削除などのメンテナンス アクティビティを実行します。
- ステップ 6** メンテナンス アクティビティが完了したら、[メンテナンスモード (Maintenance Mode) ]を選択します。
- ステップ 7** [メンテナンスモードの終了 (Exit Maintenance Mode) ]をクリックします。

ログインページの警告が消え、ユーザは通常通りにログインできるようになります。ドメインの削除などのメンテナンス オプションは、もう使用できません。

Provisioning がメンテナンスモードを開始すると、管理者全員に電子メール通知が送信されます。電子メール通知を送信するには、次の通知イベントを有効にする必要があります。

[システムがメンテナンスモードを開始したときまたは終了したとき(ログインした管理者に電子メールが送信されます) (When system enters or exits Maintenance Mode (email will be sent to the logged in administrators)) ]

通知設定を行うには、[システム通知の設定](#)、(280 ページ) を参照してください。

## バックアップと復元の実行

Prime Collaboration では、データをバックアップして復元することができます。Provisioning の UI を使用して定期バックアップをスケジュールするか、あるいはシステムに管理者ユーザ (CLI ユーザ) としてログインし、手動でバックアップコマンドを実行できます。ただし復元コマンドは、システムに管理者ユーザ (CLI ユーザ) としてログインし、手動で実行する必要があります。

バックアップと復元のシナリオには次の 2 種類があります。使用するシナリオに適した手順を選択してください。

- 単一マシン用のバックアップと復元のシナリオ。同一インストールまたは新規インストールで使用します。このシナリオについては、[単一マシンの Provisioning データベースのバックアップ](#)、(291 ページ) および[単一マシンの Provisioning データベースの復元](#)、(292 ページ) を参照してください。
- 分散データベース用のバックアップと復元のシナリオ。同一インストール、同一 IP アドレスを使用した新規インストール、または新しい IP アドレスを使用した新規インストールで使用します。このシナリオについては、[分散データベース用の Provisioning のバックアップ](#)、(293 ページ) および[分散データベース用の Provisioning の復元](#)、(294 ページ) を参照してください。



(注) ファイルをバックアップする場合は、そのファイルを別のファイル サーバに置く必要があります。また、バックアップ データは CD にも焼き付けてください。

Provisioning では、システムデータをバックアップし、システム全体の障害発生時に別のシステム上で復元することができます。別のシステムからのバックアップを復元する場合は、次の要件を満たす必要があります。

- データの復元先のアプリケーション サーバがバックアップ対象システムと同じ MAC アドレスを持つことを確認します (IP アドレスとホスト名は異なっても可)。

- 元のシステム（バックアップされるシステム）の MAC アドレスを別のシステムに割り当てることのできない場合は、新しいライセンス ファイル（新規 MAC アドレス用）の情報について Cisco TAC にお問い合わせください。
- 異なるシステムでデータのバックアップと復元を行う手順は、同一システムでデータのバックアップと復元を行う手順と同じです。

## 単一マシンの Provisioning データベースのバックアップ

この手順を実行するには、Provisioning データベース（PostgreSQL データベース）に管理者レベルでアクセスする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** SSH を使用してルートでログインします（ポート 22）。
- ステップ 2** `/opt/cucm` フォルダに移動し、次のコマンドを入力します。
- ```
./cupm-app-service.sh stop
```
- ステップ 3** 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを停止します。

```
ps -aef | grep startcupm
ps -aef | grep nice
kill -9 <startcupm process ID>
kill -9 <nice process ID>
```

- ステップ 4** 次のコマンドを使用して、対象のディレクトリに移動します。

```
cd /opt/postgres/9.0/bin
```

- ステップ 5** 次のコマンドを実行します。

```
./pg_dumpall -o -Upmadmin > /<backup_directory_name>/<backup_file_name>
```

値は次のとおりです。

- `pmadmin` : postgres ユーザ ID。
- `backup_directory_name` : バックアップ ファイルを置く場所のディレクトリ名。
- `backup_file_name` : バックアップはこのファイル名で作成されます。

- ステップ 6** バックアップ フォルダで、次のファイルとディレクトリのコピーを作成します。

- `/opt/cupm/sep/dfc.properties`
- `/opt/cupm/sep/ipt.properties`
- `/opt/cupm/sep/dfc.keystore`
- `/opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml`
- `/opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml`

ステップ 7 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

単一マシンの Provisioning データベースの復元

はじめる前に

新規インストールに復元する場合は、この手順を開始する前に、システムを新規インストールで起動して稼働させます。この手順を実行するには、Provisioning データベース（PostgreSQL データベース）に管理者レベルでアクセスできる必要があります。

データベースを新しいシステムに復元する場合は、次のポートが他のアプリケーションで使用されていないことを確認してください。

- dfc.jboss.port=46008
- dfc.postgres.port=5432
- dfc.nice.rmi.registry.internal.port=46001
- dfc.webport=80

ポートが他のアプリケーションで使用されている場合は、対象のポート番号を空いているポートに変更する必要があります。これらの設定は、`/opt/cupm/sep/dfc.properties` ファイルに定義されています。インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストールディレクトリは `/opt/cupm` になります。

手順

ステップ 1 SSH を使用してルートでログインします（ポート 22）。

ステップ 2 `/opt/cuqm` フォルダに移動し、次のコマンドを入力します。

```
./cupm-app-service.sh stop
```

ステップ 3 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを停止します。

```
ps -aef | grep startcupm
ps -aef | grep nice
kill -9 <startcupm process-id>
kill -9 <nice process-id>
```

a) nice プロセスが postgres 接続をまだ保持しているかどうかチェックするには、次のコマンドを入力します：

```
ps -aef
```


- b) 次のプロセスを検索します：`/opt/cupm/jvm/bin/java -server -classpath /opt/cupm/sep/lib/dom.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxbapi.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxb-impl.jar`
プロセスが実行中の場合は、次のコマンドを入力します。

```
kill -9 <Process-Id found earlier>
```

ステップ 4 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、次のバックアップファイル (bak) をコピーします。

ステップ 5 次のコマンドを使用して、対象のディレクトリに移動します。

```
cd /opt/postgres/9.0/bin
```

ステップ 6 次のコマンドを実行します。

```
./CUPM-restore.sh <username> <password> /mnt/<backup_file_name>
```

ここで、**username** は PostgreSQL 管理者のユーザ名です。デフォルトの管理者ユーザ名は **pmadmin** です。パスワードは **globaladmin** に入力したものと同じです。

ステップ 7 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、次のバックアップ ファイルをコピーします。

- /opt/cupm/sep/dfc.properties
- /opt/cupm/sep/ipt.properties
- /opt/cupm/sep/dfc.keystore
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml

ステップ 8 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

分散データベース用の Provisioning のバックアップ

この手順を実行するには、Provisioning データベース (PostgreSQL データベース) に管理者レベルでアクセスできる必要があります。

手順

ステップ 1 SSH を使用してルートでログインします (ポート 22)。

ステップ 2 `/opt/cucm` フォルダに移動し、次のコマンドを入力します。

```
./cupm-app-service.sh stop
```

ステップ 3 Prime Collaboration Provisioning アプリケーションサーバで、次のコマンドを使用して Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを停止します。

```
ps -aef | grep startcupm
ps -aef | grep nice
kill -9 <startcupm process id>
kill -9 <nice process id>
```

ステップ 4 データベース サーバで、次のディレクトリに移動します。

```
cd /opt/postgres/9.0/bin
```

ステップ 5 次のコマンドを実行します。

```
./pg_dumpall -o -Upmadmin /<backup_directory_name>/<backup_file_name>
値は次のとおりです。
```

- `pmadmin` : postgres ユーザ ID。
- `backup_directory_name` : バックアップ ファイルを置く場所のディレクトリ名。
- `backup_file_name` : バックアップはこのファイル名で作成されます。

ステップ 6 バックアップ フォルダで、次のファイルとディレクトリのコピーを作成します。

- `/opt/cupm/sep/dfc.properties`
- `/opt/cupm/sep/ipt.properties`
- `/opt/cupm/sep/dfc.keystore`
- `/opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml`
- `/opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml`

ステップ 7 Prime Collaboration Provisioning アプリケーションサーバで、次のコマンドを使用して Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

分散データベース用の Provisioning の復元

新規インストールに復元する場合は、同一 IP アドレスと新規 IP アドレスのどちらを使用する場合でも、この手順を開始する前にシステムを新規インストールで起動して稼働させます。

この手順を実行するには、Provisioning データベース (PostgreSQL データベース) に管理者レベルでアクセスできる必要があります。

データベースを新しいシステムに復元する場合は、次のポートが他のアプリケーションで使用されていないことを確認してください。

- `dfc.jboss.port=46008`

- dfc.postgres.port=5432
- dfc.nice.rmi.registry.internal.port=46001
- dfc.webport=80

ポートが他のアプリケーションで使用されている場合は、対象のポート番号を空いているポートに変更する必要があります。これらの設定は、`\sep\dfc.properties` ファイルに定義されています（インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストールディレクトリは `/opt/cupm` になります）。

また、次のいずれかの設定でシステム名を変更する必要があります。

- dfc.postgres.host=<system name>（データベースが1つのシステム上にある場合）
- dfc.postgres.hostlist=<system name>（データベースが複数のシステム上にある場合）

データベース サーバのデータベースの復元

手順

-
- ステップ 1** SSH を使用してルートでログインします（ポート 22）。
- ステップ 2** `/opt/cucm` フォルダに移動し、次のコマンドを入力します。
- ```
./cupm-app-service.sh stop
```
- ステップ 3** Prime Collaboration Provisioning アプリケーション サーバで、次のコマンドを使用して Provisioning サービス Apache、JBoss、および NICE を停止します。

```
ps -aef | grep startcupm
ps -aef | grep nice
kill -9 <startcupm process id>
kill -9 <nice process id>
```

- a) nice プロセスが postgres 接続をまだ保持しているかどうかチェックするには、次のコマンドを入力します：

```
ps -aef
```

- b) 次のプロセスを検索します：`/opt/cupm/jvm/bin/java -server -classpath /opt/cupm/sep/lib/dom.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxbapi.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxb-impl.jar`  
プロセスが実行中の場合は、次のコマンドを入力します。

```
kill -9 <Process-Id found earlier>
```

- ステップ 4** 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、バックアップファイル（bak）を `/mnt` フォルダに貼り付けます。

- ステップ 5** 次のディレクトリに移動します。

```
cd /opt/postgres/9.0/bin
```

- ステップ 6** 次のコマンドを実行します。

```
./CUPM-restore.sh <username> <password> /mnt/<backup_file_name>
```

ここで、username は PostgreSQL 管理者のユーザ名です。デフォルトの管理者ユーザ名は `pmadmin` です。パスワードは `globaladmin` に入力したものと同じです。

**ステップ 7** 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、次のバックアップ ファイルをコピーします。

- /opt/cupm/sep/dfc.properties
- /opt/cupm/sep/ipt.properties
- /opt/cupm/sep/dfc.keystore
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml

**ステップ 8** 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

---

アプリケーション サーバのデータベースの復元

#### 手順

---

**ステップ 1** 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、次のバックアップ ファイルをコピーします。

- /opt/cupm/logs/install.log
- /opt/cupm/sep/dfc.properties
- /opt/cupm/sep/ipt.properties
- /opt/cupm/sep/dfc.keystore
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml

**ステップ 2** opt/cupm/sep/dfc.properties のデータベース サーバの IP アドレス (postgres host) を更新します。

**ステップ 3** opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml のデータベース サーバの IP アドレス (postgres host) を更新します。

**ステップ 4** 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

---

# Provisioning ユーザ インターフェイスを使用したバックアップのスケジュール

Provisioning ユーザ インターフェイスを使用して、Provisioning データベースの定期バックアップを作成できます。バックアップを実行するには、管理者としてログインする必要があります。Provisioning データベースのバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1 [管理 (Administration) ] > [システムメンテナンス (System Maintenance) ] > [バックアップ管理 (Backup Management) ] を選択します。
- ステップ 2 [バックアップ管理 (Backup Management) ] ページで [新規 (New) ] をクリックします。
- ステップ 3 [バックアップの新規作成 (Create New Backup) ] ページでバックアップ タイトルを入力します。
- ステップ 4 [バックアップ接続 (Backup Connection) ] ドロップダウン リストから、バックアップ ファイルの保存先として [SFTP]、[FTP] または [ローカル (Local) ] を選択します。
  - a) [SFTP] または [FTP] を選択した場合は、次の詳細を入力します。
    - バックアップ ファイルを保存する必要があるサーバの IP アドレス。
    - バックアップ先までのパスとポートの詳細 (SFTP のみ) 。
    - ユーザ名とパスワード情報。SFTP または FTP パスワードのテストはオプションです。
  - b) [ローカル (Local) ] を選択した場合は、バックアップ ファイルをローカル マシンに保存するロケーションを入力します。
- ステップ 5 ローカルバックアップでは、[バックアップ履歴 (Backup History) ] ドロップダウン リストから、ローカル マシンに保存するバックアップ ファイル数を選択します。デフォルト値は 2 です。デフォルトでは、2 つの最新バックアップ ファイルを保存できます。最大 9 つの最新バックアップ ファイルを保存可能です。
- ステップ 6 スケジュールの詳細を入力して、バックアップをスケジュールします。表示される時刻は、クライアントブラウザの時刻です。新規バックアップ ジョブのデフォルトの繰り返しタイプは [なし (None) ] です。デフォルト設定でバックアップジョブを作成すると、バックアップがただちに開始されます。
- ステップ 7 スケジュールしたバックアップのステータス通知を受信する電子メールアドレスを入力します。複数の電子メールアドレスをカンマで区切って入力できます。
- ステップ 8 [保存 (Save) ] をクリックします。[バックアップ管理 (Backup Management) ] ページの [バックアップ (Backups) ] テーブルに、スケジュールされたバックアップが表示されます。
- ステップ 9 [今すぐ実行 (Run Now) ] をクリックし、ただちにバックアップを実行します。

Prime Collaboration Provisioning は、バックアップ開始前にメンテナンスモードに入ります。すべてのログインユーザに対して、スケジュールされたバックアップの開始 10 分前に、Prime Collaboration Provisioning からログアウトされることを知らせる通知が表示されます。ユーザは、バックアップ開始前に作業を保存してログアウトする必要があります。さもないと、自動的にログアウトされて Prime Collaboration Provisioning にアクセスできなくなります。

バックアップテーブルには、各バックアップジョブのステータスと履歴の情報が表示されます。[次の実行時 (Next Run Time) ] オプションには、次の定期スケジュールの詳細が示されます。

また、[前回の実行ステータス (Last Run Status) ] 列には、前回実行したバックアップジョブのステータスが表示されます。バックアップジョブのステータスは、[スケジュール済み (Scheduled) ]、[処理中 (In Progress) ]、[成功 (Success) ] または [失敗 (Failed) ] です。

バックアップジョブがスケジュールされた時間に達すると、前回の実行ステータスが [スケジュール済み (Scheduled) ] に変更されます。さらに 10 分後にメンテナンスモードに入ると、ステータスは [スケジュール済み (Scheduled) ] から [処理中 (In Progress) ] に変化します。

バックアップジョブが完了すると、ステータスは [成功 (Success) ] または [失敗 (Failed) ] になります。

任意のバックアップジョブの履歴を表示するには、[実行履歴カウント (Run History Count) ] をクリックしてダイアログボックスを開きます。バックアップの開始時刻、終了時刻、ステータス、ファイルサイズを表示できます。また、実行履歴ログを削除できます。バックアップログが削除されてもバックアップ済みファイルは削除されません。

## バックアップジョブの管理

スケジュールされたジョブでは、次の操作を実行できます。

- 編集と削除 : [スケジュール済み (Scheduled) ] と [処理中 (In Progress) ] のステータスでは、[編集 (Edit) ] および [削除 (Delete) ] オプションが無効になります。バックアップのステータスが [スケジュール済み (Scheduled) ] と [処理中 (In Progress) ] の場合は、そのバックアップジョブを編集または削除することはできません。同時に編集できるバックアップジョブは 1 つだけです。
- キャンセル : キャンセルできるのは、ステータスが [スケジュール済み (Scheduled) ] または [処理中 (In Progress) ] の実行中のバックアップジョブだけです。



付録

# A

## プロビジョニング属性

表 49 : プロビジョニング属性の説明, (299 ページ) に、設定可能なすべてのプロビジョニング属性を示します。すべての電話タイプまたはすべての Cisco Unified Communications Manager バージョンに、すべての属性を適用できるとは限りません。Provisioning の設定によっては、一部の属性を使用できない場合があります。

コールプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性, (350 ページ) およびユニファイドメッセージプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性, (420 ページ) は、コールプロセッサとユニファイドメッセージプロセッサの各バージョンで、どの属性を使用できるのかをそれぞれ示したものです。

プレゼンスサーバのサポートされるプロビジョニング属性, (422 ページ) は、プレゼンスプロセッサの属性を示しています。

- [プロビジョニング属性の説明, 299 ページ](#)
- [コールプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性, 350 ページ](#)
- [ユニファイドメッセージプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性, 420 ページ](#)
- [プレゼンスサーバのサポートされるプロビジョニング属性, 422 ページ](#)

## プロビジョニング属性の説明

表 49 : プロビジョニング属性の説明

| 属性                                            | 説明                             |
|-----------------------------------------------|--------------------------------|
| [AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ] | 自動代替ルーティング (AAR) コーリングサーチスペース。 |

|                                                       |                                                                                          |
|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| [AAR接続先マスク (AAR Destination Mask) ]                   | 電話番号に自動代替ルーティング (AAR) の接続先マスクを設定します。                                                     |
| [AARグループ (AAR Group) ]                                | 自動代替ルーティング (AAR) グループ。                                                                   |
| [AARキープコール履歴 (AAR Keep Call History) ]                | 電話番号に自動代替ルーティング (AAR) のキープコール履歴を設定すると、宛先がコール転送履歴に保持されます。                                 |
| [AAR設定 (AAR Settings) ]--[ボイスメールの使用 (Use Voicemail) ] | このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration) ] ウィンドウの設定が使用されます。 |
| [管理ユーザ名 (Admin Username) ]                            | 管理ユーザのユーザ ID。デフォルトは admin です。<br>ユーザ名に apache、daemon、nobody、root、および shutdown は使用できません。  |
| [管理パスワード (Admin Password) ]                           | 管理ユーザのパスワード。                                                                             |



|                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[G.722および iSACコーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codecs) ]</p> | <p>電話アプリケーションが広帯域コーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズするかどうかを指定します。</p> <p>コーデックのネゴシエーションには 2 つのステップがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電話アプリケーションは、サポートされるコーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズします (すべてのエンドポイントが同じコーデックのセットをサポートしているわけではありません)。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager が、コール試行に関連するすべての電話からサポートされるコーデックのリストを取得すると、リージョンペア設定などのさまざまな要因に基づいて一般にサポートされるコーデックが選択されます。</li> </ul> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトを使用 (Use System Default) ] (電話は、[G.722コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 Codec) ] エンタープライズパラメータで指定された設定に従う)</li> <li>• [無効 (Disabled) ] (電話は広帯域コーデックを Cisco Unified CallManager にアドバタイズしない)</li> <li>• [有効 (Enabled) ] (電話は広帯域コーデックを Cisco Unified CallManager にアドバタイズする)</li> </ul> |
| <p>[呼び出し表示 (Alerting Name) ]</p>                                      | <p>回線からコールを発信した際に表示される名前。</p> <p>このプロビジョニング属性を設定するときは、\${FIRSTNAME}、\${LASTNAME}、\${EXTENSION}、および \${USERID} の各キーワードを使用できます。これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[代替ボイス<br/>メール内線番号<br/>(Alternate<br/>Voicemail<br/>Extensions) ]</p>                                   | <p>ボイスメール アカウントの 1 つ以上の代替内線番号。<br/>ボイスメールアカウントのオーダー中に、[詳細オーダー (Advanced Ordering) ] オプションを使用して、このプロビジョニング属性を設定できます ( <a href="#">ユーザのサービスのオーダー</a> , (214 ページ) を参照) 。<br/>[代替ボイスメール内線番号 (Alternate Voicemail Extensions) ] フィールドには、次の文字を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数字 (0 ~ 9)</li> <li>• アスタリスク (*)</li> <li>• ダッシュ (-)</li> <li>• プラス記号 (+)</li> <li>• パーセント (%)</li> <li>• バックスラッシュ (\)</li> <li>• エックス文字 (X)</li> <li>• 疑問符 (?)</li> </ul> |
| <p>[Android Market<br/>からのアプリ<br/>ケーションを許<br/>可 (Allow<br/>Applications<br/>from Android<br/>Market) ]</p> | <p>ユーザが Android Marketplace から Android アプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>[Cisco AppHQか<br/>らのアプリケー<br/>ションを許可<br/>(Allow<br/>Applications<br/>from Cisco<br/>AppHQ) ]</p>        | <p>ユーザが Cisco AppHQ からアプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>[不明な提供元<br/>からのアプリ<br/>ケーションを許<br/>可 (Allow<br/>Applications<br/>from Unknown<br/>Sources) ]</p>        | <p>URL から、あるいは電子メール、インスタントメッセージ (IM) 、またはセキュアデジタル (SD) カード経由で受け取った Android パッケージ (APK) から、ユーザが Android アプリケーションをデバイス上にインストールできるかどうかを制御します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[CTIからのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI) ]</p>   | <p>[はい (True) ] に設定した場合は、CTI でデバイスを制御およびモニタできます。有効な値は [はい (True) ] または [いいえ (False) ] です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides) ]</p>    | <p>EnergyWise ドメイン コントローラ ポリシーで、電力レベルの更新を電話に送信できるかどうかを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>[ユーザ定義 VPN プロファイルの許可 (Allow User-Defined VPN Profiles) ]</p> | <p>AnyConnect VPN クライアントを使用して VPN プロファイルを作成できるかどうかを制御します。無効にすると、ユーザは VPN プロファイルを作成できません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>[代替番号 (Alternate Number) ]</p>                               | <p>プライマリ Phone でコールを受信したとき、Provisioning Manager が呼び出し音を鳴らす代替番号を入力します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>[常にVPN (Always on VPN) ]</p>                                 | <p>常にデバイスが VPN AnyConnect クライアントを起動し、Cisco Unified Communications Manager の設定済みの VPN プロファイルで接続を確立するかどうかを示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line) ]</p>                 | <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オフ (Off) ] : 電話がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。</li> <li>• [オン (On) ] : 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話のユーザは、それらの回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : Provisioning では、[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line) ] サービスパラメータの設定が使用されます。</li> </ul> |

|                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message) ]</p> | <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On) ] : 電話がアイドル状態の場合に電話のメッセージボタンを押すと、電話のプライマリ回線がボイスメッセージを受信するアクティブな回線になります。</li> <li>• [オフ (Off) ] : 電話がアイドル状態の場合、電話のメッセージボタンを押すと、ボイスメッセージが設定されている回線からボイスメッセージシステムに自動的にダイヤルされます。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザが [メッセージ (Messages) ] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : Provisioning では、[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message) ] サービスパラメータの設定が使用されます。</li> </ul> |
| <p>[Android Debug Bridge (ADB) ]</p>                                        | <p>デバイス上で Android Debug Bridge (ADB) を有効または無効にします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[アプリケーションダイヤルルールURL (Application Dial Rules URL) ]</p>                   | <p>アプリケーションのダイヤルルールの URL。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>[AppHQドメイン (AppHQ Domain) ]</p>                                          | <p>Cisco AppHQ のドメイン。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>[市外局番 (Area Code) ]</p>                                                  | <p>サイトの市外局番。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>[ASCII呼び出し表示 (ASCII Alerting Name) ]</p>                                 | <p>回線からコールを発信した際に表示される名前。入力には ASCII 文字で行うことができます。</p> <p>このプロビジョニング属性を設定するときは、<code>#{FIRSTNAME}</code>、<code>#{LASTNAME}</code>、<code>#{EXTENSION}</code>、および <code>#{USERID}</code> の各キーワードを使用できます。これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p>                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[ASCII表示(内部発信者ID) (ASCII Display (Internal Caller ID)) ]</p>             | <p>表示される内部発信者 ID。このフィールドを空欄にしておいた場合は、内線番号が表示されます。入力には ASCII 文字で行うことができます。</p> <p>このプロビジョニング属性を設定するときは、<code>#{FIRSTNAME}</code>、<code>#{LASTNAME}</code>、<code>#{EXTENSION}</code>、および <code>#{USERID}</code> の各キーワードを使用できます。これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p>                                                                                                                                                                                                               |

|                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[ASCII回線テキストラベル<br/>(ASCII Line Text Label) ]</p>   | <p>回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキスト。入力はASCII文字でだけ行うことができます。このプロビジョニング属性を設定するときは、<code>#{FIRSTNAME}</code>、<code>#{LASTNAME}</code>、<code>#{EXTENSION}</code>、および<code>#{USERID}</code>の各キーワードを使用できます。</p> <p>これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p> <p>また、このフィールドにテンプレートを入力して、電話に表示される電話番号の桁を操作することもできます。</p> <p>テンプレートでは、テキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。</p> <p>トランスフォーメーションテンプレートの設定方法については、<a href="#">プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定 (64 ページ)</a> を参照してください。</p> <p>(注) テンプレートではなく標準的なテキストを入力する場合は、このフィールドに30文字まで入力できます。テンプレートを入力する場合の最大文字数は60文字になります。</p> |
| <p>[オーディオプロフィール<br/>(Audio Profile) ]</p>              | <p>ノイズの抑制やエコーなどのオーディオ設定を行います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>[認証サーバURL<br/>(Authentication Server URL) ]</p>     | <p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話で使用される URL。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>[自動応答<br/>(Auto Answer) ]</p>                       | <p>自動応答のオプションを設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>[自動割り込み<br/>(Auto Barge) ]</p>                      | <p>自動割り込みオプションを有効にするか、無効にするのかを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>[自動回線選択<br/>(Auto Line Select) ]</p>                | <p>自動での回線選択を有効にします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>[自動ポート同期<br/>(Automatic Port Synchronization) ]</p> | <p>電話でPCポートおよびSWポートを同じ速度とデュプレックスに同期することを有効にします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|                                                                                |                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[BLFオーディオアラート設定 (電話がアイドルのとき) (BLF Audible Alert Setting (Phone Idle)) ]</p> | <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On) ]: オーディオアラートを鳴らします。</li> <li>• [オフ (Off) ]: オーディオアラートを鳴らしません。</li> <li>• [デフォルト (Default) ]</li> </ul> |
| <p>[BLFオーディオアラート設定 (電話がビジーのとき) (BLF Audible Alert Setting (Phone Busy)) ]</p>  | <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On) ]: オーディオアラートを鳴らします。</li> <li>• [オフ (Off) ]: オーディオアラートを鳴らしません。</li> <li>• [デフォルト (Default) ]</li> </ul> |
| <p>[BLFプレゼンスグループ (BLF Presence Group) ]</p>                                    | <p>この電話番号をモニタできるエンドユーザとアプリケーションユーザを指定するグループ。</p>                                                                                                                                    |
| <p>[Bluetooth]</p>                                                             | <p>Bluetooth デバイスを有効にするか、無効にするのかを指定します。</p>                                                                                                                                         |

|                                                     |  |
|-----------------------------------------------------|--|
| [ビジーランプ<br>フィールド情報<br>(Busy<br>Lampfield<br>Info) ] |  |
|-----------------------------------------------------|--|

デバイスの電話番号または SIP URI のステータスをリアルタイムでモニタするために使用します。これは Cisco Unified Communications Manager の Cisco Unified Presence 機能の一部です。

この属性の設定フィールドを、次のリストで説明します。

- [インデックス (Index) ]: 数字 (1 ~ 199) を入力します。
- [接続先 (Destination) ]: 次のいずれかのタスクを実行して、SIP URI または電話番号をビジー ランプフィールドとして設定します。

- SIP 電話の場合は、SIP URI を入力します。

- SIP または SCCP 電話の場合は、数値、アスタリスク (\*)、ポンド記号 (#) だけを使用して電話番号を入力するか、[電話番号 (Directory Number) ] ドロップダウン リストから番号を選択します。

Cisco Unified Communications Manager 以外の電話番号をビジー ランプフィールドとして設定する場合は、その電話番号を入力します。[接続先 (Destination) ] フィールドを設定する場合は、[電話番号 (Directory Number) ] ドロップダウン リストからオプションを選択しないでください。

このフィールドでは、数字 (0 ~ 9)、アスタリスク (\*)、ハッシュ記号 (#)、およびプラス記号 (+) を使用できます。

- [電話番号 (Directory Number) ]: Cisco Unified Communications Manager データベースに存在する電話番号のリストを表示します。この設定は、[接続先 (Destination) ] フィールドを設定しなかった場合に限り行ってください。

SCCP または SIP 電話の場合は、スピードダイヤル ボタンを使用した際にダイヤルさせる番号を選択します。

このフィールドでは、数字 (0 ~ 9)、アスタリスク (\*)、ハッシュ記号 (#)、およびバックslashとプラス記号 (\+) を使用できます。

- [ラベル (Label) ]: 表示させるテキストを入力します。このフィールドは国際化をサポートしています。電話が国際化をサポートしていない場合、Provisioning では [ラベルASCII (Label ASCII) ] フィールドに入力したテキストが使用されます。

- [ラベルASCII (Label ASCII) ]: ビジー ランプフィールドに表示させるテキストを入力します。[ラベルASCII (Label ASCII) ] フィールドは、[ラベル (Label) ] フィールドに入力したテキストの非国際化バージョンを表します。

[ラベルASCII (Label ASCII) ] フィールドは、Cisco Unified Communications Manager 6.1.3 以降でサポートされています。

- [コールピックアップ (Call Pickup) ]: Cisco Unified IP Phone でビジー ランプフィールド ボタンを電話番号に関連付けます。これによって、Cisco



|                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                              | <p>Unified Communications Manager で、電話番号からコールが受けられるのを待機しているときに、電話ユーザを通知できるようになります。</p> <p>電話番号はビジーランプフィールド電話番号を示し、ビジーランプフィールド電話番号への通話を受ける電話は、ビジーランプフィールドのコールピックアップ発信側を示します。</p> <p>バッチプロビジョニングでビジーランプフィールド情報を指定する場合は、次の形式を使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バッチプロビジョニングで Add、Change Order、UpdatePA を実行する場合 - Index:DirectoryName:Label:LabelAscii:Destination:Call Pickup;</li> <li>デバイスですでにビジーランプフィールド値が設定されている場合は、既存の値がこの形式に置換されます。</li> <li>バッチプロビジョニングで Add および Change Order を実行する場合 - &amp;Index:DirectoryName:Label:LabelAscii:Destination:Call Pickup;</li> </ul> <p>この形式は、ビジーランプフィールドの特定の値を変更し、他の既存のビジーランプフィールド値を保持するために使用されます。</p> |
| [ビジートリガー (Busy Trigger) ]                    | 回線に一度に送られるコールの最大数。コールがこの数を超えると、ビジー信号が発生するか、コール転送に回されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [ビルトインブリッジ (Built In Bridge) ]               | 割り込み機能で、ビルトイン会議ブリッジの有効と無効を切り替えます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [CTI障害時コール転送 (Call Forward on CTI Failure) ] | 周辺のゲートウェイの障害時に指定した接続先へコールを転送するには、このチェックボックスをオンにします。この属性は、[回線 (Line) ]、[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ]、[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]、[共有電話の回線 (Line On a Shared Phone) ] サービスでサポートされます。この属性は、Self-Care ポータルでのみ使用できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [コールピックアップグループ (Call Pickup Group) ]         | ユーザが独自のグループ内で着信コールを受けることを可能にする電話番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)) ]</p>    | <p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内のアイドル中の電話で短い呼び出し音が聞こえるか ([一度鳴らす (Ring Once) ])、または何も聞こえません ([無効 (Disabled) ])。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active)) ]</p> | <p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内の使用中の電話でビープ音のみが聞こえるか、または何も聞こえません ([無効 (Disabled) ])。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>[発信者ID (Caller ID) ]</p>                                                                              | <p>発信者に割り当てられた ID を識別します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[発信者入力キー (Caller Input Keys) ]</p>                                                                    | <p>発信者の入力キーを設定します。有効な属性は次のとおりです。</p> <p>[ロック済み (Locked) ]: [はい (True) ]または[いいえ (False) ]。</p> <p>[操作 (Action) ]: キーの操作を指定します。</p> <p>[内線 (Extension) ]</p> <p>[説明 (Description) ]</p> <p>[コールハンドラ (Call Handler) ]</p> <p>[ディレクトリハンドラ (Directory Handler) ]</p> <p>[インタビューハンドラ (Interview Handler) ]</p> <p>[メールボックスを持つユーザ (User with Mailbox) ]</p> <p>[転送を試す、またはグリーティングを実行 (Attempt Transfer Or Go Greeting) ]</p> <p>[会話 (Conversation) ]</p> <p>内線番号ダイヤリングが許可されるかどうか、および[追加入力待機時間 (Wait for Additional Digits) ]の値を指定できます。</p> |

|                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS) ]</p>    | <p>発呼側トランスフォーメーション用のコーリングサーチスペースを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]</p>                      | <p>コールの終了を試みる際にデバイスが検索できるパーティションを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[不在転送CSSアクティベーションポリシー (Forward All CSS Activation Policy) ]</p> | <p>[設定済みCSSを使用 (With Configured CSS) ] オプションを選択した場合、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration) ] ウィンドウで明示的に設定された不在転送コーリングサーチスペースにより、不在転送のアクティベーションと自動転送が制御されます。不在転送コーリングサーチスペースが [なし (None)] に設定されている場合、CSSは不在転送のために設定されません。パーティションが設定された任意の電話番号への不在転送をアクティブにすることはできません。</p> <p>不在転送コーリングサーチスペースを明示的に設定せずに、電話番号のコーリングサーチスペースとデバイスのコーリングサーチスペースを組み合わせる場合は、[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy) ] で [アクティブなデバイス/回線CSSを使用 (With Activating Device/Line CSS) ] を選択します。</p> |
| <p>[CAPF機能 (CAPF feature) ]</p>                                    | <p>ページの [アプリケーションユーザCAPFプロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration) ] ウィンドウを使用すると、セキュアなアプリケーションユーザにローカルで有効な証明書を発行できます。証明書を発行し、その他のセキュリティ関連のタスクを実行すると、CTI Manager サービスとサーバでアクティブにされたアプリケーションの間で TLS 通信が開かれます。</p> <p>1つのアプリケーションユーザ CAPF プロファイルが、サーバのアプリケーションの1つのインスタンスに対応します。たとえば、クラスタ内の2台のサーバでアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバごとに1つずつ、合計2つのアプリケーションユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。同じサーバで2つの異なるアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバのアプリケーションごとに1つずつ、合計2つのアプリケーションユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。</p>                |
| <p>[CIPプロファイル (CIP Profile) ]</p>                                  | <p>Cisco Unified Communications Manager CIP Web サービスのホスト名を設定します。このホスト名は、Unified Presence Client で電話サービスへのアクセス、認証、およびローカリゼーションに使用できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Ciscoカメラ (Cisco Camera) ]                                                                | カメラが電話に接続されている場合に、カメラ機能が有効かどうかを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [Cisco Discovery Protocol (CDP): PCポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): PC Port) ]        | 管理者は、ドックの PC ポート上で CDP を有効または無効にできます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [Cisco Discovery Protocol (CDP) : スイッチポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): Switch Port) ] | 管理者は、ドックのスイッチ ポート上で CDP を有効または無効にできます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [Cisco Usage and Error Tracking]                                                          | Cisco Usage and Error Tracking システムに送信される使用状況情報のレベルを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [CME回線設定 テンプレート (CME Line Configuration Template) ]                                       | <p>Cisco Unified Communications Manager Express の回線設定モードで実行される Cisco IOS コマンドを入力する、自由形式のテキストフィールド。</p> <p>入力する CLI コマンドはすべて、正しい構文である必要があります。回線設定モードを変更するコマンド (<b>exit</b> など) は使用しないでください。</p> <p>このテンプレートでは、回線設定コマンド (<b>number</b> や <b>description</b> など) は使用しないでください。これらのコマンドでは、回線製品をプロビジョニングする際、Provisioning によって行われた設定が上書きされます。</p>                                              |
| [CME電話設定 テンプレート (CME Phone Configuration Template) ]                                      | <p>Cisco Unified Communications Manager Express の電話設定モードで実行される Cisco IOS コマンドを入力する、自由形式のテキストフィールド。</p> <p>入力する CLI コマンドはすべて、正しい構文である必要があります。回線設定モードを変更するコマンド (<b>exit</b> など) は使用しないでください。</p> <p>このテンプレートでは、電話設定コマンド (<b>mac-address</b>、<b>description</b>、<b>button</b>、<b>type</b>、<b>username</b> など) は使用しないでください。これらのコマンドでは、電話製品をプロビジョニングする際、Provisioning によって行われた設定が上書きされます。</p> |
| [共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ]                                                 | 共通のデバイス設定 (ソフトキー テンプレートやユーザ ロケールなど) 。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                             |                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [共通の電話プロフィール (Common Phone Profile) ]                       | 電話機のパーソナライゼーション、VPN 情報、セキュア シェル情報など、共通の電話プロフィールの設定。                                                           |
| [企業写真ディレクトリ (Company Photo Directory) ]                     | ユーザに関連するイメージのクエリーを実行してイメージを取得する URL を指定します。                                                                   |
| [会議プロフィール (Conferencing Profile) ]                          | プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、およびプロフィールに関連付けられたユーザなど、Cisco MeetingPlace に関する設定を行います。                                    |
| [企業電子メールアドレス (Corporate Email Address) ]                    | 企業の IT 部署の電子メールアドレスを指定します。                                                                                    |
| [国コード (Country Code) ]                                      | サイトの国番号を示します。                                                                                                 |
| [CTIゲートウェイプロフィール (CTI Gateway Profile) ]                    | プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、およびプロフィールに関連付けられたユーザなど、CTI ゲートウェイに関する設定を行います。                                             |
| [CUEユーザ設定テンプレート (CUE User Configuration Template) ]         | Cisco Unity Express の EXEC モードと設定モードの CLI コマンドを入力する、自由形式のテキスト フィールド。設定モードを開始したり終了したりするための、適切な CLI コマンドを格納します。 |
| [CUEボイスメール設定テンプレート (CUE Voicemail Configuration Template) ] | Cisco Unity Express のメールボックス設定モードの CLI コマンドを入力する、自由形式のテキスト フィールド。                                             |

|                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[ディスプレイ非点灯日 (Days Display Not Active) ]</p>                      | <p>デフォルトでディスプレイの電源がオフに設定される日を指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>[デフォルトコールプロトコル (Default Call Protocol) ]</p>                     | <p>デバイスの標準通信プロトコル。デフォルト値は [SIP] です。<br/>                 (注) Cisco Unified Communications Manager に登録する場合は、SIP プロトコルだけがサポートされます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>[Unified CMの接続障害の検出 (Detect Unified CM Connection Failure) ]</p> | <p>電話アプリケーションで Cisco Unified Communications Manager への接続エラーを検出するための感度を指定します。これは、デバイスのバックアップ Cisco Unified Communications Manager/SRST へのフェールオーバーが発生する前に、最初に実行されます。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Normal) ] (標準のシステム レートで発生する Unified CM 接続エラーの検出)。 Unified CM 接続エラーの高速認識のためには、[標準 (Normal) ] を選択します。</li> <li>• [遅延 (Delayed) ] ([標準 (Normal) ] の約 4 分の 1 の速度で発生する Unified CM 接続エラーの検出)。 接続自体で接続を再確立できるようにするためにフェールオーバーを少し遅らせる場合は、[遅延 (Delayed) ] を選択します。</li> </ul> <p>[標準 (Normal) ] と [遅延 (Delayed) ] の接続エラー検出の正確な時間の差は、常に変化する多数の変数に応じて異なります。これは有線イーサネット接続に適用されます。</p> |
| <p>[デバイスの説明 (Device Description) ]</p>                              | <p>デバイスの目的を特定する説明文。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode) ]</p>                       | <p>ローミングデバイスのローミング サーチ スペース、地域、日時グループ、SRST参照先などのロケーション設定を動的に変更します。有効な値は、[オン (On) ]、[オフ (Off) ]、および [デフォルト (Default) ] です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[デバイスプール (Device Pool) ]</p>                                     | <p>デバイスが使用するデバイス プール。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|                                                          |                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [デバイスセキュリティモード (Device Security Mode) ]                  | デバイスと Cisco Unified Communications Manager との間で使用するセキュリティ モード (認証または暗号化)。                                                                                                                          |
| [ディレクトリ URI (Directory URI) ]                            | <p>オーダーされた回線の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。ディレクトリ URI が属するパーティションも入力する必要があります。</p> <p>複数の URI を入力する場合は、[プライマリ (Primary) ] オプション ボタンをクリックして、内線のプライマリ ディレクトリ URI を示します。</p> |
| [ディレクトリ 検索ルールURL (Directory Lookup Rules URL) ]          | ディレクトリ 検索ルール の URL。                                                                                                                                                                                |
| [ディレクトリ URL (Directory URL) ]                            | 電話がディレクトリ 情報を取得するサーバの URL。                                                                                                                                                                         |
| [スピーカフォンの無効化 (Disable SpeakerPhone) ]                    | デバイスのスピーカフォンを無効にします。                                                                                                                                                                               |
| [スピーカフォンとヘッドセットの無効化 (Disable Speakerphone And Headset) ] | デバイスのスピーカフォンおよびヘッドセットを無効にします。                                                                                                                                                                      |
| [USBを無効にする (Disable USB) ]                               | デバイスおよびドックの USB ポートを無効にします。                                                                                                                                                                        |
| [表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID)) ]            | 表示される内部発信者 ID。このフィールドを空欄にしておいた場合は、内線番号が表示されます。                                                                                                                                                     |

|                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ディスプレイ<br>放置時自動消灯<br>(Display Idle<br>Timeout) ]      | ディスプレイがユーザアクティビティによってアクティブになった後に、再び非アクティブになるまでの時間を指定する自由形式のフィールド。このフィールドを空白にした場合は、デバイスのデフォルト値は1時間になります。<br><br>最大値は24時間です。「1:30」と入力すると、1時間30分放置された後にディスプレイがオフになります。非アクティビティタイマーは、ユーザのアクティビティ中、継続的にリセットされます。                                                        |
| [ディスプレイ<br>点灯継続時間<br>(Display On<br>Duration) ]        | プログラミングされたスケジュールによって電源がオンになったときに、ディスプレイがアクティブになるまでの時間を指定します。                                                                                                                                                                                                       |
| [ディスプレイ<br>点灯時刻<br>(Display On<br>Time) ]              | ディスプレイの電源が自動的にオンになる時刻を指定します。                                                                                                                                                                                                                                       |
| [ダイジェスト<br>ユーザ (Digest<br>User) ]                      | ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) の設定に関連付けられるエンドユーザ。 SIP 電話タイプのみがサポートされます。                                                                                                                                                                                                     |
| [着信コール時<br>に点灯 (Display<br>On When<br>Incoming Call) ] | デバイスがスクリーンセーバーモードのときにコールが着信した場合、ディスプレイがアクティブになります。                                                                                                                                                                                                                 |
| [DND着信呼警<br>告 (DND<br>Incoming Call<br>Alert) ]        | [サイレント (Do Not Disturb) ]機能が有効になっている場合に、電話でコールを表示する方法を指定します。有効な値は、[ビープ音のみ (Beep Only) ]、[無効 (Disable) ]、および[フラッシュのみ (Flash Only) ]です。                                                                                                                              |
| [DND オプショ<br>ン (DND<br>Option) ]                       | 着信コールが[サイレント (Do Not Disturb) ]機能によってどのように処理されるのかを指定します。 Cisco Unified Communications Manager 6.0.x でサポートされる有効な値は[呼出音オフ (Ringer Off) ]です。7.0.x では、[呼出音オフ (Ringer Off) ]、[コール拒否 (Call Reject) ]、および[共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting) ]がサポートされます。 |
| [サイレント<br>(Do Not<br>Disturb) ]                        | その電話でサイレントを有効にします。有効な値は[はい (True) ]または[いいえ (False) ]です。                                                                                                                                                                                                            |
| [ドメイン名<br>(Domain<br>Name) ]                           | ドメインの名前です。                                                                                                                                                                                                                                                         |



|                                                                                       |                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [緊急電話番号 (Emergency Numbers) ]                                                         | 緊急番号のカンマ区切りのリストです (例 : 911) 。これらの番号はSoftPhoneではなく、GSM からダイヤルされます。                                                         |
| [オーディオアラートを有効にする (Enable Audible Alert) ]                                             | オーディオ アラート メッセージを有効にします。                                                                                                  |
| [Cisco UCMアプリケーションクライアントを有効にする (Enable Cisco UCM App Client) ]                        | アプリケーションクライアントがデバイス上で動作するかどうかを制御します。アプリケーションクライアントが有効な場合は、Cisco Unified Communications Manager からインストールするアプリケーションを選択できます。 |
| [Cisco Unified Mobile Communicatorを有効にする (Enable Cisco Unified Mobile Communicator) ] | Cisco Unified Mobile Communicator を有効にします。                                                                                |
| [LDAP SSLを有効にする (Enable LDAP SSL) ]                                                   | LDAP への SSL 接続を有効にします。                                                                                                    |
| [LDAPユーザ認証を有効にする (Enable LDAP User Authentication) ]                                  | LDAP トランザクションに対するクライアントユーザ認証を有効にします。                                                                                      |
| [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access) ]                                       | 現在選択されているコールプロセッサの加入者のモバイル ボイス アクセスを有効にします。                                                                               |
| [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ]                                                        | 現在選択されているコールプロセッサの加入者のモビリティ機能を有効にします。                                                                                     |

|                                                                                      |                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| [Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ]                                   | スケジュールに基づいて電話の電源をオフにする日を指定します。                                             |
| [再同期MWIを有効にする (Enable ResyncMWI) ]                                                   | 追加された加入者について、MWI と統合された Cisco Unified Communications Manager との再同期を有効にします。 |
| [Telnetを有効にする (Enable Telnet) ]                                                      | 管理者が電話の Telnet を有効または無効にすることを許可します。                                        |
| [Unified CM IM and Presenceのユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence) ] | [Unified CM IM and Presence] サービスを有効または無効にするために使用します。                      |
| [EnergyWiseドメイン (EnergyWise Domain) ]                                                | 電話が参加している Energywise ドメインを指定します。                                           |
| [EnergyWiseエンドポイントのセキュリティシークレット (EnergyWise Endpoint Security Secret) ]              | Energywise ドメイン内の通信に使用されるパスワードを指定します。                                      |
| [ファクスエラー修正モードのオーバーライド (Fax Error Correction Mode Override) ]                         | ファクス送信のエラー修正モード (ECM) を無効にするかどうかを指定します。                                    |
| [ファクスモード (Fax Mode) ]                                                                | ファクス モード (ファクスパススルーまたは T.38 ファクスリレー) を指定します。                               |

|                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[機能管理ポリシー (Feature Control Policy) ]</p>                           | <p>機能管理ポリシーを使用すると、特定の機能を有効または無効にして、電話に表示される機能およびソフトキーの外観を制御できます。複数の機能管理ポリシーを設定することが可能です。機能管理ポリシーを設定した後で、そのポリシーを個別の電話または電話のグループに関連付ける必要があります。</p> <p>(注) [機能管理ポリシー (Feature Control Policy) ]属性は、Cisco Cius、エクステンションモビリティアクセス、Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および9971でのみサポートされます。</p> |
| <p>[不在転送 (Forward All) ]</p>                                          | <p>すべてのコールを転送します。</p> <p>[不在転送の接続先 (Forward All Destination) ]フィールドでは、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、ハッシュ記号 (#)、および大文字のエックス (X) を使用できます。</p>                                                                                                                                         |
| <p>[不在転送 - コーリングサーチスペース (Forward All - Calling Search Space) ]</p>    | <p>すべてのコーリングサーチスペースをコール転送します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>[話中転送(外部) (Forward Busy External) ]</p>                            | <p>回線が使用中で、ビジートリガーの設定値に達した場合に、コールを転送します。これは外部コール用です。</p>                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[話中転送(内部) (Forward Busy Internal) ]</p>                            | <p>回線が使用中で、ビジートリガーの設定値に達した場合に、コールを転送します。これは内部コール用です。</p>                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[転送呼情報 - 発信者名 (Forwarded Call Information - Caller Name) ]</p>     | <p>コール転送時に、発信者名を表示させます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[転送呼情報 - ダイヤル番号 (Forwarded Call Information - Dialed Number) ]</p> | <p>コール転送時に、リダイレクトされた番号を表示させます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                    |

|                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[転送呼情報 - 転送先番号 (Forwarded Call Information - Redirected Number) ]</p> | <p>コール転送時に、最初にダイヤルされた番号を表示させます。</p>                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[無応答時転送 (外部) (Forward No Answer External) ]</p>                       | <p>応答がなく、設定済みの無応答時の呼び出し時間に達した場合、または宛先が未登録の場合に、コールを転送します。これは外部コール用です。</p>                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[無応答時転送 (内部) (Forward No Answer Internal) ]</p>                       | <p>応答がなく、設定済みの無応答時の呼び出し時間に達した場合、または宛先が未登録の場合に、コールを転送します。これは内部コール用です。</p>                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[カバレッジなし時転送(外部) (Forward No Coverage External) ]</p>                  | <p>カバレッジが使い切られたかタイムアウトし、カバレッジの関連付けられているハントパイロットで最終転送用の [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences) ] が指定されている場合に、コールを転送します。これは外部コール用です。</p>                                                                                                                                        |
| <p>[カバレッジなし時転送(内部) (Forward No Coverage Internal) ]</p>                  | <p>カバレッジが使い切られたかタイムアウトし、カバレッジの関連付けられているハントパイロットで最終転送用の [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences) ] が指定されている場合に、コールを転送します。これは内部コール用です。</p>                                                                                                                                        |
| <p>[CTI障害時ボイスメール転送 (Forward on CTI Failure Voice Mail) ]</p>             | <p>[CTI障害時転送 (Forward on CTI Failure) ] フィールドは、CTI ルートポイントおよび CTI ポートにのみ適用されます。この行の設定は、CTI ルートポイントまたは CTI ポートが失敗した場合に、この CTI ルートポイントまたは CTI ポートへの外部コールの自動転送をどのように扱うのかを指定します。<br/>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration) ] ウィンドウの設定が使用されます。</p> |
| <p>[CTI障害時転送の接続先 (Forward on CTI Failure Destination) ]</p>              | <p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが自動転送される電話番号またはディレクトリ URI を指定します。</p>                                                                                                                                                                                         |

|                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[CTI障害時転送のコーリングサーチスペース (Forward on CTI Failure Calling Search Space) ]</p> | <p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。<br/>内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] 設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに自動転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] で、別の設定値を選択する必要があります。</p> |
| <p>[未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External) ]</p>                          | <p>一時的に登録解除された宛先へのコールを再ルーティングします。これは外部コール用です。</p>                                                                                                                                                                                          |
| <p>[未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal) ]</p>                          | <p>一時的に登録解除された宛先へのコールを再ルーティングします。これは内部コール用です。</p>                                                                                                                                                                                          |
| <p>[転送の遅延 (Forwarding Delay) ]</p>                                            | <p>電話機がアクティブになった際、内部スイッチが電話機の PC ポートとスイッチポート間のパケットの転送を開始するかどうかを示します。</p>                                                                                                                                                                   |
| <p>[位置情報 (GeoLocation) ]</p>                                                  | <p>地理的ロケーションフィルタおよび論理パーティションポリシーで使用する、地理的ロケーションを指定します。</p>                                                                                                                                                                                 |
| <p>[Gratuitous ARP]</p>                                                       | <p>デバイスがネットワーク上にその存在を公表するために使用する、ARPパケットの受信を無効にします。</p>                                                                                                                                                                                    |
| <p>[保留復帰の呼び出し時間(秒) (Hold Reversion Ring Duration (seconds)) ]</p>             | <p>0～1200の数値（両端の値も含む）を入力して、保留している電話に戻されるコールのアラートを送信するまでの待機時間（秒単位）を指定します。</p>                                                                                                                                                               |
| <p>[保留復帰の通知間隔(秒) (Hold Reversion Notification Interval (seconds)) ]</p>       | <p>0～1200の数値（両端の値も含む）を入力して、保留している電話にリマインダアラートを送信する間隔（秒）を指定します。</p>                                                                                                                                                                         |

|                                                              |                                                                     |
|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| [ホームクラス<br>タ (Home<br>Cluster) ]                             | このクラスタがエンド ユーザに対してホーム クラスタであるかどうかを示し<br>ます。                         |
| [フックフラッ<br>シュタイマー<br>(Hookflash<br>Timer) ]                  | 上限検証タイマーを指定します。                                                     |
| [アイドルタイ<br>マー (Idle<br>Timer) ]                              | [アイドルURL (Idle URL) ] オプションで指定した URL が表示されるまでの時<br>間の長さ (秒単位)。      |
| [アイドルURL<br>(Idle URL) ]                                     | アイドル URL のタイマーで指定した時間だけ電話が使用されなかった場合、<br>電話に表示される URL。              |
| [表示インジ<br>ケータを無視<br>(Ignore<br>Presentation<br>Indicators) ] | コールごとのコール表示制限の設定に使用します。有効な値は [はい (True) ]<br>または [いいえ (False) ] です。 |
| [情報URL<br>(Information<br>URL) ]                             | 電話に表示されるヘルプ テキストの URL。                                              |
| [サイト間アク<br>セスコード<br>(Inter Site<br>Access Code) ]            | クラスタールーティングのためのサイト間アクセス コードを指定します。                                  |
| [国際ダイヤル<br>桁数<br>(International<br>Dialing Digits) ]         | 国際アクセスのためにダイヤルする番号を指定します。                                           |
| [IVRパスワード<br>(IVR<br>Password) ]                             | IVR のパスワードです。                                                       |
| [回線をまたい<br>で参加 (Join<br>Across Lines) ]                      | このオプションが有効になっている場合、ユーザは電話に表示されるさまざま<br>な回線間のコールに参加できます。             |

|                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [参加および直接転送ポリシー (Join And Direct Transfer Policy) ] | 同じ回線および異なる回線での参加と、直接転送ポリシーを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [LDAPフィールドマッピング (LDAP Field Mappings) ]            | フィールドのマッピングのセミコロンで区切られたリスト。指定されていないフィールドはデフォルトを使用します。                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [LDAPの写真のロケーション (LDAP Photo Location) ]            | LDAPディレクトリ内の写真のロケーションを示す文字列。これはLDAPフィールドまたは URL です。                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [LDAPプロフィール (LDAP Profile) ]                       | LDAP のディレクトリ情報、検索コンテキスト情報、サーバ情報、およびプロフィールに関連付けられたユーザを設定します。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [LDAP検索ベース (LDAP Search Base) ]                    | LDAP 検索のための検索ベース。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [LDAPサーバ (LDAP Server) ]                           | LDAP サーバ名または IP アドレスとポート (例 : ldap.company.com:389) 。ポートが指定されない場合、アプリケーションはバックエンドディレクトリサービスに最適なポートを選択します。                                                                                                                                                                                                          |
| [レガシーメールボックス (Legacy Mailbox) ]                    | <p>Octel アナログ ネットワークのノード上の Cisco Unity 加入者を特定するために使用される番号。</p> <p>また、このフィールドにテンプレートを入力して、表示される番号の桁を操作することもできます。</p> <p>テンプレートでは、テキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。</p> <p>トランスフォーメーションテンプレートの設定方法については、<a href="#">プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定 (64 ページ)</a> を参照してください。</p> |
| [回線グループ (Line Groups) ]                            | 電話番号の選択順序を指定するために使用します。 Cisco Unified Communications Manager では、着信コールは回線グループ内のアイドル状態または待機中のメンバーに分配されます。                                                                                                                                                                                                            |

|                                                                                                                                                            |                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| [LLDPアセット ID (LLDP Asset ID) ]                                                                                                                             | 管理者はリンク層検出プロトコル (LLDP) のアセット ID を設定できます。                |
| [Link Layer Discovery Protocol (LLDP): PCポート (Link Layer Discovery Protocol (LLDP): PC Port) ]                                                             | 管理者は、ドックのPCポート上でリンク層検出プロトコル (LLDP) を有効または無効にできます。       |
| [Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED): PCポート (Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED): PC Port) ] | 管理者は、ドックのPCポート上でリンク層検出プロトコル (LLDP-MED) を有効または無効にできます。   |
| [(LLDP-MED): スイッチポート ((LLDP-MED): Switch Port) ]                                                                                                           | 管理者は、ドックのスイッチポート上でリンク層検出プロトコル (LLDP-MED) を有効または無効にできます。 |
| [LLDP電源優先度 (LLDP Power Priority) ]                                                                                                                         | 管理者は、リンク層検出プロトコル (LLDP) 用の電源優先度を設定できます。                 |



|                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[回線テキストラベル (Line Text Label) ]</p> | <p>このフィールドは、回線に電話番号を表示させない場合にだけ使用します。回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。このプロビジョニング属性を設定するときは、<code>{FIRSTNAME}</code>、<code>{LASTNAME}</code>、<code>{EXTENSION}</code>、および <code>{USERID}</code> の各キーワードを使用できます。これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p> <p>また、このフィールドにテンプレートを入力して、電話に表示される電話番号の桁を操作することもできます。テンプレートでは、テキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。</p> <p>トランスフォーメーションテンプレートの設定方法については、<a href="#">プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定</a>、(64 ページ) を参照してください。</p> <p>(注) テンプレートではなく標準的なテキストを入力する場合は、このフィールドに 30 文字まで入力できます。テンプレートを入力する場合の最大文字数は 60 文字になります。</p> |
| <p>[ローカル番号 (Local Number) ]</p>       | <p>デバイスの加入者番号を示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>[ロケーション (Location) ]</p>           | <p>使用するロケーション。このロケーションとの中のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>[デバイスのロック (Lock Device) ]</p>      | <p>このパラメータでは、管理者がデバイスをロックして、不正なユーザアクセスを防ぐことができます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>[ロードサーバ (Load Server) ]</p>        | <p>デバイスが、定義されている TFTP サーバではなく、代替サーバを使用して、ファームウェアロードとアップグレードを取得することを示します。このオプションでは、ファームウェアのアップグレードに使用されるローカルサーバを指定して、特に WAN を介したアップグレードの場合に、インストール回数を減らすことができます。サーバのホスト名または IP アドレスを入力します (標準の IP アドレス形式を使用します)。指定されるサーバは TFTP サービスを実行している必要があり、TFTP パスにロードファイルが必要です。ロードファイルが見つからない場合、ロードがインストールされません。デバイスは TFTP サーバにリダイレクトされません。このフィールドが空白のままの場合、デバイスは指定された TFTP サーバを使用してロードファイルおよびアップグレードを取得します。</p>                                                                                                                                                                                                               |
| <p>[ログサーバ (Log Server) ]</p>          | <p>ログメッセージの送信先となるリモートシステムの IP アドレスとポートを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                           |                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group) ]                  | 電話が現在ハントリスト (グループ) にログインしていることを示します。有効な値は、[オン (On) ]および[オフ (Off) ]です。                                                                                                                                                               |
| [ログ表示 (Logging Display) ]                                 | 許可されるコンソールへのログのタイプを指定します。                                                                                                                                                                                                           |
| [最大デスクピックアップ待機時間 (Max Desk Pickup Wait Time) ]            | デスクの応答までの最大待機時間。                                                                                                                                                                                                                    |
| [最大ファクス速度 (Maximum Fax Rate) ]                            | ネゴシエートする最大ファクスレートを指定します。このパラメータは、Cisco ファクスリレーを使用するファクス送信だけに適用されます。                                                                                                                                                                 |
| [コール最大数 (Maximum Number of Calls) ]                       | 回線に送られるコールの最大数を決定します。                                                                                                                                                                                                               |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]            | 使用するメディアリソースグループリスト。これを使用しない場合、電話はデバイスプールで指定された電話にデフォルト設定されます。メディアリソースグループリストは、優先順位順に並べられたメディアリソースグループから構成されます。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]で定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースから必要なメディアリソース (保留音サーバなど) を選択します。 |
| [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] | SIP 電話のコールに必要です。有効な値は [はい (True) ] または [いいえ (False) ] です。                                                                                                                                                                           |
| [メッセージランプ待機ポリシー (Message Lamp Waiting Policy) ]           | ハンドセットのランプ点灯ポリシーを設定します。                                                                                                                                                                                                             |

|                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [メッセージ (Messages) ]                               | メッセージ URL を設定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [MLPPコーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space) ]   | 代替パーティターゲット (宛先) の番号に関連付けるコーリングサーチスペースです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]                         | このデバイスに関連付けられた Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメイン。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [MLPP通知 (MLPP Indication) ]                       | <p>優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールを発信する際にその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>このプロビジョニング属性は、一部の Cisco IP Phone では設定解除できません。SIP 電話の場合は、この属性の設定を変更できません。</p> <p>影響を受ける Cisco IP Phone は、7905、7906、7911、7912、7940、7941、7941 G-GE、7942、7945、7960、7961、7961 G-GE、7962、7965、7970、7971、および 7975 です。</p> <p>[エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ]をオーダーする際は、どの電話ボタンテンプレートのプロビジョニング属性も設定解除できません。</p>                       |
| [MLPP無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration) ] | 代替パーティの無応答時の呼び出し時間の長さ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [MLPPプリエンプレプション (MLPP Preemption) ]               | <p>デバイスプール内の、進行中のコールのプリエンプレプション機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを発信するときその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>このプロビジョニング属性は、一部の Cisco IP Phone では設定解除できません。SIP 電話の場合は、この属性の設定を変更できません。</p> <p>影響を受ける Cisco IP Phone は、7905、7906、7911、7912、7940、7941、7941 G-GE、7942、7945、7960、7961、7961 G-GE、7962、7965、7970、7971、および 7975 です。</p> <p>[エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ]をオーダーする際は、どの電話ボタンテンプレートのプロビジョニング属性も設定解除できません。</p> |

|                                    |                                                                                                                       |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MLPPターゲット (MLPP Target) ]         | 代替パーティの無応答ターゲット。                                                                                                      |
| [モビリティユーザID (Mobility User ID) ]   | Nokia S60 または iPhone に関連付けられたユーザのユーザ ID を決定します。                                                                       |
| [モジュール1 (Module 1) ]               | デバイスで使用する展開モジュール。<br>電話を追加または変更するときは、サポートされる展開モジュール（電話がサポートしているモジュール）を選択する必要があります。サポートされていない展開モジュールを選択すると、オーダーは失敗します。 |
| [モジュール1ロード名 (Module 1 Load Name) ] | 展開モジュール 1 のロード名。                                                                                                      |
| [モジュール2 (Module 2) ]               | デバイスで使用する展開モジュール。<br>電話を追加または変更するときは、サポートされる展開モジュール（電話がサポートしているモジュール）を選択する必要があります。サポートされていない展開モジュールを選択すると、オーダーは失敗します。 |
| [モジュール3 (Module 3) ]               | デバイスで使用する展開モジュール。<br>電話を追加または変更するときは、サポートされる展開モジュール（電話がサポートしているモジュール）を選択する必要があります。サポートされていない展開モジュールを選択すると、オーダーは失敗します。 |
| [モジュール2ロード名 (Module 2 Load Name) ] | 展開モジュール 2 のロード名。                                                                                                      |
| [モジュール3ロード名 (Module 3 Load Name) ] | 展開モジュール 3 のロード名。                                                                                                      |

|                                                                     |                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[モニタリング用コーリングサーチスペース<br/>(Monitoring Calling Search Space) ]</p> | <p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>スーパーバイザの回線表示ウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> |
| <p>[ソフトキー表示タイマー<br/>(more Soft Key Timer) ]</p>                     | <p>その他のソフトキーが押されると、表示されるソフトキーが初期設定に戻ります。</p>                                                                                                                                       |
| <p>[MSISDN]</p>                                                     | <p>Mobile Station Integrated Services Digital Network (MSISDN) 番号を指定します。この属性は、Cisco Cius および Cisco Jabber for Tablet でのみサポートされます。</p>                                              |
| <p>[国内ダイヤル桁数 (National Dialing Digits) ]</p>                        | <p>国内アクセスのためにダイヤルする番号を指定します。</p>                                                                                                                                                   |
| <p>[ネットワーク保留音源<br/>(Network Hold Audio Source) ]</p>                | <p>ネットワークが保留操作を開始したときに再生される音源。</p>                                                                                                                                                 |
| <p>[ネットワークロケール<br/>(Network Locale) ]</p>                           | <p>電話のユーザに関連付けられたネットワークロケーション。ネットワークロケーションによって、特定のロケーションにある電話をサポートする一連の詳細情報が識別されます。これには、電話で使用されるトーンやリズムの定義などが含まれます。</p>                                                            |
| <p>[オフネットアクセスコード<br/>(Off-Net Access Code) ]</p>                    | <p>サイトのオフネットアクセスコードを示します。</p>                                                                                                                                                      |

|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[オーナーのユーザID<br/>(Owner User ID) ]</p>                                                         | <p>電話に関連付けられたユーザのユーザIDを決定します。ユーザIDは、その電話から発信されるすべてのコールについて、コール詳細レコードに記録されます。この属性はディレクトリ検索に使用して、ディレクトリURLをサポートすることができます。</p> <p>このプロビジョニング属性を設定するときは、<code> \${USERID}</code> キーワードを使用できます。このキーワードはユーザのIDに置き換えられます。</p> <p>Unified CM 9.0 以上では、エクステンションモビリティサポートフラグを有効にした後でもユーザIDを更新できます。</p> <p>Unified CM 9.0 以上の [電話の変更 (Change Phone) ] および [オーナーの変更 (Change Owner) ] 操作中、[オーナーのユーザID (Owner User ID) ] は自動的に更新されます。</p> <p>(注) Unified CM 9.0 以上では、電話のプロビジョニング中に値を指定しない場合でもオーナーのユーザIDが更新されます。疑似ユーザのこの属性は、自動的に [なし (None) ] に設定されます。</p> |
| <p>[パケットキャプチャ時間<br/>(Packet Capture Duration) ]</p>                                              | <p>パケットキャプチャの1つのセッションに割り当てられた最大時間 (分単位)。デフォルト設定は0で、範囲は0 ~ 300分です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[パケットキャプチャモード<br/>(Packet Capture Mode) ]</p>                                                 | <p>このオプションは、暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合に設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>[パークモニタリング転送非取得時の接続先(外部)<br/>(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External) ]</p> | <p>パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [パークモニタリング転送非取得時の接続先(外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External) ] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。 [パークモニタリング転送非取得時の接続先(外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External) ] フィールドの値が空欄の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>[パークモニタリング転送非取得時の接続先(内部)<br/>(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal) ]</p> | <p>パークされている側が内部の場合、パークしたユーザの [パークモニタリング転送非取得時の接続先(内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal) ] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。 [パークモニタリング転送非取得時の接続先(内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal) ] フィールドの値が空欄の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer) ] | このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話の [パーク (Park) ] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。デフォルトは 60 秒です。                                                                                                                                                                                                             |
| [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone) ]                   | ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default) ] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone) ] サービス パラメータに設定された値を使用します。</li> <li>• [オン (On) ] : 基本コールがマルチパーティコールに変わったときに電話でトーンが再生されます。制御デバイス、つまりマルチパーティコールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [オン (On) ] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。</li> <li>• [オフ (Off) ] : 基本コールがマルチパーティコールに変わっても、電話でトーンは再生されません。</li> </ul> |
| [PCポート (PC Port) ]                                   | 電話の PC ポートが有効であるか、無効であることを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [PCポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration) ]       | ドッキングされているときのデバイスの PC ポートの速度とデュプレックスのリモート設定を許可します。これは、デバイス上での手動設定よりも優先されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [PCの音声 VLANへのアクセス (PC Voice VLAN Access) ]           | 電話の PC ポートに接続されたデバイスから音声 VLAN へのアクセスを許可するかどうかを指定します。このオプションを [いいえ (No) ] (無効) に設定すると、接続された PC で音声 VLAN のデータを送受信することができなくなります。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [ピアファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing) ]               | サブネット内の 1 台のデバイスがイメージファームウェアファイルを取得し、それを各ピアに配布できるようにするためのピアツーピアイメージ配信を有効または無効にします。これによって TFTP 帯域幅が減少し、ファームウェアのアップグレード時間が短縮されます。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [電話ロード名 (Phone Load Name) ]                          | Cisco IP Phone のカスタム ソフトウェアです。値は現在のモデルのデフォルト値を上書きします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [電話オフのアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout) ]          | デバイスがアイドル状態になっている必要がある分数を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ]</p>                                 | <p>[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ]フィールドで選択された日数だけ電話の電源が自動的にオフになるのはいつかを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                |
| <p>[電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ]</p>                                  | <p>[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ]フィールドで選択された日数だけ電話機の電源が自動的にオンになるのはいつかを指定します。</p>                                                                                                                                                                                               |
| <p>[IP Communicatorのポート範囲 (Port Ranges for IP Communicator) ]</p>     | <p>IP Communicator のポート範囲。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>[電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ]</p>                              | <p>管理者は、電力ネゴシエーションを有効または無効にできます。[電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ]機能は、この機能をサポートしているスイッチにドックが接続されると有効になります。</p> <p>スイッチがこの機能をサポートしていない場合、PoE を介してアクセサリの電源をオンにする前に、[電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ]を無効にする必要があります。[電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ]機能が無効の場合、ドックはアクセサリの電源を最大 12.9 W まで上げることができます。</p> |
| <p>[プレゼンスおよびチャットサーバ(プライマリ) (Presence and Chat Server (Primary)) ]</p> | <p>プライマリ プレゼンスとチャットのサーバのホスト名または IP アドレス。</p>                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[プレゼンスおよびチャットサーバタイプ (Presence and Chat Server Type) ]</p>          | <p>プレゼンスとチャットのサーバのタイプ。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                        |



|                                                                                          |                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[プレゼンスとチャットのシングルサインオン (SSO)ドメイン (Presence and Chat Single Sign-On (SSO) Domain) ]</p> | <p>プレゼンスとチャットのサーバのシングルサインオンを有効または無効にします。</p>                                                                                                                      |
| <p>[プレゼンスグループ (Presence Group) ]</p>                                                     | <p>この電話番号をモニタできるエンドユーザおよびアプリケーションユーザを指定します。</p>                                                                                                                   |
| <p>[プレゼンスステータス (Presence Status) ]</p>                                                   | <p>スピードダイヤル番号とコールリストのエントリにプレゼンス情報が表示されるかどうかを示します。</p>                                                                                                             |
| <p>[プリセット Wi-Fiネットワーク (Preset Wi-fi Networks) ]</p>                                      | <p>クライアントが自動的に登録を試行する、プリセットされた Wi-Fi ネットワークのカンマ区切りのリスト。</p>                                                                                                       |
| <p>[プライバシー (Privacy) ]</p>                                                               | <p>同じ回線を共有する電話を持つユーザが、コールのステータスを表示したりコールを中断したりできるかどうかを指定します。</p>                                                                                                  |
| <p>[プライマリデバイス (Primary Device) ]</p>                                                     | <p>Cisco Unified Mobile Communicator がセカンダリ デバイスである場合に、[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで Cisco Unified Mobile Communicator を設定できるようにします。</p>                  |
| <p>[プライマリ電話 (Primary Phone) ]</p>                                                        | <p>アプリケーションに関連付けられている物理的な電話です。この属性は、Cisco IP Communicator、Cisco Jabber for Desktop、Cisco Unified Personal Communicator、および Cisco Jabber for iPhone でのみ使用できます。</p> |
| <p>[プロキシサーバURL (Proxy Server URL) ]</p>                                                  | <p>電話の HTTP クライアントからローカル以外のホストアドレスに対するアクセスの HTTP 要求をプロキシするために使用する URL。</p>                                                                                        |
| <p>[品質改善サーバ (Quality Improvement Server) ]</p>                                           | <p>デバイスから品質向上レポートを収集するリモートシステムのホスト名または IP アドレスを指定します。</p>                                                                                                         |

|                                                       |                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[録音メディアソース (Recording Media Source) ]</p>          | <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Gateway Preferred (ゲートウェイ優先) ]: 録音に対応するゲートウェイ経由でコールがルーティングされるときに、録音メディアソースとして音声ゲートウェイが選択されます。</li> <li>• [Phone Preferred (電話優先) ]: 録音メディアソースとして電話が選択されます。</li> </ul> |
| <p>[録音トーン (Recording Tone) ]</p>                      | <p>電話で録音トーンが有効か無効かを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[録音トーンの長さ (Recording Tone Duration) ]</p>          | <p>録音トーンがオーディオストリームに挿入される時間をミリ秒単位で指定します。</p>                                                                                                                                                                                               |
| <p>[録音トーンのローカル音量 (Recording Tone Local Volume) ]</p>  | <p>ローカル側で再生される録音トーンのボリュームを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[録音トーンのリモート音量 (Recording Tone Remote Volume) ]</p> | <p>リモート側で再生される録音トーンのボリュームを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[非通知着信拒否 (Reject Anonymous Calls) ]</p>            | <p>非通知コールを拒否する場合は、このボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit) ]</p>       | <p>現在選択されているコールプロセッサの加入者用の、リモート宛先の最大数。</p>                                                                                                                                                                                                 |
| <p>[リモートノードID (Remote Node ID) ]</p>                  | <p>Cisco Unity の加入者が関連付けられる、Octel アナログ ネットワークのノードのシリアル番号。</p>                                                                                                                                                                              |

|                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[再ルーティングCSS<br/>(Rerouting CSS) ]</p>                     | <p>再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペース。 値の例は、CSSName です。</p>                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[ビデオコールをオーディオとして再試行<br/>(Retry Video Call as Audio) ]</p> | <p>コールを受信するビデオ エンドポイントにだけ適用されます。 この電話が、ビデオとして接続しないコールを受信した場合、そのコールはオーディオコールとしての接続を試みます。</p>                                                                                                                                                                                               |
| <p>[DTMF受信が必要 (Require DTMF Reception) ]</p>                 | <p>SIP と SCCP を実行している電話で DTMF 受信を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[スクリーンロック必須 (Require Screen Lock) ]</p>                   | <p>デバイス上で画面ロックが必要かどうかを示します。 [なし (None) ]が選択された場合、デバイスは暗証番号またはパスワードの入力を求めません。 [暗証番号 (PIN) ]または[パスワード (Password) ]のオプションでは、画面のロックを解除するためのパスワードを入力する必要があります。 [暗証番号 (PIN) ]は数字のパスワードで、少なくとも 4 桁の長さが必要です。 [パスワード (Password) ]はアルファベットのパスワードで、少なくとも 4 文字で構成され、1 文字は数字以外、1 文字は大文字にする必要があります。</p> |
| <p>[リモートデバイス (Remote Device) ]</p>                           | <p>SCCP パイプで、リモートサイトへの接続時間の遅延が発生する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[呼出音設定(電話がアクティブのとき) (Ring Setting (Phone Active)) ]</p>   | <p>電話の別の回線にアクティブ コールがあるときに使用される呼び出し音の設定。</p>                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[呼出音設定(電話がアイドルのとき) (Ring Setting (Phone Idle)) ]</p>      | <p>電話の別の回線にアクティブ コールがあるときに使用される呼び出し音の設定。</p>                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>[部屋の名称 (Room Name) ]<br/>(Exchange より)</p>                | <p>Exchange の会議室名 (TelePresence システム用) 。</p>                                                                                                                                                                                                                                              |

|                                                                            |                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ルートパーティション (Route Partition) ]                                            | 電話番号が属するパーティション。                                                                                |
| [RTCP]                                                                     | オーディオの統計情報を維持します。                                                                               |
| [スクリーンロックタイムアウト (Screen Lock Timeout) ]                                    | デバイスによって画面が自動的にロックされるまでの最大アイドル時間を分単位で示します。画面がロックされると、画面のロックを解除する際にユーザパスワードが要求されます。              |
| [SDIO]                                                                     | 電話の SDIO デバイスが有効であるか、無効であることを示します。                                                              |
| [不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ] | ドロップダウンリストボックスからセカンダリコーリングサーチスペースを選択します。                                                        |
| [セキュリティプロファイル (Security Profile) ]                                         | 電話で使用されるセキュリティプロファイル。<br>(注) エンドポイントのオーダー作成中、選択したプロトコルおよびモデルに基づいて、セキュリティプロファイル属性のデフォルト値が設定されます。 |
| [サービスURL (Services URL) ]                                                  | Cisco IP Phone サービスの URL。                                                                       |

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| [設定専用属性<br>(SetOnly<br>Attributes) ] |  |
|--------------------------------------|--|

同期中にコールプロセッサから設定はできるものの、保存や取得はできないプロビジョニング属性のリスト。

プロビジョニング属性情報は、テキストフィールドに正確に入力する必要があります。Provisioning はエントリを検証しません。無効な値を入力した場合、オーダーが失敗することがあります。

変更オーダーを発行する場合、デバイスに設定されている既存の値は表示されず、値は空欄になります。

- 値を入力しない場合は、既存の値がデバイスに保存されます。
- 値を入力すると、新しい値がデバイスに設定されます。キーワード CUPM\_BLANK を入力すると、空欄の値がデバイスに設定されます。

[プレゼンスグループ (Presence Group) ]、[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode) ]、または[SIPプロファイル (SIP Profile) ]の設定専用属性を設定する際には、CUPM\_BLANK 設定を使用しないでください。これらは Cisco Unified Communications Manager の必須属性です。

(注) 次のプロビジョニング属性は、設定専用のプロビジョニング属性から完全に管理されるプロビジョニング属性に変換されます。

- [CTIからのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI) ]
- [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode) ]
- [DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ]
- [ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group) ]
- [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ]
- [プレゼンスグループ(電話) (Presence Group (Phone)) ]
- [プライマリ電話 (Primary Phone) ]
- [SIPプロファイル (SIP Profile) ]
- [SIPダイヤルルール (SIP Dial Rules) ]
- [SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space) ]
- [信頼されたりレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ]

使用可能な設定専用属性は次のとおりです。

- [オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy) ] : 有効な値は [オフ (Off) ]、[オン (On) ]、および [デフォルト (Default) ] です。
- [BLFダイレクトコールパーク (BLF Directed Call Park) ] : ユーザが設定し

た使用可能なダイレクト コール パーク番号にコールを転送できます。  
設定専用のプロビジョニング属性である [BLFダイレクトコールパーク  
(BLF Directed Call Park) ]を設定または設定解除するときは、次のガイド  
ラインに留意してください。

- 設定するときは、次のフォーマットを使用します。

```
index1:DN1:partition1:label1:labelascii1;
index2:DN2:partition2:label2:labelascii2
```

index = ダイレクト コール パークの位置 (1、2、3 など) 。

DN = 電話番号。

Label = BLF ダイレクト コール パーク名。

labelascii = BLF ダイレクト コール パークの名前を ASCII 文字で表した  
もの。これを各 BLF ダイレクト コール パークについて、セミコ  
ロンで区切りながら繰り返します。

- 設定を解除するときは、インデックスを指定し、その後に空の値を  
続ける必要があります (たとえば 1:::;) 。

|                                                        |  |
|--------------------------------------------------------|--|
| <p>[設定専用属性<br/>(SetOnly<br/>Attributes) ]<br/>(続き)</p> |  |
|--------------------------------------------------------|--|



- BLF ダイレクト コール パークのインデックスのセットのうち 1 つの設定を解除するときは、残す必要のある古い値をすべて指定し、設定を解除するインデックスに対しては空の値を入力する必要があります。情報は順に指定する必要があります。

たとえば、次に示すセットのうちインデックス 3 の設定を解除するとします。

```
1:10:RP_T341:XXX:XXXASCII;
2:100:BATS-PT-NYC-PHONE:YYY:YYYASCII;3:200:BATS-PT-NYC-PHONE:ZZZ:ZZZASCII;
```

次のとおりに入力する必要があります。

```
1:10:RP_T341:XXX:XXXASCII;2:100:BATS-PT-NYC-PHONE:YYY:YYYASCII;3:
::;”
```

- [コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき)(Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active))]: 着信コールがコール応答グループのメンバーに送る通知のタイプを決定します。有効な値は、[ビープ音のみ (Beep Only) ]、[システムデフォルトを使用 (Use System Default) ]、および [無効 (Disable) ] です。
- [コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)) ]: 着信コールがコール応答グループのメンバーに送る通知のタイプを決定します。有効な値は、[一度鳴らす (Ring Once) ]、[システムデフォルトを使用 (Use System Default) ]、および [無効 (Disable) ] です。
- [コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy) ]: 有効な値は [システムデフォルトを使用 (Use System Default) ]、[設定済みCSSを使用 (With Configured CSS) ]、および [アクティブなデバイス/回線CSSを使用 (With Activating Device/Line CSS) ] です。
- [Cisco Discovery Protocol (CDP)]: 管理者が CDP を有効または無効にできます。ネットワーク ポートでは CDP を無効にする必要があります。その電話がシスコ以外のスイッチに接続されている場合は、ネットワーク ポートで CDP を無効にする必要があります。これは ATA 187 電話タイプだけに適用できます。デフォルト値は [有効 (Enabled) ] です。
- [説明 (Description) ]: 電話番号とルートパーティションの説明。説明には 50 文字まで使用できますが、二重引用符 (" )、パーセント記号 (%)、アンパサンド (& )、または山カッコ (<> ) を含めることはできません。
- [モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space) ]: スーパーバイザの回線表示のコーリングサーチスペースのモニタリングには、エージェントの回線またはエージェントのモニタリングを可能にするデバイスパーティションが含まれている必要があります。値の例は、MonitoringCSSName です。

- [MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec) ] : メディアターミネーションポイントが SIP のコールに必要な場合は、使用するコーデックを選択します。有効な値は [711ulaw]、[711alaw]、[G729/G729a]、および [G729b/G729ab] です。
- [録音プロファイル (Recording Profile) ] : エージェントの回線表示の記録プロファイルを判断します。デフォルトの設定は [なし (None) ] です。値の例は、RecordingProfileName です。
- [不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ] : コールの転送に使用します。値の例は、CSSName です。
- [サービス (Services) ] : Cisco Unified IP Phone サービス。すべてのサービスは最初に Cisco Unified Communications Manager で設定する必要があります。値の例は、ServiceName1!ServiceURL1;ServiceName2!ServiceURL2 です。

[サービス (Services) ] の設定を解除するには、キーワード CUPM\_BLANK を入力する必要があります。

- [SURL] : デバイス上に存在し、Provisioning ルールによって設定されるサービスにボタンを割り当てます。値の例は、buttonindex1: servicename1: label1: labelascii1; buttonindex2: servicename2: label2 です。

SURL を設定するには、サービスの設定専用 Provisioning 属性を設定する必要があります。

SURL の設定を解除するには、インデックスの後ろに空の値を入力します (1;;;2;;; など)。

|                                              |  |
|----------------------------------------------|--|
| [設定専用属性<br>(SetOnly<br>Attributes) ]<br>(続き) |  |
|----------------------------------------------|--|

- [インピーダンス (Impedance)] : アナログ ポートのインピーダンスを指定します。この属性は ATA 187 電話タイプだけに適用できます。次の有効な値をセミコロンで区切って指定します。
  - 600 ohms complex;600 Ohms real;900 Ohms complex;900 ohms real;
  - 220 ohms + (820 ohms || 115nF);270 ohms + (750 ohms || 150nF);
  - 370 ohms + (620 ohms || 310nF);
  - 600r, line = 270 ohms + (750 ohms || 150nF);320 + (1050 || 230 nF), line = 12Kft;
  - 600r, line = 350 + (1000 || 210nF);200 ohms + (680 ohms || 100nF)
- [入力オーディオレベル (Input Audio Level)] : Cisco ATA FXS ポートの入力レベル制御 (アナログからデジタルへのパス) を指定します。この属性は ATA 187 電話タイプだけに適用できます。デフォルト値は NoDbPadding です。
 

有効な値は Minus14db、Minus13db、Minus12db、Minus11db、Minus10db、Minus9db、Minus8db、Minus7db、Minus6db、Minus5db、Minus4db、Minus3db、Minus2db、Minus1db、NoDbPadding、Plus1db、Plus2db、Plus3db、Plus4db、Plus5db、および Plus6db です。
- [出力オーディオレベル (Output Audio Level)] : Cisco ATA FXS ポートの出力レベル制御 (アナログからデジタルへのパス) を指定します。
- [発信者接続極性 (Caller Connect Polarity)] : Cisco ATA が発信側で、コールが接続される際の Cisco ATA FXS ポートの回線の極性を制御します。
- [発信者切断極性 (Caller Disconnect Polarity)] : Cisco ATA が発信側で、コールが接続を解除される際の Cisco ATA FXS ポートの回線の極性を制御します。
- [着信者接続極性 (Callee Connect Polarity)] : Cisco ATA が着信側で、コールが接続される際の Cisco ATA FXS ポートの回線の極性を制御します。
- [着信者切断極性 (Callee Disconnect Polarity)] : Cisco ATA が着信側で、コールが接続を解除される際の Cisco ATA FXS ポートの回線の極性を制御します。
- [コールシーケンス (Call Sequence)] : コール シーケンスを指定します。
- [オフフック検証タイマー(50~1000ミリ秒) (Offhook Validation Timer(50-1000ms))] : この検証タイマーの最小値および最大値は 50 ms と 1000 ms です。
- [オンフック検証タイマー(50~1000ミリ秒) (Onhook Validation Timer(50-1000ms))] : この検証タイマーの最小値および最大値は 50 ms と 1000 ms です。
- [フックフラッシュタイマー(100~1500ミリ秒) (Hookflash Timer

|                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                   | <p>(100-1500ms) ] : このタイマーの最小値および最大値は 100 ms と 1500 ms です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オンフック遅延タイマー(0~155秒) (Onhook Delay Timer(0-155s)) ] : このタイマーの最小値および最大値は 0 ms と 155 ms です。</li> </ul>                                                                                     |
| [SIPダイヤルルール (SIP Dial Rules) ]    | Cisco Unified IP Phone にローカルダイヤルプランを提供し、コールが処理される前に、ユーザがキーを押したり、タイマーを待機したりする必要がないようにします。                                                                                                                                                                                                         |
| [設定へのアクセス (Settings Access) ]     | デバイス設定へのアクセス。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [SIPプロファイル (SIP Profile) ]        | SIP トランクおよび SIP エンドポイントに関連付けられている SIP 属性を指定します。これらの属性は、SIP 電話タイプだけに設定できます。                                                                                                                                                                                                                       |
| [サイトアクセスコード (Site Access Code) ]  | サイトのアクセスコードを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [ソフトキーテンプレート (Softkey Template) ] | Cisco IP Phone のソフトキーの設定を指定するソフトキーテンプレート。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [PCポートへのスパン (Span to PC Port) ]   | <p>デバイスにおいて、ドックのネットワークポートで送受信したパケットを PC ポートへ転送するかどうかを指定します。</p> <p>診断目的で使用されるモニタリングと記録用のアプリケーション（コールセンター環境で共通）や、ネットワークパケットキャプチャツールなど、デバイストラフィックのモニタリングを必要とするアプリケーションが PC ポート上で実行されている場合は、[有効 (Enabled) ] を選択します。</p> <p>この機能を使用するには、[PCの音声VLANへのアクセス (PC Voice VLAN Access) ] を有効にする必要があります。</p> |

|                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[スピードダイヤル情報 (Speed Dial Info) ]</p>                            | <p>デバイスのスピードダイヤル設定を指定します。</p> <p>[スピードダイヤル設定 (Speed Dial Settings) ] ページには、次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [インデックス (Index) ]</li> <li>• [電話番号 (Directory Number) ]</li> <li>• [ラベル (Label) ]</li> </ul> <p>(注) スピードダイヤルの電話番号フィールドでは、数字 (0～9) 、アスタリスク (*) 、プラス記号 (+) 、およびハッシュ記号 (#) を使用できます。</p> <p>スピードダイヤルの電話番号フィールドでは、カンマ文字を使用してスピードダイヤルの間隔を空けることができます。電話番号の間に任意の数のカンマを挿入できます。カンマ 1 個あたりのデフォルトの遅延は 2 秒間です。</p> <p>カンマを使用して、スピードダイヤル番号を区切ることもできます。スピードダイヤル内のカンマは、Cisco Unified Communications Manager 9.x バージョン以降でサポートされます。</p> |
| <p>[SSHアクセス (SSH Access) ]</p>                                    | <p>デバイスが SSH 接続を受け入れるかどうかを示します。デバイスの SSH サーバ機能を無効にすると、ログ ファイルの収集などの特定のサポート機能がブロックされますが、通常の操作には影響しません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space) ]</p> | <p>SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求を Cisco Unified Communications Manager によってどのようにルーティングするのか設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>[TTSが有効でない加入者CoS (Subscriber CoS without TTS enabled) ]</p>    | <p>ユニファイドメッセージプロセッサの加入者アカウントでユニファイドメッセージングを無効にする際に使用するサービス クラス テンプレート。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>[TTSが有効な加入者CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled) ]</p>         | <p>ユニファイドメッセージプロセッサの加入者アカウントでユニファイドメッセージングを有効にする際に使用するサービス クラス テンプレート。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[TTSが有効でない加入者テンプレート (Subscriber Template without TTS Enabled) ]</p> | <p>ユニファイドメッセージプロセッサの加入者アカウントでユニファイドメッセージングを無効にする際に使用するサービステンプレート。</p>                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[TTSが有効な加入者テンプレート (Subscriber Template with TTS Enabled) ]</p>      | <p>ユニファイドメッセージプロセッサの加入者アカウントでユニファイドメッセージングを有効にする際に使用するサービステンプレート。</p>                                                                                                                                                                                                           |
| <p>[スイッチID (Switch ID) ]</p>                                           | <p>Unity デバイスのボイスメールのプロビジョニング属性。 [詳細オーダー (Advanced Ordering) ] 権限を持つユーザまたは管理者が、この属性を設定できます。</p> <p>整数だけが使用できます。 Unity Windows レジストリで、 Cisco Unified Communications Manager に対応付けられた有効な値を見つけることができます。</p> <p>このフィールドは add voice mail 操作ではオプションで、 change voice mail 操作では必須です。</p> |
| <p>[スイッチポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration) ]</p>            | <p>ドッキングされているときのデバイスのスイッチポートの速度とデュプレックスのリモート設定を許可します。これは、デバイス上での手動設定よりも優先されます。</p> <p><b>注意</b> このポートを設定すると、デバイスがドック上にある場合にネットワーク接続が失われる可能性があります。</p>                                                                                                                           |
| <p>[Telnetのパスワード (Telnet Password) ]</p>                               | <p>Telnet にアクセスするためのパスワード。</p>                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>[Telnetユーザ名 (Telnet Username) ]</p>                                 | <p>telnet shell ユーザのユーザ名。</p>                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>[モバイルネットワークに転送 (Transfer to Mobile Network) ]</p>                   | <p>GSM へのハンドオフ機能のためのアクティベーションと方法。</p>                                                                                                                                                                                                                                           |

|                                                                                     |                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [UCサービスプロファイル (UC Service Profile) ]                                                | サービス プロファイルをエンド ユーザに関連付けるために使用します。                                                                                                             |
| [不在ポート (Unattended Port) ]                                                          | オンの場合は、不在ポート (たとえばボイスメールポート) へのコールのリダイレクトや転送が可能になります。<br>デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。                                                         |
| [緊急優先 (Urgent Priority) ]                                                           | Cisco Unified Communications Manager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。                                                  |
| [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS) ] | デバイス プールで設定され、デバイスに割り当てられている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、この属性を選択します。                                                                            |
| [信頼されたりレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ]                                        | Cisco Unified Communications Manager が、このメディア エンドポイントに信頼されたりレー ポイント (TRP) を挿入できるようにします。有効な値は、[オフ (Off) ]、[オン (On) ]、および [デフォルト (Default) ] です。 |
| [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                 | ユーザが保留操作を開始したときに再生される音源。                                                                                                                       |
| [ユーザロケール (User Locale) ]                                                            | 電話のユーザに関連付けられたユーザ ロケール。ユーザ ロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボードテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。                                                 |
| [ビデオ機能 (Video Capabilities) ]                                                       | 適切に準備された PC に接続されたときに、電話がビデオコールに参加できるかどうかを示します。                                                                                                |
| [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]                                                 | プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、およびプロファイルに関連付けられたユーザなど、Unity/Unity Connection に関する設定を行います。                                                                 |



|                                                                          |                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ボイスメールサーバ(バックアップ)<br>(Voicemail Server (Backup)) ]                      | バックアップ ビジュアル ボイスメールサーバのホスト名または IP アドレス。                                                                                                                                  |
| [ボイスメールサーバ(プライマリ)<br>(Voicemail Server (Primary)) ]                      | プライマリ ビジュアル ボイスメールサーバのホスト名または IP アドレス。                                                                                                                                   |
| [Webアクセス (Web Access) ]                                                  | 電話の内部 Web サーバが有効 ([はい (Yes) ]) であるか、無効 ([いいえ (No) ]) であるかを示します。無効の場合、電話の Web ページにはアクセスできません。                                                                             |
| [Wifi]                                                                   | デバイス上の Wi-Fi が有効であるか、無効であることを示します。                                                                                                                                       |
| [Wi-Fiホットスポットプロファイル (Wi-Fi Hotspot Profile) ]                            | ドロップダウン リスト ボックスから Wi-Fi ホットスポット プロファイルを選択します。<br><br>(注) [Wi-Fiホットスポットプロファイル (Wi-Fi Hotspot Profile) ]属性は、Cisco Desktop Collaboration Experience DX650 でのみサポートされます。     |
| [デバイスのワイプ (Wipe Device) ]                                                | このパラメータでは、管理者がデバイス上のユーザデータおよび設定を消去できます。                                                                                                                                  |
| [ワイヤレス LANプロファイルグループ (Wireless LAN Profile Group) ]                      | エンドポイントで使用可能なワイヤレス LAN プロファイル グループのリストを表示します。<br><br>(注) [ワイヤレスLANプロファイルグループ (Wireless LAN Profile Group) ]属性は、Cisco Desktop Collaboration Experience DX650 でのみサポートされます。 |
| [ワイヤレス LANのビデオコール帯域幅 (kbps) (Wireless LAN Video Call Bandwidth (kbps)) ] | ビデオコールに割り当てられるワイヤレス帯域幅。有効な値の範囲は0～4000です。このフィールドを空白のままにしておくと、Cisco Unified Communications Manager のデフォルトの範囲値が使用されます。                                                      |

# コールプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性

| 製品                      | プロビジョニング属性                          | Cisco Unified Communications Manager Express<br>Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|-------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                         |                                     | 8.0.x                                                                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.0 |
| [AAR設定 (AAR Settings) ] | [ボイスメール (Voicemail) ]               | N                                                                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
|                         | [AAR接続先マスク (AAR Destination Mask) ] | N                                                                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
|                         | [AARグループ (AAR Group) ]              | N                                                                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

|                             |                                                                     |                    |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------|---|---|---|---|---|---|
| [代替番号 (Alternate Numbers) ] | [エンタープライズ代替番号の有効化 (Enable Enterprise Alternate Number) ]            | N                  | N | N | N | N | N | Y |
|                             | [番号マスク (Number Mask) ]                                              | N                  | N | N | N | N | N | Y |
|                             | [クラスタ間検索サービス経由のアドバタイズ (Advertise via Intercluster Lookup service) ] | N                  | N | N | N | N | N | Y |
|                             | [ローカルルートパーティションに追加 (Add to Local Route partition) ]                 | N                  | N | N | N | N | N | Y |
|                             | [ルートパーティション (Route Partition) ]                                     | N                  | N | N | N | N | N | Y |
|                             | [優先 (Has priority) ]                                                | N                  | N | N | N | N | N | Y |
|                             | [ディレクトリURI (Directory URI) ]                                        | [プライマリ (Primary) ] | N | N | N | Y | Y | Y |
| [URI]                       |                                                                     | N                  | N | N | Y | Y | Y | Y |
| [パーティション (Partition) ]      |                                                                     | N                  | N | N | Y | Y | Y | Y |
| [アドバタイズ (Advertise) ]       |                                                                     | N                  | N | N | Y | Y | Y | Y |

|                                                                     |                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [+E.164代替番号 (+E.164 Alternate Numbers) ]                            | [+E.164代替番号の有効化 (Enable +E164 Alternate Number) ]                   | N | N | N | N | N | N | Y |
| [番号マスク (Number Mask) ]                                              | [番号マスク (Number Mask) ]                                              | N | N | N | N | N | N | Y |
| [クラスタ間検索サービス経由のアドバタイズ (Advertise via Intercluster Lookup service) ] | [クラスタ間検索サービス経由のアドバタイズ (Advertise via Intercluster Lookup service) ] | N | N | N | N | N | N | Y |
| [ローカルルートパーティションに追加 (Add to Local Route partition) ]                 | [ローカルルートパーティションに追加 (Add to Local Route partition) ]                 | N | N | N | N | N | N | Y |
| [ルートパーティション (Route Partition) ]                                     | [ルートパーティション (Route Partition) ]                                     | N | N | N | N | N | N | Y |
| [優先 (Has priority) ]                                                | [優先 (Has priority) ]                                                | N | N | N | N | N | N | Y |

|                                            |                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [モビリティサポートの有効化 (Enable Mobility Support) ] | [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                            | [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                            | [最大デスクピックアップ待機時間 (Max Desk Pickup Wait Time) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                            | [リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit) ]        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                            | [プライマリデバイス (Primary Device) ]                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                  |                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] | [DND オプション (DND Option) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [サイレント (Do Not Disturb) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [モジュール 1 (Module 1) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [モジュール 2 (Module 2) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [MLPP通知 (MLPP Indication) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption) ]               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [ネットワークロケール (Network Locale) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [プライバシー (Privacy) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [設定へのアクセス (Setting Access) ]                     | Y                                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y |   |

|                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [設定専用属性 (Set-only Attributes) ] :                                    |   |   |   |   |   |   |   |
| • [BLFダイレク<br>トコー<br>ルパー<br>ク<br>(BLF<br>Directed<br>Call<br>Park) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| • [DND<br>着信呼<br>警告<br>(DND<br>Incoming<br>Call<br>Alert) ]          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| • [サービ<br>ス<br>( <del>Services</del> ) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| • [SURL]                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [スピードダ<br>イヤル情報<br>(Speed Dial<br>Info) ]                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ソフトキー<br>テンプレ<br>ート (Softkey<br>Template) ]                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザ保留<br>音源 (User<br>Hold Audio<br>Source) ]                        | Y | Y | Y | Y |   | Y | Y |
|                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|  |                                    |  |  |  |  |  |  |  |
|--|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
|  | [ユーザロ<br>ケール<br>(User<br>Locale) ] |  |  |  |  |  |  |  |
|--|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|



|                                              |                                                           |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ] | [AAR接続先マスク (AAR Destination Mask) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | [AARグループ (AAR Group) ]                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | [AARキープコール履歴 (AAR Keep Call History) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | [呼び出し表示 (Alerting Name) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | [ASCII呼び出し表示 (ASCII Alerting Name) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | [ASCII表示 (内部発信者ID) (ASCII Display (Internal Caller ID)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | [ASCII回線テキストラベル (ASCII Line Text Label) ]                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | [自動応答 (Auto Answer) ]                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | [ビジートリガー (Busy Trigger) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                              | Y                                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y |   |

|                                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [コールピックアップグループ (Call Pickup Group) ]                       |   |   |   |   |   |   |   |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID)) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [不在転送 (Forward All) ]                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [話中転送(外部) (Forward Busy External) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [話中転送(内部) (Forward Busy Internal) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送呼情報 - 発信者名 (Forwarded Call Information - Caller Name) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [転送呼情報<br>- 発信者番号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Caller<br>Number) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送呼情報<br>- ダイヤル番<br>号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Dialed<br>Number) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送呼情報<br>- 転送先番号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Redirected<br>Number) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                   |                                                  |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ] (続き) | [無応答時転送(外部) (Forward No Answer External) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [無応答時転送(内部) (Forward No Answer Internal) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [カバレッジなし時転送(外部) (Forward No Coverage External) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [カバレッジなし時転送(内部) (Forward No Coverage Internal) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [回線テキストラベル (Line Text Label) ]                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [回線グループ (Line Groups) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   |                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [コール最大数<br>(Maximum Number of Calls) ]               |   |   |   |   |   |   |   |
| [メッセージ待機ポリシー<br>(Message Waiting Policy) ]           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPPコールリングサーチスペース<br>(MLPP Calling Search Space) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPP無応答時の呼び出し時間<br>(MLPP No Answer Ring Duration) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPPターゲット<br>(MLPP Target) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ネットワーク保留音源<br>(Network Hold Audio Source) ]         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration) ]             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プライバシー<br>(Privacy) ]                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ルートパーティション (Route Partition) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [呼出音設定 (電話がアクティブのとき) (Ring Setting (Phone Active)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [呼出音設定 (電話がアイドルのとき) (Ring Setting (Phone Idle)) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                          |                                                                                                                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <p>[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ] (続き)</p> | <p>[設定専用属性 (Set-only Attributes) ]:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy) ]</li> </ul> | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>[コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active) ) ]</li> </ul>             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                          |                                                                                                                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コール<br/>ピック<br/>アップ<br/>グルー<br/>プオー<br/>ディオ<br/>アラ<br/>ートの設<br/>定(電話<br/>がアイ<br/>ドルの<br/>とき)<br/>(Call<br/>Pickup<br/>Group<br/>Audio<br/>Alert<br/>Setting<br/>(Phone<br/>Idle)) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コーリ<br/>ング<br/>サー<br/>スペース<br/>のアク<br/>ティ<br/>ベー<br/>ション<br/>ポリ<br/>シー<br/>(Calling<br/>Search<br/>Space<br/>Activation<br/>Policy) ]</li> </ul>                                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [説明<br/>(Exp)] ]</li> </ul>                                                                                                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                                                                                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                                                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プレゼンスグループ (Presence Group) ]</li> </ul>                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [録音オプション (Recording Option) ]</li> </ul>                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [録音プロフィール (Recording Profile) ]</li> </ul>                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [不在転送のセカンダリコーディングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]</li> </ul>                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]</li> </ul>                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|              |                                                           |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------|-----------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [回線 (Line) ] | [AAR接続先マスク (AAR Destination Mask) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              | [AARグループ (AAR Group) ]                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              | [AARキープコール履歴 (AAR Keep Call History) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              | [ボイスメール (Voicemail) ]                                     | N | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              | [呼び出し表示 (Alerting Name) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              | [ASCII呼び出し表示 (ASCII Alerting Name) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              | [ASCII表示 (内部発信者ID) (ASCII Display (Internal Caller ID)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              | [ASCII回線テキストラベル (ASCII Line Text Label) ]                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              | [自動応答 (Auto Answer) ]                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|              |                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ ビジー トリ<br>ガー (Busy<br>Trigger) ]                                                                                                                                                                  |   |   |   |   |   |   |   |
| [ コールピッ<br>クアップグ<br>ループ (Call<br>Pickup<br>Group) ]                                                                                                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ コーリング<br>サーチス<br>ペース<br>(Calling<br>Search<br>Space) ]                                                                                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ コール転送<br>とコール<br>ピックアップ<br>の設定<br>(Call<br>Forward and<br>Call Pickup<br>Settings) ] -<br>[ コーリング<br>サーチス<br>ペースのア<br>クティベー<br>ションポリ<br>シー<br>(Calling<br>Search Space<br>Activation<br>Policy) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings) ]-<br>[不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings) ]-<br>[CTI障害時転送:ボイスメール (Forward On CTI Failure: Voicemail) ]                     | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                                              | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                        |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings) ]-[CTI障害時転送: 接続先 (Forward On CTI Failure: Destination) ]                   |   |   |   |   |   |   |   |
| [コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings) ]-[CTI障害時転送: コーリングサーチスペース (Forward On CTI Failure: Calling Search Space) ] | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
| [電話番号設定 (Directory Number Settings) ]-[BLFプレゼンスグループ (BLF Presence Group) ]                                                             | N | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                                        | N | N | N | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                   |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話番号設定<br>(Directory Number Settings) ] -<br>[非通知着信拒否 (Reject Anonymous Calls) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [外線電話番号マスク<br>(External Phone Number Mask) ]                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [不在転送<br>(Forward All) ]                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [話中転送(外部)<br>(Forward Busy External) ]                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [話中転送(内部)<br>(Forward Busy Internal) ]                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送呼情報 - 発信者名<br>(Forwarded Call Information - Caller Name) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                   |                                                                   |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [回線 (Line) ] (続き) | [転送呼情報 - 発信者番号 (Forwarded Call Information - Caller Number) ]     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   | [転送呼情報 - ダイヤル番号 (Forwarded Call Information - Dialed Number) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   | [転送呼情報 - 転送先番号 (Forwarded Call Information - Redirected Number) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   | [無応答時転送(外部) (Forward No Answer External) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   | [無応答時転送(内部) (Forward No Answer Internal) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   | [カバレッジなし時転送(外部) (Forward No Coverage External) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   |                                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                    |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [カバレッジなし時転送(内部) (Forward No Coverage Internal) ]   |   |   |   |   |   |   |   |
| [未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [CME回線設定テンプレート (CME Line Configuration Template) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [回線グループ (Line Groups) ]                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [回線テキストラベル (Line Text Label) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [コール最大数 (Maximum Number of Calls) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [メッセージ待機ポリシー (Message Waiting Policy) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [MLPPコー<br>リングサー<br>チスペース<br>(MLPP<br>Calling<br>Search<br>Space) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [MLPP無応<br>答時の呼び<br>出し時間<br>(MLPP No<br>Answer Ring<br>Duration) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPPター<br>ゲット<br>(MLPP<br>Target) ]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                   |                                                                                                               |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [回線 (Line) ] (続き) | [パークモニタリング転送非取得時の接続先(外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External) ] : [ボイスメール (Voicemail) ] | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   | [パークモニタリング転送非取得時の接続先(外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External) ] : [接続先 (Destination) ]  | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   | [パークモニタリング転送非取得時の接続先(外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External) ] : [CSS]                 | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   |                                                                                                               | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [パークモニタリング転送非取得時の接続先(内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Interna) ] :<br>[ボイスメール (Voicemail) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [パークモニタリング転送非取得時の接続先(内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Interna) ] :<br>[接続先 (Destination) ]  | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
| [パークモニタリング転送非取得時の接続先(内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Interna) ] :<br>[CSS]                 | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
| [パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitor Reversion Timer) ]                                                               | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ルートパーティション (Route Partition) ]                      |   |   |   |   |   |   |   |
| [呼出音設定 (電話がアクティブのとき) (Ring Setting (Phone Active)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [呼出音設定 (電話がアイドルのとき) (Ring Setting (Phone Idle)) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration) ]             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                   |                                                                                                    |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [回線 (Line) ] (続き) | [設定専用属性 (Set-only Attributes) ]:                                                                   |   |   |   |   |   |   |   |
|                   | •[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audio Message Waiting Indicator Policy) ]                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   | •[コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active) ) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                   |                                                                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                                                                                                                                         |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コール<br/>ピック<br/>アップ<br/>グルー<br/>プオー<br/>ディオ<br/>アラ<br/>ートの設<br/>定(電話<br/>がアイ<br/>ドルの<br/>とき)<br/>(Call<br/>Pickup<br/>Group<br/>Audio<br/>Alert<br/>Setting<br/>(Phone<br/>Idle) ]</li> </ul>                 |   |   |   |   |   |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コーリ<br/>ング<br/>サー<br/>チ<br/>ス<br/>ペ<br/>ー<br/>ス<br/>の<br/>ア<br/>ク<br/>テ<br/>ィ<br/>ベ<br/>ー<br/>シ<br/>ョ<br/>ン<br/>ポ<br/>リ<br/>シ<br/>ー<br/>(Calling<br/>Search<br/>Space<br/>Activation<br/>Policy) ]</li> </ul> | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [説明<br/>(Data) ]</li> </ul>                                                                                                                                                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                                                                                                                                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プレゼンスグループ (Presence Group) ]</li> </ul>                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [録音オプション (Recording Option) ]</li> </ul>                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [録音プロファイル (Recording Profile) ]</li> </ul>                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
| [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [緊急優先 (Urgent Priority) ]                                                                                                      | N | N | N | N | N | N | Y |
| [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]                                                                                            | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                  |                                                                  |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [すべてのデバイスの回線設定 (Line Settings for All Devices) ] | [保留復帰の呼び出し時間(秒) (Hold Reversion Ring Duration (seconds)) ]       | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                  | [保留復帰の通知間隔(秒) (Hold Reversion Notification Interval (seconds)) ] | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                  | [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone) ]                               | N | N | N | N | N | N | Y |

|                                                                 |                                                                                                  |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [デバイス<デバイス名>の回線<インデックス> (Line (Index) on Device (DeviceName)) ] | [コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)) ]    | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                                 | [コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active)) ] | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                                 | [モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space) ]                                         | N | N | N | N | N | N | Y |

|               |                                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話 (Phone) ] | [AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ]                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|               | [G.722およびiSACコーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codecs) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|               | [Android Marketからのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Android Market) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|               | [不明な提供元からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Unknown Sources) ]        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|               | [Cisco AppHQからのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Cisco AppHQ) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|               |                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [Cisco Marketplace からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Cisco Marketplace) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザ定義VPNプロファイルの許可 (Allow User-Defined VPN Profiles) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Android Debug Bridge (ADB) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [アプリケーションダイヤルルールURL (Application Dial Rules URL) ]                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [AppHQドメイン (AppHQ Domain) ]                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [認証サーバURL (Authentication Server URL) ]                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [自動回線選択 (Auto Line Select) ]                |   |   |   |   |   |   |   |
| [自動割り込み (Auto Barge) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Bluetooth]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ビルトインブリッジ (Built In Bridge) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ビジューランプフィールド情報 (Busy Lampfield Info) ]     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [コールシーケンス (Call Sequence) ]                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [着信者接続極性 (Callee Connect Polarity) ]        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [着信者切断極性 (Callee Disconnect Polarity) ]     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [発信者接続極性 (Caller Connect Polarity) ]        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                         |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [発信者切断極性 (Caller Disconnect Polarity) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [発信者ID (Caller ID) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                    |                                                                                           |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話 (Phone) ] (続き) | [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [Ciscoカメラ (Cisco Camera) ]                                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [Cisco Discovery Protocol (CDP)]                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [Cisco Discovery Protocol (CDP): PC ポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): PC Port) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [Cisco Discovery Protocol (CDP) : スイッチポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): Switch Port) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [Cisco Usage and Error Tracking]                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    |                                                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [CME電話設定テンプレート (CME Phone Configuration Template) ]          |   |   |   |   |   |   |   |
| [共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [企業写真ディレクトリ (Company Photo Directory) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ディスプレイ非点灯日 (Days Display Not Active) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Unified CMの接続障害の検出 (Detect Unified CM Connection Failure) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [デバイスの説明 (Device Description) ]                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|  |                                    |  |  |  |  |  |  |  |
|--|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
|  | [デバイス<br>プール<br>(Device<br>Pool) ] |  |  |  |  |  |  |  |
|--|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|

|                    |                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------|----------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話 (Phone) ] (続き) | [デバイスセキュリティモード (Device Security Mode) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [ダイジェストユーザ (Digest User) ]                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [ディレクトリURL (Directory URL) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [ディレクトリ検索ルールURL (Directory Lookup Rules URL) ]           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [スピーカフォンの無効化 (Disable SpeakerPhone) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [スピーカフォンとヘッドセットの無効化 (Disable Speakerphone and Headset) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [ディスプレイ放置時自動消灯 (Display Idle Timeout) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    |                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ディスプレイ点灯継続時間<br>(Display On Duration) ]        |   |   |   |   |   |   |   |
| [ディスプレイ点灯時刻<br>(Display On Time) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [着信コール時に点灯<br>(Display On When Incoming Call) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [DND オプション<br>(DND Option) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [USBを無効にする<br>(Disable USB) ]                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [サイレント<br>(Do Not Disturb) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ドメイン名<br>(Domain Name) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [緊急電話番号<br>(Emergency Numbers) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [オーディオアラートを有効にする<br>(Enable Audible Alert) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                    |                                                                                       |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話 (Phone) ] (続き) | [LDAPユーザ認証を有効にする (Enable LDAP User Authentication) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [Cisco UCMアプリケーションクライアントを有効にする (Enable Cisco UCM App Client) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [Cisco Unified Mobile Communicatorを有効にする (Enable Cisco Unified Mobile Communicator) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [LDAP SSLを有効にする (Enable LDAP SSL) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [LDAPユーザ認証を有効にする (Enable LDAP User Authentication) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ]                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    |                                                                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                           |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [Telnetを有効にする (Enable Telnet) ]                                           |   |   |   |   |   |   |   |
| [EnergyWise エンドポイントのセキュリティ シークレット (EnergyWise Endpoint Security Secret) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain) ]                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ファクスエラー修正モードのオーバーライド (Fax Error Correction Mode Override) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ファクスモード (Fax Mode) ]                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [インピーダンス (Impedance) ]                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                    |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [入力オーディオレベル (Input Audio Level) ]                  |   |   |   |   |   |   |   |
| [IVRパスワード (IVR Password) ]                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [参加および直接転送ポリシー (Join And Direct Transfer Policy) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LDAPフィールドマッピング (LDAP Field Mappings) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LDAPの写真のロケーション (LDAP Photo Location) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LDAPサーバ (LDAP Server) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LDAP検索ベース (LDAP Search Base) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [Link Layer Discovery Protocol - (LLDP): PC Port (Link Layer Discovery Protocol - (LLDP): PC Port) ]                                                         |   |   |   |   |   |   |   |
| [Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED): PC Port (Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED): PC Port) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                    |                                                                                                                                                                  |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話 (Phone) ] (続き) | [Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED): スイッチポート (Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED): Switch Port) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [LLDP電源優先度 (LLDP Power Priority) ]                                                                                                                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [デバイスのロック (Lock Device) ]                                                                                                                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [ログ表示 (Logging Display) ]                                                                                                                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [最大ファクス速度 (Maximum Fax Rate) ]                                                                                                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [モビリティユーザID (Mobility User ID) ]                                                                                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    | [モジュール1 (Module 1) ]                                                                                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                    |                                                                                                                                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                    |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [モジュール<br>2 (Module<br>2) ]                        |   |   |   |   |   |   |   |
| [モジュール<br>3 (Module<br>3) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送の遅延<br>(Forwarding<br>Delay) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [一般的な<br>IOSコマンド<br>(Generic<br>IOS<br>Commands) ] | N | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Gratuitous<br>ARP]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [フックフ<br>ラッシュタ<br>イマー<br>(Hookflash<br>Timer) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [アイドル<br>URL (Idle<br>URL) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [アイドルタ<br>イマー (Idle<br>Timer) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [情報<br>(Information) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LLDPア<br>セットID<br>(LLDP<br>Asset ID) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ロードサー<br>バ (Load<br>Server) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ロケーショ<br>ン<br>(Location) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [ログサーバ<br>(Log<br>Server) ]                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [メディアリ<br>ソースグ<br>ループリス<br>ト (Media<br>Resource<br>Group<br>List) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [メッセージ<br>(Messages) ]                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [MLPPドメ<br>イン (MLPP<br>Domain) ]                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [MLPP通知<br>(MLPP<br>Indication) ]                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [モジュール<br>1ロード名<br>(Module 1<br>Load<br>Name) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [モジュール<br>2ロード名<br>(Module 2<br>Load<br>Name) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [モジュール<br>3ロード名<br>(Module 3<br>Load<br>Name) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ソフトキー<br>表示タイ<br>マー (More<br>Soft Key<br>Timer) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [MLPPプリ<br>エンプシヨ<br>ン (MLPP<br>Preemption) ]                                         |   |   |   |   |   |   |   |
| [ネットワー<br>ク保留音源<br>(Network<br>Hold Audio<br>Source) ]                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ネットワー<br>クローケール<br>(Network<br>Locale) ]                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [オフフック<br>検証タイ<br>マー(50～<br>1000ミリ秒)<br>(Offhook<br>Validation<br>Timer(50-1000ms) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [オンフック<br>遅延タイ<br>マー(0～155<br>秒) (Onhook<br>Delay<br>Timer(0-155s) ]                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [オンフック<br>検証タイ<br>マー(50~<br>1000ミリ秒)<br>(Onhook<br>Validation<br>Time(50-1000ms) ) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [出力オー<br>ディオレベ<br>ル (Output<br>Audio<br>Level) ]                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [オーナーの<br>ユーザID<br>(Owner<br>User ID) ]                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [PCポート<br>(PC Port) ]                                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [PCポートの<br>リモート設<br>定 (PC Port<br>Remote<br>Configuration) ]                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [PCの音声<br>VLANへの<br>アクセス<br>(PC Voice<br>VLAN<br>Access) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ピアファーム<br>ウェア共<br>有 (Peer<br>Firmware<br>Sharing) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [電話ロード<br>名 (Phone<br>Load<br>Name) ]                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話オフの<br>アイドルタ<br>イムアウト<br>(Phone Off<br>Idle<br>Timeout) ]                               |   |   |   |   |   |   |   |
| [電話をオフ<br>にする時刻<br>(Phone Off<br>Time) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [電話をオン<br>にする時刻<br>(Phone On<br>Time) ]                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [IP<br>Communicator<br>のポート範<br>囲 (Port<br>Ranges for IP<br>Communicator) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [電力ネゴシ<br>エーション<br>(Power<br>Negotiation) ]                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プレゼンス<br>および<br>チャット<br>サーバ(プラ<br>イマリ)<br>(Presence<br>and Chat<br>Server<br>(Primary)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プレゼンス<br>および<br>チャット<br>サーバタイ<br>プ (Presence<br>and Chat<br>Server<br>Type) ]             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                   |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [プレゼンスとチャットのシングルサインオン (SSO)ドメイン (Presence and Chat Single Sign-On (SSO) Domain) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [プレゼンスステータス (Presence Status) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プリセットWi-Fiネットワーク (Preset Wi-fi Networks) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プライバシー (Privacy) ]                                                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プロキシサーバURL (Proxy Server URL) ]                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [品質改善サーバ (Quality Improvement Server) ]                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [録音トーン (Recording Tone) ]                                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [録音トーンの長さ (Recording Tone Duration) ]                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                   |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [録音トーンのローカル音量 (Recording Tone Local Volume) ]     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [録音トーンのリモート音量 (Recording Tone Remote Volume) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [スクリーンロック必須 (Require Screen Lock) ]               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [再ルーティングCSS (Rerouting CSS) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [RTCP]                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [セキュリティプロファイル (Security Profile) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                       |                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------|----------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話 (Phone) ]<br>(続き) | [サービス (Services) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                       | [設定へのアクセス (Settings Access) ]                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                       | [SDIO]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                       | [スクリーンロックタイムアウト (Screen Lock Timeout) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                       | [ソフトキーテンプレート (Softkey Template) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                       | [PCポートへのスパン (Span to PC Port) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                       | [スピードダイヤル情報 (Speed Dial Info) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                       | [設定専用属性 (Set-only Attributes) ]:                         |   |   |   |   |   |   | Y |
|                       | • [CTIからのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [BLFダイレクトコールパーク (BLF Directed Call Park) ]</li> </ul> | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode) ]</li> </ul>     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ]</li> </ul>     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group) ]</li> </ul>   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [メディアアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec) ]</li> </ul>          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プレゼンスグループ (Presence Group) ]</li> </ul>                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | • [プライマリ電話<br>(Primary Phone) ]                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [サービス<br>( <del>Services</del> ) ]                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [SIPプロファイル<br>(SIP Profile) ]                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [SUBSCRIBE<br>コーリング<br>サーチ<br>スペース<br>( <del>Subscribe</del><br>Calling<br>Search<br>Space) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [SURL]                                                                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [信頼されたリレーポイント<br>を使用<br>(Use Trusted Relay Point) ]                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [SIPダイヤルルール (SIP Dial Rules) ]                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
| [スイッチポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration) ]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [モバイルネットワークに転送 (Transfer to Mobile Network) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Telnetのパスワード (Telnet Password) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Telnetユーザ名 (Telnet Username) ]                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                        |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ユーザロケール (User Locale) ]                                               |   |   |   |   |   |   |   |
| [ビデオ機能 (Video Capabilities) ]                                          | Y | Y | Y |   | Y | Y | Y |
| [ボイスメールサーバ (バックアップ) (Voicemail Server (Backup)) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ボイスメールサーバ(プライマリ) (Voicemail Server (Primary)) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Webアクセス (Web Access) ]                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Wifi]                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [デバイスのワイプ (Wipe Device) ]                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ワイヤレスLANのビデオコール帯域幅(kbps) (Wireless LAN Video Call Bandwidth (kbps)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                               |                                                           |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] | [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [デバイスの説明 (Device Description) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [DND オプション (DND Option) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [サイレント (Do Not Disturb) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators) ]           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source) ]                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [プライバシー (Privacy) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [再ルーティング CSS (Rerouting CSS) ]                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               |                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                        |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [デバイス<br>プールの発<br>呼側トラン<br>スフォー<br>メーション<br>CSSを使用<br>(Use Device<br>Pool Calling<br>Party<br>Transformation<br>CSS) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [ユーザ保留<br>音源 (User<br>Hold Audio<br>Source) ]                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザロ<br>ケール<br>(User<br>Locale) ]                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                      |                                                           |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] | [AAR接続先マスク (AAR Destination Mask) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      | [AARグループ (AAR Group) ]                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      | [AARキープコール履歴 (AAR Keep Call History) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      | [ASCII呼び出し表示 (ASCII Alerting Name) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      | [呼び出し表示 (Alerting Name) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      | [ASCII表示 (内部発信者ID) (ASCII Display (Internal Caller ID)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      | [ビジートリガー (Busy Trigger) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      | [コールピックアップグループ (Call Pickup Group) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      | [表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID)) ]             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                      |                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [外線電話番号マスク<br>(External Phone Number Mask) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [不在転送<br>(Forward All) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                           |                                                                   |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] (続き) | [話中転送(外部) (Forward Busy External) ]                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           | [話中転送(内部) (Forward Busy Internal) ]                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           | [転送呼情報 - 発信者名 (Forwarded Call Information - Caller Name) ]        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           | [転送呼情報 - 発信者番号 (Forwarded Call Information - Caller Number) ]     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           | [転送呼情報 - ダイヤル番号 (Forwarded Call Information - Dialed Number) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           | [転送呼情報 - 転送先番号 (Forwarded Call Information - Redirected Number) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           |                                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [無応答時転送(外部)<br>(Forward No Answer External) ]       |   |   |   |   |   |   |   |
| [無応答時転送(内部)<br>(Forward No Answer Internal) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [カバレッジなし時転送(外部)<br>(Forward No Coverage External) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [カバレッジなし時転送(内部)<br>(Forward No Coverage Internal) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [未登録外線の不在転送<br>(Forward Unregistered External) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [未登録内線の不在転送<br>(Forward Unregistered Internal) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [回線グループ (Line Groups) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [コール最大数<br>(Maximum Number of Calls) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [MLPPコー<br>リングサー<br>チスペース<br>(MLPP<br>Calling<br>Search<br>Space) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [MLPP無応<br>答時の呼び<br>出し時間<br>(MLPP No<br>Answer Ring<br>Duration) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPPター<br>ゲット<br>(MLPP<br>Target) ]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ネットワー<br>ク保留音源<br>(Network<br>Hold Audio<br>Source) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                           |                                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] (続き) | [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           | [設定専用属性 (Set-only Attributes) ] :                                        |   |   |   |   |   |   |   |
|                                                           | • [コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           | • [説明 (Description) ]                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           | • [プレゼンスグループ (Presence Group) ]                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                           |                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                            |                                                                                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
|                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [不在転送のセカンダリコーディングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
|                            | [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                            | [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]                                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザサービス (User Services) ] | [Unified CM IM and Presenceのユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence) ]                                            | N | N | N | Y | Y | Y | Y |
|                            | [ホームクラスタ (Home Cluster) ]                                                                                                       | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                            | [UCサービスプロファイル (UC Service Profile) ]                                                                                            | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |

# ユニファイドメッセージプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性

表 50: ユニファイドメッセージプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性

| 製品グループ                 | プロビジョニング属性                                                  | Cisco Unity Express | Cisco Unity | Cisco Unity Connection |
|------------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------|-------------|------------------------|
| [ボイスメール (Voice Mail) ] | [代替ボイスメール内線番号 (Alternate Voicemail Extensions) ]            | N                   | Y           | Y                      |
|                        | [CUEユーザ設定テンプレート (CUE User Configuration Template) ]         | Y                   | N           | N                      |
|                        | [CUEボイスメール設定テンプレート (CUE Voicemail Configuration Template) ] | Y                   | N           | N                      |
|                        | [再同期MWIを有効にする (Enable ResyncMWI) ]                          | N                   | Y           | N                      |
|                        | [レガシーメールボックス (Legacy Mailbox) ]                             | N                   | Y           | N                      |
|                        | [スイッチID (Switch ID) ]                                       | N                   | Y           | N                      |
|                        | [リモートノードID (Remote Node ID) ]                               | N                   | Y           | N                      |



| 製品グループ                              | プロビジョニング属性                                                      | Cisco Unity Express | Cisco Unity | Cisco Unity Connection |
|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|---------------------|-------------|------------------------|
| [ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] | [UM無効時のサービスクラステンプレート (UM Disabling Class Of Service Template) ] | N                   | Y           | Y                      |
|                                     | [UM有効時のサービスクラステンプレート (UM Enabling Class Of Service Template) ]  | N                   | Y           | Y                      |
|                                     | [UM無効時の加入者テンプレート (UM Disabling Subscriber Template) ]           | N                   | Y           | Y                      |
|                                     | [UM有効時の加入者テンプレート (UM Enabling Subscriber Template) ]            | N                   | Y           | Y                      |

Unity Connection 10.x および上記バージョンでサポートされる [ボイスメール (Voicemail) ]属性についての詳細は、[ボイスメールサービスのオーダー](#)、(241 ページ) を参照してください。

# プレゼンスサーバのサポートされるプロビジョニング属性

表 51: プレゼンス サーバのサポートされるプロビジョニング属性

| 製品                                    | プロビジョニング属性                               | Cisco Unified Communications Manager |       |       |
|---------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|
|                                       |                                          | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x |
| [クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ] | [オーディオプロファイル (Audio Profile) ]           | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [CIPプロファイル (CIP Profile) ]               | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [CGIゲートウェイプロファイル (CTI Gateway Profile) ] | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [会議プロファイル (Conferencing Profile) ]       | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [LDAPプロファイル (LDAP Profile) ]             | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]      | Y                                    | Y     | Y     |



付録

# B

## インフラストラクチャ設定製品のフィールド

設定テンプレートを作成するには、インフラストラクチャ設定製品を設定テンプレートに追加する必要があります。

インフラストラクチャ設定テンプレートのすべてのフィールドが、すべてのバージョンの Cisco Unified Communications Manager に適用できるわけではありません。



(注) 手動でテキストを入力するインフラストラクチャ設定製品のフィールドではすべて、大文字と小文字が区別されます。

- [CTI ルート ポイント設定製品フィールド, 424 ページ](#)
- [コールパーク インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 426 ページ](#)
- [コールピックアップグループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 426 ページ](#)
- [コールサーチスペース インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 428 ページ](#)
- [共通デバイス設定製品のフィールド, 428 ページ](#)
- [Unity 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 429 ページ](#)
- [共通電話プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 430 ページ](#)
- [Unity Connection 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 455 ページ](#)
- [デバイスプール インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 456 ページ](#)
- [H323 ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 457 ページ](#)
- [ハントリスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 460 ページ](#)
- [ハントパイロット インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 461 ページ](#)
- [回線グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 464 ページ](#)

- ロケーション インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 465 ページ
- メディア リソース グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 466 ページ
- メディア リソース グループ リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 467 ページ
- ミートミー番号/パターン設定製品のフィールド, 467 ページ
- ルート グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 468 ページ
- ルート リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 469 ページ
- ルート パーティション インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 470 ページ
- ルート パターン インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 470 ページ
- サービス プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 473 ページ
- SIP トランク インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 477 ページ
- SIP プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 500 ページ
- SRST 参照先設定製品のフィールド, 511 ページ
- トランスレーションパターン インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 512 ページ
- Unified Call Manager Group インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 513 ページ
- UC サービス インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 514 ページ
- ボイス リージョン インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 525 ページ
- ボイスメールパイロット インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 526 ページ
- ボイスメール プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 526 ページ
- VG202、VG204、および VG 224 インフラストラクチャ設定製品のフィールド, 527 ページ

## CTI ルート ポイント 設定製品 フィールド

表 52: CTI ルート ポイント 設定製品 フィールド

| フィールド                    | 説明                                                                                                            |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]             | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                            |
| [説明 (Description) ]      | 説明 (オプション) 。                                                                                                  |
| [デバイスプール (Device Pool) ] | 使用可能なデバイスプールのリスト。デバイスプールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Unified CM グループ、日時グループ、リージョン、デバイスの自動登録用コーリングサーチスペースなど) を指定します。 |

| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]                         | 共通のデバイス設定 (ソフトキー テンプレートやユーザ ロケール など)。                                                                                                                                                                                |
| [コールサーチスペース (Call Search Space) ]                          | 収集された (発信側) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルート パーティションのコレクションを指定します。                                                                                                                                                        |
| [ロケーション (Location) ]                                       | このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。設定値の[なし (None) ]は、このルートポイントで使用される帯域幅がロケーション機能によって追跡されないことを意味します。                                                                                                                   |
| [電話番号 (Directory Numbers) ]                                | 電話番号を入力します。これらの電話番号は、Cisco Unified Communications Manager に存在していない必要があります。                                                                                                                                           |
| [電話番号のルートパーティション (Route Partition for Directory Numbers) ] | 使用可能なルート パーティション。                                                                                                                                                                                                    |
| [メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List) ]            | メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを提供します。アプリケーションは、[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List) ]で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (保留音サーバなど) を選択します。<br><br>このフィールドが空白の場合は、デバイス プールで定義されたメディア リソース グループが使用されます。 |
| [ユーザロケール (User Locale) ]                                   | 電話のユーザに関連付けられたユーザロケール。ユーザロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボードテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。                                                                                                                         |
| [ユーザ保留MOH音源 (User Hold MOH Audio Source) ]                 | ユーザが保留操作を開始したときに再生される保留音の音源。                                                                                                                                                                                         |
| [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source) ]                  | ネットワークが保留操作を開始したときに再生される音源。                                                                                                                                                                                          |

## コールパークインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 53: コールパーク インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                              | 説明                                                                                                 |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [番号/範囲<br>(Number/Range) ]         | コールパーク内線番号または番号の範囲を入力します。<br>(注) [コールパーク (Call Park) ]テンプレートを使用して、異なるパーティション内の同じ範囲の番号を追加することができます。 |
| [説明 (Description) ]                | 説明 (オプション) 。                                                                                       |
| [ルートパーティション<br>(Route Partition) ] | 使用可能なルートパーティションのリスト。                                                                               |
| [Unified CM]                       | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager のリスト。                                                   |

## コールピックアップグループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 54: コールピックアップグループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                              | 説明                   |
|------------------------------------|----------------------|
| [名前 (Name) ]                       | インフラストラクチャ設定製品の名前。   |
| [番号 (Number) ]                     | 一意の電話番号 (整数) 。       |
| [説明 (Description) ]                | 説明 (オプション) 。         |
| [ルートパーティション<br>(Route Partition) ] | 使用可能なルートパーティションのリスト。 |

| フィールド                                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側情報 (Calling Party Information) ]                                       | コールピックアップグループへの視覚的な通知メッセージに発信者の識別情報を含めます。この設定が適用されるのは、[コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy) ]が[ビジュアルアラート (Visual Alert) ]または[オーディオおよびビジュアルアラート (Audio and Visual Alert) ]に設定されている場合だけです。 |
| [使用可能なメンバのコールピックアップグループ (Available Member Call Pickup Groups) ]            | 使用可能なコールピックアップグループのリスト。コールピックアップグループは、電話番号とパーティションではなく、グループの名前順にリストされます。                                                                                                                                        |
| [コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy) ]             | コールピックアップグループの通知ポリシーを設定します。                                                                                                                                                                                     |
| [コールピックアップグループ通知タイマー(秒) (Call Pickup Group Notification Timer (seconds)) ] | コールがダイヤル先の端末に最初に着信してから、コールピックアップグループ内の他の端末に通知が送信されるまでの遅延時間を設定します。                                                                                                                                               |
| [電話番号情報 (Directory Number Info) ]                                          | ルートパーティションを示した電話番号のリスト。加入者に関連付けられているか、リンクされている電話番号だけをコールピックアップグループに追加できます。<br><br>(注) 一度に追加または削除 (あるいは、追加と削除の組み合わせ) ができる電話番号は、200 個までです。                                                                        |
| [着信側情報 (Called Party Information) ]                                        | コールピックアップグループへの視覚的な通知メッセージに着信側の識別情報を含めます。この設定が適用されるのは、[コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy) ]が[ビジュアルアラート (Visual Alert) ]または[オーディオおよびビジュアルアラート (Audio and Visual Alert) ]に設定されている場合だけです。 |

## コールサーチスペースインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 55: コールサーチスペースインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                           | 説明                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                    | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                                                                                                                             |
| [説明 (Description) ]                             | 説明 (オプション) 。                                                                                                                                                                                                   |
| [使用可能なルートパーティション (Available Route Partitions) ] | <p>使用可能なルートパーティションのリスト。ルートパーティションのリストは厳密には必要ありませんが、少なくとも1つの値を指定しておく必要があります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager にすでに存在しているルートパーティションを参照するか、このコーリングサーチスペースよりも前に同じ設定テンプレートでルートパーティションを定義している必要があります。</p> |

## 共通デバイス設定製品のフィールド

表 56: 共通デバイス設定製品のフィールド

| フィールド                                      | 説明                                        |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                               | インフラストラクチャ設定製品の名前。                        |
| [ソフトキーテンプレート (Softkey Template) ]          | Cisco IP Phone のソフトキーの設定を指定するソフトキーテンプレート。 |
| [ユーザ保留MOH音源 (User Hold MOH Audio Source) ] | ユーザが保留操作を開始したときに再生される保留音の音源。              |
| [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source) ]  | ネットワークが保留操作を開始したときに再生される音源。               |



| フィールド                             | 説明                                                                                           |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ユーザロケール (User Locale) ]          | 電話のユーザに関連付けられたユーザロケール。ユーザロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボードテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。 |
| [MLPP通知 (MLPP Indication) ]       | デバイスプール内の優先トーン再生機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを発信するときにその機能を使用するかどうかを指定します。                            |
| [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption) ] | デバイス プール内の、進行中のコールのプリエンプション機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを発信するときにその機能を使用するかどうかを指定します。                 |
| [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]         | このデバイスに関連付けられた Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメイン。                             |

## Unity同報リストインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 57: Unity 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                            | 説明                           |
|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| [エイリアス (Alias) ]                                                                 | 同報リストのエイリアス名。                |
| [表示名 (Display Name) ]                                                            | 同報リストの名前。                    |
| [内線 (Extension) ]                                                                | 電話システムが接続に使用する内線番号。          |
| [オーナー (Owner) ]                                                                  | 加入者または同報リスト用のコールハンドラの所有者。    |
| [オーナータイプ (Owner Type) ]                                                          | 所有者のタイプ。                     |
| [電子メールサーバのアドレス帳に同報リストを表示 (Show Distribution List in Email Server Address Book) ] | 電子メール サーバのアドレス帳に同報リストを表示します。 |

| フィールド                   | 説明                                                                                   |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| [メンバリスト (Member List) ] | 同報リストに関連付けられたメンバーのリスト。Alias/MemberTypeの形式を使用します。<br><br>(注) デフォルトのシステム同報リストは削除できません。 |

## 共通電話プロフィールインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 58: 共通電話プロフィールインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                               | 説明                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [共通の電話プロフィール情報 (Common Phone Profile Information) ] |                                                                                                                                                                  |
| [名前 (Name) ]                                        | 共通の電話プロフィールを識別する名前を入力します (たとえば、「CPP_7905」)。この値には、1～50文字 (英数字、ドット、ダッシュ、またはアンダースコアを含む) を指定できます。                                                                    |
| [説明 (Description) ]                                 | 共通の電話プロフィールの目的を指定します (たとえば「common phone profile for the 7905 phone」)。説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。 |
| [電話ロック解除パスワード (Local Phone Unlock Password) ]       | ローカル電話のロック解除に使用するパスワードを入力します。1～15文字を指定できます。                                                                                                                      |

| フィールド                                                                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [DND オプション (DND Option) ]                                                        | <p>電話でサイレント (DND) を有効にした場合、このパラメータでは、DND機能が着信コールをどのように処理するのか指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コール拒否 (Call Reject) ]: このオプションは、着信コール情報をユーザに提示しないようにします。[DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ]パラメータの設定に応じて、電話はビープを再生するか、コールの点滅通知を表示します。</li> <li>• [呼出音オフ (Ringer Off) ]: このオプションは、呼び出し音をオフにしますが、着信コール情報はデバイスに表示するので、ユーザはコールを受け付けることができます。</li> </ul> <p>(注) SCCP を実行している 7940/7960 電話の場合、選択できるのは [呼出音オフ (Ringer Off) ] オプションだけです。携帯デバイスとデュアルモード電話の場合、[コール拒否 (Call Reject) ] オプションのみを選択できます。携帯デバイスまたはデュアルモード電話で [DNDコール拒否 (DND Call Reject) ] をアクティブにすると、デバイスにコール情報が表示されません。</p> |
| [DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ]                                            | <p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off) ] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject) ] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話でコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [無効 (Disable) ]: このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off) ] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。[DNDコール拒否 (DND Call Reject) ] オプションの場合、コールアラートが表示されず、デバイスに情報が送信されません。</li> <li>• [ビープ音のみ (Beep Only) ]: このオプションは、着信コールがあると、電話のビープ音を再生します。</li> <li>• [フラッシュのみ (Flash Only) ]: このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話のフラッシュアラートだけが表示されます。</li> </ul>                                              |
| [背景イメージ設定へのアクセスの有効化 (Enable End User Access to Phone Background Image Setting) ] | <p>この共通の電話プロファイルを使用する電話のバックグラウンドイメージをエンドユーザが変更できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [機能管理ポリシー (Feature Control Policy) ]                     | [機能管理ポリシー (Feature Control Policy) ] の設定ですすでに設定されている機能管理ポリシーを選択することができます。                                                                                                                                                                                                                                         |
| [セキュアシェル情報 (Secure Shell Information) ]                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [セキュアシェルユーザ (Secure Shell User) ]                        | <p>セキュア シェル ユーザのユーザ ID を入力します。 Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングやデバッグを行うときにセキュア シェルを使用します。 TAC にお問い合わせください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が電話に SSH クレデンシャルを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p> |
| [セキュアシェルユーザのパスワード (Secure Shell User Password) ]         | <p>セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。 TAC にお問い合わせください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が電話に SSH パスワードを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>                                                                                      |
| [電話機のパーソナライゼーション情報 (Phone Personalization Information) ] |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

| フィールド                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization) ] | <p>[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization) ] 設定を使用すると、Cisco Unified Communications Widget の 1 つであり、電話の壁紙や呼び出し音のカスタマイズを可能にする Phone Designer と Cisco Unified IP Phone を連携できるようになります。</p> <p>[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization) ] ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [無効 (Disabled) ] : ユーザは、Phone Designer を使用して Cisco Unified IP Phone をカスタマイズできません。</li> <li>• [有効 (Enabled) ] : ユーザは、Phone Designer を使用して電話をカスタマイズできます。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウおよび [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ] ウィンドウの両方で [デフォルト (Default) ] を選択した場合は、[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization) ] エンタープライズパラメータの設定が使用されます。 [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ] ウィンドウで [デフォルト (Default) ] を選択したものの、[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウでは [デフォルト (Default) ] を選択しなかった場合は、[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで指定した設定が使用されます。</li> </ul> <p>電話ユーザが電話をカスタマイズできるようにするには、Phone Designer をインストールして設定する必要があります。 Phone Designer をインストールして設定する前に、Phone Designer と連携する Cisco Unified IP Phone モデルを識別します (Phone Designer のマニュアルを参照)。 Phone Designer の詳細については、Phone Designer のマニュアルを参照してください。</p> |

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line) ]                             | <p>ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オフ (Off) ] : 電話がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。</li> <li>• [オン (On) ] : 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line) ] サービスパラメータの設定を使用します。</li> </ul>                                                                                                                        |
| [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message) ] | <p>ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On) ] : 電話がアイドル状態の場合に電話のメッセージボタンを押すと、電話のプライマリ回線がボイスメッセージを受信するアクティブな回線になります。</li> <li>• [オフ (Off) ] : 電話がアイドル状態の場合、電話のメッセージボタンを押すと、ボイスメッセージが設定されている回線からボイスメッセージシステムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は常にボイスメッセージのある最初の回線を選択します。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザが [メッセージ (Messages) ] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されません。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message) ] サービスパラメータの設定を使用します。</li> </ul> |

| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [サービスのプロビジョニング (Services Provisioning) ]       | <p>このサービスを電話がどのようにサポートするのか、ドロップダウンリストで選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [内部 (Internal) ]: 電話の設定ファイルを使用して、サービスをサポートします。サービス URL がまだ更新されていないシスコ提供のデフォルトサービスには、このオプションまたは [両方 (Both) ] を選択します。サービス URL は <code>Application:Cisco/&lt;サービスの名前&gt;</code> という形式で表され、たとえば、<code>Application:Cisco/CorporateDirectory</code> のようになります。シスコの署名入りの Java MIDlet の場合は、設定ファイルでプロビジョニングされるため、[内部 (Internal) ] または [両方 (Both) ] を選択します。</li> <li>• [外部URL (External URL) ]: [外部URL (External URL) ] を選択すると、電話は電話の設定ファイルのサービスを無視し、サービス URL からサービスを取得します。サービスのサービス URL に独自の値を設定した場合は、[外部URL (External URL) ] または [両方 (Both) ] を選択する必要があります。[内部 (Internal) ] を選択すると、その設定した URL に関連付けられているサービスが電話で機能しません。</li> <li>• [両方 (Both) ]: [両方 (Both) ] を選択すると、電話は設定ファイルに定義されているサービスと、カスタム サービス URL から取得される外部アプリケーションの両方をサポートします。電話の設定ファイルからサービス情報を取得できる電話と、情報の取得にカスタム サービス URL だけを使用できる電話がネットワークにある場合は、[両方 (Both) ] を選択します。</li> </ul> |
| [VPN情報 (VPN Information) ]                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [VPNグループ (VPN Group) ]                         | <p>ドロップダウン リストから、電話の VPN グループを選択します。VPN グループの作成については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Virtual Private Network Configuration」の章を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [VPNプロフィール (VPN Profile) ]                     | <p>ドロップダウン リストから、電話の VPN プロファイルを選択します。VPN プロファイルの作成については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Virtual Private Network Configuration」の章を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration) ] |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [USBを無効にする (Disable USB) ]                     | <p>デバイスおよびドックの USB ポートを無効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[いいえ (False) ]</p> <p>(注) このパラメータを有効にするには、デバイスをリセットする必要があります。</p> |
| [背面USBポート (Back USB Port) ]                    | <p>電話の背面USBポートが有効になっているか無効になっているかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                      |
| [側面USBポート (Side USB Port) ]                    | <p>電話の側面USBポートが有効になっているか無効になっているかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                      |
| [USBクラスの有効化/無効化 (Enable/Disable USB Classes) ] | <p>電話のどのUSBクラスが有効になっているか無効になっているかを示します。</p> <p>デフォルト：[オーディオクラス (Audio Class) ]</p>                                                 |
| [SDIO]                                         | <p>電話の SDIO デバイスが有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                        |
| [Bluetooth]                                    | <p>電話の Bluetooth デバイスが有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                    |
| [Bluetoothプロファイル (Bluetooth Profiles) ]        | <p>電話のどのBluetoothプロファイルが有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[ハンドフリー (Handsfree) ]</p>                            |
| [Ciscoカメラ (Cisco Camera) ]                     | <p>電話の Cisco カメラが有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                        |



| フィールド                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] | <p>Power Save Plus 機能を有効にするには、電話をスケジュールに従ってオフにする日を選択します。Ctrl キーを押しながら Power Save Plus を使用する日をクリックすると、複数の日付を選択できます。デフォルトは無効です (選択されている日はありません)。Power Save Plus モードを使用すると、[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] と [電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ] フィールドで指定した期間に電話がオフになります。この期間は一般的に、組織の通常営業時間外に指定されます。Power Save Plus モードでは、電話をオンにする時刻になると電話が自動的にオンになります。このフィールドで日付を選択すると、e911 の考慮事項を示す通知メッセージが続けて表示されます。Power Save Plus を有効にすることによって、この通知で指定された条件に同意したことになります。</p> <p>Power Save Plus モード (以下、「モード」) が有効である間は、モードに設定されたエンドポイントは、緊急コールでは無効で、インバウンドコールの受信ができません。このモードを選択することにより、次の条項に同意したものと見なされます。(I) モードが有効である間、緊急コールとコールの受信用の代替方法を責任を持って用意する必要があります。(II) シスコはこのモードの選択に関して何の責任を負いません。このモードを有効にすることは、お客様の責任で行っていただきます。(III) コール、発信、およびその他について、このモードを有効にした場合の影響をユーザにすべて通知する必要があります。</p> |
| [オーディオアラートを有効にする (Enable Audible Alert) ]         | <p>このチェックボックスがオンになっている場合、[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] フィールドで指定された時刻の 10 分前にオーディオアラートを再生するように電話が設定されます。ユーザにオーディオアラートで知らせるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは無効になっています。このチェックボックスが表示されるのは、[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで1日以上が選択されている場合だけです。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [いいえ (False) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [EnergyWiseオーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides) ]                     | <p>このチェックボックスにより、電話に電源レベルの更新を送信するための EnergyWise ドメイン コントローラのポリシーを許可するかどうかを決定します。いくつかの条件が適用されます。1つ目に、[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] フィールドで1日以上を選択する必要があります。[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで日付が選択されていない場合、電話は、電話をオフにする EnergyWise の指示を無視します。2つ目に、[Unified CM の管理 (Unified CM Administration) ] での設定は、EnergyWise がオーバーライドを送信した場合でも、スケジュールどおり有効になります。たとえば、[ディスプレイをオフにする時刻 (Display Off Time) ] が 22:00 (午後 10 時) に設定されていると仮定すると、[ディスプレイをオンにする時刻 (Display On Time) ] フィールドの値は 06:00 (午前 6 時) となり、[Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] では1日以上が選択されています。EnergyWise が 20:00 (午後 8 時) に電話をオフにするように指示すると、この指示は、午前6時に設定された[電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ] まで有効となります (電話ユーザによる介入が発生しないと仮定した場合)。午前6時になると、電話はオンとなり、[Unified CM の管理 (Unified CM Administration) ] の設定による電力レベル変更の受信を再開します。電力レベルを電話で再び変更するには、EnergyWise が電力レベル変更コマンドを新たに再発行する必要があります。さらに、すべてのユーザ操作が有効になり、EnergyWise によって電話の電源がオフにされた後に、ユーザがソフトキーを押して選択すると、ユーザの操作の結果として電話がオンになります。デフォルトでは、オフになっています。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [いいえ (False) ]</p> |
| [EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain) ]                                   | <p>このフィールドは、電話が参加する EnergyWise ドメインを定義します。EnergyWise ドメインは、Power Save Plus 機能のために必要です。[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで日付を選択した場合は、EnergyWise ドメインも指定する必要があります。デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 127</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [EnergyWise エンドポイントのセキュリティシークレット (EnergyWise Endpoint Security Secret) ] | <p>このフィールドは、EnergyWise ドメイン内で通信に使用されるパスワード (共有秘密) を定義します。EnergyWise ドメインおよび共有秘密は、Power Save Plus 機能のために必要です。[Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで日付を選択した場合は、EnergyWise ドメインと共有秘密も指定する必要があります。デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 127</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

| フィールド                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ]               | <p>[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで選択された日付で、電話の電源が自動的にオンになる時刻を指定します。24 時間形式で時間を入力します。00:00 は午前 0 時を表します。たとえば、午前 7:00 (0700) に電話を自動的にオンにするには、07:00 と入力します。午後 2:00 (1400) に電話をオンにするには、14:00 と入力します。このフィールドが空白の場合、電話は午前 00 時に自動的にオンになります。</p> <p>デフォルト : 00:00<br/>最大長 : 5</p>                                                                                       |
| [電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ]              | <p>このフィールドは、[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで選択された日付で、電話の電源が自動的にオフになる時刻を指定します。時間:分の形式で時刻を入力します。このフィールドが空白の場合、電話は午前 0 時 (00:00) に自動的にオフになります。注 : [電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ] が空白 (または 00:00) で、[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] が空白 (または 24:00) の場合、電話は常にオンになり、EnergyWise によるオーバーライドの送信を許可しない限り、Power Save Plus 機能は事実上無効になります。</p> <p>デフォルト : 24:00<br/>最大長 : 5</p> |
| [電話オフのアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout) ] | <p>このフィールドは、デバイスが給電側機器 (PSE) に電源オフを要求するまでに、デバイスがアイドル状態になっている必要がある時間 (分単位) を表します。このフィールドの値は、次の場合に有効になります。- スケジュールに従って Power Save Plus モードになっていたデバイスが、ユーザの操作によって Power Save Plus モードを終了した場合。- 接続スイッチで電話が再びオンになった場合。- [電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] になったが、使用中の場合。単位は分です。デフォルトは 60 です。指定できる範囲は 20 ~ 1440 です。これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : 60<br/>最小値 : 20<br/>最大値 : 1440</p>                    |

| フィールド                                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ディスプレイ非点灯日 (Days Display Not Active) ]      | このフィールドで、バックライトをデフォルトでオフのままにする日を指定します。一般的に、米国企業では[土曜日 (Saturday) ]と[日曜日 (Sunday) ]が指定されます。[土曜日 (Saturday) ]と[日曜日 (Sunday) ]をデフォルトにする必要があります。リストにはすべての曜日が含まれています。バックライトを土曜日と日曜日にオフにするには、ユーザはCtrlキーを押しながら[土曜日 (Saturday) ]と[日曜日 (Sunday) ]を選択します。   |
| [ディスプレイ点灯継続時間 (Display On Duration) ]        | プログラムされた時刻にディスプレイがオンになった後、ディスプレイのアクティブな状態を保つ時間の長さを示します。値を指定しない場合は、その日の終わりを示します。最大値は24時間です。この値は、自由形式の時間と分です。「1:30」を指定すると、1時間30分だけディスプレイがアクティブになります。<br>デフォルト : 10:30<br>最大長 : 5                                                                    |
| [ディスプレイ放置時自動消灯 (Display Idle Timeout) ]      | ユーザ操作によってディスプレイがオンになった後、ディスプレイをオフにするまでの時間の長さを示します。この非アクティブタイマーは、ユーザのアクティビティ中、継続的にリセットされます。このフィールドを空白にした場合、事前に決定されたデフォルト値である1時間が電話で使用されます。最大値は24時間です。この値は、自由形式の時間と分です。「1:30」を指定すると、非アクティブ状態が1時間30分続いた後でディスプレイがオフになります。<br>デフォルト : 01:00<br>最大長 : 5 |
| [着信コール時に点灯 (Display On When Incoming Call) ] | デバイスがスクリーンセーブモードの場合にこの機能を有効にすると、コールを着信した時点でディスプレイがオンになります。これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [有効 (Enabled) ]                                                                                                                                                |
| [着信コールトーストタイマー (Incoming Call Toast Timer) ] | このパラメータは、トーストタイマーで新しい着信コール通知を表示する最大時間 (秒単位) を指定します。これは必須フィールドです。<br>デフォルト : 5                                                                                                                                                                     |
| [ミュート機能の有効化 (Enable Mute Feature) ]          | ミュート機能を有効にし、7906/7911 でミュート ソフトキーを使用できるようにします。これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ]                                                                                                                                                             |

| フィールド                                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [参加および直接転送ポリシー (Join And Direct Transfer Policy) ]            | <p>このフィールドは、同じ回線および異なる回線での参加および直接転送のポリシーを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[同一回線、回線全体で有効 (Same line, across line enable) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [G.722およびiSACコーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codecs) ] | <p>Cisco Unified IP Phone が G.722 オーディオコーデックを Cisco Unified CallManager にアドバタイズするかどうかを示します。コーデックのネゴシエーションでは、次の 2 つの手順が実行されます。最初に電話がサポートされるコーデックを Cisco Unified CallManager にアドバタイズします (すべてのエンドポイントが同じコーデックのセットをサポートしているわけではありません)。次に、Cisco Unified CallManager が、コール試行に関連するすべての電話からサポートされるコーデックのリストを取得すると、リージョンペア設定などのさまざまな要因に基づいて一般にサポートされるコーデックが選択されます。有効な値は、[システムデフォルトを使用 (Use System Default) ] (電話は、[G.722コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 Codec) ] エンタープライズパラメータで指定された設定に従う)、[無効 (Disabled) ] (電話は G.722 を Cisco Unified CallManager にアドバタイズしない)、または [有効 (Enabled) ] (電話は G.722 を Cisco Unified CallManager にアドバタイズする) です。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[システムデフォルトを使用 (Use System Default) ]</p> |
| [ビデオコール (Video Calling) ]                                     | <p>有効な場合は、必要な機能を持った PC に接続されたときに、電話でビデオコールを使用するかどうかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [Wifi]                                                        | <p>電話上の Wi-Fi が有効になっているか、無効になっているかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [PCポート (PC Port) ]                                            | <p>電話の PC ポートが有効であるか、無効であるかを示します。電話の背面にある「10/100 PC」というラベルのポートは、ネットワーク接続を共有するために、PC またはワークステーションと電話を接続します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

| フィールド                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [PCポートへのスパン (Span to PC Port) ]                      | <p>電話において、電話ポートで送受信したパケットを PC ポートへ転送するかどうかを指定します。診断目的で使用されるモニタリングと記録用のアプリケーション（コールセンター環境で共通）や、ネットワークパケットキャプチャツールなど、IPPhoneのトラフィックのモニタリングを必要とするアプリケーションが PC ポート上で実行されている場合は、[有効 (Enabled) ]を選択します。この機能を使用するには、[PCの音声VLANへのアクセス (PC Voice VLAN Access) ]を有効にする必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                            |
| [PCの音声VLANへのアクセス (PC Voice VLAN Access) ]            | <p>電話の PC ポートに接続されたデバイスから音声 VLAN へのアクセスを許可するかどうかを指定します。音声 VLAN へのアクセスを無効にすると、接続されている PC で音声 VLAN 上のデータを送受信できなくなります。また、電話によって送受信されたデータを PC で受信することもできなくなります。電話のトラフィックのモニタリングを必要とするアプリケーションが PC 上で実行されている場合は、[有効 (Enabled) ]を選択してください。これらには、モニタリングおよび録音アプリケーション、分析のためのネットワークモニタリングソフトウェアの使用が含まれます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p> |
| [PCポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration) ]       | <p>電話の PC ポート速度とデュプレックスのリモート設定を許可します。この設定は電話の手動設定よりも優先されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                     |
| [スイッチポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration) ] | <p>電話のスイッチポート速度とデュプレックスのリモート設定を許可します。この設定は電話の手動設定よりも優先されます。このポートの設定により、電話のネットワーク接続が失われる場合があることに注意してください。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                        |
| [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization) ]          | <p>電話で PC ポートおよび SW ポートを同じ速度とデュプレックスに同期することを有効にします。自動ネゴシエーション用に設定されているポートのみが速度を変更します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                           |

| フィールド                                                                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Cisco Discovery Protocol (CDP) - スイッチポート (Cisco Discovery Protocol (CDP) Switch Port) ]        | <p>管理者が、スイッチポート上で Cisco Discovery Protocol (CDP) を有効または無効に設定できるようにします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p> <p>(注) この電話がシスコ以外のスイッチに接続されている場合のみ、ネットワークポート上の CDP を無効にする必要があります。詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』を参照してください。</p>                        |
| [Cisco Discovery Protocol (CDP) - PCポート (Cisco Discovery Protocol (CDP) PC Port) ]              | <p>管理者が、PCポート上で Cisco Discovery Protocol (CDP) を有効または無効に設定できるようにします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p> <p>(注) PCポート上で CDP を無効にすると、Cisco VT Advantage/Unified Video Advantage がこの電話上で適切に機能しなくなります。詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』を参照してください。</p> |
| [LLDP-MED - スイッチポート (LLDP-MED-Switch Port) ]                                                    | <p>Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : スイッチポート：管理者は、スイッチポート上の Link Layer Discovery Protocol (LLDP-MED) を有効または無効にできます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                  |
| [Link Layer Discovery Protocol (LLDP) - PCポート (Link Layer Discovery Protocol (LLDP)- PC Port) ] | <p>管理者は、PCポート上で Link Layer Discovery Protocol (LLDP) を有効または無効にできます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                     |
| [LLDPアセットID (LLDP Asset ID) ]                                                                   | <p>管理者は、Link Layer Discovery Protocol 用のアセット ID を設定できます。</p> <p>最大長：32</p>                                                                                                                                                                                                                                    |
| [LLDP電源優先度 (LLDP Power Priority) ]                                                              | <p>管理者は、Link Layer Discovery Protocol 用の電源優先度を設定できます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[不明 (Unknown) ]</p>                                                                                                                                                                                                   |

| フィールド                                                  | 説明                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ]                      | 管理者は、電力ネゴシエーションを有効または無効にできます。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[有効 (Enabled) ]                                                                             |
| [802.1X認証 (802.1x Authentication) ]                    | 802.1x 認証機能のステータスを指定します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[ユーザ制御 (User Controlled) ]                                                                       |
| [FIPSモード (FIPS Mode) ]                                 | このパラメータは、電話の連邦情報処理標準 (FIPS) モードを設定します。このオプションが有効な場合、電話は FIPS 140-2 レベル 1 準拠のデバイスです。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[無効 (Disabled) ]                      |
| [80ビットSRTP (80-bit SRTP) ]                             | SRTP の 80 ビット認証タグを有効にします。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[無効 (Disabled) ]                                                                                |
| [常にVPN (Always on VPN) ]                               | 常にデバイスが VPN AnyConnect クライアントを起動し、Cisco Unified Communications Manager の設定済みの VPN プロファイルで接続を確立するかどうかを示します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[いいえ (False) ] |
| [ユーザ定義VPNプロファイルの許可 (Allow User-Defined VPN Profiles) ] | このパラメータは、ユーザが AnyConnect VPN Client を使用して VPN プロファイルを作成できるかどうかを制御します。無効にすると、ユーザは VPN プロファイルを作成できません。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[はい (True) ]         |



| フィールド                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [スクリーンロック必須 (Require Screen Lock) ]                   | <p>デバイス上で画面のロックが必要かどうかを示します。[ユーザ制御 (User Controlled) ]が選択された場合、デバイスは暗証番号またはパスワードの入力を求めません。[暗証番号 (PIN) ]または[パスワード (Password) ]のオプションでは、画面のロックを解除するためのパスワードを入力する必要があります。[暗証番号 (PIN) ]は数字のパスワードで、少なくとも4桁の長さが必要です。[パスワード (Password) ]はアルファベットのパスワードで、少なくとも4文字で構成され、1文字は数字以外、1文字は大文字にする必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[暗証番号 (PIN) ]</p> |
| [スクリーンロックタイムアウト (Screen Lock Timeout) ]               | <p>デバイスによって画面が自動的にロックされるまでの最大アイドル時間を秒単位で示します。画面がロックされると、画面のロックを解除する際にユーザパスワードが要求されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：600</p> <p>最小値：15</p> <p>最大値：1800</p>                                                                                                                                                                                  |
| [オーディオコール中にデバイスをロック (Lock Device During Audio Call) ] | <p>デバイスが充電中状態で、アクティブなボイスメールが進行中の場合、管理者は、スクリーンロック暗証番号の強制タイマーをオーバーライドして、オーディオコール中に画面をアクティブなままにすることができます。スクリーンロックタイマーは、オーディオコールが完了し、タイマーの時間を超過した後で有効になります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                 |
| [Kerberosサーバ (Kerberos Server) ]                      | <p>Web プロキシ Kerberos の認証サーバ。</p> <p>最大長：256</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [Kerberosレルム (Kerberos Realm) ]                       | <p>Web プロキシ Kerberos のレルム。</p> <p>最大長：256</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

| フィールド                                                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Unified CMの接続障害の検出 (Detect Unified CM Connection Failure) ]                                        | <p>このフィールドは、電話アプリケーションで Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) への接続エラーを検出するための感度を指定します。これは、デバイスのバックアップ Unified CM/SRST へのフェールオーバーが発生する前に最初に実行されません。有効な値は、[標準 (Normal) ] (標準のシステムレートで Unified CM 接続エラーの検出を実行) または [遅延 (Delayed) ] (標準より約 4 倍遅いレートで Unified CM 接続エラーの検出を実行) です。Unified CM 接続エラーの高速認識のためには、[標準 (Normal) ] を選択します。接続を再確立できるようにするためにフェールオーバーを少し遅らせる場合は、[遅延 (Delayed) ] を選択します。[標準 (Normal) ] と [遅延 (Delayed) ] の接続エラー検出の正確な時間の差は、常に変化する多数の変数に応じて異なります。これは、有線のイーサネット接続にのみ適用されます。デフォルトは [標準 (Normal) ] です。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [標準 (Normal) ]</p> |
| [TCP ドロップまたはローミング後のシームレスな再接続の待機時間 (Time to Wait for Seamless Reconnect After TCP Drop or Roaming) ] | <p>元の TCP 接続が切断された後に、キープアライブ登録を使用して新しい TCP 接続を確立するための猶予時間を示します。値が 0 に設定された場合、[シームレスな再接続 (Seamless Reconnect) ] は無効になります。</p> <p>デフォルト : 5</p> <p>最小値 : 0</p> <p>最大値 : 300</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ロードサーバ (Load Server) ]                                                                             | <p>電話が、定義されている TFTP サーバではなく、代替サーバを使用して、ファームウェアロードとアップグレードを取得することを示します。このオプションでは、ファームウェアのアップグレードに使用されるローカルサーバを指定して、特に WAN を介したアップグレードの場合に、インストール回数を減らすことができます。サーバのホスト名または IP アドレスを入力します (標準の IP アドレス形式を使用します)。指定されるサーバは TFTP サービスを実行している必要があり、TFTP パスにロードファイルが必要です。ロードファイルが見つからない場合、ロードがインストールされません。電話は TFTP サーバにリダイレクトされません。このフィールドが空白のままの場合、電話は指定された TFTP サーバを使用してロードファイルおよびアップグレードを取得します。</p> <p>最大長 : 256</p>                                                                                                                                                                      |

| フィールド                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [IPv6ロードサーバ (IPv6 Load Server) ]       | <p>電話が、定義されている TFTP サーバではなく、代替の IPv6 サーバを使用して、ファームウェアロードとアップグレードを取得することを示します。このオプションでは、ファームウェアのアップグレードに使用されるローカル IPv6 サーバを指定して、特に WAN を介したアップグレードの場合に、インストール回数を減らすことができます。サーバのホスト名または IPv6 アドレスを入力します（標準の IPv6 アドレス形式を使用します）。指定されるサーバは TFTP サービスを実行している必要があり、TFTP パスにロードファイルが必要です。ロードファイルが見つからない場合、ロードがインストールされません。電話は TFTP サーバにリダイレクトされません。このフィールドが空白のままの場合、電話は指定された TFTP サーバを使用してロードファイルおよびアップグレードを取得します。</p> <p>最大長：25</p> |
| [ピアファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing) ] | <p>PPID。サブネット内の 1 台の電話がイメージファームウェアファイルを取得し、それを各ピアに配布できるようにするためのピアツーピアイメージ配信を有効または無効にします。これによって TFTP 帯域幅が減少し、ファームウェアのアップグレード時間が短縮されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                   |
| [ログサーバ (LogServer) ]                   | <p>ログメッセージの送信先となるリモートシステムの IP アドレスとポートを指定します。形式は次のようになります。</p> <p>最大長：32</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [HTTPSサーバ (HTTPS Server) ]             | <p>管理者は、[Webアクセス (Web Access) ] が有効になっている場合に HTTP と HTTPS または HTTPS のみの接続を許可することができます。これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[httpとhttpsが有効 (http and https Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [Webアクセス (Web Access) ]                | <p>このパラメータは、電話が Web ブラウザからの接続を許可するか、または別の HTTP クライアントからの接続を許可するかどうかを示します。電話の Web サーバ機能を無効にすると、電話の内部 Web ページへのアクセスはブロックされます。これらのページは、統計情報と設定情報を提供します。QRT (品質レポートツール) などの機能は、電話の Web ページにアクセスできないと正しく機能しません。この設定は、CiscoWorks 2000 などの Web アクセスに依存するサービスアビリティアプリケーションにも影響します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                             |

| フィールド                                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [設定へのアクセス (Settings Access) ]                                     | <p>電話の [設定 (Settings) ] ボタンにアクセスできるかどうかを示します。 [設定へのアクセス (Settings Access) ] が有効になっている場合、電話のネットワーク設定、呼出音タイプ、および音量を変更できます。 [設定へのアクセス (Settings Access) ] が無効になっている場合、 [設定 (Settings) ] ボタンは完全に無効になり、ボタンを押してもオプションは表示されません。さらに、呼出音の音量を調節することも、音量の設定を保存することもできません。デフォルトでは、 [設定へのアクセス (Settings Access) ] は有効になっています。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p> |
| [SSHアクセス (SSH Access) ]                                           | <p>このパラメータは、デバイスが SSH 接続を受け入れるかどうかを示します。デバイスの SSH サーバ機能を無効にすると、デバイスへのアクセスはブロックされます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                             |
| [呼出音ロケール (Ring Locale) ]                                          | <p>IP Phone は、オンネット/オフネットまたは回線ベースで呼出音を区別しますが、呼出音のリズムは固定されおり、米国の標準のみに基づいています。米国標準の呼出音のリズムは、日本の標準の逆です。日本の呼出音のリズムをサポートするには、 [呼出音ロケール (Ring Locale) ] に従って呼出音のリズムを設定する必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [デフォルト (Default) ]</p>                                                                                                                                    |
| [Android Debug Bridge (ADB) (Android Debug Bridge or ADB) ]       | <p>デバイス上で Android Debug Bridge (ADB) を有効または無効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [不明な提供元からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Unknown Sources) ] | <p>URL から、あるいは電子メール、インスタントメッセージ (IM) 、または Secure Digital (SD) カード経由で受け取った Android パッケージ (APK) から、ユーザが Android アプリケーションをデバイス上にインストールできるかどうかを制御します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                               |

| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Android Marketからのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Android Market) ] | Google の Android Market からユーザが Android アプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ]                                                                      |
| [Cisco AppHQからのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Cisco AppHQ) ]       | Cisco AppHQ からユーザが Android アプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ]                                                                                  |
| [AppHQドメイン (AppHQ Domain) ]                                              | ユーザが AppHQ にログインする際に使用される完全修飾ドメイン名。空の場合、ユーザは、各自のドメイン名をユーザ名と一緒に指定します。 [AppHQドメイン (AppHQ Domain) ] は、指定されたカスタムの AppHQ ストアが存在する場合に、ユーザをそのストアに関連付けるために使用されます。例 : cisco.com。<br>最大長 : 256 |
| [Cisco UCMアプリケーションクライアントを有効にする (Enable Cisco UCM App Client) ]           | アプリケーションクライアントがデバイス上で動作するかどうかを制御します。アプリケーションクライアントが有効な場合、Cisco Unified Communications Manager からインストールするアプリケーションを選択できます。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ]                  |
| [企業写真ディレクトリ (Company Photo Directory) ]                                  | デバイスがユーザをクエリーし、そのユーザに関連付けられている画像を取得することができる URL を指定します。<br>最大長 : 256                                                                                                                 |
| [ボイスメールサーバ(プライマリ) (Voicemail Server (Primary)) ]                         | プライマリ メールストア ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレス。<br>最大長 : 256                                                                                                                                |
| [ボイスメールサーバ(バックアップ) (Voicemail Server (Backup)) ]                         | バックアップ メールストア ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレス。<br>最大長 : 256                                                                                                                               |
| [プレゼンスおよびチャットサーバ(プライマリ) (Presence and Chat Server (Primary)) ]           | プライマリ プレゼンス サーバのホスト名または IP アドレス。<br>最大長 : 256                                                                                                                                        |

| フィールド                                                                            | 説明                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プレゼンスおよびチャットサーバタイプ (Presence and Chat Server Type) ]                            | [プレゼンスおよびチャットサーバタイプ (Presence and Chat Server Type) ] フィールドで指定されたサーバのタイプを示します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [Cisco WebEx Connect]                                  |
| [プレゼンスとチャットのシングルサインオン(SSO)ドメイン (Presence and Chat Single Sign-On (SSO) Domain) ] | 企業に対するシングルサインオン (SSO) 認証を実施するために Cisco WebEx Connect Cloud で使用されるエンタープライズドメイン。<br>最大長 : 256                                                                       |
| [PSTNモード (FIPS Mode) ]                                                           | IP Phone 6921/6941/6961 の PSTN モードを有効にします。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [無効 (Disabled) ]                                                                           |
| [背景イメージ (Background Image) ]                                                     | このパラメータは、デフォルトの壁紙ファイルを指定します。このパラメータが有効な場合、管理者のみが電話の壁紙リストに対するエンドユーザアクセスを無効にします。<br>最大長 : 64                                                                        |
| [簡易発信UI (Simplified New Call UI) ]                                               | このパラメータは、電話がオフフックのときに簡易発信UIスタイルを使用するかどうかを指定します。新しい発信ウィンドウを選択するユーザは、簡易発信セッションを優先するユーザが使用するのと同時に引き続きその方法を使用できます。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [無効 (Disabled) ]       |
| [すべてのコールに戻る (Revert to All Calls) ]                                              | 有効な場合に、コールがプライマリ回線またはすべてのコール以外のフィルタが適用されていると、コールの終了後に電話は[すべてのコール (All Calls) ]に戻ります。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [無効 (Disabled) ]                                 |
| [ビデオのRTCP (RTCP for Video) ]                                                     | RTP 統計とリップシンクを目的として、ビデオとオーディオの RTP ストリームの両方で RTCP が有効になります。これが無効になっている場合、ビデオのリップシンクは、フリーランモードを利用します。<br>これは必須フィールドです。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [有効 (Enabled) ] |

| フィールド                                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [リリースボタンからダイヤルトーンを提供 (Provide Dial Tone from Release Button) ] | <p>リリースボタンを押したときにダイヤルトーンを提供するかどうかを示します。値が [はい (True) ] で、[オフフックダイヤル/リングアウト/接続済み (Off Hook Dialing/Ringing Out/Connected) ] 状態の場合は、リリースボタンが押された後に新しいコールウィンドウが表示されます。[すべてのコールに戻る (Revert to All Calls) ] 機能が有効な場合は、[ダイヤルトーン (Dial Tone) ] 機能の前にアクティブにする必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ]                       | <p>[デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ] が有効になっている場合は、デフォルトで、柔軟にビデオウィンドウを非表示にすることができます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [無効 (Disabled) ]</p> <p>[デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ] 機能が有効になっている場合、最初、ビデオコールでビデオウィンドウが非表示になります。[ビデオの自動送信 (Auto Transmit Video) ] がオンの場合、ビデオが相手側に送信されている間、電話のディスプレイに、[ビデオの非表示 (Hide Video View) ] が表示されます。これにより、エンドユーザがビデオコールと音声コールを区別しにくくなる場合があります。[デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ] の利点は、ユーザがビデオをミュートしたりカメラのシャッターを閉じたりすることが多い職場の環境で、エンドユーザの電話に黒い「ミュート」ボックスではなく、オーディオコール画面を表示できることです。カメラを開いて有効にし、ミュートしないことが多い職場環境では、[デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ] は推奨されません。影響を考慮し、電話ユーザに十分な情報を知らせてください。</p> |

| フィールド                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ] | <p>このフィールドは、VXC VPNがどのようにサポートされるかを示します。[デュアルトンネル (Dual Tunnel) ]が選択されている場合、電話は電話用と VXC デバイス用の 2 つの VPN トンネルを確立します。[シングルトンネル (Single Tunnel) ]が選択されている場合、電話は、電話用の 1 つの VPN トンネルのみと共有のための VXC デバイスを確立します。[デュアルトンネル (Dual Tunnel) ]: デフォルト設定の動作モードは2つのトンネルのモードです。これにより、89/99xx の音声およびビデオ サービスで最高のサービス品質が得られます。最高の音声/ビデオ品質が必要な場合は、デュアル VPN トンネル ソリューションをお勧めします。</p> <p>2つのVPNトンネルを使用することで、ホストのCisco IP Phoneは、VXC VPN トンネルに関連付けられたデータよりも、電話の音声/ビデオ機能に関連付けられたデータにCPUとメモリリソースを優先的に提供することができます。この方法では、電話の音声/ビデオVPN用およびVXC VPN用の2つの手動ログインエントリ (セキュリティパラメータに依存する) が必要です。2つのトンネルのアプローチには、2つのVPNコンセントレータポートと2つのIPアドレスも必要です。これによりコストが増加する可能性があります。</p> <p>[シングルトンネル (Single Tunnel) ]: 1つのVPNトンネルのオプションは、音声/ビデオの品質を多少犠牲にしても簡素化された操作モデルを選ぶユーザ向けの実装です。このソリューションでは、使用可能な89/99xxプロセッサとメモリリソースを音声、ビデオ、およびVDIサービスで共有することで1つのVPNトンネルを使用して動作します。IP Phoneは、サービスごとにデータ処理の優先度を設定することができません。結果として、IP Phoneの音声/ビデオのメディア処理のパフォーマンスが低下し、IP Phone CPUのロードのためにPhone UI機能が低下する可能性があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [デュアルトンネル (Dual Tunnel) ]</p> |



| フィールド                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [VXCチャレンジ (VXC Challenge) ]                                         | <p>このフィールドは、VXCデバイスのチャレンジを行うかどうかを示します。1) [チャレンジ (Challenge) ]が選択されている場合は、VXCデバイスのチャレンジを行います。[シングルトンネル (Single Tunnel) ]の[VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ]の場合、Phone VPN トンネルが切断され、[Phone VPN ログイン (Phone VPN Sign In) ]ウィンドウが表示され、ユーザがクレデンシャルを入力して Phone VPN トンネルを再確立します。[デュアルトンネル (Dual Tunnel) ]の[VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ]の場合、[VXC VPN ログイン (VXC VPN Sign In) ]ウィンドウが表示され、ユーザがクレデンシャルを入力して VXC VPN トンネルを再確立します。2) [チャレンジなし (No Challenge) ]が選択されている場合、VXCチャレンジがバイパスされます。[シングルトンネル (Single Tunnel) ]の[VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ]の場合、VXC チャレンジなしでVXC トラフィックの電話 VPN 経由の送信が静的に許可されます。[デュアルトンネル (Dual Tunnel) ]の[VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ]の場合、VXC VPN トンネルの再確立のために Phone VPN トンネルのクレデンシャルが再利用されます。デフォルトでは、[チャレンジ (Challenge) ]が使用されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [チャレンジ (Challenge) ]</p> |
| [VXC-Mサーバ (VXC-M Servers) ]                                         | <p>VXC 管理サーバの IP アドレスのカンマ区切りのリスト。</p> <p>最大長 : 255</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [共有回線からコールログを記録 (Record Call Log from Shared Line) ]                | <p>このフィールドは、共有回線からコールログを記録するかどうかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [ファイル転送でブロックするURL (URLs to Block in File Transfer) ]                | <p>ファイル転送でブロックする URL のセミコロン区切りのリスト。</p> <p>デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 1024</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [テザリングされたデスク電話を自動的に制御 (Automatically Control Tethered Desk Phone) ] | <p>有効の場合、クライアントはテザリングされたデスクトップ電話を自動的に制御します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

| フィールド                                                                                            | 説明                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [機能の拡張と接続<br>(Extend and Connect<br>Capability) ]                                                | クライアントの機能の拡張と接続が有効かどうかを示します。これを使用して、クライアントは、サードパーティのPBX、PSTN、および他のリモート電話でコールをモニタリングおよび制御できるようになります。<br><br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[有効 (Enabled) ] |
| [連絡先の写真の表示<br>(Display Contact Photos) ]                                                         | クライアントで、連絡先の写真の取得および表示が有効であるか、無効であるかを示します。<br><br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[有効 (Enabled) ]                                                          |
| [電話帳での番号検索<br>(Number Lookups on<br>Directory) ]                                                 | クライアントでの社内ディレクトリを使用した電話番号の検索が有効であるか、無効であるかを示します。<br><br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[有効 (Enabled) ]                                                    |
| [Jabber For Windowsソフト<br>ウェア更新サーバURL<br>(Jabber For Windows<br>Software Update Server<br>URL) ] | ユーザが [Jabberの更新 (Update Jabber) ] リンクを選択したときに、Jabber For Windowsクライアントが使用するソフトウェア更新サーバのURL。デフォルトは空白です。<br><br>最大長：1024                            |
| [分析収集 (Analytics<br>Collection) ]                                                                | クライアントでの分析収集が有効であるか、無効であるかを示します。<br><br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト：[無効 (Disabled) ]                                                                   |
| [問題レポートサーバURL<br>(Problem Report Server<br>URL) ]                                                | クライアントによって使用される問題レポートサーバのURL。デフォルトは空白です。<br><br>最大長：1024                                                                                          |
| [分析サーバURL<br>(Analytics Server URL) ]                                                            | クライアントによって使用される分析サーバのURL。デフォルトは空白です。<br><br>最大長：1024                                                                                              |

| フィールド                                 | 説明                                                                                                           |
|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [シスコサポートフィールド (Cisco Support Field) ] | クライアントによって展開サポートに使用されるカスタム設定のセミコロン区切りのリスト。このフィールドは、Cisco サポート担当者のサポートがある場合のみ使用してください。デフォルトは空白です。<br>最大長：1024 |

## Unity Connection 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 59 : Unity Connection 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                           | 説明                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [エイリアス (Alias) ]                                                | 同報リストのエイリアス名。                                                                                                                                                                            |
| [表示名 (Display Name) ]                                           | 同報リストの名前。                                                                                                                                                                                |
| [内線 (Extension) ]                                               | 電話システムが接続に使用する内線番号。                                                                                                                                                                      |
| [パーティション (Partition) ]                                          | ユーザまたは外部発信者が到達可能な同報リストの範囲の定義に使用するパーティション。                                                                                                                                                |
| [連絡先を許可する (Allow Contacts) ]                                    | 連絡先を同報リストのメンバーに追加できるかどうかを指定します。                                                                                                                                                          |
| [外部のシステムからのメッセージを受け入れる (Accept Messages from Foreign Systems) ] | VPIM ロケーションとして構成されたリモートボイスメッセージングシステム上のユーザは、この同報リストにメッセージを送信できます。                                                                                                                        |
| [メンバリスト (Member List) ]                                         | 同報リストに関連付けられたユーザのリスト。Alias/MemberType の形式を使用します。<br>一度に 200 メンバーのみ追加、修正、または削除できます。<br>パフォーマンスを向上させるために、それぞれ 500 メンバーを持つ、最大で 20 の同報リストを推奨しています。500 を超えるメンバーを管理する場合には、ネストされた同報リストを推奨できません。 |

# デバイス プール インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 60: デバイス プール インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                           | 説明                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                                    | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                                                                                                                          |
| [Cisco Unified CMグループ (Cisco Unified CM Group) ]                | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager グループのリスト。                                                                                                                                                        |
| [日時グループ (Date/Time Group) ]                                     | このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日時グループ。                                                                                                                                                                               |
| [リージョン (Region) ]                                               | このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager リージョン。                                                                                                                                          |
| [ソフトキーテンプレート (Softkey Template) ]                               | Cisco IP Phone のソフトキーの設定を指定するソフトキー テンプレート。                                                                                                                                                                  |
| [SRST参照先 (SRST Reference) ]                                     | このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先。                                                                                                                                         |
| [自動生成用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-Generation) ] | このデバイス プール内のデバイスに割り当てる、Cisco Unified Communications Managerに自動登録されるコーリングサーチスペース。                                                                                                                            |
| [ローカルルートグループ (Local Route Group) ]                              | 使用可能なローカル ルート グループのリスト。                                                                                                                                                                                     |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]                  | メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを提供します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (保留音サーバなど) を選択します。このフィールドが空白の場合は、デバイス プールで定義されたメディア リソース グループが使用されます。 |
| [ネットワーク保留MOH音源 (Network Hold MOH Audio Source) ]                | ネットワークが保留操作を開始したときに再生される音源。                                                                                                                                                                                 |

| フィールド                                      | 説明                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ユーザ保留MOH音源 (User Hold MOH Audio Source) ] | ユーザが保留操作を開始したときに再生される保留音の音源。                                                                                                                       |
| [ネットワークロケール (Network Locale) ]             | 電話とゲートウェイに関連付けられたロケール。                                                                                                                             |
| [ユーザロケール (User Locale) ]                   | 電話のユーザに関連付けられたユーザロケール。ユーザロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボードテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。                                                       |
| [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration) ]   | IP Phone が SRST から登録解除されて Cisco Unified Communications Manager に再登録されるまでの時間を定義します。この間、IP Phone は Cisco Unified Communications Manager への接続をモニタします。 |
| [MLPP通知 (MLPP Indication) ]                | デバイスプール内の優先トーン再生機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを発信するときにその機能を使用するかどうかを指定します。                                                                                  |
| [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption) ]          | デバイス プール内の、進行中のコールのプリエンプション機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを発信するときにその機能を使用するかどうかを指定します。                                                                       |
| [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]                  | このデバイスに関連付けられた Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメイン。                                                                                   |

## H323 ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 61 : H323 ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド               | 説明                 |
|---------------------|--------------------|
| [名前 (Name) ]        | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |
| [説明 (Description) ] | 説明 (オプション) 。       |

| フィールド                                                                  | 説明                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [デバイスプール (Device Pool) ]                                               | 使用可能なデバイスプールのリスト。デバイスプールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Unified CM グループ、日時グループ、リージョン、デバイスの自動登録用コーリングサーチスペースなど) を指定します。 |
| [コールの分類 (Call Classification) ]                                        | このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet) ]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet) ]) と見なされるのかを示します。              |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]                         | メディアリソースグループの優先順位付けされたリストを提供します。                                                                              |
| [ロケーション (Location) ]                                                   | このデバイスのロケーション。                                                                                                |
| [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ]              | H.323 でサポートされていない機能 (保留や転送など) を実装するためにメディアターミネーションポイントを使用している場合は [はい (Yes) ] を選択します。                          |
| [ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio) ]                      | コールを受信するビデオエンドポイントに適用されます。                                                                                    |
| [遠端H.245端末の機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set) ] | Cisco Unified Communications Manager が、自身の H.245 端末機能セットを送信する前に、遠端の H.245 端末機能セットを受信する必要があることを指定します。          |
| [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]                                              | このデバイスに関連付けられた Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメイン。                                              |
| [有意な数値 (Significant Digits Value) ]                                    | 着信コールで保持される末尾からの桁数を表します。                                                                                      |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Spaces) ]                                | 収集された (発信側) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。                                                  |
| [AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ]                          | 帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索される、ルートパーティションのコレクションを指定します。                       |
| [プレフィックスDN (Prefix DN) ]                                               | 着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号。                                                                                   |

| フィールド                                                                  | 説明                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [番号IE配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound) ]   | Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージに含まれる番号 IE のリダイレクトを受け入れる場合は [はい (Yes) ] を選択します。      |
| [発呼側の選択 (Calling Party Selection) ]                                    | ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。                                                         |
| [発呼側の表示 (Calling Party Presentation) ]                                 | Cisco Unified Communications Manager で発信側電話番号の表示を許可するか、禁止するのを選択します。                                       |
| [着信側IE番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown) ]                 | 着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。                                                                                  |
| [発呼側IE番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown) ]                | 発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。                                                                                   |
| [着信番号計画 (Called Numbering Plan) ]                                      | 着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。                                                                                    |
| [発呼番号計画 (Calling Numbering Plan) ]                                     | 発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。                                                                                    |
| [発信者ID DN (Caller ID DN) ]                                             | 発呼者回線 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。                                                                       |
| [IE配信の表示 (Display IE Delivery) ]                                       | 発信側および着信側のネームデリバリサービスにおいて、SETUP、CONNECT、および NOTIFY メッセージでの表示情報要素の配信を有効にします。                               |
| [番号IE配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound) ] | コールを転送するとき、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージに、コールの最初の転送番号と転送理由を示す番号 IE のリダイレクトを含めます。 |
| [パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode) ]                                  | このフィールドは、H.323 ゲートウェイの暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合に設定します。                                                 |
| [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]                                     | 共通のデバイス設定 (ソフトキーテンプレートやユーザ ロケールなど)。                                                                       |

| フィールド                                                 | 説明                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [SRTP許可 (SRTP Allowed) ]                              | Cisco Unified Communications Manager で、ゲートウェイを経由したセキュア コールおよび非セキュア コールを許可する場合は [はい (Yes) ] を選択します。 |
| [アウトバウンドFastStartを有効にする (Enable Outbound FastStart) ] | 発信コールに対して H323 FastStart 機能を有効にする場合は [はい (Yes) ] を選択します。                                           |
| [AARグループ (AAR Group) ]                                | 帯域幅不足が発生した場合の代替ルーティング グループを選択します。                                                                  |
| [パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration) ]              | このフィールドは、H.323ゲートウェイの暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合に設定します。                                           |

## ハントリストインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 62: ハントリストインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                            | 説明                                                   |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                     | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                   |
| [説明 (Description) ]                              | 説明 (オプション) 。                                         |
| [Cisco Unified CMグループ (Cisco Unified CM Group) ] | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager グループのリスト。 |
| [このハントリストを有効にする (Enable this Hunt List) ]        | ハントリストを有効にする場合は [はい (Yes) ] を選択します。                  |
| [使用可能な回線グループ (Available Line Group) ]            | 使用可能な回線グループのリスト。                                     |



# ハントパイロットインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 63: ハントパイロットインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                           | 説明                                                                                                               |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [パターン定義 (Pattern Definition) ]  |                                                                                                                  |
| [パターン (Pattern) ]               | ハントパイロット。数字とワイルドカードを含めることができますが、スペースは使用できません。<br><br>+または+を入力して、国際エスケープ文字を示すことができます。                             |
| [ルートパーティション (Route Partition) ] | パーティションを使用してハントパイロットへのアクセスを制限する場合は、適切なパーティションを選択します。                                                             |
| [説明 (Description) ]             | 説明 (オプション) 。                                                                                                     |
| [番号計画 (Numbering Plan) ]        | 番号計画を選択します。                                                                                                      |
| [ルートフィルタ (Route Filter) ]       | ハントパイロットにワイルドカード@が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。                                                                      |
| [MLPP優先度 (MLPP Precedence) ]    | MLPP 優先設定。                                                                                                       |
| [ハントリスト (Hunt List) ]           | 追加するハントパイロットに関連するハントリストを選択します。                                                                                   |
| [緊急優先 (Urgent Priority) ]       | Cisco Unified Communications Manager がコールをすぐにルーティングする必要があるときに桁間タイミングを中断する場合は、[はい (Yes) ]を選択します。                  |
| [ブロックが有効 (Block Enabled) ]      | ブロックを有効または無効にします。                                                                                                |
| [リリース目的 (Release Cause) ]       | [ブロックが有効 (Block Enabled) ] フィールドの設定に依存します。リリース目的を選択する場合は、[ブロックが有効 (Block Enabled) ] を [はい (True) ] に設定する必要があります。 |

| フィールド                                                                 | 説明                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| [発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations) ]                    |                                                         |
| [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask) ]  | 発呼者回線の ID (CLID) に完全な外線電話番号を使用する場合は [はい (Yes) ] を選択します。 |
| [発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transformation Mask) ]             | トランスフォーメーションマスク値を入力します。                                 |
| [発呼側プレフィックス番号(発信コール) (Calling Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ] | プレフィックス番号を入力します。                                        |
| [発呼者回線の表示 (Calling Line Presentation) ]                               | 発信側電話番号をコール単位で許可または禁止するための補足サービスとして使用されます。              |
| [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]                                | 発信側の名前をコール単位で許可または禁止するための補足サービスとして使用されます。               |
| [接続側トランスフォーメーション (Connected Party Transformations) ]                  |                                                         |
| [接続側回線の表示 (Connected Line Presentation) ]                             | 着信側電話番号をコール単位で許可または禁止するための補足サービスとして使用されます。              |
| [接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]                              | 着信側の名前をコール単位で許可または禁止するための補足サービスとして使用されます。               |
| [着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations) ]                     |                                                         |
| [着信側での番号の削除 (Called Party Discard Digits) ]                           | このハントパイロットに関連付ける番号の削除指示を選択します。                          |
| [着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transformation Mask) ]              | トランスフォーメーションマスク値を入力します。                                 |
| [着信側プレフィックス番号(発信コール) (Called Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ]  | プレフィックス番号を入力します。                                        |
| [キューイング (Queuing) ]                                                   |                                                         |
| [コールをキューイング (Queue Calls) ]                                           | コールキューイングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。                    |

| フィールド                                                                                         | 説明                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ネットワーク保留MOH音源とアナウンス (Network Hold MOH Source and Announcements) ]                            | 保留音と、コールがキューに保持されている場合に再生する通知を含む音源ファイルを選択します。                                                                                                |
| [キューで許可されている最大発信者数 (Maximum Number of Callers Allowed in a Queue) ]                           | ハントパイロットごとにキューに配置する発信者の最大数を指定する値を入力します。<br><br>コール キューイングでは、ハントパイロットごとに最大 100 人の発信者をキューに配置できます。特定のハントパイロットでこの制限に達した後、後続のコールは代替番号にルーティングできます。 |
| [キューが満杯であるときにこれを有効にする (Enable This When Queue is Full) ]                                      | キューがいっぱいになった場合に、代替番号にコールをルーティングするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                       |
| [キューが満杯の場合、この接続先にコールをルーティング (Route the Call to This Destination When the Queue is Full) ]     | キューがいっぱいになった場合に、コールをルーティングする電話番号を入力します。<br><br>このフィールドでは、数字 (0 ~ 9)、大文字のエックス (X)、アスタリスク (*)、およびハッシュ記号 (#) を使用できます。                           |
| [キュー最大数到達時コーリングサーチスペース (Full Queue Calling Search Space) ]                                    | キューがいっぱいになった場合に、コールを転送するために使用するコーリングサーチスペースを指定します。                                                                                           |
| [キュー内の最大待機時間 (Maximum Wait Time in Queue) ]                                                   | キュー内の各コールに対して、最大待機時間を指定する値 (秒単位) を入力します。<br><br>各発信者は、ハントパイロットあたり最大 3600 秒までキューに入れることができます。この制限に達した後、その発信者は代替番号にルーティングされます。                  |
| [最大待機時間に達したときにこれを有効にする (Enable This When Max Wait Time is Met) ]                              | 最大待機時間に達した場合に、代替番号にコールをルーティングするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                         |
| [最大待機時間に達した場合、この接続先にコールをルーティング (Route the Call to This Destination If Max Wait Time is Met) ] | 最大待機時間に達した場合に、コールをルーティングする電話番号を入力します。                                                                                                        |

| フィールド                                                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [最大待機時間到達時コーリングサーチスペース (Maximum Wait Time Calling Search Space) ]                                   | 最大待機時間に達した場合に、コールを転送するために使用するコーリングサーチスペースを指定します。                                                                                                                                                                              |
| [ログインしているハントメンバがないときにこれを有効にする (Enable This When No Hunt Members are Logged In) ]                    | ハントメンバーがまったくログインまたは登録していない場合に、代替番号にコールをルーティングするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                          |
| [エージェントがない場合、この接続先にコールをルーティング (Route the Call to This Destination If there is No Agent) ]           | <p>コールの時点で、使用可能なハントパイロットのメンバーがまったくいないか、または登録されていない場合に、コールをルーティングする電話番号を入力します。</p> <p>コールキューイングでは、サイレント (DND) を非アクティブにして、さらにハントグループにログインしている場合、ハントパイロットメンバーは使用可能であると見なされます。その他のすべての場合、回線メンバーは、使用できないか、またはログオフしているから見なされます。</p> |
| [ログイン中または登録済みハントメンバ不在時コーリングサーチスペース (No Hunt Members Logged In or Registered Calling Search Space) ] | ハントメンバーがまったくログインまたは登録していない場合に、コールを転送するために使用するコーリングサーチスペースを指定します。                                                                                                                                                              |

## 回線グループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 64: 回線グループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド        | 説明                 |
|--------------|--------------------|
| [名前 (Name) ] | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |

| フィールド                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [RNA復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout) ]            | コールの応答がない場合や、最初のハントオプション ([次のメンバーへ、その後ハントリスト内の次のグループへ (Try next member; then, try next group in Hunt List) ]) が選択されている場合に、この回線グループで次に対応可能またはアイドル状態のメンバー、または次の回線グループに対して、Cisco Unified Communications Manager がコールの分配を開始するまでの時間を、秒単位で入力します。 |
| [同報アルゴリズム (Distribution Algorithm) ]              | 回線グループ レベルで適用する同報アルゴリズムを選択します。                                                                                                                                                                                                             |
| [ハントアルゴリズム(無応答) (Hunt Algorithm No Answer) ]      | 指定の同報アルゴリズムに対して、回線グループの応答のないメンバーにコールが分散された場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。                                                                                                                                   |
| [ハントアルゴリズム(話中) (Hunt Algorithm Busy) ]            | 指定の同報アルゴリズムに対して、回線グループのビジー状態のメンバーにコールが分散された場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。                                                                                                                                  |
| [ハントアルゴリズム(使用不可) (Hunt Algorithm Not Available) ] | 指定の同報アルゴリズムに対して、回線グループの使用不可のメンバーにコールが分散された場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。                                                                                                                                   |
| [電話番号 (Directory Numbers) ]                       | Cisco Unified Communications Manager にすでに存在する電話番号を入力します。                                                                                                                                                                                   |

## ロケーションインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 65: ロケーションインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド        | 説明                 |
|--------------|--------------------|
| [名前 (Name) ] | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |

| フィールド                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [オーディオ帯域幅 (Audio Bandwidth) ] | このロケーションと他のロケーションを結ぶリンク上のすべての音声コールで使用できる音声の最大帯域幅 (kbps 単位) を入力します。<br><br>(注) このオプションは、Cisco Unified Communications Manager 9.0 以降だけで利用できます。Cisco Unified Communications Manager 8.x 以前のバージョンでは、[オーディオKB (Audio Kilobytes) ]フィールドが表示されません。                                         |
| [ビデオ帯域幅 (Video Bandwidth) ]   | このロケーションと他のロケーションを結ぶリンク上のすべてのビデオ コールで使用できるビデオの最大帯域幅 (kbps 単位) を入力します。無制限にする場合は 0 を指定し、まったく使用しない場合は -1 を指定します。<br><br>(注) このオプションは、Cisco Unified Communications Manager 9.0 以降だけで利用できます。Cisco Unified Communications Manager 8.x 以前のバージョンでは、[ビデオKB (Video Kilobytes) ]フィールドが表示されます。 |
| [リンク (Links) ]                | このロケーションと隣接するロケーションの間の帯域幅。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ロケーション (Location) ]          | リストからロケーションを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [重要度 (Weight) ]               | ロケーション ペアの間有効パスを作成するときに、このリンクの相対的な優先度を入力します。有効パスは、指定可能なすべてのパスの累積の最小値を持ちます。有効な値は 0 ~ 100 です。                                                                                                                                                                                        |

## メディア リソース グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 66: メディア リソース グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                            | 説明                   |
|----------------------------------|----------------------|
| [名前 (Name) ]                     | インフラストラクチャ設定製品の名前。   |
| [説明 (Description) ]              | 説明 (オプション) 。         |
| [使用可能なデバイス (Available Devices) ] | 選択できる使用可能なメディア リソース。 |

| フィールド                                              | 説明                                         |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| [MOHオーディオのマルチキャストです (Is Multicast for MOH Audio) ] | 保留音に対してマルチキャストを使用する場合は[はい (Yes) ]をクリックします。 |

## メディアリソースグループリストインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 67: メディアリソースグループリストインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                        | 説明                      |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------|
| [名前 (Name) ]                                                 | インフラストラクチャ設定製品の名前。      |
| [説明 (Description) ]                                          | 説明 (オプション) 。            |
| [使用可能なメディアリソースグループ名 (Available Media Resource Group Names) ] | 選択できる使用可能なメディアリソースグループ。 |

## ミーティング番号/パターン設定製品のフィールド

表 68: ミーティング番号/パターン設定製品のフィールド

| フィールド                                        | 説明                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電話番号またはパターン (Directory Number or Pattern) ] | ミーティング番号/パターンまたは番号の範囲を入力します。<br>範囲を設定するには、角カッコ内でダッシュを使用し、その後ろに数値を入力します。たとえば、範囲 1000 ~ 1050 を設定するには、10[0-5]0 と入力します。<br>このフィールドには、最大 24 文字まで入力できます。 |
| [説明 (Description) ]                          | 説明には、最大 50 文字まで使用できます。二重引用符 (")、バックスラッシュ (\)、ダッシュ (-)、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、またはかぎカッコ (<>) は、使用できません。                                              |

| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [パーティション (Partition) ]                  | パーティションを使用してミーティング番号/パターンへのアクセスを制限するには、ドロップダウンリストから必要なパーティションを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [最小セキュリティレベル (Minimum Security Level) ] | ドロップダウンリストから、このミーティング番号/パターンに対する最小セキュリティレベルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 非セキュアな電話を使用している参加者が会議に参加することをブロックするには、[認証のみ (Authenticated) ]を選択します。</li> <li>• 非セキュアな電機を使用している参加者が会議に参加することをブロックするには、[暗号化 (Encrypted) ]を選択します。</li> <li>• すべての参加者に会議への参加を許可するには、[非セキュア (Non Secure) ]を選択します。</li> </ul> |

## ルートグループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 69: ルートグループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                            | 説明                                      |
|----------------------------------|-----------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                     | インフラストラクチャ設定製品の名前。                      |
| [使用可能なメンバー (Available Members) ] | 選択できる使用可能なデバイス。                         |
| [ポート (Ports) ]                   | デバイスが個々に設定可能なポートをサポートしている場合は、ポートを選択します。 |



# ルートリストインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 70: ルートリストインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                                 | 説明                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                                                          | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                   |
| [説明 (Description) ]                                                                   | 説明 (オプション)。                                          |
| [Cisco Unified CMグループ (Cisco Unified CM Group) ]                                      | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager グループのリスト。 |
| [このルートリストを有効にする (Enable this Route List) ]                                            | ルートリストを有効にする場合は [はい (Yes) ] を選択します。                  |
| [使用可能なメンバルートグループ (Available Member Route Group) ]                                     | 使用可能なルートグループのリスト。                                    |
| [完全修飾発呼側番号を使用する使用可能なメンバ (Available Member Use Fully Qualified Calling Party Number) ] | 使用可能なルートグループが、完全修飾された発信側電話番号を使用する必要があるかどうかを指定します。    |
| [メンバの発呼側トランスフォーメーションマスク (Member Calling Party Transformation Mask) ]                  | トランスフォーメーションマスク値。                                    |
| [メンバの発呼側プレフィックス番号 (Member Calling Party Prefix Digits) ]                              | プレフィックス番号。                                           |
| [使用可能なメンバの番号削除命令 (Available Member Discard Digits Instruction) ]                      | このルートリストに関連付ける番号の削除指示を選択します。                         |

| フィールド                                                               | 説明                |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------|
| [メンバの着信側トランスフォーメーションマスク (Member Called Party Transformation Mask) ] | トランスフォーメーションマスク値。 |
| [メンバの着信側プレフィックス番号 (Member Called Party Prefix Digits) ]             | プレフィックス番号。        |

## ルートパーティションインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 71: ルートパーティションインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド               | 説明                 |
|---------------------|--------------------|
| [名前 (Name) ]        | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |
| [説明 (Description) ] | 説明 (オプション) 。       |

## ルートパターンインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 72: ルートパターンインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                           | 説明                                                  |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------|
| [パターン (Pattern) ]               | 数字とワイルドカードを含む有効なルートパターン。                            |
| [ルートパーティション (Route Partition) ] | パーティションを使用してルートパターンへのアクセスを制限する場合は、適切なパーティションを選択します。 |
| [説明 (Description) ]             | 説明 (オプション) 。                                        |
| [番号計画 (Numbering Plan) ]        | 番号計画。 デフォルト設定は NANP (北米番号計画) です。                    |

| フィールド                                                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ルートフィルタ (Route Filter) ]                                        | ルートパターンにワイルドカード@が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [MLPP優先度 (MLPP Precedence) ]                                     | MLPP 優先設定。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [ゲートウェイ、ルートリスト、またはSIPトランク (Gateway, Route List, or SIP Trunk) ]  | 追加するルートパターンに関連するゲートウェイまたはルートリストを選択します。リストに表示されない値を入力することもできます。カスタム値を入力する場合は、ゲートウェイであるか、ルートリストであるか、または SIP トランクであるかを必ず指定します。名前の後に、次のいずれかを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [GW] : ゲートウェイ</li> <li>• [RL] : ルートリスト</li> <li>• [ST] : SIP トランク</li> </ul> <p>たとえば、gatewayname[GW] となります。</p> |
| [ゲートウェイの宛先タイプがゲートウェイであるか (Is Gateway Destination Type Gateway) ] | 宛先デバイスがゲートウェイかどうかを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [緊急優先 (Urgent Priority) ]                                        | [はい (Yes) ]を選択すると、Cisco Unified Communications Managerがコールをすぐにルーティングする必要がある場合に桁間タイミングが中断されます。                                                                                                                                                                                                           |
| [ブロックが有効 (Block Enabled) ]                                       | ブロックを有効または無効にします。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [リリース目的 (Release Cause) ]                                        | [ブロックが有効 (Block Enabled) ] フィールドの設定に依存します。リリース目的を選択する場合は、[ブロックが有効 (Block Enabled) ]を [はい (True) ]に設定する必要があります。                                                                                                                                                                                          |
| [コールの分類 (Call Classification) ]                                  | このルートパターンを通じてルーティングされるコールが、ローカルネットワーク上にない ([オフネット (OffNet) ]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet) ]) と見なされるのかを示します。                                                                                                                                                                                              |
| [デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override) ]                           | [はい (Yes) ]を選択した場合は、関連するゲートウェイまたはトランクに設定された [コールの分類 (Call Classification) ] 設定に基づいて、発信コールが [オフネット (OffNet) ] または [オンネット (OnNet) ] と見なされます。                                                                                                                                                              |

| フィールド                                                                  | 説明                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone) ]                            | [はい (Yes) ]を選択した場合は、外部ダイヤルトーンが提供されます。                                                           |
| [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask) ]   | 発呼者回線のID (CLID) に完全な外線電話番号を使用する場合は [はい (Yes) ]を選択します。                                           |
| [発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transformation Mask) ]              | トランスフォーメーション マスク値。                                                                              |
| [発呼側プレフィックス番号 (発信コール) (Calling Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ] | プレフィックス番号。                                                                                      |
| [発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation) ]                           | このルートパターンについて、Cisco Unified Communications Managerで着信側電話のディスプレイへの発信側電話番号の表示を許可するか、禁止するのかを指定します。 |
| [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]                                 | このルートパターンについて、Cisco Unified Communications Managerで着信側電話のディスプレイへの発信側の名前の表示を許可するか、禁止するのかを指定します。  |
| [接続側回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation) ]                         | このルートパターンについて、Cisco Unified Communications Managerで発信側電話のディスプレイへの接続先電話番号の表示を許可するか、禁止するのかを指定します。 |
| [接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]                               | このルートパターンについて、Cisco Unified Communications Managerで発信側電話のディスプレイへの接続先の名前の表示を許可するか、禁止するのかを指定します。  |
| [着信側での番号の削除(発信コール) (Called Party Discard Digits (Outgoing Calls)) ]    | このルートパターンに関連付ける番号の削除指示を選択します。                                                                   |
| [着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transformation Mask) ]               | トランスフォーメーション マスク値。                                                                              |

| フィールド                                                                 | 説明         |
|-----------------------------------------------------------------------|------------|
| [着信側プレフィックス番号 (発信コール) (Called Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ] | プレフィックス番号。 |

## サービスプロファイルインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 73: サービス プロファイルインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                               | 説明                                                                                                                                               |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                        | サービス プロファイルの名前を入力します。 最大文字数 : 50 (ASCII のみ)<br>使用できる値 : 引用符 (")、山カッコ (<>)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) 以外のすべての文字                       |
| [説明 (Description) ]                 | (オプション) 複数のサービスプロファイルを設定している場合は、それぞれのサービスプロファイルを区別しやすくするための説明を入力します。 使用できる値 : 引用符 (")、山カッコ (<>)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) 以外のすべての文字 |
| [デフォルトのプロファイル (Default Profile) ]   | このサービスプロファイルをシステムのデフォルトオプションにする場合に、このチェックボックスをオンにします。 デフォルト サービス プロファイルを指定すると、サービス プロファイルが関連付けられていないエンドユーザは自動的にデフォルト サービス プロファイルの設定値を継承します。      |
| [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ] |                                                                                                                                                  |
| [プライマリ (Primary) ]                  | このサービスプロファイルに関連付けるプライマリ ボイスメール サーバを選択します。                                                                                                        |
| [セカンダリ (Secondary) ]                | 該当する場合に、セカンダリ ボイスメール サーバを選択します。                                                                                                                  |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                 | 該当する場合に、ターシャリ ボイスメール サーバを選択します。                                                                                                                  |

|                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ボイスメールサービスのクレデンシアルソース (Credentials source for voicemail service) ] | ボイスメールサービスのユーザクレデンシアルを別のサービスと共有する場合は、該当するサービスを選択します。選択したサービスからユーザクレデンシアルが自動的に同期されます。<br>デフォルト設定：[未設定 (Not set) ]                                                                                                                                                                 |
| [メールストアプロファイル (Mailstore Profile) ]                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [プライマリ (Primary) ]                                                  | このサービスプロファイルに関連付けるプライマリ メールストア サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                        |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                | 該当する場合に、セカンダリ メールストア サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                 | 該当する場合に、ターシャリ メールストア サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [受信トレイフォルダ (Inbox folder) ]                                         | 新しいメッセージを保存するメールストアサーバ上のフォルダの名前。この値は、メールストアサーバがデフォルトフォルダとは異なるフォルダ名を使用する場合に限り変更してください。デフォルト：[受信トレイ (INBOX) ]                                                                                                                                                                      |
| [ごみ箱フォルダ (Trash Folder) ]                                           | 削除されたメッセージを保存するメールストアサーバ上のフォルダの名前。この値は、メールストアサーバがデフォルトフォルダとは異なるフォルダ名を使用する場合に限り変更してください。デフォルト：[削除済みの項目 (Deleted Items) ]                                                                                                                                                          |
| [ポーリング間隔(秒) (Polling Interval (in seconds)) ]                       | メールストアでアイドルがサポートされない場合、または接続エラーが発生した場合に、新しいボイスメッセージの IMAP サーバを次回ポーリングするまでに許容される時間 (秒単位)。<br>使用できる値：60 ~ 900、デフォルト：60                                                                                                                                                             |
| [デュアルフォルダモードを許可 (Allow dual folder mode) ]                          | このデュアルフォルダ設定は、IMAPUIDPLUS 拡張 (RFC 2359 および 4315) をサポートするメールストアで使用するために、デフォルトでオンになっています。デフォルトで、Client Services Framework (CSF) は UIDPLUS がサポートされていないかどうかを検出し、自動的にシングルフォルダモードに復帰します。UIDPLUS がサポートされていないことがわかっており、システムで強制的にシングルフォルダモードを使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。デフォルト：[はい (True) ] |
| [会議プロファイル (Conferencing Profile) ]                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [プライマリ (Primary) ]                                                  | このサービスプロファイルに関連付けるプライマリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                              |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                | 該当する場合に、セカンダリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                 | 該当する場合に、ターシャリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                        |

|                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [サーバ証明書の検証 (Server Certificate Verification) ]                            | <p>このプロファイルに関連する会議サーバの TLS 接続サポート方法を指定します。この設定は、この会議プロファイルに対してリストアップされた会議サーバの TLS 証明に使用されます。次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [任意の証明書 (Any Certificate) ] : Cisco Jabber はすべての有効な証明書を受け入れます。</li> <li>• [自己署名またはキーストア (Self-signed or Keystore) ] : 証明書に自己署名されている場合や、署名する認証局の証明書がローカル信頼ストアである場合に、Cisco Jabber は証明書を受け付けます。</li> </ul> <p>(注) キーストアとは、認証キーと暗号キーが保存されているファイルです。</p> <p>[キーストアのみ (Keystore Only) ]</p> <p>Cisco Jabber は、キーストア内で定義された証明書だけを受け入れます。証明書または認証局が署名した証明書を、ローカル信頼ストアにインポートする必要があります。</p> |
| [Web会議サービスのクレデンシアルソース (Credentials source for web conferencing service) ] | <p>会議サービスのユーザクレデンシアルを別のサービスと共有する場合は、該当するサービスを選択します。選択したサービスからユーザクレデンシアルが自動的に同期されます。デフォルト設定 : [未設定 (Not set) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [ディレクトリプロファイル (Directory Profile) ]                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [プライマリ (Primary) ]                                                        | <p>このサービスプロファイルを関連付けるプライマリディレクトリサーバを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                      | <p>該当する場合に、セカンダリ会議サーバを選択します。バックアップディレクトリサーバを設定しない場合、最初のサーバで失敗すると、Cisco Jabber クライアントのディレクトリ検索を実行できません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                       | <p>該当する場合に、ターシャリ会議サーバを選択します。バックアップディレクトリサーバを設定しない場合、最初のサーバで失敗すると、Cisco Jabber クライアントのディレクトリ検索を実行できません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [連絡先の解決にUDSを使用する (Use UDS for contact resolution) ]                       | <p>外部ディレクトリではなく Cisco Unified CM で提供される UDS サービスをディレクトリの検索に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [ログオンユーザのクレデンシアルを使用する (Use Logged On User Credential) ]                   | <p>このチェックボックスをオンにすると、匿名クエリーが実行されなくなり、LDAP サーバへのユーザのログイン時に資格情報の入力が必要付けられます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|                                                                       |                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ユーザ名 (Username) ]                                                    | LDAPサーバでクエリーを実行する権限を持つユーザIDの識別名を useraccount@domain.com という形式で入力します。最大長：128                                                                                                                                                 |
| [パスワード (Password) ]                                                   | LDAPサーバでクエリーを実行する権限を持つユーザのパスワードを入力します。最大長：128                                                                                                                                                                               |
| [検索ベース (Search Base) ]                                                | このフィールドでは、Cisco Unified Personal Communicator の連絡先検索クエリーを、LDAP ディレクトリの特定の部分に絞り込むことができます。LDAP ユーザを設定した LDAP サーバのコンテナまたはディレクトリを入力します。Microsoft Active Directory 統合を使用した検索ベースの例：<br>cn=users,DC=EFT-LA,DC=cisco,DC=com。最大長：256 |
| [すべての検索ベースで再帰検索を実行する (Recursive Search on All Search Bases) ]         | 検索ベースから始まるディレクトリの再帰検索を実行するにはこのチェックボックスをオンにします。再帰検索を実行すると、Cisco Unified Personal Communicator の連絡先検索クエリーにより、特定の検索コンテキスト (検索ベース) からすべての LDAP ディレクトリ ツリーを検索できます。                                                               |
| [検索タイムアウト(秒) (Search Timeout (seconds)) ]                             | 検索のデフォルトのタイムアウトを設定します (デフォルトは 5 秒間)。                                                                                                                                                                                        |
| [基本フィルタ(拡張ディレクトリ専用) (Base Filter (Only used for Advance Directory)) ] | このオプションは、Active Directory に対して実行するクエリーで取得するオブジェクトのタイプが、ユーザオブジェクトではない場合にのみ使用します。最大長：256                                                                                                                                      |
| [IM and Presenceプロファイル (IM and Presence Profile) ]                    |                                                                                                                                                                                                                             |
| [プライマリ (Primary) ]                                                    | このサービスプロファイルを関連付ける IM and Presence サーバを選択します。                                                                                                                                                                               |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                  | 該当する場合に、セカンダリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                   |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                   | 該当する場合に、ターシャリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                   |
| [CTIプロファイル (CTI Profile) ]                                            |                                                                                                                                                                                                                             |
| [プライマリ (Primary) ]                                                    | このサービスプロファイルを関連付けるプライマリ CTI サーバを選択します。                                                                                                                                                                                      |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                  | 該当する場合に、セカンダリ CTI サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                   | 該当する場合に、ターシャリ CTI サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                |



# SIP トランク インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 74: SIP トランク インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                              | 説明                                                                                                                                                        |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [AARグループ (AAR Group) ]             | <p>AAR (自動代替ルーティング) グループとは、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングするときに使用されるプレフィックス番号です。</p> <p>AAR グループ設定を [なし(None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>             |
| [コールの分類 (Call Classification) ]    | <p>このトランクを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet) ]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet) ]) と見なされるか、またはシステムのデフォルト設定を使用するのかを指定します。</p>                              |
| [共通デバイス設定 (Common Device Config) ] | <p>このトランクに割り当てる共通デバイス設定を選択します。</p> <p>共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ] ページで設定します。</p> |

| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [接続側トランスフォーメーションCSS (Connected Party Transformation CSS) ] | <p>DID や E164 番号のような別のフォーマットで接続先の番号を表示するには、デバイスで着信側番号を変換することを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager では、200 OK メッセージや通話中の更新/再招待メッセージなど、さまざまな SIP メッセージのヘッダーに変換済みの番号が組み込まれます。</p> <p>選択する接続側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる接続側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>[接続側トランスフォーメーションCSS (Connected Party Transformation CSS) ]を [なし (None) ]と設定した場合は、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。 [接続側トランスフォーメーションCSS (Connected Party Transformation CSS) ]を、ルーティングに使用されていない非ヌルパーティションに設定してください。</p> |
| [デバイス名 (Device Name) ]                                     | オブジェクト名。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [説明 (Description) ]                                        | 説明 (オプション) 。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [デバイスプール (Device Pool) ]                                   | 使用可能なデバイスプールのリスト。 デバイスプールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Unified CM グループ、日時グループ、リージョン、デバイスの自動登録用コーリング サーチ スペースなど) を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [ロケーション (Location) ]                                       | このロケーションと中央のロケーション (またはハブ) との間のコールに使用可能な総帯域幅を指定します。ロケーション設定が Hub_None の場合は、使用可能な帯域幅は無制限です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]             | メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを提供します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (保留音サーバなど) を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

| フィールド                                                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] | <p>H.323 でサポートされない機能 (保留や転送など) を実装するためにメディアターミネーションポイント (MTP) を使用するかどうかを示します。</p> <p>メディアターミネーションポイントを使用して機能を実装する場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] チェックボックスをオンにします。メディアターミネーションポイントを使用して機能を実装しない場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアントと、H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスの場合、または、メディアストリーミングを1つのソースで終了させる場合にのみオンにしてください。</p> <p>このチェックボックスが選択されて MTP が必須になっている場合に、いずれかのデバイスがビデオエンドポイントのときは、コールはオーディオだけとして動作します。</p> |
| [ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio) ]         | <p>コールを受信するビデオエンドポイントに適用されます。トランクの場合は、この設定が関係するのは Cisco Unified Communications Manager から受信されるコールであり、ワイドエリアネットワーク (WAN) から受信されるコールには関係しません。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。オンの場合、ビデオコールとして接続できないコールは、コール制御に送られて再ルーティングされる前に、即座にオーディオコールとして再試行されます。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合は、ビデオとして接続できないビデオコールがオーディオコールとしての接続を試行されることはありません。この場合、コールはコール制御を行わず、コール制御は自動代替ルーティング (AAR) やルートリスト、ハントリストによってコールをルーティングします。</p>                                                                                                                             |
| [不在ポート (Unattended Port) ]                                | <p>オンの場合は、不在ポート (たとえばボイスメールポート) へのコールのリダイレクトや転送が可能になります。</p> <p>デフォルト値はオフです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

| フィールド                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [SRTP許可 (SRTP Allowed) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager で、トランクを経由したセキュア コールおよび非セキュア コールを許可する場合に選択します。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager とトランクとの SRTP ネゴシエーションは行われず、RTP が使用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにする場合は、IPSec を設定することをお勧めします。これは、キーなどのセキュリティ関連の情報がコールのネゴシエーション中に公開されるのを防ぐためです。</p> <p>IPSec が正しく設定されていない場合は、Cisco Unified Communications Manager とゲートウェイの間のシグナリングがセキュアではなくなると考えてください。</p> |

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [信頼されたリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ]                         | <p>Cisco Unified Communications Manager によってこのメディア エンドポイントとともに信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを、リストから選択します。 次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default) ]: このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ] 設定を使用します。</li> <li>• [オフ (Off) ]: このデバイスでの TRP の使用を無効にします。 この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ] 設定よりも優先されます。</li> <li>• [オン (On) ]: このデバイスでの TRP の使用を有効にします。 この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ] 設定よりも優先されます。</li> </ul> <p>TRP デバイスは MTP または TRP というラベルが付いているトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVPAgent)、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合は、TRP が必須の MTP として使用されます。</p> <p>TRP と RSVPAgent の両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>TRP とトランスコーダの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP としても指定可能なトランスコーダを検索します。</p> |
| [発呼側の不明な着信番号プレフィックス (Incoming Calling Party Unknown Number Prefix) ] | <p>[デフォルト (Default) ] に設定されている場合、コール プロセッサは次レベルの設定 (デバイス プール/サービス パラメータ) のプレフィックスを使用します。 それ以外の場合は設定された値が使用されます。 ただし、フィールドが空であるとプレフィックスは割り当てられません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| フィールド                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MLPPドメイン (MLPP Domain) ]         | <p>このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドが空の場合は、デバイスの MLPP ドメインはデバイス プールに対して設定された値から継承されます。</p> <p>デバイス プールに [MLPPドメイン (MLPP Domain) ] の設定がない場合は、このデバイスの MLPP ドメインは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータの設定値から継承されます。</p>                                                                                                                                                                          |
| [リモート パーティ ID (Remote-Party-Id) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager からリモートの接続先への発信 SIP メッセージの中で、リモートパーティ ID (RPID) ヘッダーを送信することを許可します。[はい (Yes) ] を選択すると、SIP トランクによって常に RPID ヘッダーが送信されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                  |
| [アサート済ID (Asserted-Identity) ]    | <p>SIP メッセージの中でアサート済タイプヘッダーおよび SIP プライバシー ヘッダーを送信することを許可します。</p> <p>[はい (Yes) ] を選択すると、SIP トランクによって常にアサート済タイプヘッダーが送信されます。SIP トランクによって SIP プライバシー ヘッダーが送信されるかどうかは、[SIPプライバシー (SIP Privacy) ] の設定によって決まります。</p> <p>[いいえ (No) ] を選択した場合は、SIP トランクの SIP メッセージにはアサート済タイプヘッダーおよび SIP プライバシー ヘッダーは含まれません。</p> <p>詳細については、この表の [アサート済タイプ (Asserted-Type) ] と [SIPプライバシー (SIP Privacy) ] の説明を参照してください。</p> |

| フィールド                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [アサート済タイプ (Asserted-Type) ] | <p>SIP トランクのメッセージに追加するアサート済 ID のタイプを指定します。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default) ] : デフォルト値を表します。 SIP トランクによって送信されるヘッダーのタイプは、 SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信したスクリーニング表示情報によって決まります。</li> <li>• [PAI] : プライバシー アサート済 ID (PAI) ヘッダーが発信 SIP トランク メッセージで送信されます。 この値は、 Cisco Unified Communications Manager から受信したスクリーニング表示の値よりも優先されます。</li> <li>• [PPI] : プライバシー優先 ID (PPI) ヘッダーが発信 SIP トランク メッセージで送信されます。 この値は、 Cisco Unified Communications Manager から受信したスクリーニング表示の値よりも優先されます。</li> </ul> <p>(注) これらのヘッダーが送信されるのは、 [アサート済 ID (Asserted Identity) ] チェックボックスがオンの場合だけです。</p> |

| フィールド                      | 説明 |
|----------------------------|----|
| [SIPプライバシー (SIP Privacy) ] |    |



| フィールド | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>SIP トランク メッセージに追加する SIP プライバシー ヘッダーのタイプを指定します。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default) ] : デフォルト値を表します。 SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信した名前と番号表示の値によって SIP プライバシー ヘッダーが構成されます。</li> </ul> <p>次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 名前と番号の表示が禁止されている場合は、 SIP トランクによって SIP プライバシー ヘッダーが送信されます。</li> <li>◦ 名前と番号の表示が許可されている場合は、 SIP トランクによってプライバシー ヘッダーは送信されません。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし (None) ] : SIP トランクによって Privacy:none というヘッダーが追加されます。これは、表示が許可されることを意味します。この値は、 Cisco Unified Communications Manager から受信した表示情報の値よりも優先されます。</li> <li>• [ID] : SIP トランクによって Privacy:id というヘッダーが追加されます。これは、名前と番号の両方とも表示が禁止されることを意味します。</li> </ul> <p>この値は、 Cisco Unified Communications Manager から受信した表示情報の値よりも優先されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ID Critical] : SIP トランクによって Privacy:id;critical というヘッダーが追加されます。これは、名前と番号の両方とも表示が禁止されることを意味します。</li> </ul> <p>critical というラベルは、このメッセージに対して要求されたプライバシー サービスが重要であることを意味します。そのプライバシーサービスをネットワークが実行できない場合は、要求は拒否されます。</p> <p>この値は、 Cisco Unified Communications Manager から受信した表示情報の値よりも優先されます。</p> <p>(注) これらのヘッダーが送信されるのは、 [アサート済 ID (Asserted Identity) ] チェック</p> |

| フィールド                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                               | クボックスがオンの場合だけです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [有意な数字 (Significant Digits) ]                 | <p>着信コールで保持される末尾からの桁数を表します。この設定は、着信コールの処理に使用されます。ここで指定された桁数は、H.323 デバイスへの着信コールをルーティングするときに使用されます。</p> <p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p>                                                                                                                                                 |
| [接続側IDの表示 (Connected Party ID Presentation) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager は、接続先回線IDの表示 (COLP) を補足サービスとして使用して、接続先番号を発信側に通知します。SIP トランク レベルの設定は、コール単位の設定よりも優先されます。</p> <p>デフォルト値は [デフォルト (Default) ] で、「許可」を意味します。Cisco Unified Communications Manager から接続先回線情報を送信する場合は、[デフォルト (Default) ] を選択してください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager から接続先回線情報を送信しない場合は、[非許可 (Restricted) ] を選択してください。</p> |
| [接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]      | <p>Cisco Unified Communications Manager は、接続先名の表示 (CONP) を補足サービスとして使用して、接続先の名前を発信側に通知します。SIP トランク レベルの設定は、コール単位の設定よりも優先されます。</p> <p>デフォルト値は [デフォルト (Default) ] で、「許可」を意味します。Cisco Unified Communications Manager から接続先名情報を送信する場合は、[デフォルト (Default) ] を選択してください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager から接続先名情報を送信しない場合は、[非許可 (Restricted) ] を選択してください。</p>     |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]        | 使用可能なコーリング サーチ スペース。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| フィールド                                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ]                                        | 自動代替ルーティング (AAR) コーリングサーチスペース。帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索される、ルートパーティションのコレクションを指定します。                                                                                                                                                                                                            |
| [プレフィックスDN (Prefix DN) ]                                                             | 着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [Diversionヘッダー配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound) ] | <p>[はい (Yes) ] (デフォルト) は、Cisco Unified Communications Manager への着信 INVITE メッセージの中のリダイレクト番号を受け入れる場合に選択します。</p> <p>[いいえ (No) ] は、Cisco Unified Communications Manager への着信 INVITE メッセージの中のリダイレクト番号を除外する場合に選択します。</p> <p>リダイレクト番号を使用するのは、音声メッセージング統合を行う場合だけです。リダイレクト番号をサポートするように音声メッセージングシステムが設定されている場合は、[はい (Yes) ] を選択してください。</p> |
| [着信側トランスフォーメーションCSS (Called Party Transformation CSS) ]                              | <p>デバイスに表示される着信側番号をローカライズできません。選択した着信側トランスフォーメーション CSS には、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれている必要があります。</p> <p>[着信側トランスフォーメーションCSS (Called Party Transformation CSS) ] を [なし (None) ] と設定した場合は、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。設定する着信側トランスフォーメーションCSSが属するパーティションが非ヌルパーティションであり、ルーティングには使用されないことを確認してください。</p>                         |
| [デバイスプールの着信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS) ]   | <p>[はい (Yes) ] を選択した場合は、このデバイスに割り当てられているデバイスプール内で設定された着信側トランスフォーメーションCSSが使用されます。</p> <p>[いいえ (No) ] を選択した場合は、[トランク設定 (Trunk Configuration) ] ページでデバイスに対して設定された着信側トランスフォーメーションCSSが使用されます。</p>                                                                                                                                     |

| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS) ] | <p>デバイスに表示される発呼側番号をローカライズできません。選択した発呼側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>コールを発信する前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS) ]を[なし(None)]に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。</p> <p>設定した発呼側トランスフォーメーションパターンが属するパーティションが非ヌルパーティションであり、ルーティングには使用されないことを確認してください。</p>                                                                                                                                                                       |
| [発呼側の選択 (Calling Party Selection) ]                      | <p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるのかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [発信元 (Originator) ]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number) ]: リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number) ]: 最後にコールをリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最初のリダイレクト番号(外部) (First Redirect Number (External)) ]: リダイレクト側デバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• [最後のリダイレクト番号(外部) (Last Redirect Number (External)) ]: コールを最後にリダイレクトするデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul> |

| フィールド                                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager は、発呼者回線 ID の表示 (CLIP) を補足サービスとして使用して、着信側電話の画面での発信側番号表示を制御します。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [デフォルト (Default) ] : 表示設定を変更しない場合に選択します。</li><li>• [許可 (Allowed) ] : 発信側番号情報を表示する場合に選択します。</li><li>• [非許可 (Restricted) ] : 発信側番号情報を表示しない場合に選択します。</li></ul>                                                                                               |
| [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]       | <p>Cisco Unified Communications Manager は、発呼者名の表示 (CNIP) を補足サービスとして使用して発呼者の名前を通知します。SIP トランク レベルの設定は、コール単位の設定よりも優先されます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [デフォルト (Default) ] : 表示設定を変更しない場合に選択します。</li><li>• [許可 (Allowed) ] : Cisco Unified Communications Manager から発呼者名情報を送信する場合に選択します。</li><li>• [非許可 (Restricted) ] : Cisco Unified Communications Manager から発呼者名情報を表示しない場合に選択します。</li></ul> |

| フィールド                                                                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発信者ID DN (Caller ID DN) ]                                                             | <p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ～ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 555XXXX : 可変発信者 ID。X は内線番号を表します。市外局番が指定されていない場合は、セントラルオフィスによって番号にエリアコードが付加されます。</li> <li>• 5555000 : 固定発信者 ID。この形式は、コールを発信した内線番号ではなく社内番号を送信する場合に使用します。市外局番が指定されていない場合は、セントラルオフィスによって番号にエリアコードが付加されます。</li> </ul> |
| [発信者名 (Caller Name) ]                                                                  | <p>発信元 SIP デバイスから受信した発信者名よりも優先させる発信者名を入力します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [Diversionヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound) ] | <p>[はい (Yes) ] が選択されている場合は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 INVITE メッセージにリダイレクト番号が追加されます。これは、コールが転送されるときに元の着信側番号とリダイレクト理由を示すためです。</p> <p>[いいえ (No) ] が選択されている場合は、最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由は発信 INVITE メッセージから除外されます。</p> <p>リダイレクト番号が使用されるのは、音声メッセージング統合を行う場合だけです。リダイレクト番号をサポートするように音声メッセージングシステムが設定されている場合は、[はい (Yes) ] を選択してください。</p>         |

| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [接続先アドレス (Destination Address) ]               | <p>このトランクが通信する相手であるリモート SIP ピアです。このフィールドに指定できる値は、有効な V4 IP アドレス、完全修飾ドメイン名、または DNS SRV レコードです ([接続先アドレスはSRV (Destination Address is an SRV) ] フィールドで [はい (Yes) ] が選択された場合だけ)。</p> <p>SIP トランクが受け入れる着信要求は、このトランクに関連付けられた SIP トランク セキュリティ プロファイルで指定された接続先アドレスおよび着信ポートからのものだけです。</p> <p>リモート端が Cisco Unified Communications Manager クラスタである場合は、このフィールドで DNS SRV を選択することをお勧めします。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager が含まれている必要があります。</p> |
| [接続先アドレスはSRV (Destination Address is an SRV) ] | 設定済みの [接続先アドレス (Destination Address) ] が SRV レコードであることを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [接続先ポート (Destination Port) ]                   | <p>接続先ポートを入力します。1024～65535 の範囲のポートを入力してください (デフォルト値は 5060)。</p> <p>同じポート番号を複数のトランクに対して指定できません。</p> <p>接続先アドレスが DNS SRV ポートである場合は、値を入力しないでください。デフォルトのポート番号 5060 は、SIP ポートを表します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [位置情報 (GeoLocation) ]                          | このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報。設定済みの位置情報を選択することもできます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [位置情報フィルタ (Geo Location Filter) ]              | デバイスに位置情報フィルタを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [着信ポート (Incoming Port) ]                       | 着信ポート番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [発信転送タイプ (Outgoing Transport Type) ]           | 発信転送のタイプ (TCP または UDP) 。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec) ]        | <p>優先発信コーデックを指定します。</p> <p>G.79 コーデックを SIP トランクとともに使用するよう<br/>に設定する場合は、G.79コーデックをサポートするハードウェア MTP またはトランスコーダを使用する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [位置情報の送信 (Send Geolocation Information) ]                | <p>関連するデバイスの位置情報を送信します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile) ]     | <p>SIP トランクに適用するセキュリティプロファイルを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されるすべての SIP トランクにセキュリティプロファイルを適用する必要があります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、事前に定義された非セキュアの SIP トランク セキュリティプロファイルが自動登録用に作成されます。</p> <p>SIP トランクのセキュリティ機能を有効にするには、新しいセキュリティプロファイルを設定し、SIP トランクに適用します。 トランクがセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定を表示するには、Cisco Unified Communications Manager で[システム (System) ] &gt; [セキュリティプロファイル (Security Profile) ] &gt; [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile) ] を選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p> |
| [再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space) ] | <p>SIP ユーザ (A) が別のユーザ (B) とのコールを第三者 (C) に転送 (REFER) できるかどうかを指定します。転送が完了すると、B と C が接続されます。この場合に使用される再ルーティング用コーリングサーチスペースは、最初の SIP ユーザ (A) のものです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |



| フィールド                                                                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [アウトオブダイアログREFERコーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space) ] | Cisco Unified Communications Manager によって SIP ユーザ (A) への着信コール (B) を第三者 (C) に転送 (REFER) する処理を、SIP ユーザ (A) の関与なしで行う場合に使用されます。この場合に使用されるアウトオブダイアログコーリングサーチスペースは、SIP ユーザ (A) のものです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode) ]                                     | <p>暗号化のトラブルシューティング専用です。パケットキャプチャは、CPU 使用量の増大や、コール処理の中断の原因となることがあります。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし(None)] : このオプションはデフォルト設定です。パケットキャプチャが実行されていないことを示します。この設定は、パケットキャプチャの完了後に行います。</li> <li>• [バッチ処理モード (Batch Processing Mode) ] : Cisco Unified Communications Manager が、復号化されたメッセージや暗号化されていないメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。</li> </ul> <p>システムでは、毎日新しいファイルが新しい暗号キーを使用して作成されます。Cisco Unified Communications Manager はファイルを 7 日間保存し、さらにファイルを暗号化するキーを安全な場所に保存します。Cisco Unified Communications Manager は、PktCap 仮想ディレクトリにファイルを保存します。</p> <p>1 つのファイルには、タイムスタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、接続先 IP アドレス、パケットプロトコル、メッセージの長さ、およびメッセージが含まれます。</p> <p>IREC ツールでは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む 1 つの暗号化ファイルを要求します。</p> <p>同様にこのツールでは、暗号化ファイルを復号化するためのキー情報を要求します。</p> <p>パケットキャプチャを有効または無効にした後に、トランクをリセットする必要はありません。</p> |

| フィールド                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration) ] | <p>暗号化のトラブルシューティング専用です。パケットキャプチャは、CPU 使用量の増大や、コール処理の中断の原因となることがあります。</p> <p>このフィールドは、パケット キャプチャの 1 つのセッションに割り当てられた最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 で、範囲は 0 ～ 300 分です。</p> <p>パケット キャプチャを開始するには、フィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャが完了すると、値「0」が表示されます。</p>                                                                                                                           |
| [プレゼンスグループ (Presence Group) ]            | <p>Unified Presence の機能を設定します。SIP トランクに対するプレゼンスグループを選択します。選択したグループにより、SIP トランクに接続されているデバイス、アプリケーション、またはサーバがモニタできる対象が指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group) ] のデフォルト値は、標準プレゼンスグループであり、インストール時に設定されます。Cisco Unified Communications Manager Administration で設定されるプレゼンスグループは、ドロップダウンリストボックスにも表示されます。</p> <p>プレゼンス認証は、プレゼンスグループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。</p> |
| [PSTNアクセス (PSTN Access) ]                | <p>このトランクを介したコールが PSTN に到達する可能性があることを示します。このトランク デバイスを介したいずれのコールも PSTN に到達しない場合でも、このチェックボックスはオンにします。</p> <p>たとえば、コールが PSTN に到達する可能性がある場合、タンデム トランクまたは H.323 ゲートキーパーによりルーティングされるトランクについてこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、このトランク デバイス経由で発信されたコールを検証するための音声コールレコード (VCR) が作成およびアップロードされます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンのままになります。</p>                        |

| フィールド                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ルートクラスシグナリングを使う<br>(Route Class Signaling Enabled) ] | <p>ドロップダウンリストで、ポートのルートクラスシグナリングを有効または無効にします。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [デフォルト (Default) ] : この値を選択すると、デバイスでは <b>Route Class Signaling</b> サービスパラメータの設定値が使用されます。</li><li>• [オフ(Off)] : この値は、ルートクラスシグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、<b>Route Class Signaling</b> サービスパラメータよりも優先されます。</li><li>• [オン(On)] : この値は、ルートクラスシグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、<b>Route Class Signaling</b> サービスパラメータよりも優先されます。</li></ul> <p>ルートクラスシグナリングは、特別なルーティングまたは終了要求を受信側のデバイスに伝達します。ホットライン機能をサポートするポートに対しては、ルートクラスシグナリングを有効にする必要があります。</p> |

| フィールド                                                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [SUBSCRIBEコーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space) ] | <p>SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求を Cisco Unified Communications Manager によってどのようにルーティングするのか設定します。</p> <p>この設定を利用すると、SIP トランクに対するプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に、コール処理サーチスペースとは別のコーリングサーチスペースを適用することができます。</p> <p>SIP トランクに対するプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを選択してください。 Cisco Unified Communications Manager Administration で設定されたすべてのコーリングサーチスペースが [SUBSCRIBEコーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space) ] ドロップダウンリストボックスに表示されます。</p> <p>SIP トランク用の別のコーリングサーチスペースをドロップダウンリストから選択しなかった場合、[SUBSCRIBEコーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space) ] はデフォルトで [なし(None)] になります。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを設定するには、他のコーリングサーチスペースと同様に新しいコーリングサーチスペースを設定します。</p> |
| [SIPプロファイル (SIP Profile) ]                                | この SIP トランクに使用する SIP プロファイルを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

| フィールド                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [トランクサービスタイプ (Trunk Service Type) ] | <p>トランクサービスのタイプを指定します。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし(None)] : コール制御ディスカバリ、クラスタ間のエクステンション モビリティ、または Cisco Intercompany Media Engine にトランクが使用されない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery) ] : このオプションを選択すると、トランクでコール制御ディスカバリをサポートできるようになります。</li> </ul> <p>[アドバタイジングサービス (Advertising Service) ] ウィンドウで CCD アドバタイジングサービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信コールを処理します。</p> <p>[要求サービス (Requesting Service) ] ウィンドウで CCD 要求サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster) ] : トランクでクラスタ間のエクステンションモビリティ (EMCC) 機能をサポートできるようにするには、このオプションを選択します。</li> </ul> <p>このオプションを選択すると、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ]、[不在ポート (Unattended Port) ]、[接続先アドレス (Destination Address) ]、[接続先アドレス IPv6 (Destination Address IPv6) ]、および [接続先アドレスは SRV (Destination Address is an SRV) ] の設定が空白またはオフのままになるか、設定できなくなってデフォルト値が保持されることとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cisco Intercompany Media Engine] : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされ、使用可能であることを確認します。</li> </ul> |

| フィールド                                                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側名にUTF-8を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name) ]                              | <p>デバイス プールのユーザ ロケール設定を指定して、Unicode を送信するかどうか、また、受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側のデバイスに対してこのチェックボックスをオンにした場合に、デバイス プールのユーザ ロケール設定が終端電話のユーザ ロケールに一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側のデバイスは、送信側のデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端電話のユーザ ロケールに一致する場合は、電話に文字が表示されます。</p> <p>[発呼側名にUTF-8を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name) ]チェックボックスは、デフォルトでオフのままになります。</p> |
| [デバイスプールの接続側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Connected Party Transformation CSS) ] | <p>このデバイスに割り当てられているデバイス プール内で設定された接続側トランスフォーメーション CSS を使用できるようにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration) ] ウィンドウでこのデバイスに設定した[接続側トランスフォーメーションCSS (Connected Party Transformation CSS) ] が使用されます。</p>                                                                                                                                                                                                                |

| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [DTMFシグナリング方式 (DTMF Signaling Method) ] | <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プレゼンスなし (No Preference) ] (デフォルト) : Cisco Unified Communications Manager は DTMF ネゴシエートの方式として DTMF を選択します。したがって、コールのための MTP は必要ありません。</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager が MTP を割り当てる必要がある場合 ([メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] チェックボックスがオンの場合) は、SIP トランクの DTMF ネゴシエートは RFC 2833 に従って行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [RFC2833] : トランクで使用される優先 DTMF 方式を RFC 2833 にする場合は、この設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、MTP の使用状況にかかわらず、できる限り RFC 2833 のネゴシエートを試みます。失敗した場合は、アウトオブバンド方式が使用されます (ただし、ピアエンドポイントがこの方式をサポートしている場合)。</li> <li>• [OOBおよびRFC2833 (OOB and RFC 2833) ] : アウトオブバンドと RFC 2833 の両方を DTMF に使用する場合に、この設定を選択します。</li> </ul> <p>ピアエンドポイントがアウトオブバンドと RFC2833 の両方をサポートしている場合、Cisco Unified Communications Manager はアウトオブバンドと RFC 2833 の両方の DTMF 方式をネゴシエートします。</p> <p>その結果、同じ DTMF キープレスに対して 2 つの DTMF イベント (アウトオブバンドと RFC 2833) が送信されます。</p> |



(注) Provisioning で SME デバイスをコールプロセッサとして追加すると、Session Management Edition (SME) で SIP トランク インフラストラクチャ設定製品オブジェクトをプロビジョニングできます。

# SIP プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 75: SIP プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                                             | SIP プロファイルの名前。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [説明 (Description) ]                                                      | SIP プロファイルの説明。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [デフォルトMTPテレフォニーイベントペイロードタイプ (Default MTP Telephony Event Payload Type) ] | RFC2833 テレフォニー イベントに対するデフォルトのペイロードタイプを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List) ]              | 設定済みの [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain) ] リストを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [G.Clearコールに対するアーリーオファー (Early Offer for G Clear Calls) ]                | 標準ベースの G.Clear (CLEARMODE) と独自の Cisco Session Description Protocols (SDP) の両方をサポートします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [SDPセッションレベルの帯域幅変更機能 (SDP Session-level Bandwidth Modifier) ]            | <p>すべてのメディア ストリームが使用されるときに必要な帯域幅。セッション レベル帯域幅修飾子には、Transport Independent Application Specific (TIAS)、Application Specific (AS)、および Conference Total (CT) の3つがあります。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択して、SIP アーリー オファー要求または再招待要求の SDP 部分に組み込むセッション レベル帯域幅修飾子を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [TIASとAS (TIAS and AS) ]</li> <li>• [TIASのみ (TIAS only) ]</li> <li>• [ASのみ (AS only) ]</li> <li>• [CTのみ (CT only) ]</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 以上でのみサポートされます。</p> |



| フィールド                                                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[ユーザエージェントおよびサーバヘッダーの情報 (User-Agent and Server header information) ]</p>           | <p>この機能は、Cisco Unified Communications Manager が、SIP メッセージ内のユーザ エージェントおよびサーバヘッダーの情報を処理する方法を示します。</p> <p>次の3つのオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Unified CMのバージョン情報をユーザエージェントヘッダーとして送信 (Send Unified CM Version Information as User-Agent Header) ] : INVITE 要求の場合は、ユーザ エージェントヘッダーが、CM バージョンヘッダー情報と一緒に組み込まれます。応答の場合、サーバヘッダーは省略されます。Cisco Unified Communications Manager は、すべての連絡先ヘッダーをそのまま渡します。これはデフォルトの動作です。</li> <li>• [受信した情報を連絡先ヘッダーのパラメータとして渡す (Pass Through Received Information as Contact Header Parameters) ] : このオプションを選択した場合、ユーザエージェント/サーバヘッダー情報は、Contactヘッダーパラメータとして渡されます。ユーザエージェント/サーバヘッダーは、受信したContactヘッダーパラメータがあれば、そこから取り出されます。なかった場合は、受信したユーザエージェント/サーバヘッダーから取得されます。</li> <li>• [受信した情報をユーザエージェントおよびサーバヘッダーとして渡す (Pass Through Received Information as User-Agent and Server Header) ] : このオプションを選択した場合、ユーザエージェント/サーバヘッダー情報はユーザエージェント/サーバヘッダーとして渡されます。ユーザエージェント/サーバヘッダーは、受信したContactヘッダーパラメータがあれば、そこから取り出されます。なかった場合は、受信したユーザエージェント/サーバヘッダーから取得されます。</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 以上でのみサポートされます。</p> |
| <p>[受信オファーのオーディオコーデック初期設定を承認 (Accept Audio Codec Preferences in Received Offer) ]</p> | <p>Cisco Unified Communications Manager が、受信したオファー内のオーディオコーデックの初期設定に従って、処理中にそれを保持できるようにするには、[オン (On) ]を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、受信したオファー内のオーディオコーデックの初期設定を無視し、ローカルに設定された[オーディオコーデックの初期設定リスト (Audio Codec Preference List) ]を適用できるようにするには、[オフ (Off) ]を選択します。デフォルトでは、サービスパラメータの設定が選択されません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

| フィールド                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager はダイヤル文字列の解釈ポリシーを使用して、SIP ID ヘッダーが電話番号とディレクトリ URI のどちらであるのか判断します。</p> <p>電話番号とディレクトリ URI は異なるデータベースルックアップテーブルに保存されているため、Cisco Unified Communications Manager は SIP ID ヘッダーのユーザ部分の文字を調べます。これは、SIP アドレスの @ 記号よりも前の部分 (user@IP address や user@domain など) です。</p> <p>[ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation) ] を設定するには、ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [常にすべてのダイヤル文字列をURIアドレスとして処理 (Always treat all dial strings as URI addresses) ] : Cisco Unified Communications Manager は、着信コールを URI アドレスであるかのように扱います。</li> <li>• [電話番号は0～9、A～D、*、#、+で構成(これ以外はURIアドレスとして処理) (Phone number consists of characters 0-9, A-D, *, and + (others treated as URI addresses)) ] : SIP ID ヘッダーのユーザ部分のすべての文字がこの範囲に含まれる場合は、Cisco Unified Communications Manager は着信コールを電話番号として扱います。アドレスのユーザ部分で、この範囲外の文字を使用している場合は、アドレスは URI として扱われます。</li> <li>• [電話番号は0～9、*、#、+で構成(これ以外はURIアドレスとして処理) (Phone number consists of characters 0-9, *, and + (others treated as URI addresses)) ] : SIP ID ヘッダーのユーザ部分のすべての文字がこの範囲に含まれる場合は、Cisco Unified Communications Manager は着信コールを電話番号として扱います。アドレスのユーザ部分で、この範囲外の文字を使用している場合は、アドレスは URI として扱われます。</li> </ul> <p>(注) 要求 URI に user=phone タグが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は、[ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation) ] フィールドで選択したオプションに関係なく、ダイヤル文字列を番号として扱います。</p> |

| フィールド                                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [アプリケーションによるリダイレクト (Redirect by Application) ]                             | <p>SIP トランクでこの SIP プロファイルを設定するには、このチェックボックスをオンにします。それによって、Cisco Unified Communications Manager 管理者は、次のことを行えるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リダイレクトされたコンタクトが 3xx 応答で受信された場合に、特定のコーリング サーチ スペースを適用します。</li> <li>• リダイレクトされたコンタクトに対して番号分析を適用し、コールが正しくルーティングされていることを確認します。</li> <li>• サービスパラメータで設定できるリダイレクション (再帰リダイレクション) の数を制限することによって、DOS 攻撃を防止します。</li> <li>• リダイレクションの実行中にその他の機能を起動できるようにします。</li> </ul> |
| [180で早期メディアを無効化 (Disable Early Media on 180) ]                             | <p>発信側の電話でローカル呼び出し音を再生し、200 OK 応答の受信時にメディアを接続するには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [発信T.38 INVITEにオーディオmlineを含める (Outgoing T.38 INVITE include audio mline) ] | <p>システムが Microsoft Exchange からの信号を受け付け、オーディオから T.38 ファクスにコールを切り替えるように指定できます。この機能を使用するには、この SIP プロファイルを SIP トランクに設定する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [ANATの有効化 (Enable VAD) ]                                                   | <p>このオプションにより、デュアルスタック SIP トランクが IPv4 と IPv6 の両方のメディアを提供できるようになります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [Assured Services SIPとの適合 (Assured Services SIP conformance) ]             | <p>サードパーティの AS-SIP エンドポイント、および AS-SIP トランクで適切な Assured Service の動作を確実に実行させるには、このチェックボックスをオンにします。この設定により、特定の Assured Service の動作が会議ファクトリや SRTP などのサービスに影響します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [MLPPユーザ認証 (MLPP User Authorization) ]                                     | <p>MLPP ユーザ認証を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。MLPP ユーザ認証では、電話から MLPP ユーザ名とパスワードを送信する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [INVITEのタイムアウト値 (Timer Invite Expires) ]                                   | <p>SIP INVITE が期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

| フィールド                                              | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [レジスタの再送間隔の調整値 (Timer Register Delta) ]            | このパラメータは、[レジスタのタイムアウト値 (Timer Register Expires) ]の設定とともに指定します。電話は、登録期間が終わる [レジスタの再送間隔の調整値 (Timer Register Delta) ]の値 (秒数) よりも前に再登録します。登録期間は、SIP Station KeepAlive Interval サービス パラメータの値によって決まります。                                                                                                                                                                    |
| [レジスタのタイムアウト値 (Timer Register Expires) ]           | SIP を実行している電話が REGISTER メッセージの Expires ヘッダーで送信する値を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルト値は 3600 (1 時間) です。<br><br>REGISTER への 200 OK 応答で、Cisco Unified Communications Manager は、SIP Station KeepAlive Interval サービス パラメータの設定値を含む Expires ヘッダーを指定します。<br><br>200 OK 内のこの値によって、登録が期限切れになるまでの時間 (秒数) が決まります。電話は、この期間が終わる [レジスタの再送間隔の調整値 (Timer Register Delta) ]の値 (秒数) よりも前に登録を更新します。 |
| [タイマーT1 (Timer T1) ]                               | SIP メッセージの再送信タイマーの最小値をミリ秒単位で指定します。有効値は任意の正数です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [タイマーT2 (Timer T2) ]                               | SIP メッセージの再送信タイマーの最大値をミリ秒単位で指定します。有効値は任意の正数です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [INVITEの再試行 (Retry INVITE) ]                       | INVITE 要求が送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [非INVITEの再試行 (Retry Non-INVITE) ]                  | INVITE 要求が再送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [開始メディアポート (Start Media Port) ]                    | メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポートの始まりを指定します。範囲は 16384 ~ 32767 です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [終了メディアポート (Stop Media Port) ]                     | メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポートの終わりを指定します。範囲は 16384 ~ 32767 です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [コールピックアップURL (Call Pickup URL) ]                  | SIP を実行している電話がコール ピックアップ機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [コールピックアップグループ別URI (Call Pickup Group Other URI) ] | SIP を実行している電話がコール ピックアップ グループの他の機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                  |

| フィールド                                                   | 説明                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [コールピックアップグループURI (Call Pickup Group URI) ]             | SIP を実行している電話がコール ピックアップ グループ機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                           |
| [ミーティングサービスURI (Meet Me Service URI) ]                  | SIP を実行している電話がミーティング会議機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                  |
| [ユーザ情報 (User Info) ]                                    | REGISTER メッセージ内の user= パラメータを設定します。                                                                                                                        |
| [DTMF DB レベル (DTMF DB Level) ]                          | インバンド DTMF デジットのトーン レベルを指定します。                                                                                                                             |
| [コール保留時の呼び出し音 (Call Hold Ring Back) ]                   | 呼び出し音を鳴らして、まだ他に保留中の相手がいることを通知できるようにします。                                                                                                                    |
| [非通知着信拒否 (Anonymous Call Block) ]                       | 番号非通知呼び出しのブロックを設定します。                                                                                                                                      |
| [発信者IDブロック (Caller ID Blocking) ]                       | 発信者 ID のブロックを設定します。                                                                                                                                        |
| [サイレントコントロール (Do Not Disturb Control) ]                 | [サイレント (Do Not Disturb) ] 機能を有効にします。                                                                                                                       |
| [7940と7960のTelnetレベル (Telnet Level for 7940 and 7960) ] | Telnet をサポートする電話に対する、Telnet レベルの設定パラメータを制御します。                                                                                                             |
| [キープアライブのタイムアウト値 (Timer Keep Alive Expires) ]           | フェールオーバーが必要になったときにバックアップ Cisco Unified Communications Manager が使用可能であることを保証するために、バックアップ Cisco Unified Communications Manager に送信されるキープアライブ メッセージの間隔を指定します。 |
| [サブスクライブのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires) ]            | 加入が期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。この値は、Expires ヘッダー フィールドに挿入されます。                                                                                                   |
| [サブスクライブの再送間隔の調整値 (Timer Subscribe Delta) ]             | [サブスクライブのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires) ] によって管理されるように、加入期間が終わる [サブスクライブの再送間隔の調整値 (Timer Subscribe Delta) ] の値 (秒数) よりも前に再加入します。                        |

| フィールド                                                  | 説明                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [最大リダイレクト (Maximum Redirections) ]                     | コールをドロップする前に電話がコールのリダイレクトを許可する最大回数を指定します。                                                                                                                          |
| [オフフックから最初の数字タイマー (Off Hook To First Digit Timer) ]    | 電話の受話器が外されてから最初の数字タイマーが設定されるまでの経過時間をミリ秒で指定します。範囲は、0～150,000 ミリ秒です。                                                                                                 |
| [コール転送URI (Call Forward URI) ]                         | SIP を実行している電話が自動転送機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                              |
| [短縮ダイヤルURI (Abbreviated Dial URI) ]                    | SIP を実行している電話が短縮ダイヤル機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                            |
| [会議参加が有効 (Conference Join Enabled) ]                   | Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用している会議開始者が電話を切った場合、その電話が残りの会議参加者を参加させようとするかどうかを指定します。                                                                      |
| [RFC 2543保留 (RFC 2543 Hold) ]                          | コール保留の信号が Cisco Unified Communications Manager に送信される場合、RFC2543 に従って接続アドレスを 0.0.0.0 に設定できるようにするかどうかを指定します。この操作により、RFC3264 をサポートしないエンドポイントとの下位互換性を確保できます。           |
| [準在席転送 (Semi Attended Transfer) ]                      | Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 の発信者が、コールの呼び出し音が鳴っているときに、在席転送の 2 番目のレッグを転送できるかどうかを指定します。準在席転送を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。準在席転送を無効にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。 |
| [VADを有効にする (Enable VAD) ]                              | Voice Activation Detection (VAD) を有効にするかどうかを指定します。VAD を無効にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。VAD が有効である場合、音声検出時にメディアは伝送されません。                                              |
| [メッセージがある場合は断続音 (Stutter Message Waiting) ]            | 電話がオフフックになったときにメッセージが待機している場合に、断続音のダイヤルトーンが聞こえるようにするかどうかを指定します。メッセージが待機していても断続音のダイヤルトーンが聞こえないようにする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。                                        |
| [URIからの着信要求の設定 (Incoming Requests FROM URI Settings) ] |                                                                                                                                                                    |

| フィールド                                                                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発信者ID DN (Caller ID DN) ]                                                   | <p>発呼者回線 ID に使用するパターンを 0 ～ 24 桁で入力します。たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリアコードを追加します。</li> <li>• 55000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、社内番号を送信する場合に使用してください。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリアコードを追加します。</li> </ul> <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p> |
| [発信者名 (Caller Name) ]                                                        | <p>発信元 SIP デバイスから受信した発信者名よりも優先させる発信者名を入力します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [トランク固有の設定 (Trunk Specific Configuration) ]                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [着信要求を新規トランクへと再ルーティングする基準 (Reroute Incoming Request to new Trunk based on) ] | <p>コールの再ルーティングを行う SIP トランクを識別するときに、Cisco Unified Communications Manager が使用する方法を指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [RSVP Over SIP]                                                              | <p>RSVP over SIP トランクを設定するために、Cisco Unified Communications Manager で使用する方法を指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ローカルRSVPにフォールバック (Fall back to local RSVP) ]                                | <p>失敗したエンドツーエンドの RSVP コールがローカル RSVP にフォールバックして、コールを確立できるようにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [SIP Rel1XXオプション (SIP Rel1XX Options) ]                                      | <p>すべての SIP 暫定応答 (100 Trying メッセージ以外) をリモートの SIP エンドポイントに確実に送信されるかどうかを決定する、SIP Rel1XX を設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                             |

| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ビデオコールトラフィッククラス (Video Call Traffic Class) ]            | <p>[ビデオコールトラフィッククラス (Video Call Traffic Class) ]は、ビデオ エンドポイントのタイプ、または SIP プロファイルに関連付けるトランクを定義します。ドロップダウンリストボックスから、次の3つのオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [イマーシブ (Immersive) ] : 高画質イマーシブ ビデオ。</li> <li>• [デスクトップ (Desktop) ] : 標準のデスクトップ ビデオ。</li> <li>• [混合 (Mixed) ] : イマーシブ ビデオとデスクトップ ビデオの混合。</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager ロケーション コール アドミッション制御 (CAC) では、[ビデオコールトラフィッククラス (Video Call Traffic Class) ]で指定されるコールのタイプに基づいて、「ビデオ帯域幅」と「イマーシブ帯域幅」の2つのビデオ帯域幅プールから帯域幅を予約します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Call Admission Control」の章を参照してください。</p> |
| [発呼者回線IDの表示 (Calling Line Identification Presentation) ] | <p>ネットワークが提供する ID を選択するには、[厳格な送信元URIプレゼンテーションのみ (Strict From URI presentation Only) ]を選択します。</p> <p>ユーザが提供する ID を選択するには、[厳格なIDヘッダープレゼンテーションのみ (Strict Identity Headers presentation Only) ]を選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [会議ブリッジIDの配信 (Deliver Conference Bridge Identifier) ]    | <p>b 番号をヌル値に変更するのではなく、トランク間の会議ブリッジを識別する b 番号を SIP トランクで渡すには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>受信側では、このフィールドが有効である必要はありません。</p> <p>Open Recording Architecture (ORA) の場合、このチェックボックスをオンにする必要はありません。</p> <p>録音機能を動作させるための SIP ヘッダーの拡張です。</p> <p>このチェックボックスを有効にすると、レコーダはユーザが会議に参加している録音セッションを調整できます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上でのみサポートされます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |



| フィールド                                                                                                                 | 説明                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [音声コールとビデオコールに対するアーリーオファアのサポート(必要に応じてMTPを挿入) (Early Offer support for voice and video calls (insert MTP if needed)) ] | アーリー オファアをサポートするトランクを作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上でのみサポートされます。                                                                             |
| [通話中INVITEで送受信SDPを送信 (Send send-receive SDP in mid-call INVITE) ]                                                     | 補助サービス中のコール保留またはメディア中断中に、Cisco Unified Communications Manager が INVITE a=inactive SDP メッセージを送信しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上でのみサポートされます。 |
| [BFCPを使用するプレゼンテーション共有を許可 (Allow Presentation Sharing using BFCP) ]                                                    | このボックスがオンの場合は、サポートされている SIP エンドポイントに Binary Floor Control Protocol を使用したプレゼンテーション共有の有効化を許可するように、Cisco Unified Communications Manager が設定されます。                                              |
| [iXアプリケーションメディアを許可 (Allow iX Application) ]                                                                           | iX メディア チャネルのサポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                               |
| [設定済み回線デバイス発信者情報のパススルーを許可 (Allow Passthrough of Configured Line Device Caller Information) ]                          | 設定済み回線デバイス発信者情報の SIP トランクからのパススルーを可能にするには、このボックスをオンにします。                                                                                                                                   |
| [非通知着信コールを拒否 (Reject Anonymous Incoming Calls) ]                                                                      | 非通知着信コールを拒否する場合は、このボックスをオンにします。                                                                                                                                                            |
| [非通知発信コールを拒否 (Reject Anonymous Outgoing Calls) ]                                                                      | 非通知発信コールを拒否する場合は、このボックスをオンにします。                                                                                                                                                            |
| [SIP OPTIONS Ping]                                                                                                    |                                                                                                                                                                                            |

| フィールド                                                                                                                                                           | 説明                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [サービスタイプ"なし (デフォルト)"のトランクの接続先ステータスをモニタするためにOPTIONS Pingを有効にする (Enable OPTIONS Ping to monitor destination status for Trunks with service type None (Default)) ] | SIP OPTIONS 機能を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上でのみサポートされます。                                                  |
| [インサービスおよび一部インサービスのトランクのPing 間隔(秒) (Ping Interval for In-service and Partially In-service Trunks (seconds)) ]                                                   | このフィールドでは、リモート ピアが応答しており、トランクがイン サービスとしてマークが付けられているときの SIP OPTIONS 要求間の時間を設定します。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上のバージョンでのみサポートされます。      |
| [アウトオブサービスのSIPトランクのPing間隔(秒) (Ping Interval for Out-of-service SIP Trunks (seconds)) ]                                                                          | このフィールドでは、リモート ピアが応答しておらず、トランクがアウト オブ サービスとしてマークが付けられているときの SIP OPTIONS 要求間の時間を設定します。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上のバージョンでのみサポートされます。 |
| [Ping再試行タイマー(ミリ秒) (Ping Retry Timer (milliseconds)) ]                                                                                                           | このフィールドには、OPTIONS 要求を再送信するまでの最大待機時間を指定します。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上のバージョンでのみサポートされます。                                            |
| [Ping再試行数 (Ping Retry Count) ]                                                                                                                                  | このフィールドには、Cisco Unified Communications Manager がリモート ピアに OPTIONS 要求を再送信する回数を指定します。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上のバージョンでのみサポートされます。    |

## SRST 参照先設定製品のフィールド

表 76: SRST 参照先設定製品のフィールド

| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                   | SRST 参照先名はそれぞれ固有の名前にしてください。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。                                                                         |
| [ポート (Port) ]                                  | この SRST 参照先のポート番号を入力します。デフォルト値は 2000 です。<br>(注) この値を変更するのは、この値がゲートウェイのポート設定と一致しない場合だけにします。この値とゲートウェイのポート設定は一致している必要があります。                                                                     |
| [IP アドレス (IP Address) ]                        | デバイス プール内のデバイス用に、SRST 参照先として使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。                                                                                                                                        |
| [SIP ネットワーク/IP アドレス (SIP Network/IP Address) ] | SIP を実行している電話が SRST モード時に使用するサーバの IP アドレスを入力します。<br>(注) SRST 対応のゲートウェイにフォールバックするには、SIP デバイスの [SIP ネットワーク/IP アドレス (SIP Network/IP Address) ] フィールドおよび [SIP ポート (SIP Port) ] フィールドを設定する必要があります。 |
| [SIP ポート (SIP Port) ]                          | SRST ゲートウェイの SIP ポートを入力します。デフォルト値は 5060 です。                                                                                                                                                   |
| [セキュア SRST (Is SRST Secure?) ]                 | SRST 対応ゲートウェイに、自己署名証明書が含まれることを確認した後、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                        |

# トランスレーションパターンインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 77: トランスレーションパターンインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [トランスレーションパターン (Translation Pattern) ]                               | 数字とワイルドカードを含むトランスレーション パターン。                                                                                     |
| [ルートパーティション (Route Partition) ]                                      | 使用可能なルート パーティション。                                                                                                |
| [説明 (Description) ]                                                  | 説明 (オプション) 。                                                                                                     |
| [ダイヤルプラン (Dial Plan) ]                                               | 番号計画。                                                                                                            |
| [ルートフィルタ (Route Filter) ]                                            | ルートフィルタ (オプション) 。                                                                                                |
| [MLPP優先度 (MLPP Precedence) ]                                         | Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 優先設定。                                                                |
| [コールサーチスペース (Call Search Space) ]                                    | 使用可能なコーリング サーチ スペース。                                                                                             |
| [ブロックが有効 (Block Enabled) ]                                           | ブロックを有効または無効にします。                                                                                                |
| [リリース目的 (Release Cause) ]                                            | [ブロックが有効 (Block Enabled) ] フィールドの設定に依存します。リリース目的を選択する場合は、[ブロックが有効 (Block Enabled) ] を [はい (True) ] に設定する必要があります。 |
| [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask) ] | 発信側の外線電話番号マスクを使用するかどうかを指定します。                                                                                    |
| [発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transform Mask) ]                 | トランスフォーメーション マスク値。                                                                                               |

| フィールド                                                                  | 説明                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側プレフィックス番号 (発信コール) (Calling Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ] | プレフィックス番号。                                                                                            |
| [発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation) ]                           | このトランスレーションパターンについて、Cisco Unified Communications Managerで着信側電話機のディスプレイへの発信側電話番号の表示を許可するか、禁止するかを指定します。 |
| [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]                                 | このトランスレーションパターンについて、Cisco Unified Communications Managerで着信側電話機のディスプレイへの発信側の名前の表示を許可するか、禁止するかを指定します。  |
| [接続側回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation) ]                         | このトランスレーションパターンについて、Cisco Unified Communications Managerで発信側電話機のディスプレイへの接続先電話番号の表示を許可するか、禁止するかを指定します。 |
| [接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]                               | このトランスレーションパターンについて、Cisco Unified Communications Managerで発信側電話機のディスプレイへの接続先の名前の表示を許可するか、禁止するかを指定します。  |
| [着信側での番号の削除 (Called Party Discard Digits) ]                            | このトランスレーションパターンに関連付ける番号破棄命令。                                                                          |
| [着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask) ]                    | トランスフォーメーションマスク値。                                                                                     |

## Unified Call Manager Group インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 78 : Unified Call Manager Group インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド        | 説明                                               |
|--------------|--------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ] | インフラストラクチャ設定製品の名前。                               |
| [Unified CM] | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager のリスト。 |

| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [自動登録Unified CMグループ (Auto-Registration Unified CM Group) ] | 自動登録が有効な場合に、この Cisco Unified Communications Manager グループをデフォルトの Cisco Unified Communications Manager グループにする場合は、[はい (Yes) ] を選択します。 |

## UC サービス インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 79: UC サービス インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ボイスメール (Voicemail) ]                |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [製品タイプ (Product Type) ]              | 製品タイプを選択します。使用可能なオプションは [Unity] と [Unity Connection] です。<br>デフォルト設定 : [Unity]                                                                                                                                                                                                     |
| [名前 (Name) ]                         | ボイスメール サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。                                                                                                                                                                                                                                   |
| [説明 (Description) ]                  | (オプション) ボイスメールサービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。<br>最大文字数 : 100                                                                                                                                                                                                            |
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | ボイスメールサービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• 完全修飾ドメイン名 (FQDN)</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられているボイスメールサービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。ボイスメールサービスのホスト名または IP アドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> |

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ポート (Port) ]                        | <p>ボイスメールサービスと接続するポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート : 443</p> <p>このフィールドの値は、ボイスメールサービスに使用可能なポートと一致する必要があります。他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。</p>                                                                                                                                                                                                        |
| [プロトコル (Protocol) ]                  | <p>ボイスメールメッセージを安全にルーティングするためのプロトコルを選択します。</p> <p>使用可能なオプション : [HTTP]、[HTTPS]</p> <p>Cisco Unity サーバおよび Cisco Unity Connection サーバのボイスメール転送プロトコルには、[HTTPS]を使用することを推奨します。ネットワーク設定で[HTTPS]がサポートされない場合に限り [HTTP]に変更してください。</p>                                                                                                                          |
| [会議 (Conferencing) ]                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [説明 (Description) ]                  | <p>(オプション) ディレクトリ サービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | <p>会議サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられているディレクトリ サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。ディレクトリ サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>使用できる文字 : 英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、バックスラッシュ (\)、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)</p> |

| フィールド                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ポート (Port) ]                   | <p>ユーザが Web 会議にログインするときに会議サービスに接続できるように、会議サービスのポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート : 80</p> <p>使用できる値 : 1 ~ 65535</p> <p>(注) HTTP 通信にはポート 80 を、HTTPS 通信にはポート 443 を使用します。</p> <p>(注) この値は、会議サービスに使用可能なポートと一致する必要があります。他のサービスと競合している場合に限って、ポート番号を変更してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [プロトコル (Protocol) ]             | <p>Web 会議通信をルーティングするプロトコルを選択します。</p> <p>使用可能なオプション : [HTTP]、[HTTPS]</p> <p>デフォルト設定 : [HTTP]。ネットワークの設定、IM and Presence の設定、およびセキュリティ上のニーズに合わせて、次のようにこの設定を変更します。</p> <p>[HTTP]</p> <p>サーバ、Cisco Jabber、およびブラウザとの間でデータを転送するための標準の方法としてハイパーテキスト転送プロトコルを選択します。このオプションは、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express サーバで SSL が有効になっていない場合に選択します。</p> <p>[HTTPS]</p> <p>サーバ、Cisco Jabber、およびブラウザとの間でデータを安全に転送するための方法として Hypertext Transfer Protocol over SSL を選択します。このオプションは、Unified MeetingPlace サーバまたは Unified MeetingPlace Express サーバで SSL が有効になっている場合に選択します。</p> |
| [メールストア (Mailstore) ]           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [UC サービスタイプ (UC Service Type) ] | <p>メールストアとして UC サービスタイプを設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |



| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [製品タイプ (Product Type) ]              | Exchange として製品のタイプを設定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [名前 (Name) ]                         | <p>メールストア サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前にする 것을推奨します。</p> <p>最大文字数 : 50 (ASCII のみ)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [説明 (Description) ]                  | (オプション) メールストア サービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | <p>メールストア サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられているメールストア サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。メールストア サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>Cisco Unity では、Microsoft Exchange サーバでのメッセージ保存用にサブスクライバ メールボックスが作成されます。</p> <p>(注) 通常、Cisco Unity Connection はメールストア サービスを提供し、同じサーバ上でメールストア サービスをホストします。</p> |

| フィールド                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ポート (Port) ]             | <p>サービス用に設定するポート番号を指定します。</p> <p>デフォルトのポート : 143</p> <p>使用できる値 : 1 ~ 65535</p> <p>(注) Cisco Unity Connection を使用したセキュア ボイスメッセージングの場合は、ポート 7993 を使用してください。</p> <p>(注) この値は、メールストア サービスで使用可能なポートと同じにする必要があります。他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。</p>                                       |
| [プロトコル (Protocol) ]       | <p>Cisco Jabber クライアントがこのサービスに接続するときに使用するプロトコルを選択します。</p> <p>使用できるオプション : [TCP]、[SSL]、[TLS]、[UDP]</p> <p>デフォルト設定 : [TCP]。これは、最もよく使用されるネットワーク設定です。展開、Unified CM の設定、および</p> <p>セキュリティ上のニーズに合わせて、この設定を変更します。</p> <p>(注) Cisco Unity Connection を使用したセキュア ボイスメッセージングの場合は、TLS を使用してください。</p> |
| [ディレクトリ (Directory) ]     |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [サービスタイプ (Service Type) ] | <p>UC サービス タイプとしてディレクトリを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [製品タイプ (Product Type) ]   | <p>サポートされているディレクトリ製品タイプをこのリストから選択します。これはネットワーク設定に適用されます。</p> <p>使用できるオプション : [ディレクトリ (Directory) ]、[拡張ディレクトリ (Enhanced Directory) ]</p> <p>デフォルト設定 : [ディレクトリ (Directory) ]</p>                                                                                                           |

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                         | <p>ディレクトリ サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。</p> <p>最大文字数：50 (ASCII のみ)</p> <p>使用できる値：引用符 (")、山カッコ (&lt;&gt;)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&amp;)、およびパーセント記号 (%) 以外のすべての文字</p>                                                                                                                                                                          |
| [説明 (Description) ]                  | <p>(オプション) ディレクトリ サービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。</p> <p>使用できる値：引用符 (")、山カッコ (&lt;&gt;)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&amp;)、およびパーセント記号 (%) 以外のすべての文字</p>                                                                                                                                                                                            |
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | <p>ディレクトリ サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられているディレクトリ サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。ディレクトリ サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>使用できる値：英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、バックスラッシュ (\)、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)</p> |

| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ポート (Port) ]                           | <p>ディレクトリサービスのポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート : 389</p> <p>使用できる値 : 1 ~ 65535</p> <p>この値は、ディレクトリサービスに使用可能なポートと一致する必要があります。</p> <p>(注) 他のサービスと競合している場合に限って、ポート番号を変更してください。</p>                                    |
| [プロトコル (Protocol) ]                     | <p>ディレクトリサービスと Cisco Jabber クライアント間の通信をルーティングするプロトコルを選択します。</p> <p>使用できるオプション : [TCP]、[UDP]、[TLS]</p> <p>デフォルト設定 : [TCP] これは、最もよく使用されるネットワーク設定です。ネットワーク設定、Unified CM の設定、およびセキュリティ上のニーズに合わせて、この設定を変更します。</p> |
| [接続タイプ (Connection Type) ]              | <p>検索用に最適化されているグローバルカタログまたは検索用に最適化されない可能性のあるドメインコントローラ (あるいはLDAPサービスを実行するサーバ) に接続するディレクトリサーバのタイプを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [グローバルカタログサーバ (Global Catalog server) ]</p>                      |
| [セキュアな接続を使用する (Use Secure Connection) ] | <p>クレデンシャルをクリアテキストで送信するかどうかを指定します (デフォルトでは、クリアテキストではなくセキュアな接続を使用します)。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [はい (True) ]</p>                                                                                   |
| [ワイルドカードを使用する (Use Wildcards) ]         | <p>番号検索にワイルドカードを使用します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [いいえ (False) ]</p>                                                                                                                                |

| フィールド                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [セカンダリ番号検索を無効にする (Disable Secondary Number Lookups) ] | 自宅、携帯、その他の番号を使用するクエリーを無効にします。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ]                                                                                                                                                                                                 |
| [URIプレフィックス (Uri Prefix) ]                            | 「im:」や「sip:」などのURIスキーム名を指定します。<br>最大長 : 32                                                                                                                                                                                                                               |
| [電話番号マスク (Phone Number Masks) ]                       | 電話番号で解決するときに使用可能なマスクを定義できます。たとえば、マスク +353 +(###)### #### を使用すると、+35311221234 という形式の番号を +(353) 11 22 1234 に解決できます。複数のマスクを定義するには「 」演算子を使用します。たとえば、+353 +(###)### #### +44 +44 (##)### ####)### #### を使用すると、+35311221234 という形式の番号を +(353) 11 22 1234 に解決できます。<br>最大長 : 1024 |
| [IM and Presence]                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [サービスタイプ (Service Type) ]                             | UC サービス タイプとして IM and Presence を指定します。                                                                                                                                                                                                                                   |
| [製品タイプ (Product Type) ]                               | サポートされている IM and Presence 製品タイプをこのリストから選択します。これはネットワーク設定に適用されます。<br>使用できるオプション : [Unified CM (IM and Presence)], [WebEx (IM and Presence)]<br>デフォルト設定 : [Unified CM (IM and Presence)]                                                                                   |
| [名前 (Name) ]                                          | IM and Presence サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。<br>最大文字数 : 50 (ASCII のみ)                                                                                                                                                                                        |
| [説明 (Description) ]                                   | (オプション) IM and Presence サービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。                                                                                                                                                                                                        |

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | <p>IM and Presence サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• DNS SRV</li> </ul> <p>使用できる値：英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、バックスラッシュ (\)、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)</p> <p>(注) このフィールドの値は、関連付けられている IM and Presence サービスのホスト名、IP アドレス、または DNS SRV と完全に一致する必要があります。IM and Presence サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>ユーザに適した IM and Presence サービスをクライアントがを見つけやすい DNS SRV を推奨します。</p> |
| [会議 (Conferencing) ]                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [UCサービスタイプ (UC Service Type) ]       | UC サービス タイプとして会議を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [製品タイプ (Product Type) ]              | <p>ネットワーク設定に適用される製品タイプを選択します。</p> <p>使用可能なオプション：[MeetingPlace Classic]、[MeetingPlace Express]、[WebEx]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [名前 (Name) ]                         | <p>会議サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前をすることを推奨します。</p> <p>最大文字数：50 (ASCII のみ)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [説明 (Description) ]                  | <p>(オプション) ディレクトリサービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | <p>会議サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられているディレクトリ サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。ディレクトリ サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>使用できる文字：英数字 (a～z、A～Z、0～9)、ピリオド (.)、バックスラッシュ (\)、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)</p> |
| [ポート (Port) ]                        | <p>ユーザが Web 会議にログインするときに会議サービスに接続できるように、会議サービスのポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート：80</p> <p>使用できる値：1～65535</p> <p>(注) HTTP 通信にはポート 80 を、HTTPS 通信にはポート 443 を使用します。</p> <p>(注) この値は、会議サービスに使用可能なポートと一致する必要があります。他のサービスと競合している場合限り、ポート番号を変更してください。</p>                                                                                                |

| フィールド                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プロトコル (Protocol) ]       | <p>Web 会議通信をルーティングするプロトコルを選択します。</p> <p>使用可能なオプション：[HTTP]、[HTTPS]</p> <p>デフォルト設定：[HTTP]。</p> <p>ネットワークの設定、IM and Presence の設定、およびセキュリティ上のニーズに合わせて、次のようにこの設定を変更します。</p> <p>[HTTP]</p> <p>サーバ、Cisco Jabber、およびブラウザとの間でデータを転送するための標準の方法としてハイパーテキスト転送プロトコルを選択します。</p> <p>このオプションは、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express サーバで SSL が有効になっていない場合に選択します。</p> <p>[HTTPS]</p> <p>サーバ、Cisco Jabber、およびブラウザとの間でデータを安全に転送するための方法として Hypertext Transfer Protocol over SSL を選択します。このオプションは、Unified MeetingPlace サーバまたは Unified MeetingPlace Express サーバで SSL が有効になっている場合に選択します。</p> |
| [CTI]                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [サービスタイプ (Service Type) ] | UC サービス タイプとして CTI を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [製品タイプ (Product Type) ]   | 製品タイプとして CTI を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [名前 (Name) ]              | <p>CTI サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。</p> <p>最大文字数：50 (ASCII のみ)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [説明 (Description) ]       | <p>(オプション) 複数の CTI サービスを設定している場合は、それぞれのサービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |



| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | <p>CTI サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられている CTI サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。 CTI サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> |
| [ポート (Port) ]                        | <p>CTI サービスのポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート : 2748</p> <p>使用できるポート : 1 ~ 65535</p> <p>(注) この値は、CTI サービスに使用可能なポートと一致する必要があります。</p> <p>他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。</p>                                                                                       |
| [プロトコル (Protocol) ]                  | <p>デフォルトプロトコルとして TCP を指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                              |

## ボイス リージョン インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 80: ボイス リージョンインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド        | 説明                 |
|--------------|--------------------|
| [名前 (Name) ] | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |

| フィールド                       | 説明                                                                                                                                 |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [オーディオコーデック (Audio Codec) ] | コーデックの設定。<br><br>Cisco Unified Communications Manager の上位バージョン (4.1 以上) の場合、[デフォルトのコーデック (Default Codec) ] フィールドはこのオプションの値に設定されます。 |

## ボイスメールパイロットインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 81: ボイスメールパイロットインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                  | 説明                                         |
|----------------------------------------|--------------------------------------------|
| [番号 (Number) ]                         | ボイスメールパイロット番号。                             |
| [説明 (Description) ]                    | 説明 (オプション) 。                               |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] | 使用可能なコーリングサーチスペース。                         |
| [デフォルトです (Is Default) ]                | このパイロット番号がシステムのデフォルトのボイスメールパイロットかどうかを示します。 |

## ボイスメールプロフィールインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 82: ボイスメールプロフィールインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                            | 説明                 |
|----------------------------------|--------------------|
| [名前 (Name) ]                     | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |
| [説明 (Description) ]              | 説明 (オプション) 。       |
| [ボイスメールパイロット (Voicemail Pilot) ] | 使用可能なボイスメールパイロット。  |

| フィールド                                 | 説明                                  |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| [ボイスメールボックスマスク (Voicemail Box Mask) ] | 自動登録電話機用のボイスメールボックス番号の書式設定に使用するマスク。 |
| [デフォルトです (Is Default) ]               | このボイスメールプロファイルがシステムのデフォルトかどうかを示します。 |

## VG202、VG204、および VG 224 インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 83 : VG202、VG204、および VG 224 インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                                    | 説明                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ゲートウェイ名 (Gateway Name) ]                                                                | ゲートウェイの名前。                                                                                                                                    |
| [プロトコル (Protocol) ]                                                                      | ゲートウェイに関連付けられたプロトコル。                                                                                                                          |
| [MACアドレス(最後の10文字) (MAC Address (Last 10 Characters)) ]                                   | 選択したデバイスの MAC アドレス。<br>[MACアドレス (MAC Address) ] フィールドを更新すると、関連付けられたすべての電話の MAC アドレスが更新されます。ただし、加入者レコードの MAC アドレスを更新するには、ドメインの同期化を実行する必要があります。 |
| [説明 (Description) ]                                                                      | デバイスの説明。                                                                                                                                      |
| [Cisco Unified Communications Managerグループ (Cisco Unified Communications Manager Group) ] | Cisco Unified Communications Manager のグループ。                                                                                                   |
| [スロット<番号>のモジュール (Module in Slot <Number>) ]                                              | そのスロット番号を持つモジュール。                                                                                                                             |
| [サブユニット<番号> (Subunit <Number>) ]                                                         | サブユニットの番号。                                                                                                                                    |
| [モデムパススルー (Modem Passthrough) ]                                                          | モデムパススルーを有効または無効にします。                                                                                                                         |

| フィールド                                                 | 説明                          |
|-------------------------------------------------------|-----------------------------|
| [Ciscoファクスリレー (Cisco Fax Relay) ]                     | Cisco ファクス リレーを有効または無効にします。 |
| [T.38ファクスリレー (T38 Fax Relay) ]                        | T.38 ファクス リレーを有効または無効にします。  |
| [RTPパッケージ機能 (RTP Package Capability) ]                | RTP パッケージ機能を有効または無効にします。    |
| [MTパッケージ機能 (MT Package Capability) ]                  | MT パッケージ機能を有効または無効にします。     |
| [RESパッケージ機能 (RES Package Capability) ]                | RES パッケージ機能を有効または無効にします。    |
| [PREパッケージ機能 (PRE Package Capability) ]                | PRE パッケージ機能を有効または無効にします。    |
| [SSTパッケージ機能 (SST Package Capability) ]                | SST パッケージ機能を有効または無効にします。    |
| [RTP到達不能のオンとオフ (RTP Unreachable OnOff) ]              | RTP 到達不能タイムアウトを有効または無効にします。 |
| [RTP到達不能タイムアウト (ミリ秒) (RTP Unreachable timeout (ms)) ] | ミリ秒単位の RTP 到達不能タイムアウト。      |
| [RTCPレポート間隔(秒) (RTP Report Interval (secs)) ]         | 秒単位の RTP レポート間隔。            |
| [簡易SDP (Simple SDP) ]                                 | 簡易 SDP を有効または無効にします。        |



付録

C

## Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls) ] および [ビジートリガー (Busy Trigger) ] 属性のデフォルト値

[コール最大数 (Maximum Calls) ] および [ビジートリガー (Busy Trigger) ] は、Provisioning で電話のタイプに基づいてデフォルト値が設定される、[回線 (Line) ] プロビジョニング属性です。次の表に、Provisioning が各電話タイプで設定するデフォルト値を示します。

表 84 : [コール最大数 (Maximum Calls) ] および [ビジートリガー (Busy Trigger) ] プロビジョニング属性のデフォルト設定

| 製品                          | コール最大数 | ビジー トリガー |
|-----------------------------|--------|----------|
| アナログ電話                      | 1      | 1        |
| Cisco Jabber for BlackBerry | 2      | 2        |
| CTI ポート                     | 4      | 2        |
| Cisco 3905                  | 2      | 2        |
| Cisco 6901                  | 2      | 2        |
| Cisco 6911                  | 2      | 2        |
| Cisco 6921                  | 2      | 1        |
| Cisco 6941                  | 2      | 1        |
| Cisco 6945                  | 2      | 1        |
| Cisco 6961                  | 2      | 1        |
| Cisco 7902                  | 2      | 2        |

| 製品                   | コール最大数 | ビジー トリガー |
|----------------------|--------|----------|
| Cisco 7905           | 4      | 2        |
| Cisco 7905 (SIP)     | 2      | 2        |
| Cisco 7906           | 4      | 2        |
| Cisco 7906 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7910           | 2      | 2        |
| Cisco 7911           | 4      | 2        |
| Cisco 7911 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7912           | 4      | 2        |
| Cisco 7912 (SIP)     | 2      | 2        |
| Cisco 7920           | 2      | 2        |
| Cisco 7921           | 4      | 2        |
| Cisco 7925           | 4      | 2        |
| Cisco 7926 G         | 4      | 2        |
| Cisco 7931           | 1      | 1        |
| Cisco 7935           | 2      | 1        |
| Cisco 7936           | 2      | 1        |
| Cisco 7937           | 6      | 2        |
| Cisco 7940           | 4      | 2        |
| Cisco 7940 (SIP)     | 2      | 2        |
| Cisco 7941           | 4      | 2        |
| Cisco 7941 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7941G-GE       | 4      | 2        |
| Cisco 7941G-GE (SIP) | 4      | 2        |
| Cisco 7942           | 4      | 2        |

| 製品                   | コール最大数 | ビジー トリガー |
|----------------------|--------|----------|
| Cisco 7942 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7945           | 4      | 2        |
| Cisco 7945 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7960           | 4      | 2        |
| Cisco 7960 (SIP)     | 2      | 2        |
| Cisco 7961           | 4      | 2        |
| Cisco 7961 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7961G-GE       | 4      | 2        |
| Cisco 7961G-GE (SIP) | 4      | 2        |
| Cisco 7962           | 4      | 2        |
| Cisco 7962 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7965           | 4      | 2        |
| Cisco 7965 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7970           | 4      | 2        |
| Cisco 7970 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7971           | 4      | 2        |
| Cisco 7971 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7975           | 4      | 2        |
| Cisco 7975 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 7985           | 4      | 2        |
| Cisco 8941           | 3      | 2        |
| Cisco 8945           | 3      | 2        |
| Cisco 8961 (SIP)     | 4      | 2        |
| Cisco 9951 (SIP)     | 4      | 2        |

| 製品                                  | コール最大数 | ビジー トリガー |
|-------------------------------------|--------|----------|
| Cisco 9971 (SIP)                    | 4      | 2        |
| Cisco IP Communicator               | 4      | 2        |
| Cisco IP Communicator (SIP)         | 4      | 2        |
| Cisco Unified Personal Communicator | 6      | 2        |
| Cisco ATA-186                       | 2      | 2        |
| Cisco ATA-187                       | 2      | 2        |
| Cisco Cius                          | 4      | 2        |
| Cisco E20                           | 5      | 2        |
| Cisco EX60                          | 4      | 4        |
| Cisco EX90                          | 4      | 4        |
| Cisco Jabber for Android            | 3      | 2        |
| Cisco Jabber for Desktop            | 6      | 2        |
| Cisco Jabber for iPhone             | 3      | 2        |
| Cisco Jabber for Tablet             | 3      | 2        |
| Nokia S60 <sup>4</sup>              | 3      | 2        |
| Remote Destination Profile          | 2      | 2        |
| Third-party SIP device (advanced)   | 2      | 2        |
| Third-party SIP device (basic)      | 2      | 2        |

<sup>4</sup> アップグレード後に、デフォルトでは Nokia および iPhone などの新しい電話をオーダーできません。適切なユーザタイプにこれらの新しい電話タイプを関連付ける必要があります。





付録

# D

## 事前に作成された IOS テンプレート

事前に作成された Cisco IOS テンプレートは、シスコから多くのアプリケーションに対して配布されており、シスコ内の複数の管理製品によってサポートされています。

事前に作成された Cisco IOS テンプレートは、次の2つのファイルで定義されます。

- *Name-swconfig.txt* : このファイルには、Cisco IOS コマンドが含まれています。これは、キーワードが「アット」記号 (@) で区切られる点で、一般的な Cisco IOS コマンドのコマンド属性とは異なります。
- *Config-UserGuide-Name.txt* : このファイルには、*swconfig.txt* ファイルで使用されるすべてのキーワードがリストされます。キーワードには、先頭に @ 文字が含まれている必要があります。先頭文字が @ 文字ではない場合は、コメントとして処理されます。

<Name> に C2851\_GigE-ASSTwOSPF-DMVPN-CME-H323-FaxRelay を使用すると、テキストファイルは次のようになります。

- C2851\_GigE-ASSTwOSPF-DMVPN-CME-H323-FaxRelay-swconfig.txt
- Config-UserGuide-C2851\_GigE-ASSTwOSPF-DMVPN-CME-H323-FaxRelay.txt

ファイルが欠落している場合、または命名規則に従っていない場合は、Provisioning の事前に作成されたテンプレート ファイル名に名前が表示されません。

テキストファイル内にエラーが検出された場合は、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、テンプレート項目の作成をキャンセルして、問題を修正する必要があります。最も一般的なエラーは、*swconfig.txt* ファイルで使用されているキーワードが、*Config-UserGuide-Name.txt* ファイル内で相互参照されていないことです。

*Config-UserGuide-<Name>.txt* ファイル内の非コメント行は、コメントで区切られており、3つの必須カラムが存在します。その内容は次のとおりです。

- **Keyword Name** : 先頭に @ 文字を含むキーワードの完全な名前。キーワード名の有効な文字は、英数字、アンダースコア、左角カッコ ([)、および右角カッコ (]) です。
- **Keyword Description** : Cisco IOS コマンド内で、キーワード値が表す意味を説明する自由形式のテキストフィールド。

- Keyword Label : キーワードの目的に関するより簡単な説明。
- [事前に作成された Cisco IOS テンプレートの Provisioning へのコピー](#), 534 ページ

## 事前に作成された Cisco IOS テンプレートの Provisioning へのコピー

一般的な事前に作成された Cisco IOS テンプレートは、[cisco.com](https://www.cisco.com) からダウンロードできます。ファイルをコピーするには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Provisioning システムにアクセスし、サブディレクトリ `$(CUPM-INSTALLED)\sep\ipt\ios-pre-built` に移動します。
  - ステップ 2** ダウンロードしたファイルを、Provisioning プラットフォームのサブディレクトリにコピーします。ここに、**Sample** という名前のディレクトリがあることを確認します。
  - ステップ 3** 新しいディレクトリを作成し、一般的な事前に作成された Cisco IOS テンプレートのタイプにわかりやすい名前を付けます。
  - ステップ 4** 事前に作成されたテンプレートの `Name-swconfig.txt` および `Config-UserGuide-Name.txt` を、`ios-pre-built` の下に作成済みのサブディレクトリのいずれか 1 つにコピーします。
-



## 索引

### A

AssignSoftPhoneName [120](#)  
AssociateAllUsersInUMProcessor [120](#)

### C

Cisco IOS ルータ [39](#)  
    追加 [39](#)  
Cisco Jabber サービス [48](#)  
    有効化 [48](#)  
Cisco Unified Communications Manager [39, 72](#)  
    インポート [39](#)  
    削除 [39](#)  
    追加 [39](#)  
    同期されるオブジェクト [72](#)  
    編集 [39](#)  
Cisco Unity Connection [39](#)  
    インポート [39](#)  
    削除 [39](#)  
    追加 [39](#)  
    編集 [39](#)

### D

DefaultUnitySubscriberPassword [124](#)  
DefaultUserType [125](#)  
DescriptionString [126](#)  
DNAutoReservation [126](#)  
DNAutoReservationTimeout [126](#)  
DNB [163](#)  
    管理 [163](#)

### E

ExternalNumberMasks [126](#)

### I

IsAuthorizationRequiredForAddOrder [127](#)  
IsAuthorizationRequiredForChangeOrder [127](#)

### L

LDAP サーバ [84](#)  
    同期 [84](#)  
    同期の設定 [84](#)  
LDAP 統合 [42](#)

### M

MonitorPhoneReturnEnabled [128](#)

### P

PhoneAss [129](#)  
PhoneReservationTimeout [130](#)  
Prime Collaboration 統合アプリケーション [23](#)  
Provisioning でのライセンス ファイルの登録 [23](#)  
PseudoUserID [131](#)

### T

Telepresence Management Suite [39](#)  
    インポート [39](#)  
    削除 [39](#)  
    追加 [39](#)  
    編集 [39](#)

## い

- インフラストラクチャ設定 **113, 116**
  - 概要 **113**
  - タスクのスケジュール **116**
- インフラストラクチャ設定製品 **457**
  - H323 ゲートウェイ **457**
- インフラストラクチャ設定の権限の管理 **196**
  - 管理 **196**
  - 更新 **196**
  - 追加 **196**
  - 編集 **196**
- インベントリ **167, 168, 182**
  - 検索 **167, 168**
    - 基本 **167**
    - 詳細 **168**
  - レポート **182**
- インポート **110**
  - 設定テンプレート **110**

## え

- エンドポイント **266**
  - 交換 **266**
- エンドポイント インベントリ **159**
  - 管理 **159**

## お

- オーダー **211, 270, 271, 272**
  - 検索 **270**
  - 処理 **271, 272**
    - 出荷 **272**
  - 表示 **211**
- オーダー承認権限 **194**

## か

- 回線 **238, 268**
  - 共通の共有、設定 **238**
  - 情報、変更 **268**
- 管理 **39**
- 管理承認権限 **193**
- 関連付けられているエンドポイントのない共有回線 **241**
  - 回線のオーダー **241**

## き

- キーワード **109**
  - 形式 **109**
- 共有 **239**
  - 電話、設定 **239**
- 共有回線 **237**
  - オーダー **237**

## け

- 権限 **59**
  - 削除 **59**
  - 設定 **59**
  - 追加 **59**
  - 編集 **59**
  - ユーザ **59**
- 検索レポート **174**
  - 作成 **174**

## こ

- 更新 **195**
  - ユーザ **195**
- コールプロセッサ **64**
  - プロビジョニング属性 **64**
    - 製品でサポートされる **64**

## さ

- サービス **273**
  - キャンセル **273**
- サービス エリア **49, 51, 52, 55, 180**
  - 管理 **49**
  - 削除 **55**
  - 設定 **52**
  - 追加 **52**
  - 定義 **51**
  - 編集 **52**
  - レポート **180**
- サービス テンプレート **49**
  - 管理 **49**

## し

- 出荷承認権限 [194](#)
- 受領承認権限 [194](#)
- 詳細 [194](#)
  - オーダー承認権限 [194](#)
  - 割り当て承認権限 [194](#)
- 使用シナリオ [15](#)
  - プロビジョニング [15](#)
- 承認 [271](#)
  - サービス [271](#)
- 承認権限の承認 [194](#)

## す

- スタンドアロン [23](#)

## せ

- 生成、設定の [109](#)
- 設定 [35, 280](#)
  - ACS と LDAP [35](#)
  - システム通知 [280](#)
- 設定テンプレート [91, 103, 104](#)
  - 作成 [103](#)
  - 使用シナリオ [91](#)
  - 設定 [104](#)
    - 項目の追加 [104](#)

## そ

- 相互起動 [25, 188](#)
  - 相互起動 [25](#)

## た

- ダッシュボード [177](#)
  - プロビジョニング [177](#)

## つ

- 追加 [114, 185](#)
  - インフラストラクチャ設定インスタンス [114](#)

## 追加 (続き)

- ユーザ [185](#)

## て

- データの消去、有効化 [287](#)
- テスト [281](#)
  - 通知設定 [281](#)
- デバイス [39, 47](#)
  - 削除 [47](#)
- 電話番号 [163](#)
- 電話番号ブロック [56](#)
  - 追加 [56](#)
- 電話ボタンテンプレート [118](#)
  - 同期中の取得 [118](#)

## と

- 同期 [70, 78, 80, 191](#)
  - インフラストラクチャ [70](#)
  - ドメイン [78, 80](#)
    - ログ ファイル [80](#)
    - ユーザ [70, 191](#)
- 同期のトラブルシューティング [75](#)
- 同期ログ メッセージ [88](#)
  - LDAP の同期 [88](#)
- ドメイン [49, 50, 51, 78, 278](#)
  - 管理 [49](#)
  - 削除 [51](#)
  - 追加 [50](#)
  - 通知 [278](#)
    - ビジネス ルール、同期 [78](#)
  - 編集 [50](#)
- ドメイン通知テンプレート [277](#)

## は

- パスワード [188](#)
  - ユーザ、リセット [188](#)
- バックアップ [290](#)
- バッチ [137](#)
  - プロビジョニング [137](#)
- バッチ操作ファイル [137, 149](#)
  - 形式 [137](#)

## バッチ操作ファイル (続き)

製品 [149](#)依存関係 [149](#)バッチプロジェクト [151, 152](#)キーワードの使用 [151](#)作成 [152](#)

## ひ

ビジネスルール [132, 134](#)使用 [134](#)設定 [132](#)

## ふ

復元 [290](#)プロビジョニング [1](#)概要 [1](#)プロビジョニング属性 [64](#)トランスフォーメーションテンプレートの設定 [64](#)プロビジョニングの状態 [117](#)インフラストラクチャ [117](#)

## ほ

ボイスメール [269](#)アカウントのロック解除 [269](#)ポリシー承認権限 [193](#)

## ま

マイ アクティビティ [271](#)

## め

メンテナンス承認権限 [193](#)メンテナンス モード [289](#)

## ゆ

ユーザ [197](#)レコード [197](#)検索 [197](#)ユーザが関連付けられていないエンドポイント [265](#)ユーザ権限 [49, 60](#)管理 [49](#)関連付けられているサービス [60](#)ユニファイドコミュニケーションサービス [48](#)

## ら

ライセンスの管理 [21](#)

## ろ

ログファイル [283, 285, 286](#)最大サイズ、変更 [285](#)デバッグ [283](#)ログの消去レベル、変更 [286](#)ログレベル、更新 [284](#)

## わ

ワーク オーダーの状態 [275](#)割り当て承認権限 [194](#)